

丹波市
男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

令和4年2月

丹 波 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の実施概要	1
II	調査結果の概要	3
1	あなた自身とご家族について	3
2	男女共同参画について	4
3	性別役割分担意識について	6
4	地域社会での男女共同参画について	7
5	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	8
6	職場等における女性の活躍について	9
7	男女の人権侵害について	9
8	男女共同参画社会の実現に向けた丹波市の取組課題について	10
III	調査結果	11
1	あなた自身とご家族について	11
2	男女共同参画について	22
3	性別役割分担意識について	67
4	地域社会での男女共同参画について	97
5	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	106
6	職場等における女性の活躍について	126
7	男女の人権侵害について	138
8	男女共同参画社会の実現に向けた丹波市の取組課題について	144

I 調査の概要

1 調査の目的

丹波市では、平成 30 年 3 月に第 3 次丹波市男女共同参画計画「丹（まごころ）の里 ハーモニープラン」を策定し、男女共同参画社会の実現を目指し、様々な施策に取り組んでいます。

現行の第 3 次計画が令和 5 年 3 月末をもって終了するにあたり、国や兵庫県の男女共同参画をめぐる動向をはじめ、社会情勢やこれまでの市の取組、市民意識の変化などを踏まえて内容を見直した第 4 次計画の策定を予定しています。

本調査は、第 4 次計画策定にあたり、計画策定のための基礎資料を得ることを目的として実施したものです。

2 調査の実施概要

（1）調査の方法

- ①調査対象：18 歳以上の市民 1,000 人
- ②調査方法：郵送による配布・回収
- ③調査期間：令和 3 年 10 月 1 日から令和 3 年 10 月 20 日

（2）回収結果

調査対象数	回 収 数	無効回答数	有効回答数	有効回答率
1,000	463	0	463	46.3%

（3）調査項目

- ①あなた自身とご家族について
- ②男女共同参画について
- ③性別役割分担意識について
- ④地域社会での男女共同参画について
- ⑤ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
- ⑥職場等における女性の活躍について
- ⑦男女の人権侵害について
- ⑧男女共同参画社会の実現に向けた丹波市の取組課題について

（4）調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成する

ことにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。(無回答を除く)

(5) 調査対象者の抽出と集計値について

今回、住民基本台帳から無作為で抽出した対象者 1,000 人に対し調査を実施しましたが、対象者の抽出にあたり、年代別で人口規模に違いがあることから抽出人数に格差が発生し、集計・分析に必要なサンプル数が十分得られない可能性がありました。そのため、年代層ごとに必要な数を得るため、年代構成上人口の少ない 10 歳代並びに 20～30 歳代の抽出率を高めた対象者数を設定し抽出を行っています。

集計時には、各年代層の人口構成を反映させるため、年代ごとの回収数に応じた補正係数(ウェイト値)を求め、有効回答数に反映させています。

具体的に設定した標本数と集計に用いた補正係数は下表のとおりです。

調査結果で示している集計値は、この表の「規正標本数」を基数として行ったものです。

【サンプル設計】

	人口数 (概数)	構成比	補正前 抽出数	補正後 抽出数	有効 回答数	補正係数	規正 標本数
18～29 歳	6,568	12.28%	123	167	40	1.40255	56
30 歳代	5,835	10.91%	109	167	53	0.94040	50
40 歳代	7,768	14.52%	145	167	65	1.02080	66
50 歳代	7,350	13.74%	137	167	87	0.72163	63
60 歳代	8,864	16.57%	166	166	113	0.67003	76
70 歳以上	17,117	31.99%	320	166	99	1.47686	146
年代不明	—	—	—	—	6	—	—
計	53,502	100.00%	1,000	1,000	463	1.00000	457

Ⅱ 調査結果の概要

1 あなた自身とご家族について

【回答者の性別】（問１）

「男性」の割合が 44.7%、「女性」の割合が、53.3%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると大きな変化はありませんが、「回答しない」が 0.4%となっています。

【回答者の年代】（問２）

「70 歳以上」の割合が 31.5%で最も高く、次いで「60 歳代」（16.4%）、「40 歳代」（14.3%）の順で高くなっています。回答者の 47.9%が「60 歳以上」となっています。

平成 28 年度調査と比較すると「18～29 歳」から「30 歳代」の割合は、0.9 ポイント、「40 歳代」から「50 歳代」は 0.3 ポイント低く、「60 歳代」から「70 歳以上」では、1.8 ポイント高くなっています。

【配偶者・パートナーの有無】（問３）

「配偶者・パートナーがいる」の割合が 67.9%、「配偶者・パートナーはいない」の割合が 31.4%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると「配偶者・パートナーがいる」の割合は、4.6 ポイント低く、「配偶者・パートナーはいない」の割合は、4.1 ポイント高くなっています。

【家族構成】（問４）

「２世代世帯（親と子）」の割合が 43.2%で最も高く、次いで「１世代世帯（配偶者・パートナー、または兄弟、姉妹のみ）」（26.8%）、「３世代世帯（親と子と孫、親と子と祖父母など）」（18.2%）の順で高くなっています。

平成 28 年度調査と比較すると「２世代世帯（親と子）」の割合が 5.9 ポイント高く、「３世代世帯（親と子と孫、親と子と祖父母など）」の割合が 5.6 ポイント低くなっています。

【収入をともなう就労状況】（問５）

収入をともなう仕事についている人の割合は 58.8%で、収入をともなう仕事についていない人の割合は 39.9%となっています。男女とも半数を超える人が収入を伴う仕事についていますが、男性のほうが女性より高くなっています。

平成 28 年度調査と比較すると大きな変化はありません。

【就労形態】（問６－１）

男性では「勤め人（正社員・正職員）」の割合が 61.6%で最も高く、女性では、「勤め人（派遣社員・契約社員、パート、アルバイトなど）」の割合が 48.6%で最も高くなっています。

【週あたりの労働時間】（問６－２）

「40 時間～50 時間未満」の割合が 32.5%で最も高く、次いで「30 時間～40 時間未満」（17.4%）、「20 時間未満」（17.2%）の順で高くなっています。男性のほうが女性より週あたりの労働時間（残業時間を含む）が長い人の割合が多くなっています。

平成 28 年度調査と比較すると「40 時間～50 時間未満」の割合が 3.8 ポイント高くなっていますが「60 時間未満」では 3.4 ポイント、「60 時間以上」では 8.5 ポイント低くなっています。

【仕事についていない主な理由】（問 7-1）

「定年退職したから、高齢だから」の割合が 53.0%で最も高く、次いで「体力・健康上の問題があるから」（27.8%）、「その他」（19.1%）、「家事を担わざるを得ないから」（9.6%）の順で高くなっています。

年代別で見ると 40 歳代・50 歳代では「家事と育児」、60 歳代以上の年代では「家事と介護」を担わざるを得ないと回答した人が多く、性別では女性が 22.1%、男性が 6.6%と女性が男性の約 3 倍となっていることから、家庭において女性が家事を中心として育児や介護の担い手となっているために、女性が就労の機会を失っている状況がうかがえます。

【就労意向】（問 7-2）

「働きたくない」の割合が 36.7%で最も高く、次いで「働きたいが無理だ」（26.8%）、「今すぐにでも働きたい」と「できれば働きたい」の合計は 26.6%となっています。

「働きたいが無理だ」と回答した人の内には、問 7-1 で「家事や育児、介護を担わざるを得ないから」と回答した人が含まれています。

【希望する就労形態】（問 7-3）

「正社員・正職員」の割合が 43.2%で最も高く、次いで「派遣社員・契約社員、パート、アルバイト」（42.1%）、「その他」（4.9%）の順で高くなっています。

性別では、女性の「正社員・正職員」の割合は、47.9%となり、男性よりも 10.1 ポイント高くなっています。女性も「正社員・正職員」としてフルタイム勤務を希望している人が多い結果となっています。

【配偶者・パートナーの職業】（問 8）

「正社員・正職員」の割合が 29.0%で最も高く、次いで「派遣社員・契約社員、パート、アルバイトなど」（20.6%）、「無職」（15.4%）の順で高くなっています。

男性の配偶者・パートナーの職業は、「派遣社員・契約社員、パート、アルバイトなど」が多く、女性の配偶者・パートナーの職業は、「正社員・正職員」が多くなっています。

【配偶者・パートナーの労働時間】（問 9）

「40 時間～50 時間未満」の割合が 24.0%で最も高く、次いで「30 時間～40 時間未満」（16.3%）、「20 時間～30 時間未満」（15.7%）の順で高くなっています。

性別では、男性（妻の労働時間）、女性（夫の労働時間）ともに「40 時間～50 時間未満」の割合が最も高くなっています。また、女性で（夫の労働時間）「50 時間～60 時間未満」の割合が高くなっています。

2 男女共同参画について

【「男女共同参画」に関する言葉の意味や内容の認知度について】（問 10）

「言葉の意味や内容を知っている」の割合では、『⑬ドメスティック・バイオレンス（DV）』が 59.0%となり、次いで『⑭LGBT（性的マイノリティの総称の一つ）』（41.6%）、『②男女雇用機会均等法』（42.0%）の順で高くなっています。

一方、丹波市に関連する項目の『⑥丹波市男女共同参画推進条例』『⑦丹（まごころ）の里 ハーモニープラン』『⑧丹波市男女共同参画センター』『⑨丹波市配偶者暴力相談支援センター』や

『⑩ポジティブ・アクション（積極的改善措置）』は、「知らない」の割合が6割以上と高くなっており、市民の間では馴染みの薄い言葉となっています。

性別では、『⑫ジェンダー（社会的・文化的につくられた性）』『⑬ドメスティック・バイオレンス（DV）』『⑭LGBT（性的マイノリティの総称の一つ）』において、女性のほうが男性よりも「言葉の意味や内容を知っている」の割合が高くなっています。

年代別では、『⑪ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』の18～29歳から40歳代で「言葉の意味や内容を知っている」の割合が3割以上と高くなっています。

また、『⑫ジェンダー（社会的・文化的につくられた性）』『⑬ドメスティック・バイオレンス（DV）』『⑭LGBT（性的マイノリティの総称の一つ）』では年代が高くなるにつれて、「言葉の意味や内容を知っている」の割合が低くなっています。

平成28年度調査と比較すると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合が高くなった項目は、『⑤男女共同参画週間』（0.3ポイント増）『⑪ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』（5.8ポイント増）『⑫ジェンダー（社会的・文化的につくられた性）』（18.9ポイント増）の3項目となっています。

一方で「言葉の意味や内容を知っている」の割合が低くなった項目は、『①男女共同参画社会基本法』（-4.5ポイント）『②男女雇用機会均等法』（-5.4ポイント）『④女性活躍推進法』（-1.5ポイント）『⑦丹（まごころ）の里 ハーモニープラン』（-3.3ポイント）『⑩ポジティブ・アクション（積極的改善措置）』（-1.1ポイント）となっており、男女共同参画に関する用語、条例、計画、法律についての意義や内容を広く周知していく必要があります。

【男女の平等感について】（問11）

『⑦社会通念・習慣・しきたりで』『⑧社会全体で』の項目で「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた“男性のほうが優遇されている”の割合が7割以上と高くなっています。

また、『③学校教育の場で』の項目で「平等になっている」の割合が約5割と高くなっています。

男女の地位においては、『③学校教育の場で』以外では男性優遇となっており、特に『⑦社会通念・習慣・しきたりで』『⑧社会全体で』で男性優遇が高いことから、特にこれらの分野で男女の地位を平等にすることが求められています。

性別で比較すると、「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた“男性のほうが優遇されている”の割合は、すべての項目で女性のほうが男性よりも高くなっており、男女の平等感の認識にギャップがある結果となっています。

国調査と比較すると、『②職場で』『③学校教育の場で』『⑤政治・方針決定で』『⑧社会全体で』の項目で“男性のほうが優遇されている”の割合が低くなっています。

県調査と比較すると、すべての項目で“男性のほうが優遇されている”の割合が低くなっています。

平成28年度調査と比較すると、『④自治会などの地域活動で』以外の項目で「平等になっている」の割合が減少しています。

【社会において男女の不平等が生じる特に大きな原因】（問 12）

「社会の習慣やしきたり」の割合が 68.7%で最も高く、次いで「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」（40.6%）「男らしさ・女らしさ」など社会的・文化的につくられた性別（ジェンダー）」（40.4%）の順で高くなっています。特に 18～29 歳の若い世代で「男らしさ・女らしさ」など社会的・文化的につくられた性別（ジェンダー）」の割合が高くなっています。今までの社会の慣習やしきたりが社会における男女の不平等感を生じさせていることがうかがえます。

【今後、男性が家事・育児・介護・地域活動などに積極的に参画していくために必要なこと】（問 13）

「男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が約 58.8%で最も高く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」（51.5%）「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」（49.3%）となっています。

性別でみると、女性のほうが男性よりも「男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」「男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進めること」の割合が高くなっています。

男性が家事・育児・介護・地域活動などに積極的に参画していくためには、家庭でのコミュニケーションを充実していくことが基本となるものの、仕事と家庭を両立する環境づくりや男性の家事等に対する抵抗感をなくす取り組みが必要です。

3 性別役割分担意識について

【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方】（問 14）

「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が 26.0%、「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた“反対”の割合が 50.2%となっています。

性別では、男性のほうが女性よりも“反対”の割合が 16.8 ポイント低くなっています。

年代別では、年代が高くなるにつれて、“反対”の割合が低くなっており、年代の高いほど固定的な性別役割分担意識を根強く持っていることがうかがえます。

国の調査と比較すると、“反対”の割合が 6.4 ポイント低くなっています。

平成 28 年度調査と比較すると“反対”の割合は、3.9 ポイント低くなっていますが、“賛成”の割合も 4.9 ポイント減っています。「わからない」の回答は、5.8 ポイント増加しています。

根強く残っている固定的役割分担意識の解消に向けた取組をさらに進めていく必要があります。

【賛成の理由】（問 15）

“賛成”と考える理由については、「妻が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が 51.3%で最も高く、次いで「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから」（43.3%）「夫が外で働いていたほうが、多くの収入を得られると思うから」（41.9%）と続いています。

性別では、男性は「妻が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が 55.7%で最も高く、女性は「夫が外で働いていたほうが、多くの収入を得られると思うか

ら」の割合が 51.8%で最も高くなっています。

年代別では、50 歳代で「妻が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が 64.3%で最も高くなっています。また、30 歳代以下の年代と 60 歳代で「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから」の割合が高くなっています。

【反対の理由】（問 16）

“反対”と考える理由については、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が 71.6%で最も高く、次いで「男女平等に反すると思うから」（36.5%）、「夫も妻も働いたほうが、多くの収入が得られると思うから」（34.7%）の順となっています。

性別では、男女ともに、年代別では、いずれの年代でも「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が最も高くなっています。国の調査と比較しても、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が高くなっています。

【夫婦・カップルの役割分担の理想と現実】（問 17）

理想ではすべての項目で「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が最も高くなっています。

一方、現実では『②日常の家事』『③育児』『④高齢者、病人の介護・看護』『⑤家計の管理』『⑥学校行事などへの参加』の項目で「妻・パートナー(女性)」の割合が最も高くなっています。

『①生活費を得る』『⑦地域活動への参加』では「夫・パートナー(男性)」の割合が最も高くなっています。夫婦・カップルの役割分担について、理想と現実のギャップが大きく、家庭における役割の大部分を女性が担っている現状があります。

4 地域社会での男女共同参画について

【住んでいる地域（自治会等）における男女不平等なこと】（問 18-1）

「会長・副会長・会計など、役員によって選ばれる性にかたよりがある」の割合が 36.8%で最も高く、次いで「女性が役員になりにくい雰囲気がある」（25.1%）「女性が役員になることができる制度が整っていない」（16.8%）の順で高くなっています。

性別では、男女とも「会長・副会長・会計など、役員によって選ばれる性にかたよりがある」の割合が最も高くなっています。

年代別では、50 歳代以上で「会長・副会長・会計など、役員によって選ばれる性にかたよりがある」の割合が高く、40 歳代以下では「わからない」の回答が高くなっています。

平成 28 年度調査と比較すると大きな変化はありません。

【男女不平等の理由】（問 18-2）

「昔からの風習、しきたり、習慣」「自治会に入っていない。参加していないのでわからない」などの意見があがっています。

【女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと】（問 19）

女性が地域活動のリーダーになるために必要なことについて、「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」の割合が 47.4%で最も高く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと（42.5%）」「社会の中で、女性が地域リーダーになることについて、その評価を高めること」（29.6%）の順で高くなっています。

【今後、地域活動における男女共同参画を進めていくために必要なこと】（問 20）

「配偶者や家族の協力」の割合が 44.6%で最も高く、次いで「地域活動の場での男女の性別役

割分担意識の解消」(36.4%)「参加のきっかけとなる地域活動情報の提供」(27.7%)の順で高くなっています。地域活動等への参画には、配偶者や家族など周囲の協力のほか、女性自身の意識改革、誰もが参加しやすくなるような体制づくりや情報提供を検討していくことが必要です。

5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

【1日あたりの家事・育児・介護の時間】（問 21）

平日、休日ともに、女性のほうが男性より長時間となっています。

また、男性では「ほとんどない」の割合が高く、女性では「5時間以上」の割合が高くなっています。

残業が20時間以上の人のみで見ると、男性のほうが女性よりも「ほとんどない」「30分未満」「30分～1時間未満」の割合が高くなっています。

【回答者及び配偶者・パートナーの1日あたりの家事・育児・介護の時間】（問 22）

平日、休日ともに、女性のほうが男性より長時間となっています。また、男性では「ほとんどない」の割合が高く、女性では「5時間以上」の割合が高くなっています。

【希望する生活】（問 23）

「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が26.6%で最も高く、次いで「家庭生活」を優先したい（18.9%）、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（16.5%）の順となっています。

【現実の生活】（問 24）

「家庭生活」を優先している」の割合が23.9%で最も高く、次いで「仕事」を優先している（22.9%）、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（19.4%）の順となっています。

性別では、男性で「仕事」を優先している」の割合が最も高く、女性で「家庭生活」を優先している」の割合が最も高くなっています。

年代別では、40歳代で「仕事」を優先している」の割合が、他の年代に比べ高くなっています。

優先する生活について、希望と現実のギャップが大きく、希望は男女ともに仕事と家庭生活のバランスをとりたいと考えていますが、現実には男性で仕事、女性で家庭生活が優先されています。

【ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）がとれた暮らしのために、特に必要な職場の環境や制度】（問 25）

「有給休暇が気がねなく取れること」の割合が59.5%で最も高く、次いで「子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること」（47.3%）、「介護休業制度の周知」（35.4%）の順で高くなっています。

性別では、女性で「子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること」の割合が高くなっています。

年代別では、子育て世代にあたる30歳代において「子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること」の割合が高くなっています。

6 職場等における女性の活躍について

【「女性が仕事をもつ」ということ】(問 26)

「女性が仕事をもつ」ということについて、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けたほうがよい」の割合が 45.9%で最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつほうがよい」(20.7%)「わからない」(9.9%)となっています。

国の調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けたほうがよい」の割合が低くなっています。

【女性が活躍できる仕事・職場環境にするために、特に必要なもの】(問 27)

「育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」の割合が 55.3%で最も高く、次いで「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」(46.5%)「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」(40.2%)の順で高くなっています。

性別では、女性で「育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」などの割合が高くなっています。

兵庫県調査との比較では、「職場のトップが女性の活躍推進に積極的であること」「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」「育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」「身近に活躍している女性(お手本となる人)がいること」「仕事が適正に評価されること」などの割合が低くなっています。

【女性の活躍が進むために、必要な家族や社会等からの支援】(問 28)

「配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画」の割合が 62.1%で最も高く、次いで「高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」(51.2%)「保育の施設・サービスの充実」(47.4%)の順となっています。

性別では、女性のほうが男性よりも「配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画」「配偶者・パートナー以外の家族や、地域による家事・育児・介護支援」「保育の施設・サービスの充実」などの割合が高くなっています。

兵庫県調査との比較では、すべての項目において割合が低くなっています。

7 男女の人権侵害について

【自分自身が受けたことがある人権侵害等】(問 29)

セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)が 7.2%、マタニティ・ハラスメント(マタハラ)が 2.8%、パタニティ・ハラスメント(パタハラ)が 0.2%、パワー・ハラスメント(パワハラ)が 16.6%、ドメスティック・バイオレンス(DV)が 3.5%となっています。

性別では、女性でセクシュアル・ハラスメント(セクハラ)が 11.9%、マタニティ・ハラスメント(マタハラ)が 5.2%、パタニティ・ハラスメント(パタハラ)が 0.3%、パワー・ハラスメント(パワハラ)が 19.0%、ドメスティック・バイオレンス(DV)が 6.1%となっており、男性に比べ、各種ハラスメントやDVを受けている割合が高くなっています。

各種ハラスメントは、人権侵害であり絶対に許されない行為であることを広く周知し、あらゆる暴力の根絶に向けて取り組むことが必要です。

【DVの被害を受けたり、ハラスメントを受けたことがある人を知った場合の対処方法】（問 30）

「相談しなかったが、しなかった・できなかった」の割合が 48.4%で最も高く、次いで「相談した」（25.2%）、「相談しようと思わなかった」（17.0%）の順で高くなっています。

そのため、被害者が安全に安心して相談できる体制の充実を図るとともに、被害を受けた場合は、自分の被害を過小に評価することなく相談できるよう、相談窓口の周知啓発が必要です。

8 男女共同参画社会の実現に向けた丹波市の取組課題について

【男女共同参画社会の実現に向けて、今後、丹波市が特に力を入れる項目】（問 31）

「育児休業・介護休業などの制度を男女ともに利用できるように普及させる」の割合が 42.0%で最も高く、次いで「介護サービス、障がい福祉サービスなどの社会福祉サービスを充実させる」（41.0%）「認定こども園、学童保育などの子育て支援サービスを充実させる」（38.6%）「学校教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力、性についての学習を充実させる」（37.6%）の順で高くなっています。

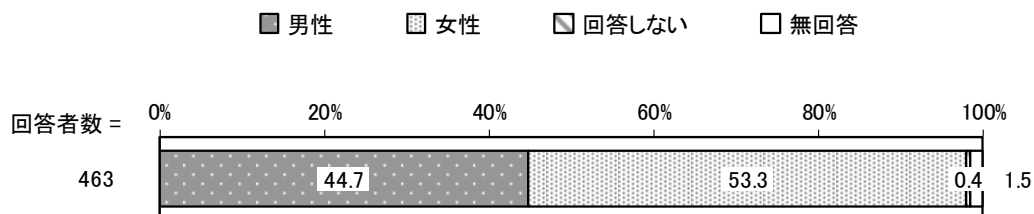
育児休業・介護休業などの制度の周知啓発、社会福祉サービスや子育て支援サービスの充実、子どもの頃からの男女共同参画の教育の充実が求められています。

Ⅲ 調査結果

1 あなた自身とご家族について

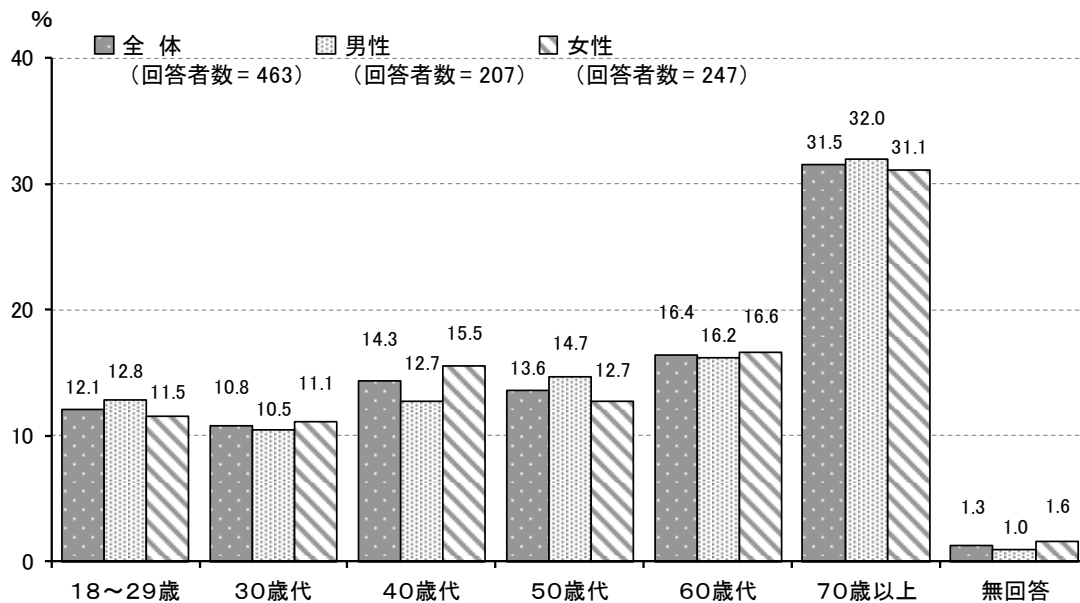
問1 あなたの性別（あなたが認識されている性別）をお答えください。（○は1つ）

「女性」の割合が53.3%で最も高く、次いで「男性」の割合が44.7%となっています。



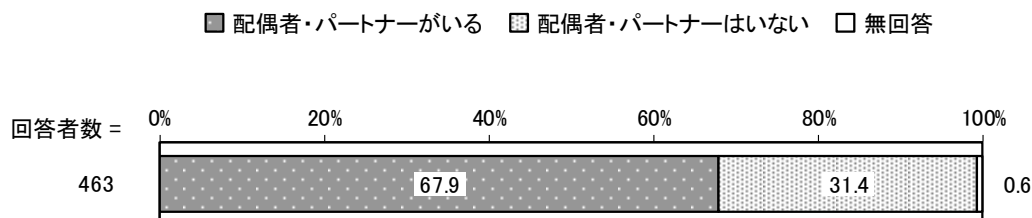
問2 あなたの年代をお答えください。（○は1つ）

「70歳以上」の割合が31.5%で最も高く、次いで「60歳代」の割合が16.4%、「40歳代」の割合が14.3%となっています。



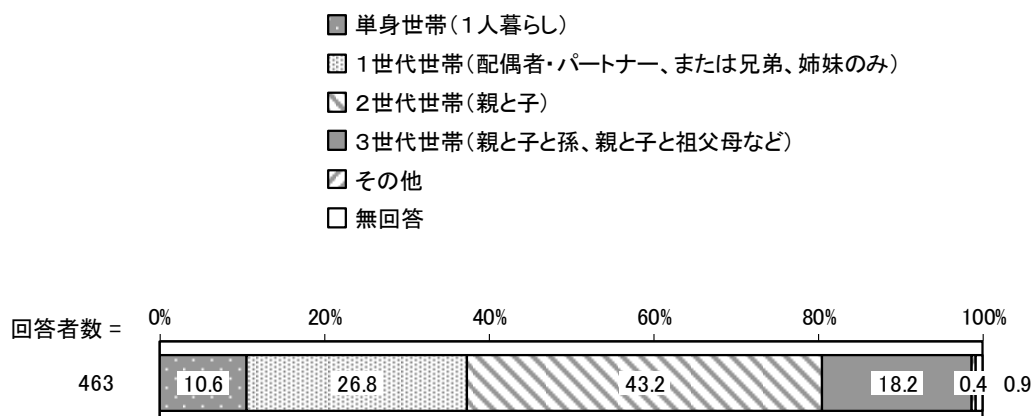
問3 あなたには現在、配偶者・パートナー（事実婚を含む）はいますか。
（○は1つ）

「配偶者・パートナーがいる」の割合が 67.9%、「配偶者・パートナーはいない」の割合が 31.4% となっています。



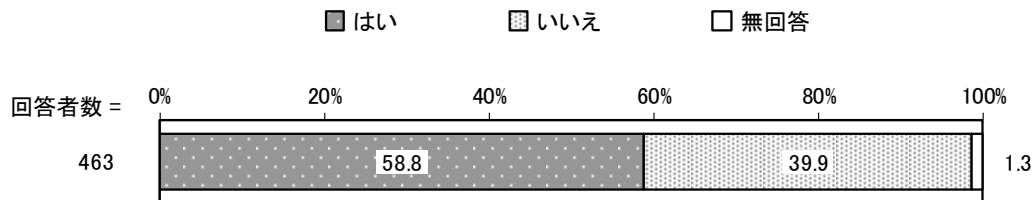
問4 あなたの家族構成は次のうちどれですか。（居住の実態に近い番号1つに○）

「2世代世帯（親と子）」の割合が 43.2%で最も高く、次いで「1世代世帯（配偶者・パートナー、または兄弟、姉妹のみ）」の割合が 26.8%、「3世代世帯（親と子と孫、親と子と祖父母など）」の割合が 18.2%となっています。



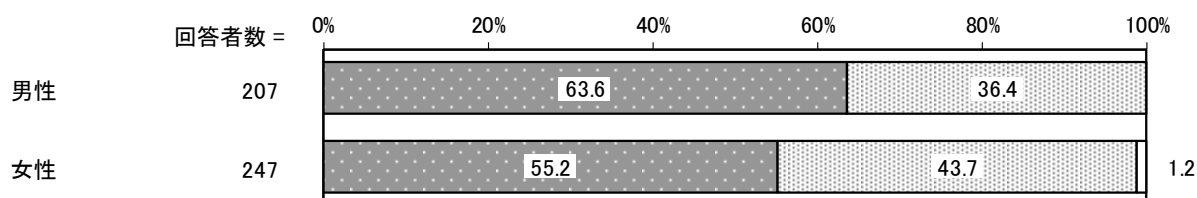
問5 あなたは現在、収入をともなう仕事についていますか。(○は1つ)
※育児・介護休業中の人は「はい」とお答えください。

収入をともなう仕事についている人の割合が58.8%で、収入をともなう仕事についていない人の割合が39.9%となっています。



【性別】

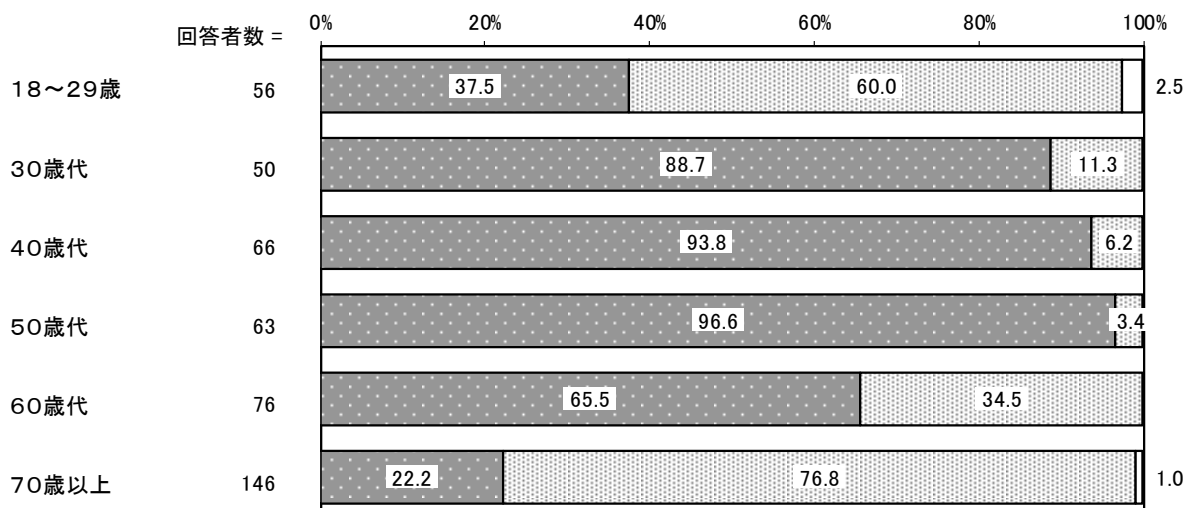
性別でみると、収入をともなう仕事についている男性は63.6%、女性は55.2%となっており、女性のほうが男性よりも収入をともなう仕事についていない割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、18～29歳で「いいえ」(収入をともなう仕事についていない人)の割合が60.0%となっています。

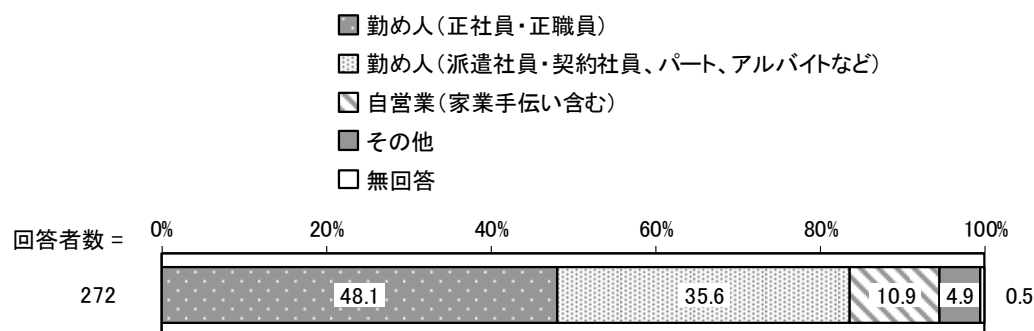
また、30歳代、40歳代、50歳代で「はい」(収入をともなう仕事についている人)の割合が高く、特に40歳代、50歳代で9割を超えています。



問5で「はい（就労している）」と回答された方におたずねします。

問6-1 あなたの仕事は次のうちどれですか。（○は1つ）

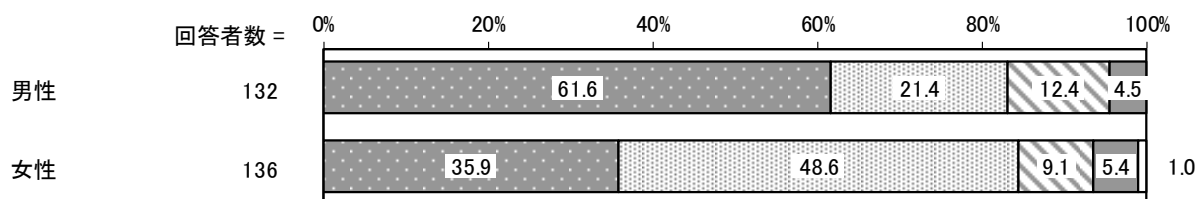
「勤め人（正社員・正職員）」の割合が48.1%で最も高く、次いで「勤め人（派遣社員・契約社員、パート、アルバイトなど）」の割合が35.6%、「自営業（家業手伝い含む）」の割合が10.9%となっています。



【性別】

性別でみると、女性で「勤め人（派遣社員・契約社員、パート、アルバイトなど）」の割合が48.6%となっています。

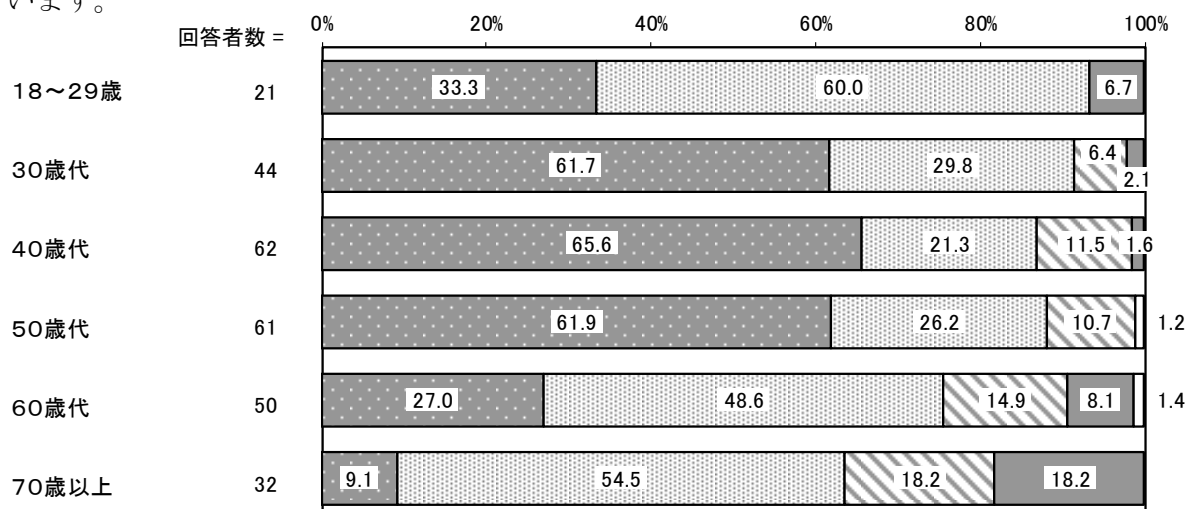
また、男性で「勤め人（正社員・正職員）」の割合が高くなっています。



【年代別】

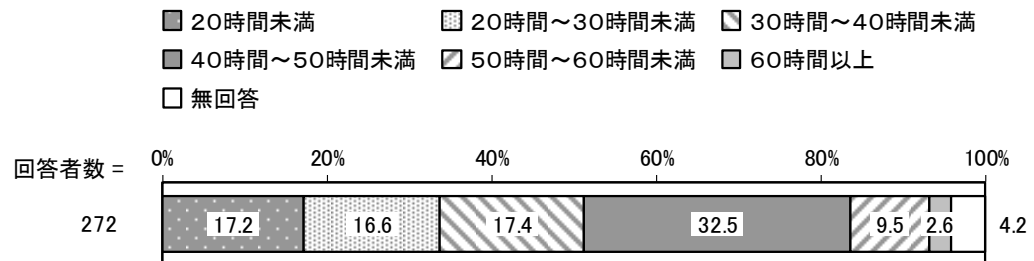
年代別でみると、18～29歳、60歳代で「勤め人（派遣社員・契約社員、パート、アルバイトなど）」の割合が最も高く、特に18～29歳で60.0%と半数を超えています。

また、30歳代から50歳代で「勤め人（正社員・正職員）」の割合が6割を超え、最も高くなっています。



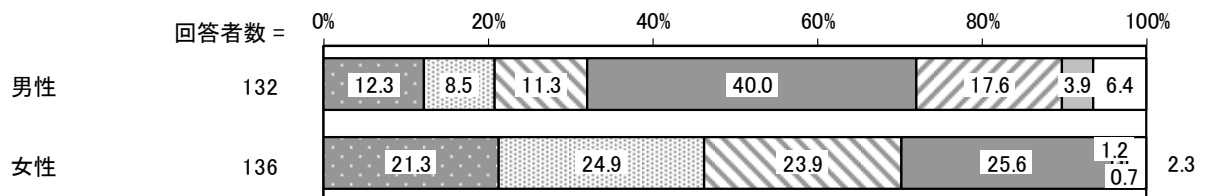
問 6-2 あなたの週あたりの労働時間（残業時間を含む）は平均してどのくらいですか。（実態に近い番号 1 つに○）

「40 時間～50 時間未満」の割合が 32.5%で最も高く、次いで「30 時間～40 時間未満」の割合が 17.4%、「20 時間未満」の割合が 17.2%となっています。



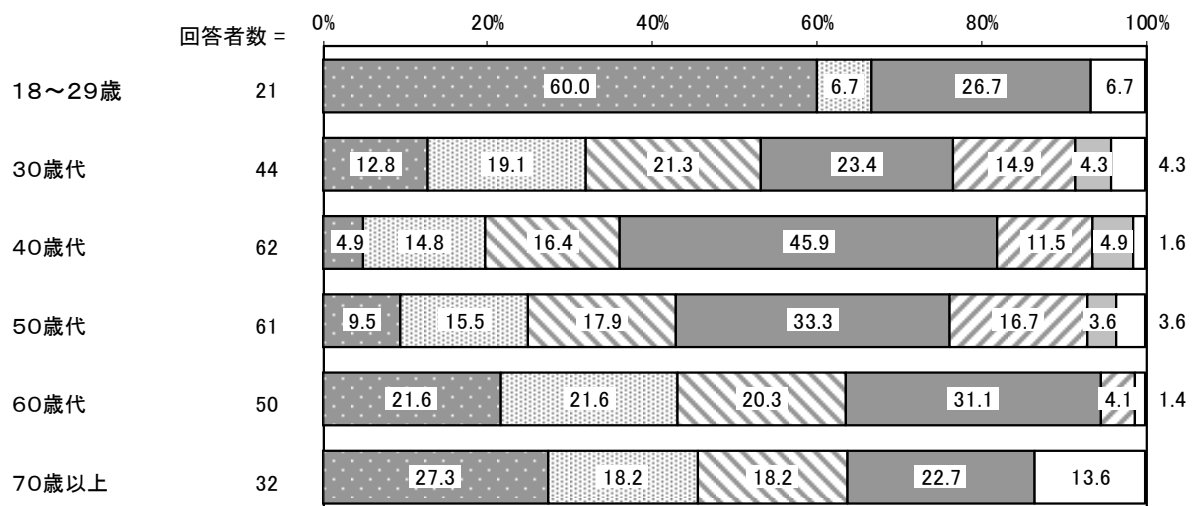
【性 別】

性別でみると、女性で「40 時間～50 時間未満」の割合が 25.6%で最も高くなっています。男性でも「40 時間～50 時間未満」の割合が最も高く、また、女性よりも割合が高くなっています。



【年代別】

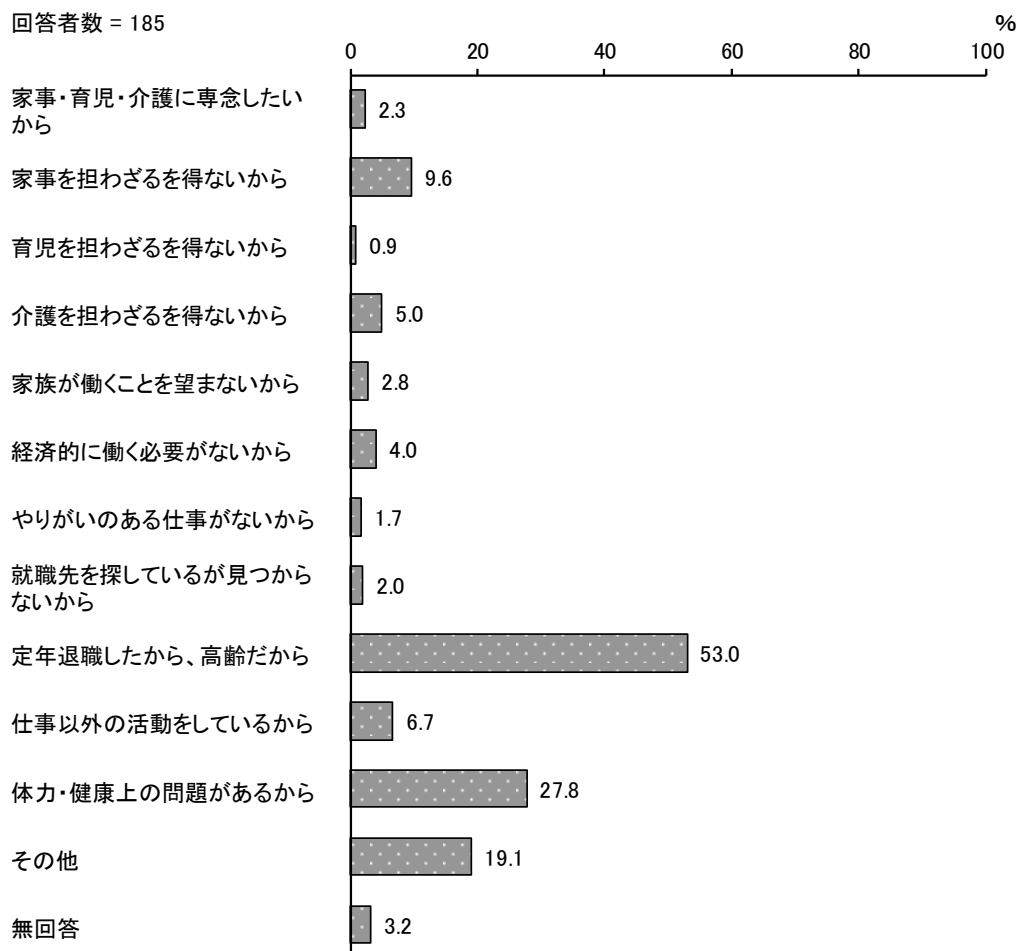
年代別でみると、18～29 歳で「20 時間未満」の割合が 60.0%で最も高く、半数を超えています。また、40 歳代で「40 時間～50 時間未満」の割合が高く 45.9%となっています。



問5で「いいえ」と回答された方におたずねします。

問7-1 あなたが現在仕事についていない主な理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「定年退職したから、高齢だから」の割合が53.0%で最も高く、次いで「体力・健康上の問題があるから」の割合が27.8%、「家事を担わざるを得ないから」の割合が9.6%となっています。



【性別】

性別でみると、女性で「定年退職したから、高齢だから」の割合が最も高くなっています。男性でも「定年退職したから、高齢だから」の割合が最も高く、女性よりも割合が高くなっています。また、女性では「家事を担わざるを得ないから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	家事・育児・介護に 専念したいから	家事を担わざるを 得ないから	育児を担わざるを 得ないから	介護を担わざるを 得ないから	家族が働くことを 望まないから	経済的に働く必要が ないから	やりがいのある仕事 がないから	就職先を探している が見つからないから	定年退職したから、 高齢だから	仕事以外の活動を しているから	体力・健康上の問題 があるから	その他	無回答
男性	75	—	0.9	—	5.7	—	3.9	2.7	4.9	61.5	7.5	28.5	18.9	2.7
女性	108	3.9	15.9	1.6	4.6	4.9	4.1	0.9	—	46.4	6.3	27.6	19.5	3.5

【年代別】

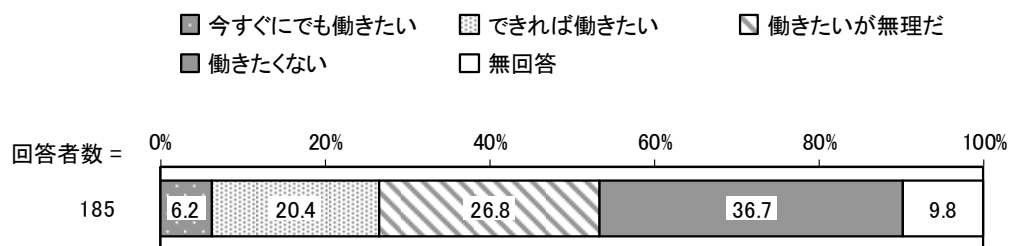
年代別でみると、60歳代、70歳以上で「定年退職したから、高齢だから」の割合が最も高くなっています。40歳代では「家事を担わざるを得ないから」の割合が高く、本人の意思に反して就労の機会を失っている状況がうかがえます。

単位：％

区分	回答者数（件）	専念したいから 家事・育児・介護に	家事を担わざるを得ないから	育児を担わざるを得ないから	介護を担わざるを得ないから	家族が働くことを望まないから	経済的に働く必要がないから	やりがいのある仕事がないから	就職先を探しているが見つからないから	定年退職したから、高年齢だから	仕事以外の活動をしているから	体力・健康上の問題があるから	その他	無回答
18～29歳	34	—	—	—	—	—	—	4.2	4.2	—	12.5	4.2	66.7	8.3
30歳代	6	33.3	—	—	—	16.7	16.7	—	16.7	—	—	—	33.3	16.7
40歳代	4	25.0	50.0	25.0	—	—	—	25.0	—	—	25.0	50.0	—	—
50歳代	2	—	33.3	—	—	—	—	—	—	—	—	66.7	—	—
60歳代	26	5.1	17.9	2.6	12.8	5.1	7.7	2.6	5.1	64.1	5.1	30.8	10.3	2.6
70歳以上	112	—	9.2	—	5.3	2.6	3.9	—	—	72.4	5.3	34.2	6.6	1.3

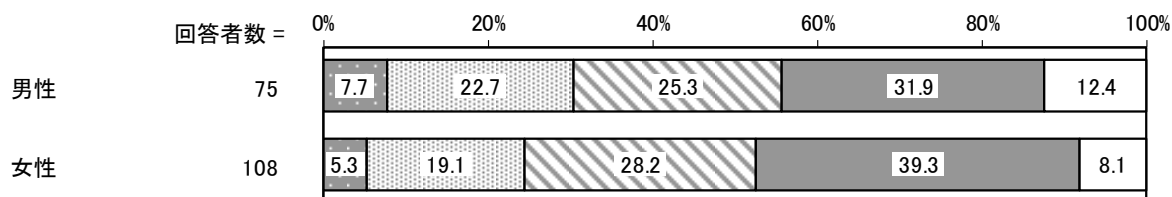
問7-2 あなたは今後、働きたいと思いますか。(○は1つ)

「働きたくない」の割合が36.7%で最も高く、次いで「働きたいが無理だ」の割合が26.8%、「今すぐにも働きたい」と「できれば働きたい」の合計は26.6%となっています。



【性別】

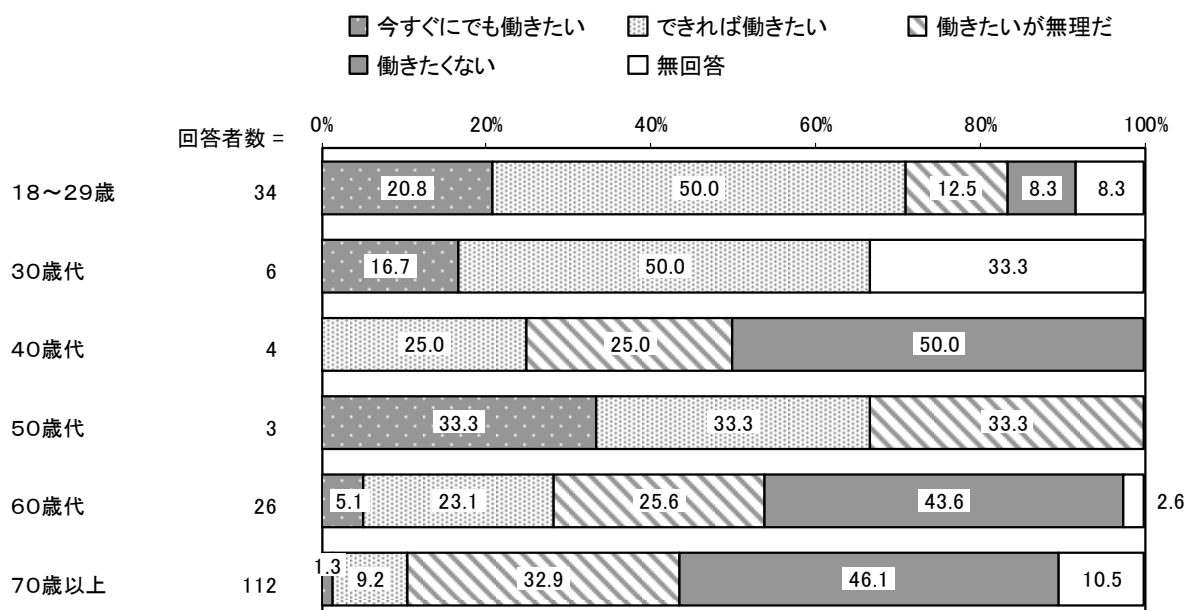
性別でみると、男女とも「働きたくない」の割合が最も高く、また、女性のほうが男性より割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、18～29 歳と 30 歳代、50 歳代で「今すぐにでも働きたい」「できれば働きたい」の割合が約 7 割となっています。

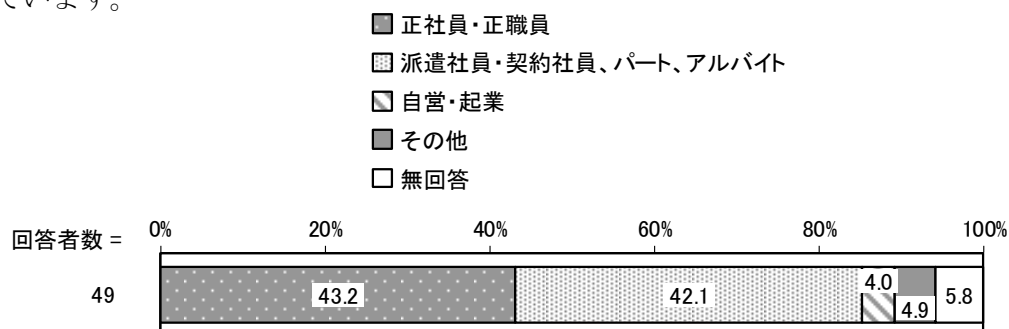
一方、60 歳代、70 歳以上で「働きたくない」の割合が 4 割以上となっています。



問 7-2 で「今すぐにでも働きたい」、「できれば働きたい」と回答された方におたずねします。

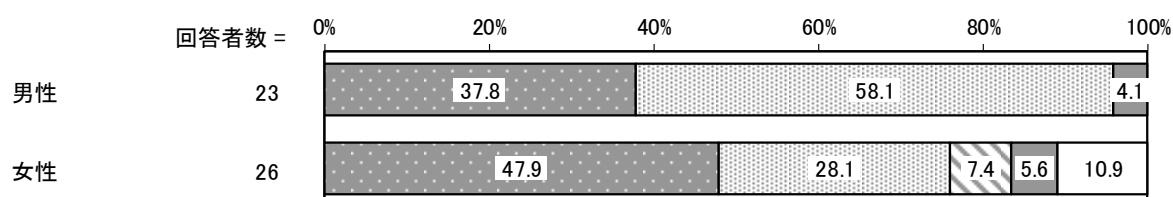
問 7-3 あなたはどのような形で働きたいですか。(○は 1 つ)

「正社員・正職員」の割合が 43.2%、「派遣社員・契約社員、パート、アルバイト」の割合が 42.1%となっています。



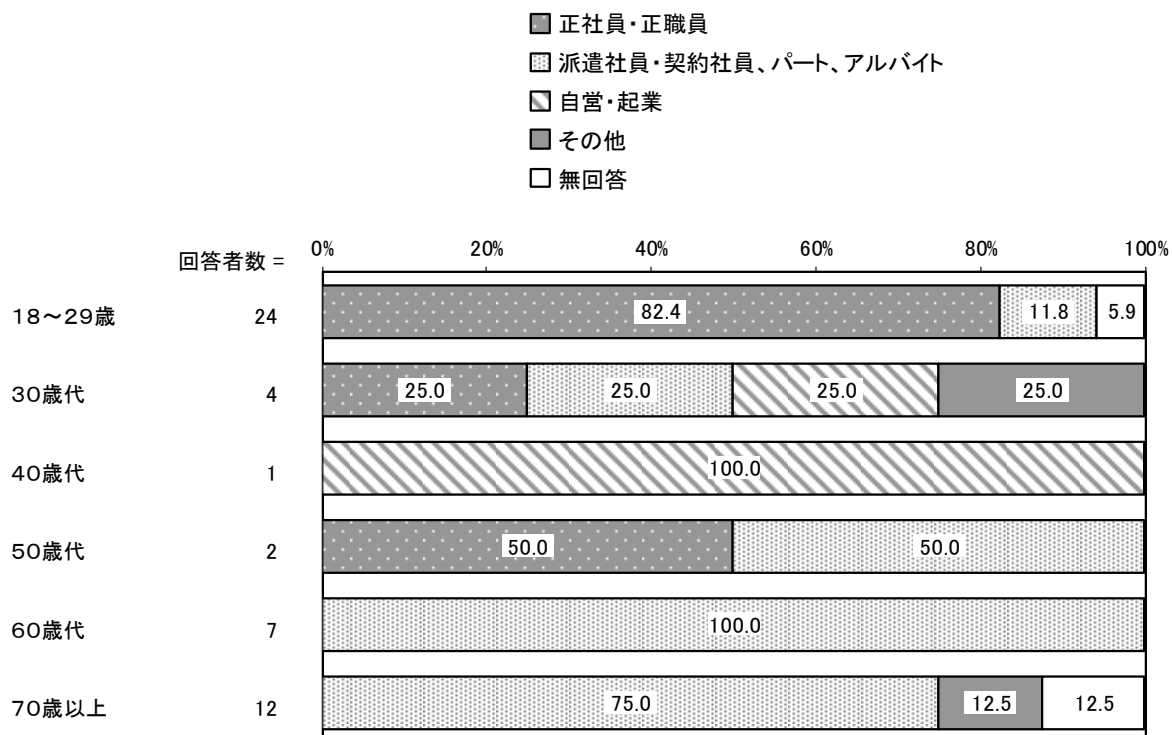
【性 別】

性別でみると、男性で「派遣社員・契約社員、パート、アルバイト」の割合が 58.1%で最も高くなっています。一方、女性では「正社員・正職員」の割合が 47.9%で最も高くなっています。



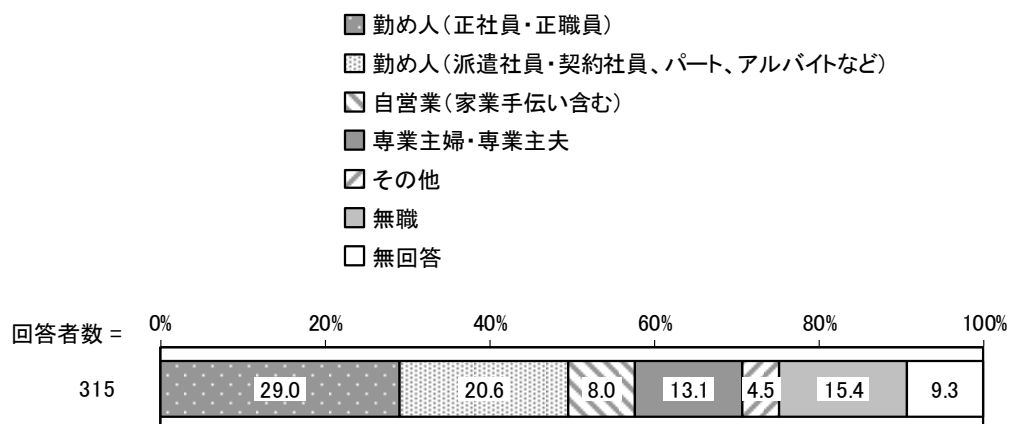
【年代別】

年代別でみると、18～29 歳で「正社員・正職員」の割合が 8 割以上となっています。



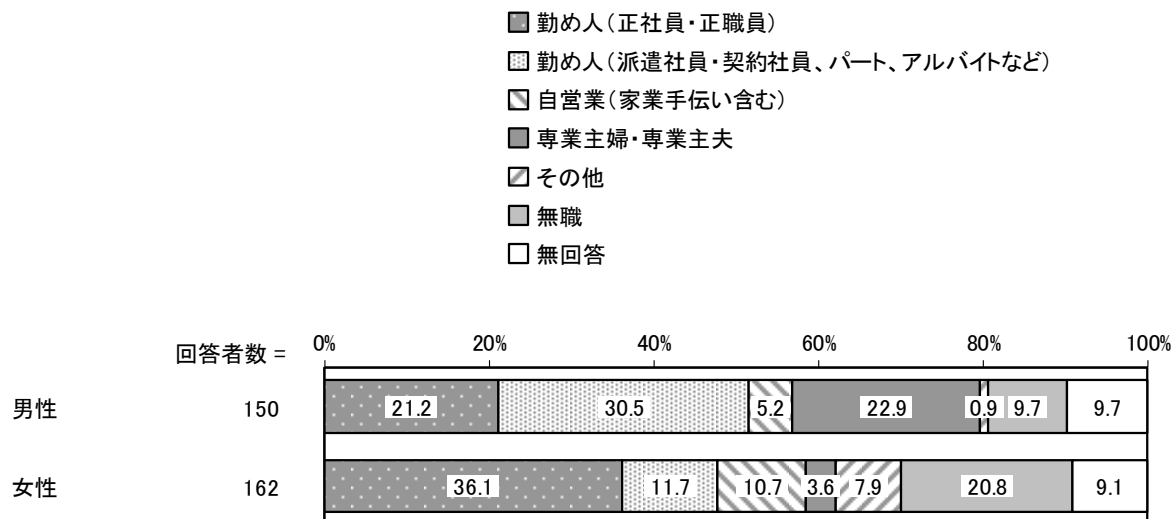
問 8 あなたの配偶者・パートナーの仕事は次のうちどれですか。(○は1つ)

「勤め人（正社員・正職員）」の割合が 29.0%で最も高く、次いで「勤め人（派遣社員・契約社員、パート、アルバイトなど）」の割合が 20.6%、「無職」の割合が 15.4%となっています。



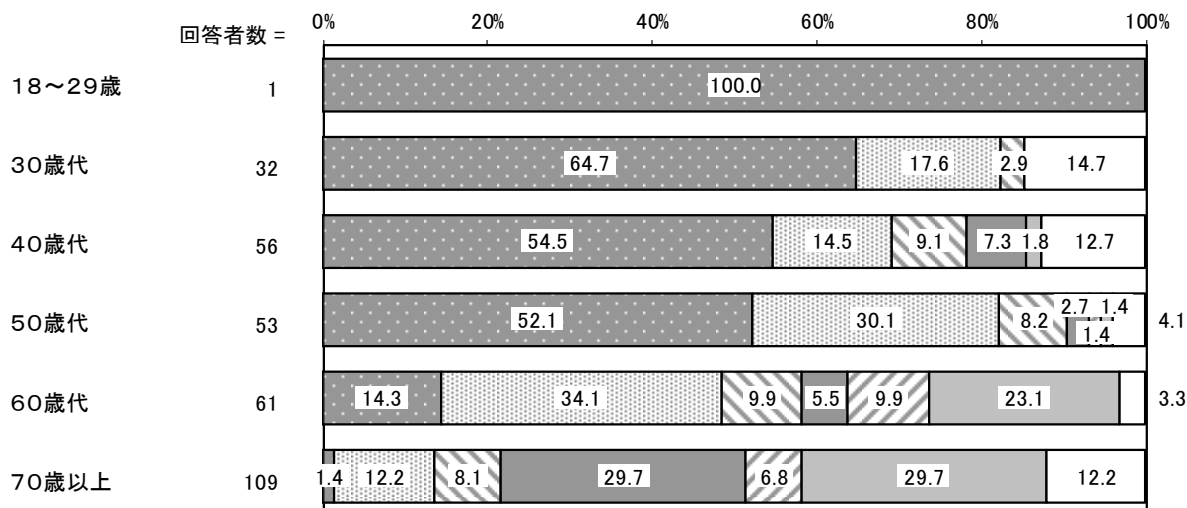
【性 別】

性別でみると、男性で（妻の仕事が）「勤め人（派遣社員・契約社員、パート、アルバイトなど）」の割合が30.5%で最も高く、次いで「専業主婦・専業主夫」の割合が22.9%となっています。
一方、女性で（夫の仕事が）「勤め人（正社員・正職員）」の割合が高くなっています。



【年代別】

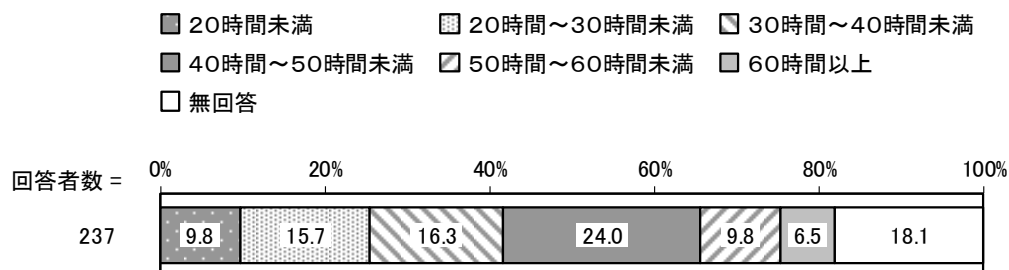
年代別でみると、50歳代以下の世代で「勤め人（正社員・正職員）」の割合が5割を超え高くなっています。



問8で「無職」以外の選択肢を回答された方におたずねします。

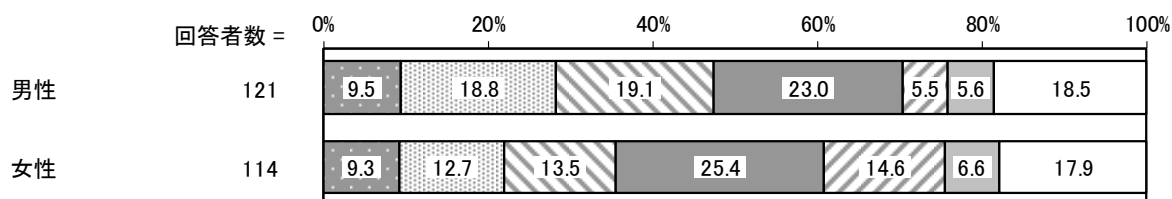
問9 あなたの配偶者・パートナーの週あたりの労働時間（残業時間を含む）は平均してどのくらいですか。あなたの配偶者・パートナーが「専業主婦・専業主夫」である場合は、家事等の時間をお答えください。（実態に近い番号1つに○）

「40時間～50時間未満」の割合が24.0%で最も高く、次いで「30時間～40時間未満」の割合が16.3%、「20時間～30時間未満」の割合が15.7%となっています。



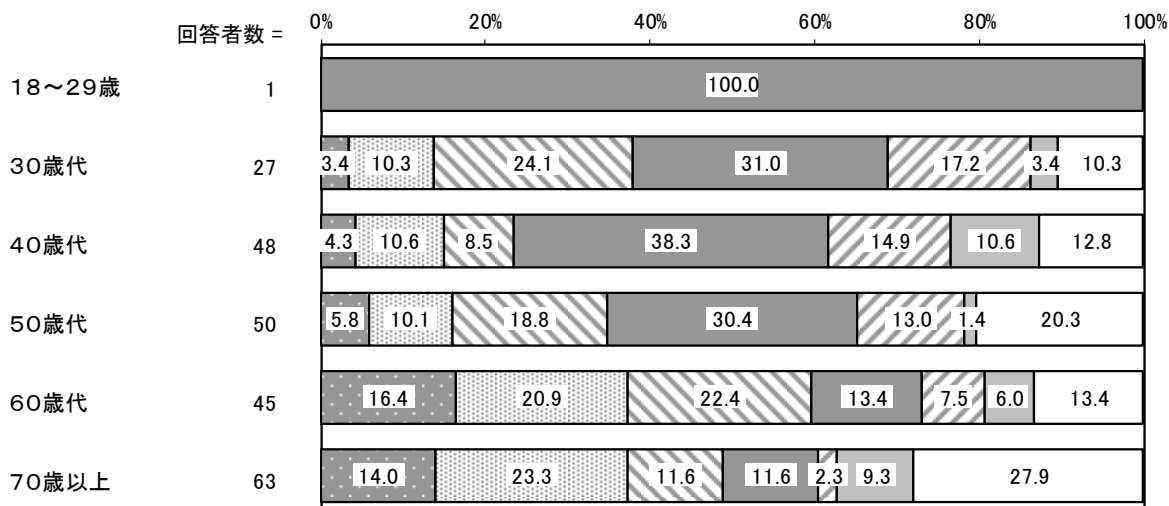
【性別】

性別でみると、男性（妻の労働時間）、女性（夫の労働時間）ともに「40時間～50時間未満」の割合が最も高くなっています。また、女性で（夫の労働時間）「50時間～60時間未満」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、50歳代以下の世代で「40時間～50時間未満」の割合が高くなっています。「60時間以上」の割合が特に高いのは40歳代で、10.6%、70歳以上で9.3%となっています。



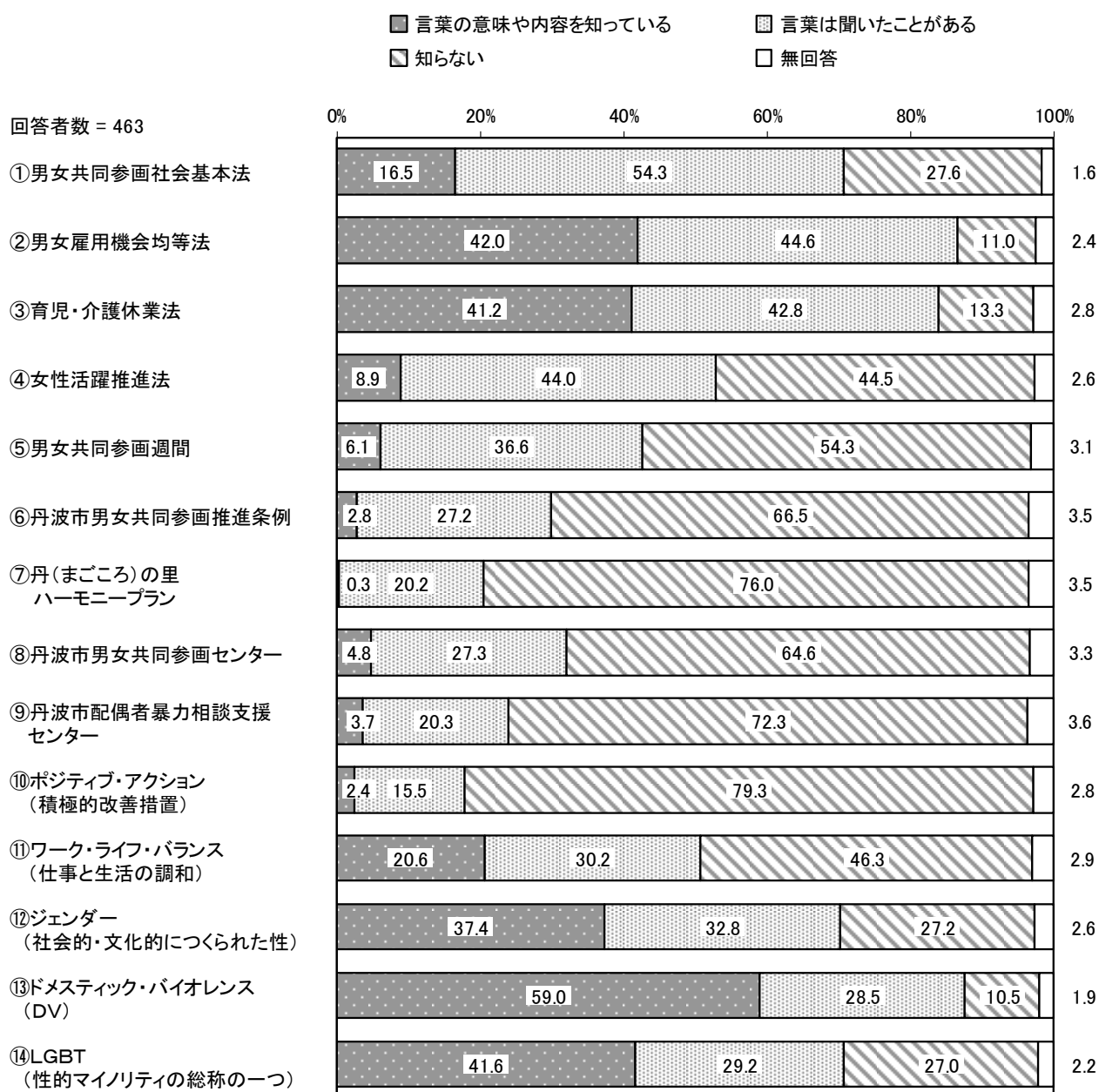
2 男女共同参画について

問 10 「男女共同参画」に関する次の言葉の意味や内容をご存じですか。
(○は各項目 1 つ)

「言葉の意味や内容を知っている」では、『⑬ドメスティック・バイオレンス (DV)』が 59.0% で最も高く、次いで『②男女雇用機会均等法』が 42.0%、『⑭LGBT』が 41.6% となっています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」をあわせた“知っている”の割合では、『②男女雇用機会均等法』『③育児・介護休業法』『⑬ドメスティック・バイオレンス (DV)』で 8 割を超え、『①男女共同参画社会基本法』『⑫ジェンダー (社会的・文化的につくられた性)』『⑭LGBT (性的マイノリティの総称の一つ)』で 7 割を超えています。

一方、『⑧丹波市男女共同参画センター』(32.1%)『⑥丹波市男女共同参画推進条例』(30.0%)『⑨丹波市配偶者暴力相談支援センター』(24.0%)『⑦丹(まごころ)の里 ハーモニープラン』(20.5%)『⑩ポジティブ・アクション (積極的改善措置)』(17.9%) の認知率は 4 割を下回っており、これらは市民の間ではなじみの薄い言葉となっています。

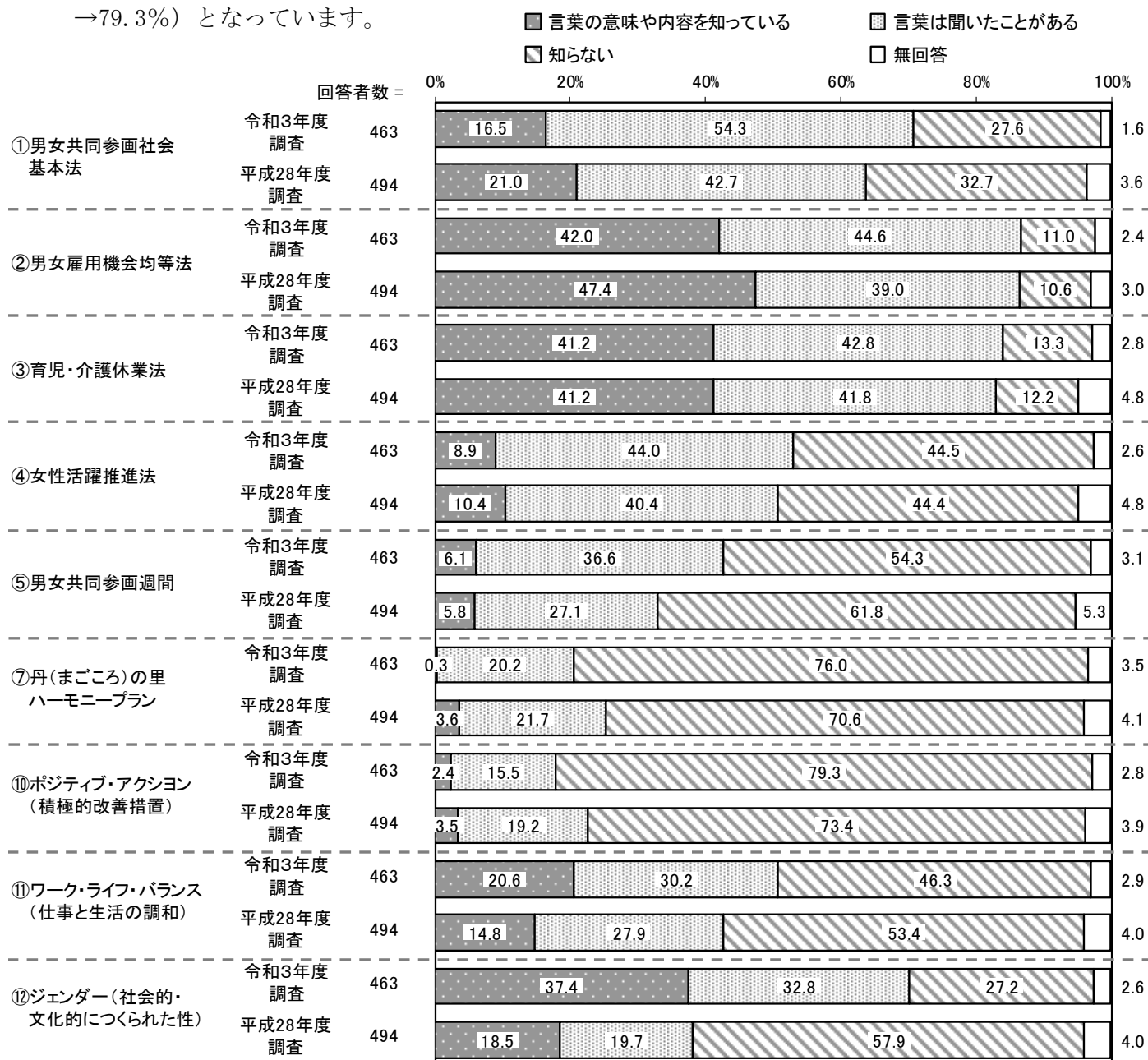


【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合が上昇したものは、『⑫ジェンダー（社会的・文化的につくられた性）』（18.9 ポイント増）『⑪ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』（5.8 ポイント増）『⑤男女共同参画週間』（0.3 ポイント増）だけで、その他の法律や用語は変化がないか低下しています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率が上昇したものは、『①男女共同参画社会基本法』（63.7%→70.8%）『②男女雇用機会均等法』（86.4%→86.6%）『③育児・介護休業法』（83.0%→84.0%）『④女性活躍推進法』（50.8%→52.9%）『⑤男女共同参画週間』（32.9%→42.7%）『⑪ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』（42.7%→50.8%）『⑫ジェンダー（社会的・文化的につくられた性）』（38.2%→70.2%）となっています。

「知らない」の割合が増加したものは、『②男女雇用機会均等法』（10.6%→11.0%）『③育児・介護休業法』（12.2%→13.3%）『④女性活躍推進法』（44.4%→44.5%）『⑦丹（まごころ）の里ハーモニープラン』（70.6%→76.0%）『⑩ポジティブ・アクション（積極的改善措置）』（73.4%→79.3%）となっています。

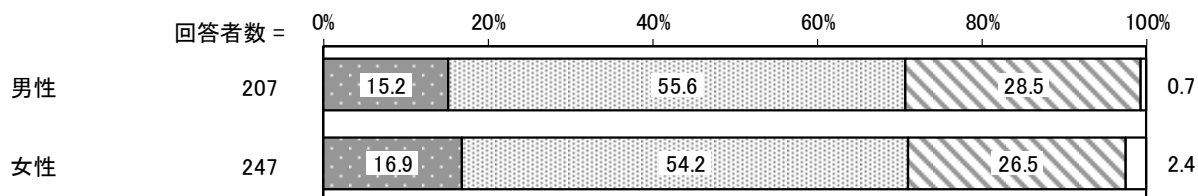


①男女共同参画社会基本法

【性 別】

性別でみると、男女とも「言葉は聞いたことがある」の割合が最も高くなっています。性別による大きな差異はみられません。

■ 言葉の意味や内容を知っている ■ 言葉は聞いたことがある
■ 知らない □ 無回答

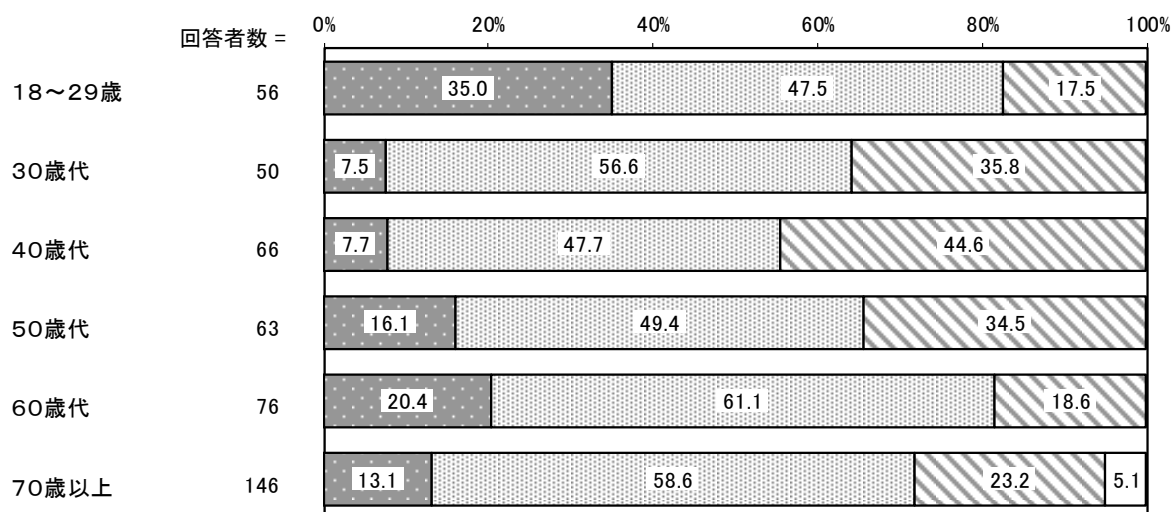


【年代別】

年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、18～29 歳が 35.0%で最も高く、次いで 60 歳代、50 歳代となっています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率は 18～29 歳が 82.5%で最も高く、次いで 60 歳代、70 歳以上となっています。

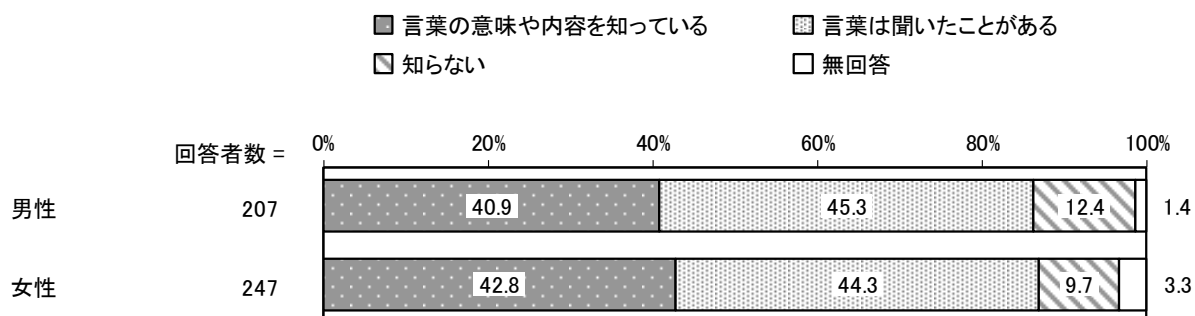
「知らない」の割合は、40 歳代が 44.6%で最も高く、次いで 30 歳代、50 歳代となっています。



②男女雇用機会均等法

【性別】

性別でみると、男女とも「言葉は聞いたことがある」の割合が最も高く、性別による大きな差異はみられません。

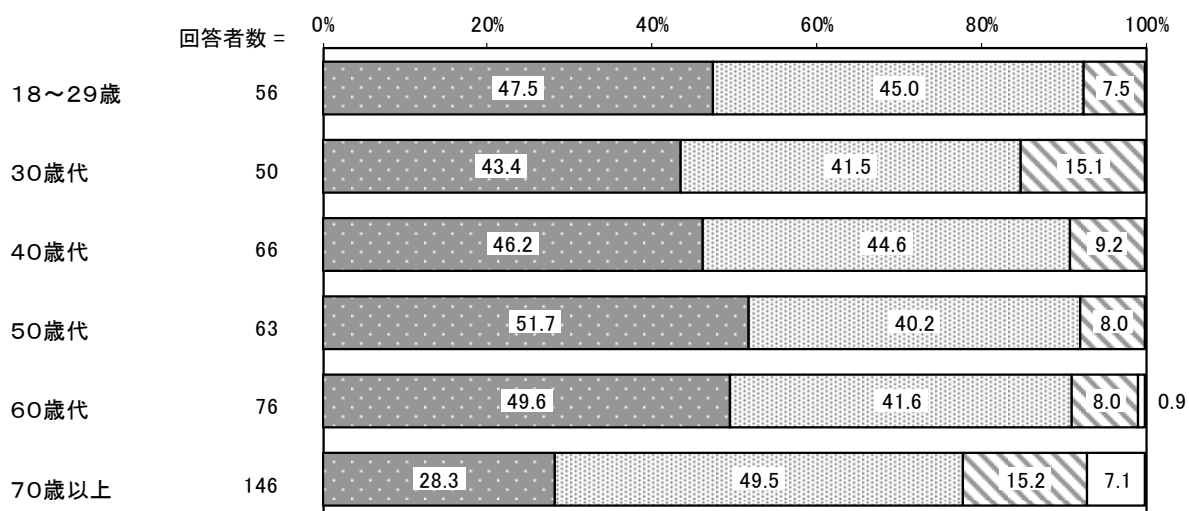


【年代別】

年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、50 歳代が 51.7%で最も高く、次いで 60 歳代、18～29 歳となっています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率は 18～29 歳が 92.5%で最も高く、次いで 50 代、60 代となっています。

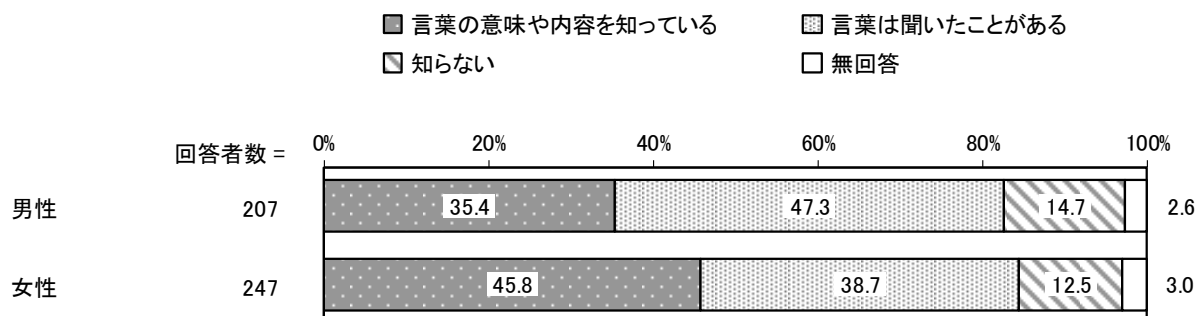
「知らない」の割合は、70 歳以上が 15.2%で最も高く、次いで 30 歳代、40 歳代となっています。



③育児・介護休業法

【性別】

性別でみると、女性で「言葉の意味や内容を知っている」の割合が45.8%で最も高く、男性より10.4ポイント高くなっています。

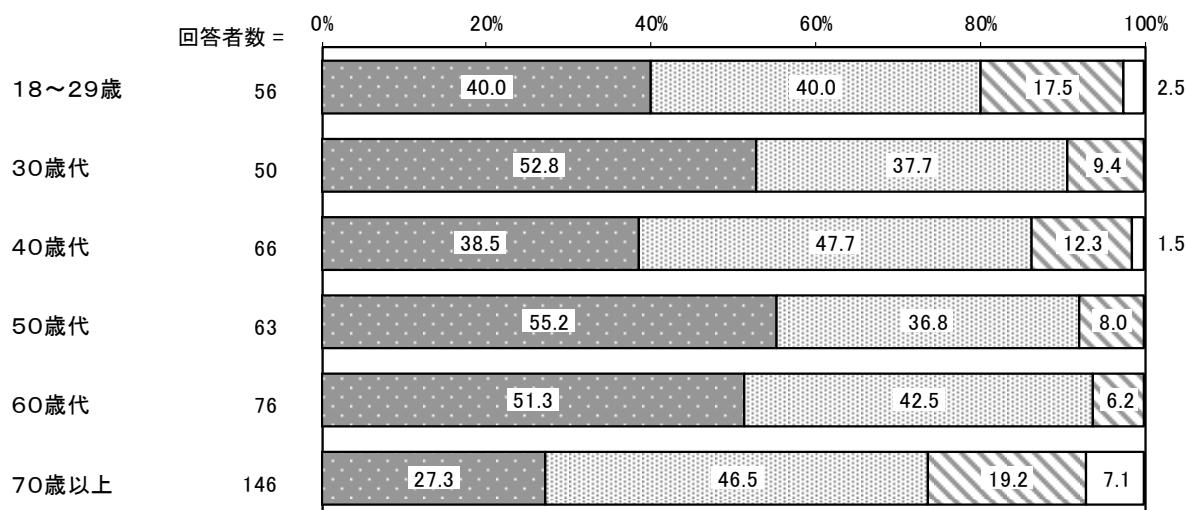


【年代別】

年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、50歳代が55.2%で最も高く、次いで30歳代、60歳代となっています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率は60歳代が93.8%で最も高く、次いで50歳代、30歳代となっています。

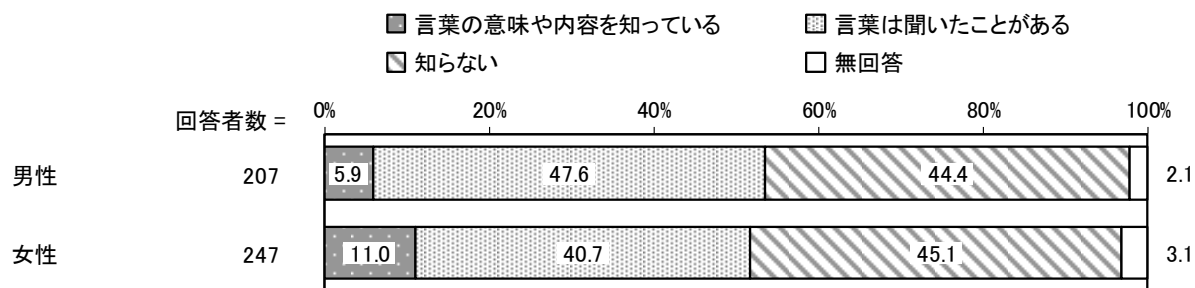
「知らない」の割合は、70歳以上が19.2%で最も高く、次いで18～29歳、40歳代となっています。



④女性活躍推進法

【性別】

性別でみると、女性で「言葉の意味や内容を知っている」の割合が 11.0%で最も高く、男性より 5.1 ポイント高くなっています。

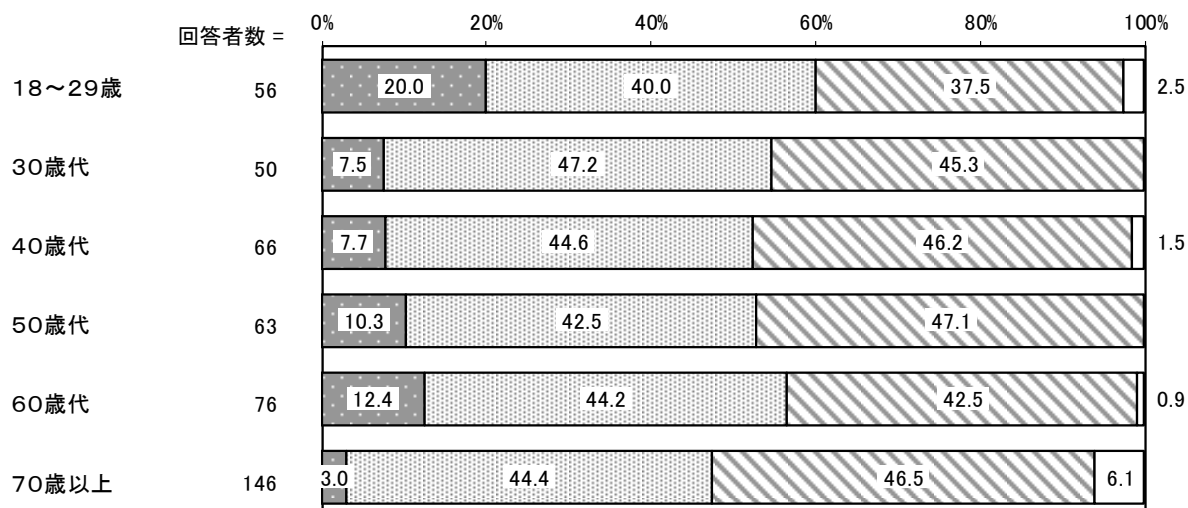


【年代別】

年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、18～29 歳が 20.0%で最も高く、次いで 60 歳代、50 歳代となっています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率は 18～29 歳が 60.0%で最も高く、次いで 60 代、30 代となっています。

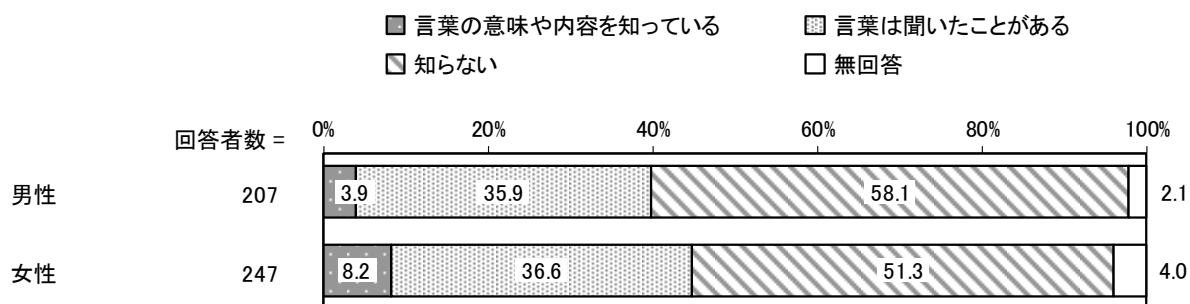
「知らない」の割合は、50 歳代が 47.1%で最も高く、次いで 70 歳以上、40 歳代となっています。



⑤男女共同参画週間

【性別】

性別でみると、男女とも「知らない」の割合が最も高く、また、男性のほうが女性より「知らない」の割合が6.8ポイント高くなっています。

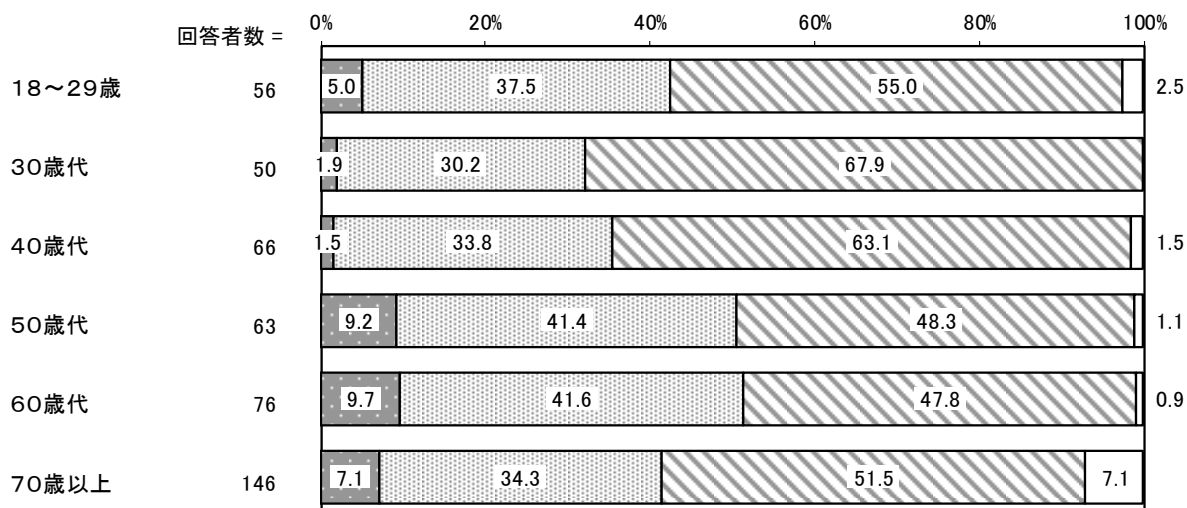


【年代別】

年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、60歳代が9.7%で最も高く、次いで50歳代、70歳以上となっています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率は60歳代が51.3%で最も高く、次いで50歳代、18～29歳となっています。

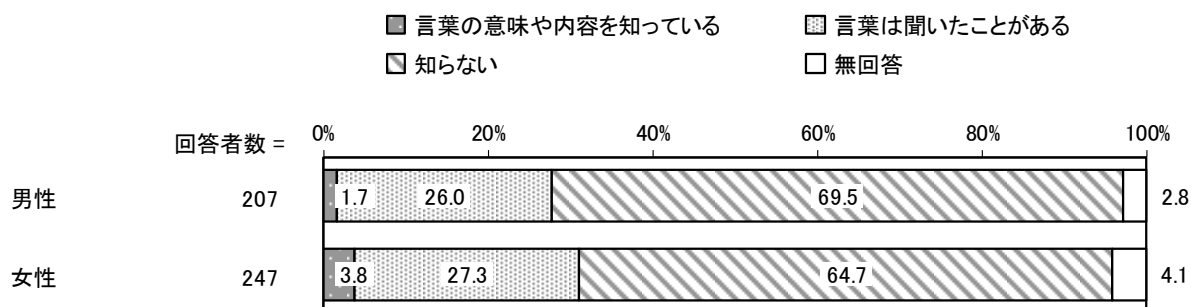
「知らない」の割合は、30歳代が67.9%で最も高く、次いで40歳代、18～29歳となっています。



⑥丹波市男女共同参画推進条例

【性 別】

性別でみると、男女とも「知らない」の割合が最も高く、また、男性のほうが女性より「知らない」の割合が4.8ポイント高くなっています。

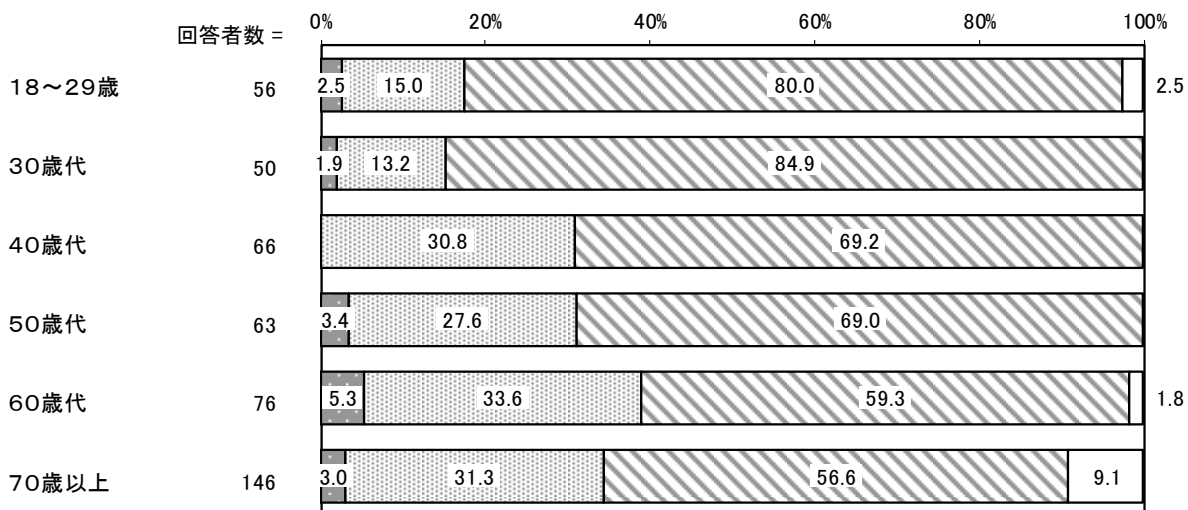


【年代別】

年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、60歳代が5.3%で最も高く、次いで50歳代、70歳以上となっています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率は60歳代が38.9%で最も高く、次いで70代以上、50歳代となっています。

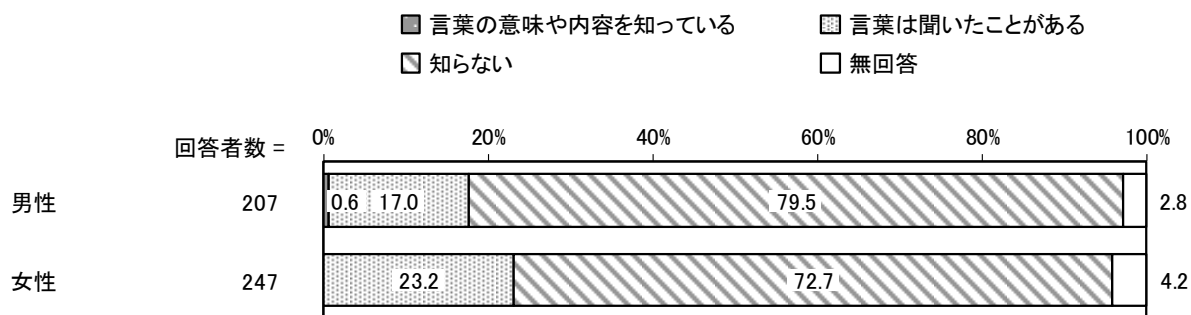
「知らない」の割合は、30歳代が84.9%で最も高く、次いで18～29歳、40歳代となっています。



⑦丹（まごころ）の里 ハーモニープラン

【性 別】

性別でみると、男女とも「知らない」の割合が最も高く、また、男性のほうが女性より「知らない」の割合が6.8ポイント高くなっています。

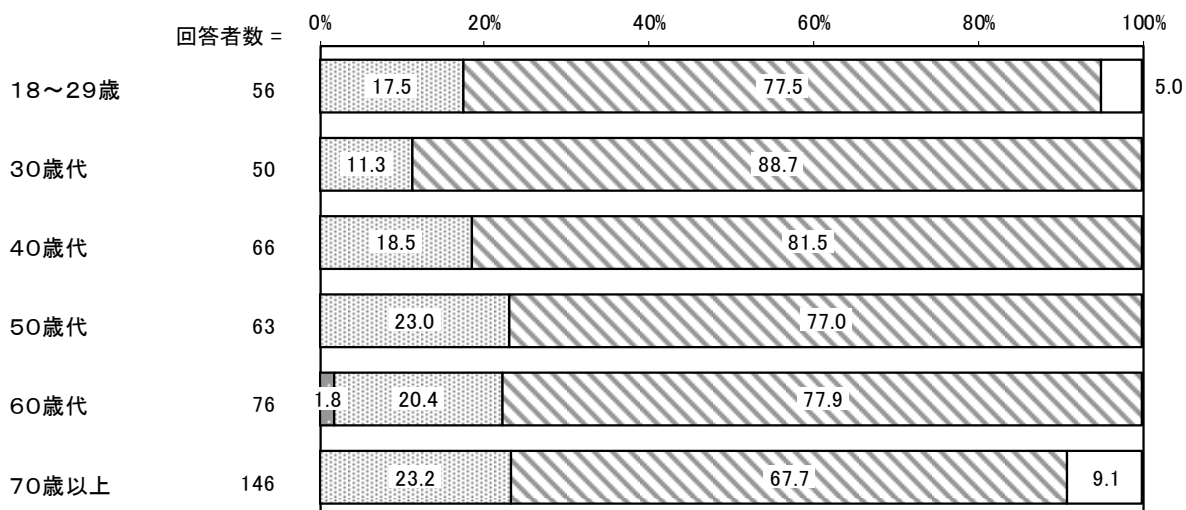


【年代別】

年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、60歳代で1.8%となり、その他の年代では回答がありませんでした。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率は70歳以上が23.2%で最も高く、次いで50歳代、60歳代となっています。

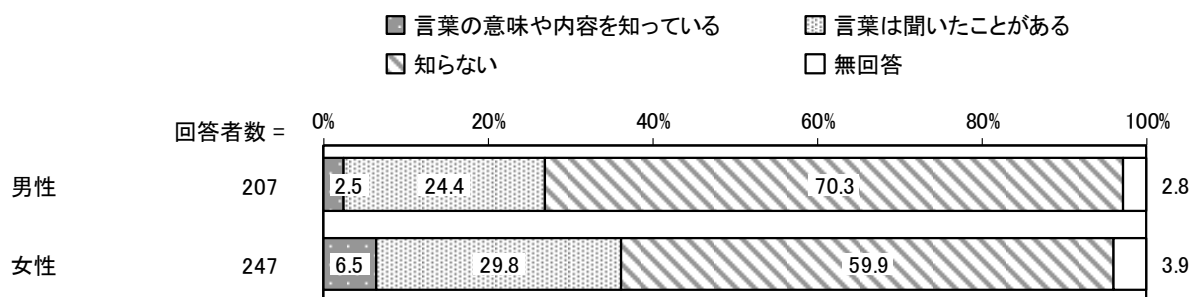
「知らない」の割合は、30歳代が88.7%で最も高く、次いで40歳代、60歳代となっています。



⑧丹波市男女共同参画センター

【性 別】

性別でみると、男女とも「知らない」の割合が最も高く、また、男性のほうが女性より「知らない」の割合が10.4ポイント高くなっています。

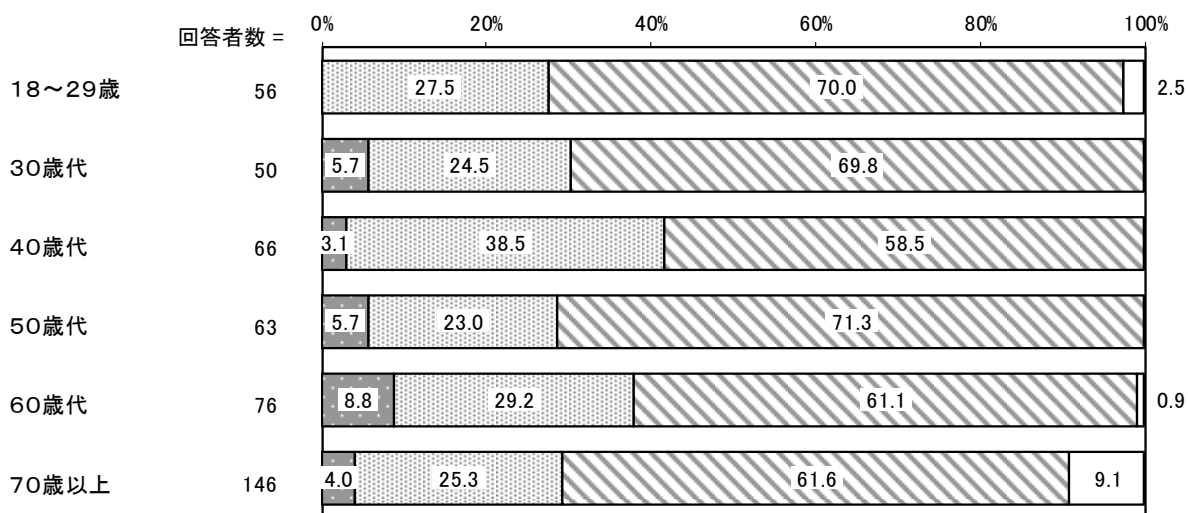


【年代別】

年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、60歳代が8.8%で最も高く、次いで50歳代、30歳代となっています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率は40歳代が41.6%で最も高く、次いで60歳代、30歳代となっています。

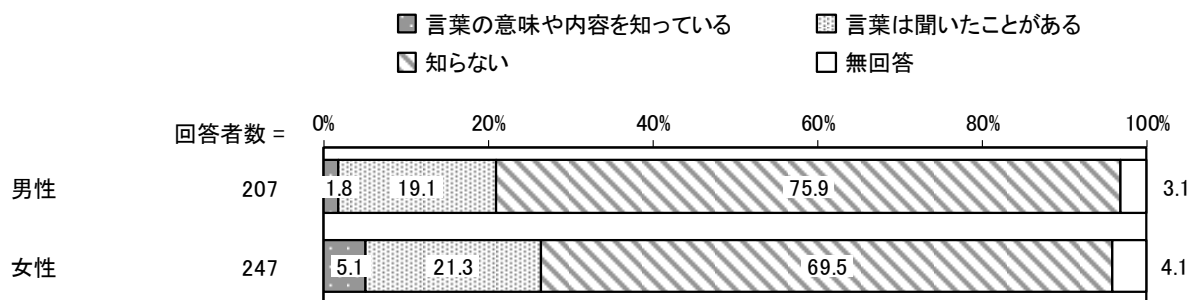
「知らない」の割合は、50歳代が71.3%で最も高く、次いで18～29歳、30歳代となっています。



⑨丹波市配偶者暴力相談支援センター

【性別】

性別でみると、男女とも「知らない」の割合が最も高く、また、男性のほうが女性より「知らない」の割合が6.4ポイント高くなっています。

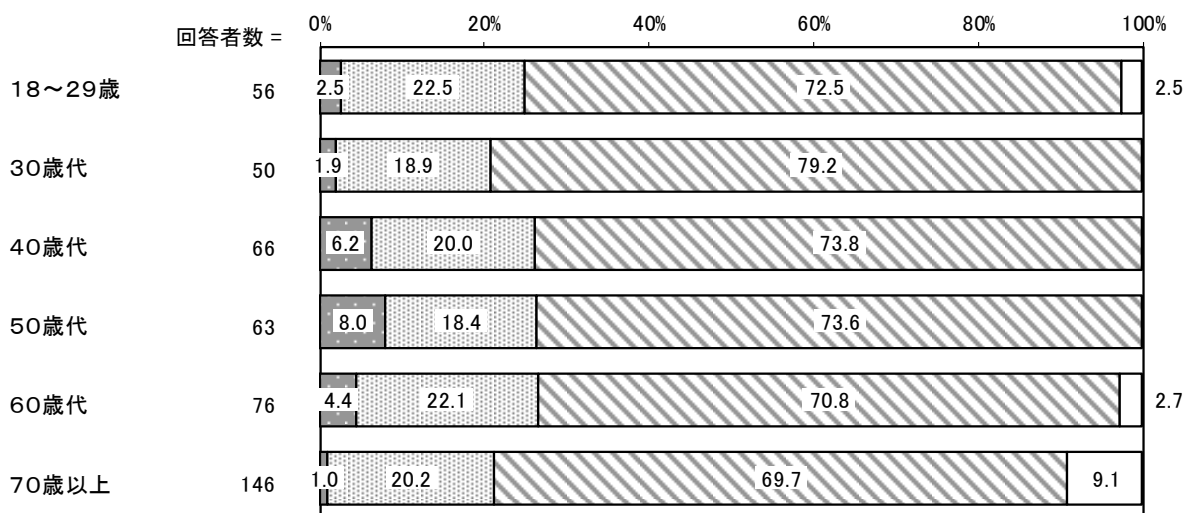


【年代別】

年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、50歳代が8.0%で最も高く、次いで40歳代、60歳代となっています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率は60歳代が26.5%で最も高く、次いで50歳代、40歳以上となっています。

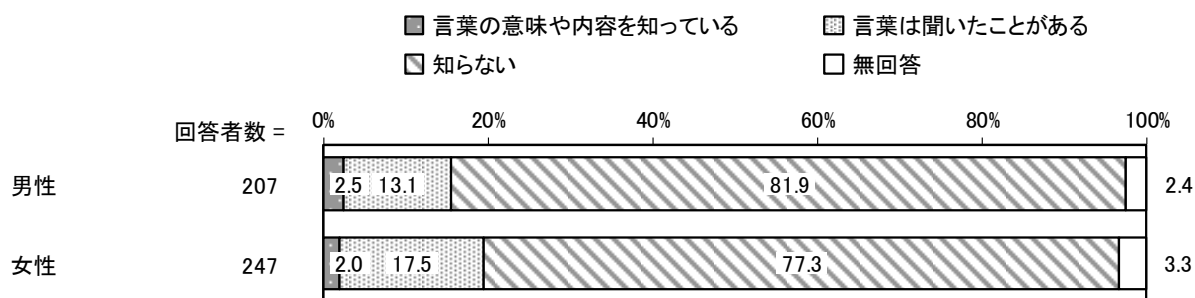
「知らない」の割合は、30歳代が79.2%で最も高く、次いで、40歳代、50歳代となっています。



⑩ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

【性別】

性別でみると、男女とも「知らない」の割合が最も高く、また、男性のほうが女性より「知らない」の割合が4.6ポイント高くなっています。

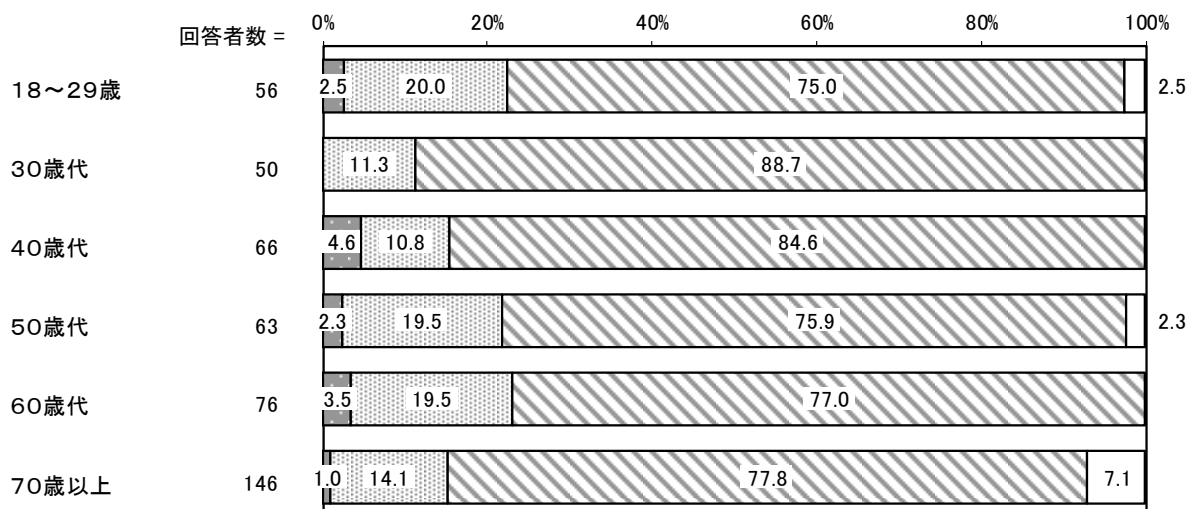


【年代別】

年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、40歳代が4.6%で最も高く、次いで60歳代、18～29歳となっています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率は60歳代が23.0%で最も高く、次いで18～29歳、50歳代となっています。

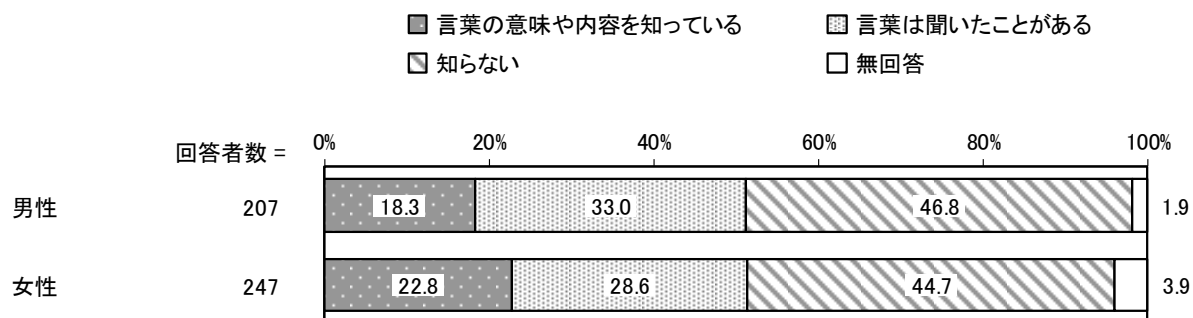
「知らない」の割合は、30歳代が88.7%で最も高く、40歳代、70歳以上となっています。



⑪ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

【性 別】

性別でみると、男女とも「知らない」の割合が最も高くなっています。また、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、女性のほうが男性より 4.5 ポイント高くなっています。

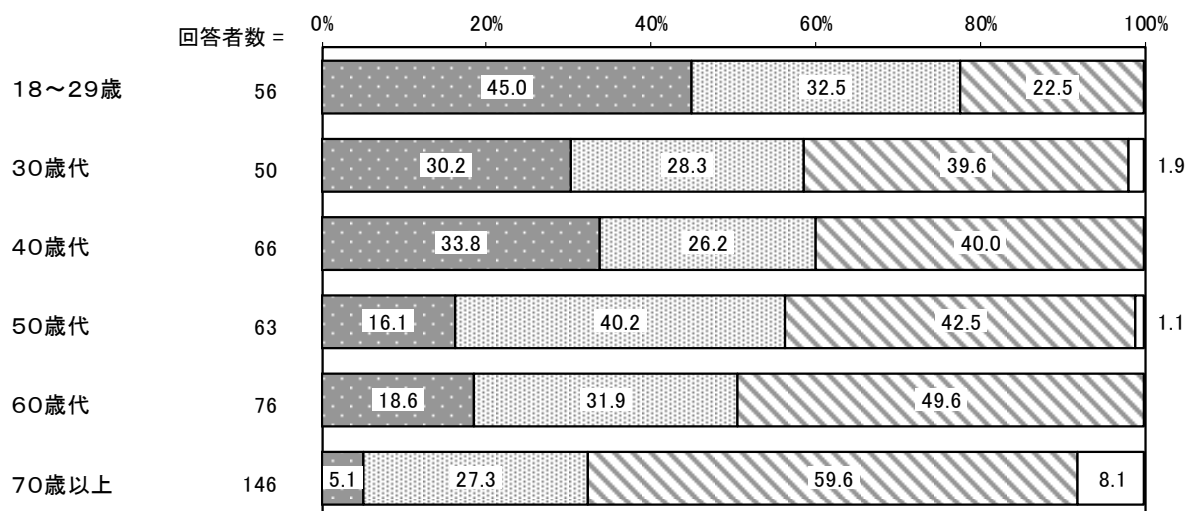


【年代別】

年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、18～29 歳が 45.0%で最も高く、次いで 40 歳代、30 歳代となっています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率は 18～29 歳が 77.5%で最も高く、次いで 40 歳代、30 歳代となっています。

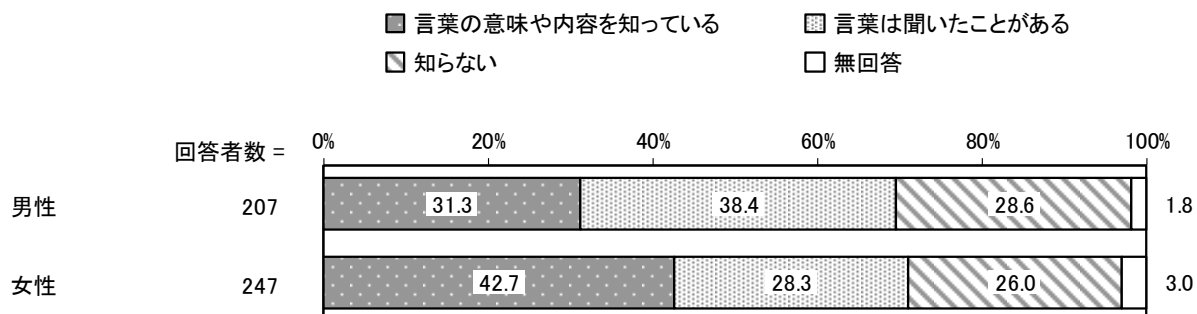
「知らない」の割合は、70 歳以上が 59.6%で最も高く、次いで 60 歳代、50 歳代となっています。



⑫ジェンダー（社会的・文化的につくられた性）

【性別】

性別でみると、女性で「言葉の意味や内容を知っている」の割合が42.7%で最も高くなっています。また、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、女性のほうが男性より11.4ポイント高くなっています。

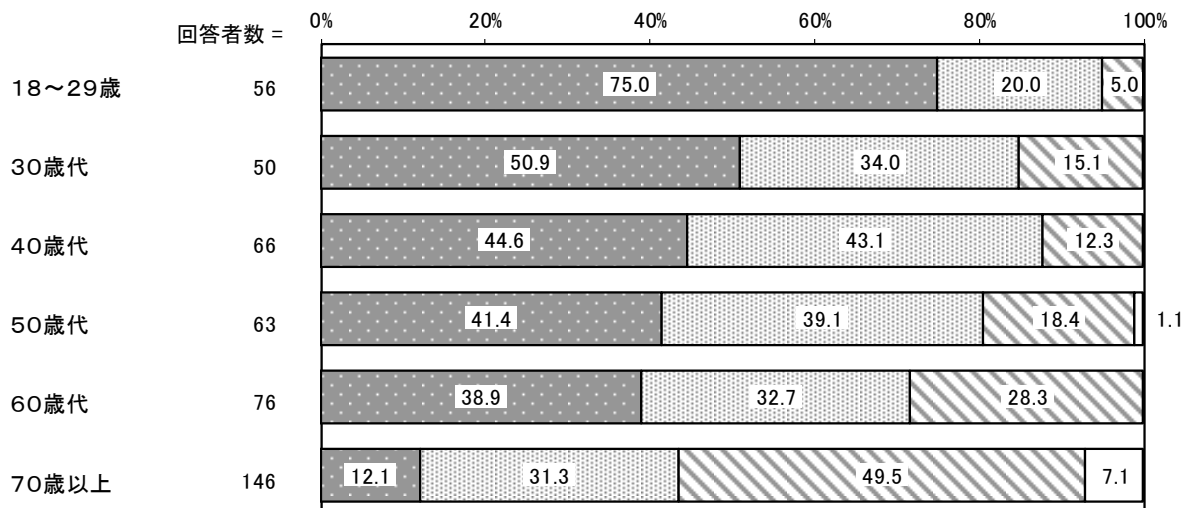


【年代別】

年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、18～29歳が75.0%で最も高く、次いで30歳代、40歳代となっています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率は18～29歳が95.0%で最も高く、次いで40歳代、30歳代となっています。

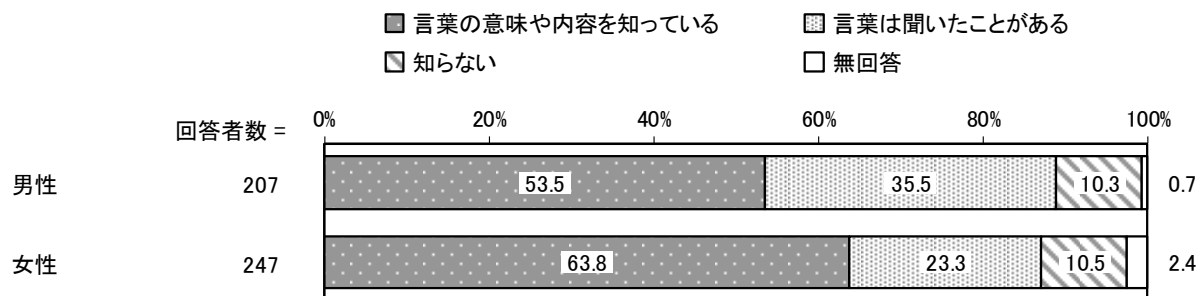
「知らない」の割合は、70歳以上が49.5%で最も高く、次いで60歳代、50歳代となっています。



⑬ドメスティック・バイオレンス（DV）

【性別】

性別でみると、女性で「言葉の意味や内容を知っている」の割合が63.8%で最も高く、男性より10.3ポイント高くなっています。しかし、男性のほうが女性より「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率が高くなっています。

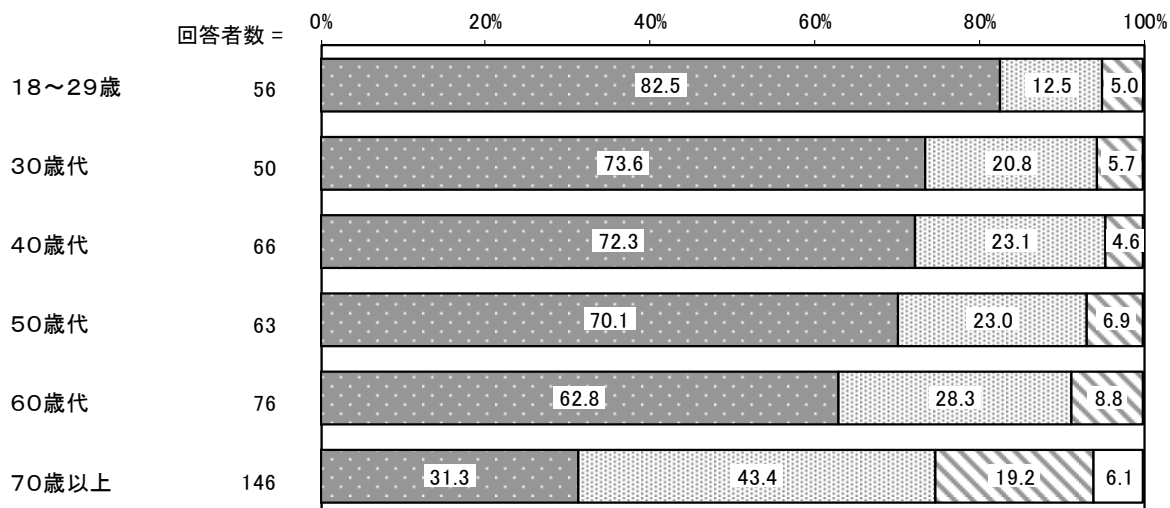


【年代別】

年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、18～29歳が82.5%で最も高く、次いで30歳代、40歳代となっています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率は、40歳代が95.4%で最も高く、次いで18～29歳、30歳代となっています。

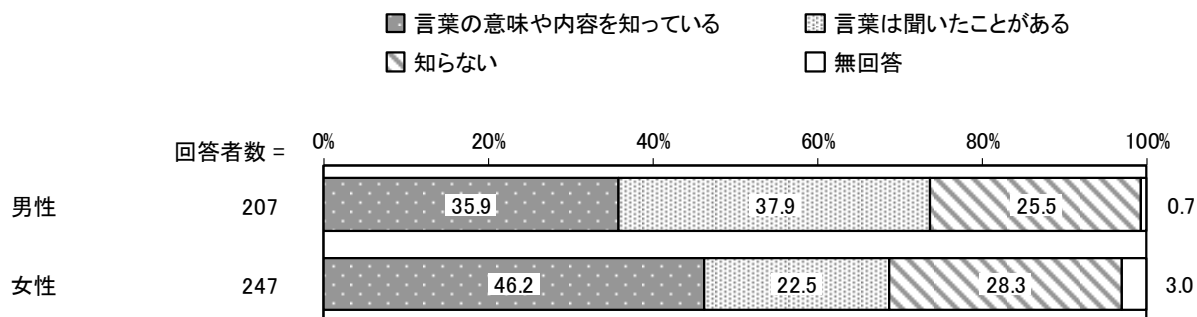
「知らない」の割合は、70歳以上が19.2%で最も高く、次に60歳代、50歳代となっています。



⑭ L G B T（性的マイノリティの総称の一つ）

【性 別】

性別でみると、女性で「言葉の意味や内容を知っている」の割合が46.2%で最も高く、男性より10.3ポイント高くなっています。しかし、男性のほうが女性より「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率が高くなっています。

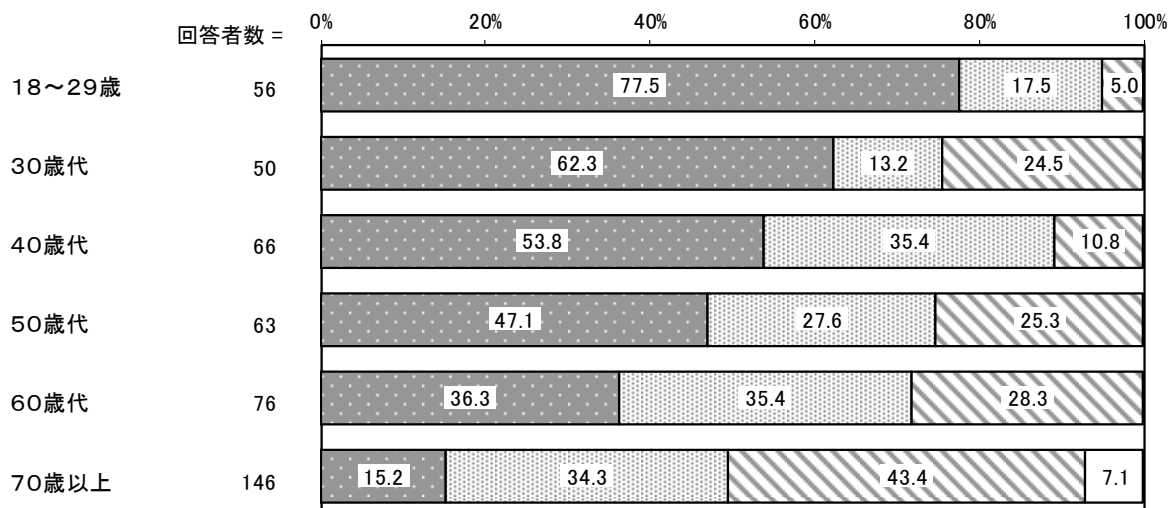


【年代別】

年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は、18～29歳が77.5%で最も高く、次いで30歳代、40歳代となっています。

「言葉の意味や内容を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の割合を含めた認知率は18～29歳が95.0%で最も高く、次いで40歳代、30歳代となっています。

「知らない」の割合は、70歳以上が43.4%で最も高く、60歳代、50歳代となっています。



問 11 あなたは、次にあげる項目で男女は平等になっていると思いますか。各項目について、あなたの考えに最も近いものをお答えください。（○は各項目1つ）

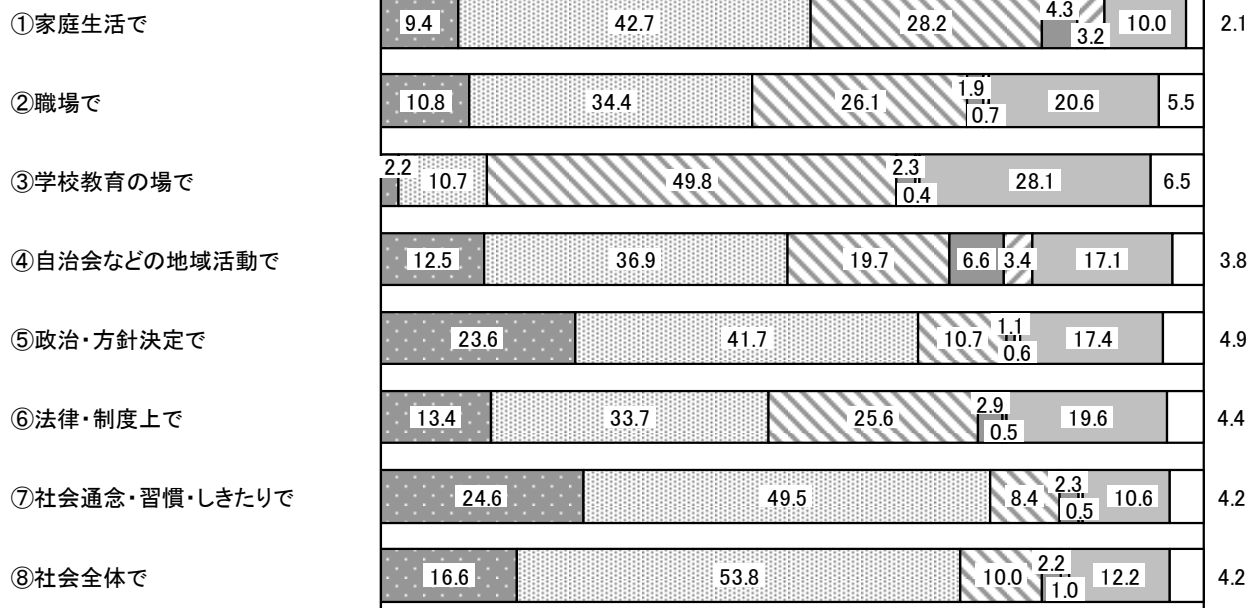
『⑦社会通念・習慣・しきたりで』『⑧社会全体で』で「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」をあわせた“男性のほうが優遇されている”の割合が高く7割を超え、『⑤政治・方針決定で』では6割半ばとなっています。

また、『③学校教育の場で』で「平等になっている」の割合が高く、約5割となっています。

学校現場を除く社会生活の大半の分野において、市民の感覚では依然男性中心の構造にあると捉えていることがうかがえます。

- 男性の方が優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▤ 平等になっている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▤ 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答

回答者数 = 463



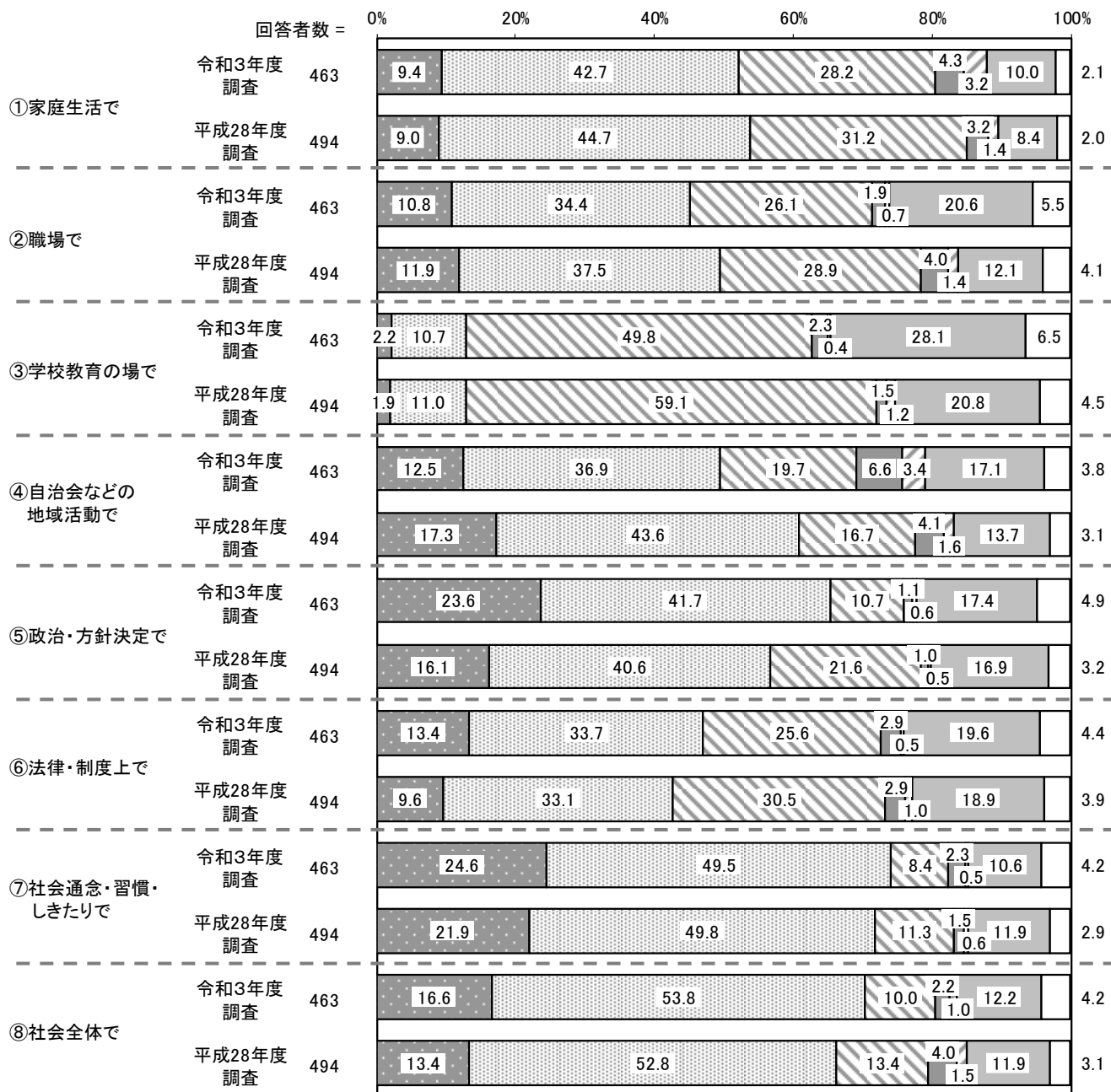
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、平成 28 年度と同様、『③学校教育の場』を除くすべての項目で“男性のほうが優遇されている”の割合が最も高くなっています。

特に『⑤政治・方針決定』では、“男性のほうが優遇されている”の割合が 8.6 ポイント、『⑥法律・制度上』で 4.4 ポイント増加し、「平等になっている」においても『⑤政治・方針決定』で 10.9 ポイント、『⑥法律・制度上』で 4.9 ポイント減少しています。

『④自治会などの地域活動』では“男性のほうが優遇されている”の割合が 11.5 ポイント減少しています。『③学校教育の場』では、「平等になっている」の割合が 9.3 ポイント減少しています。

- 男性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等になっている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答

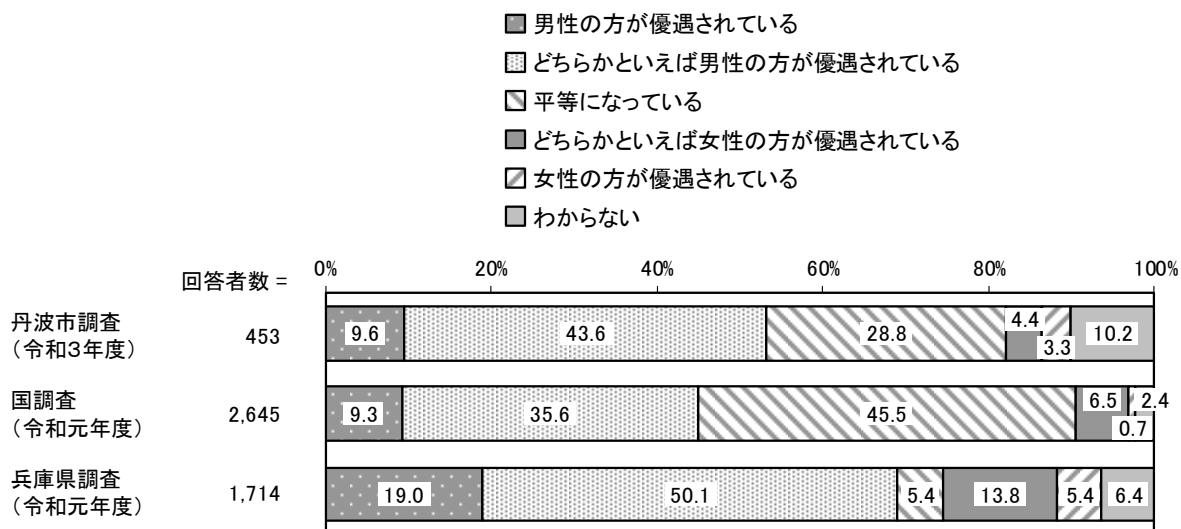


①家庭生活で

【国・県調査との比較】

国調査と比較すると、“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。

兵庫県調査と比較すると“男性のほうが優遇されている”の割合が低くなっています。

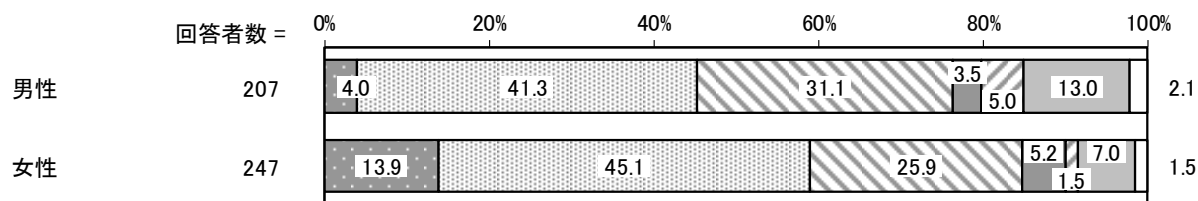


※国調査・兵庫県調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

【性 別】

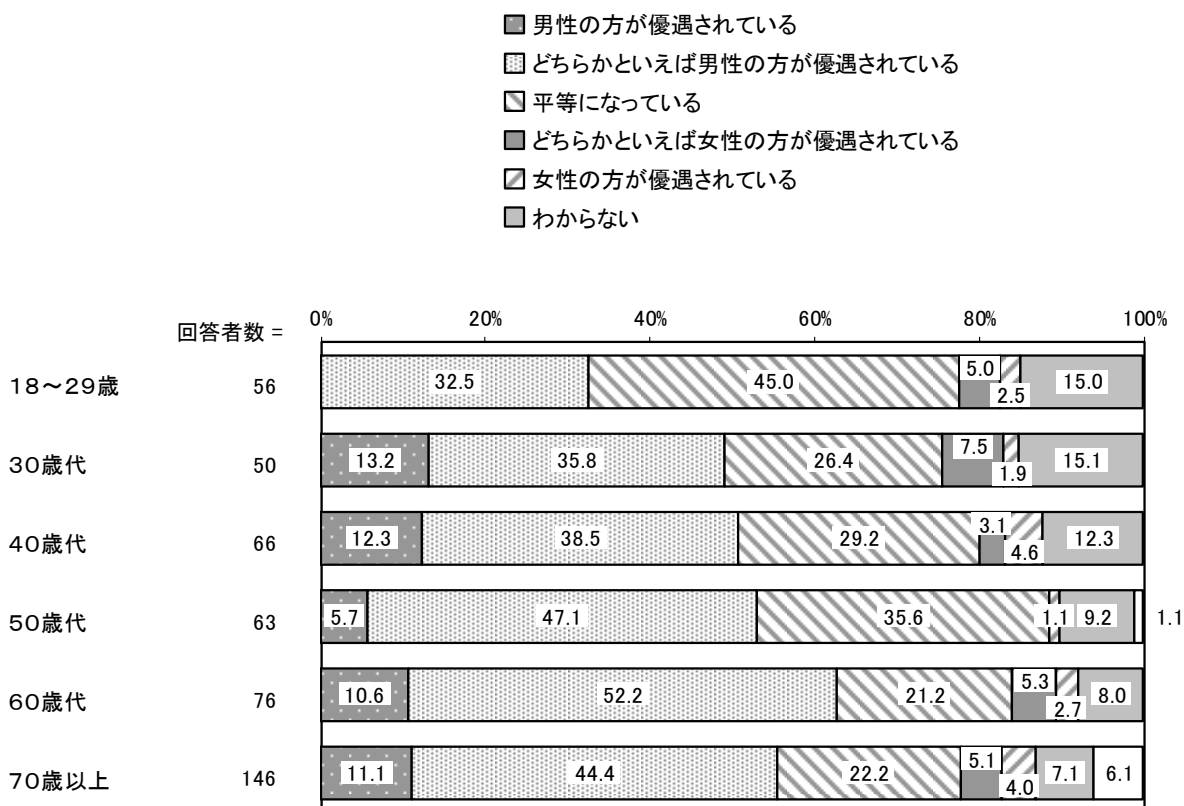
性別でみると、女性では“男性のほうが優遇されている”の割合が 59.0%となり、男性より 13.7 ポイント高くなっています。

男性では、「平等になっている」の割合が 31.1%となり、女性より 5.2 ポイント高くなっています。



【年代別】

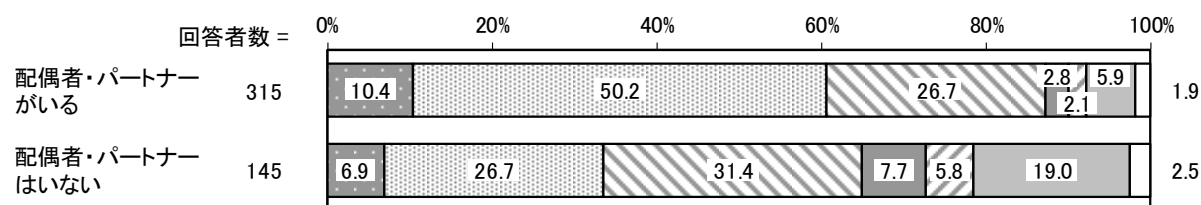
年代別でみると、60歳代で“男性のほうが優遇されている”の割合が62.8%で最も高くなっています。また、年代が高くなるにつれ“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなる傾向がみられます。「平等になっている」の割合は、18～29歳が45.0%で最も高くなっています。



【配偶者の有無別】

配偶者の有無別でみると、配偶者・パートナーがいる人で“男性のほうが優遇されている”の割合が60.6%で高くなっています。

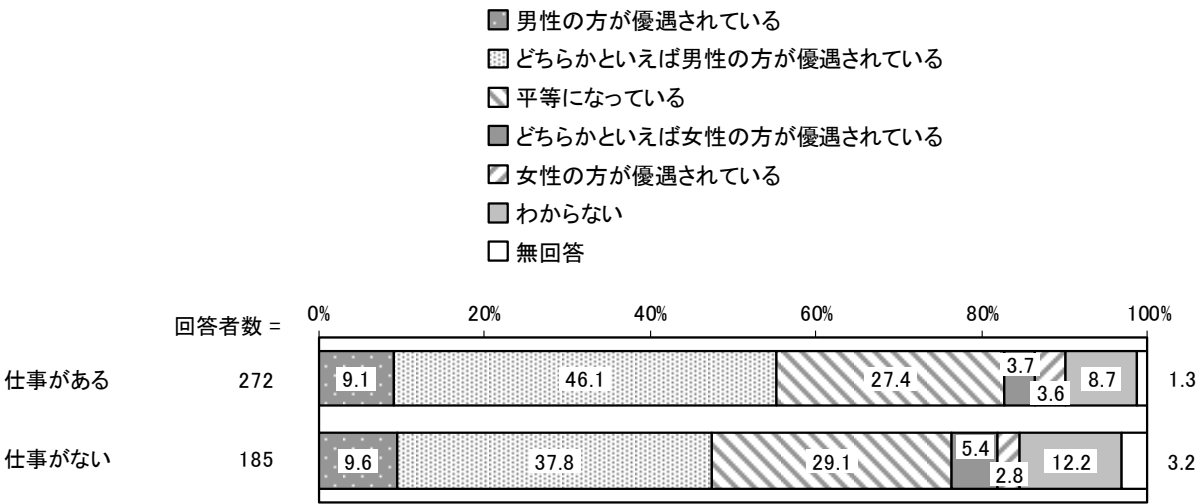
また、配偶者・パートナーがいる人で“男性のほうが優遇されている”の割合が高く、配偶者・パートナーがいない人のほうが「平等になっている」の割合が高くなっています。



【仕事の有無別】

収入をともなう仕事の有無別でみると、仕事がある人で“男性のほうが優遇されている”の割合が 55.2%で高くなっています。

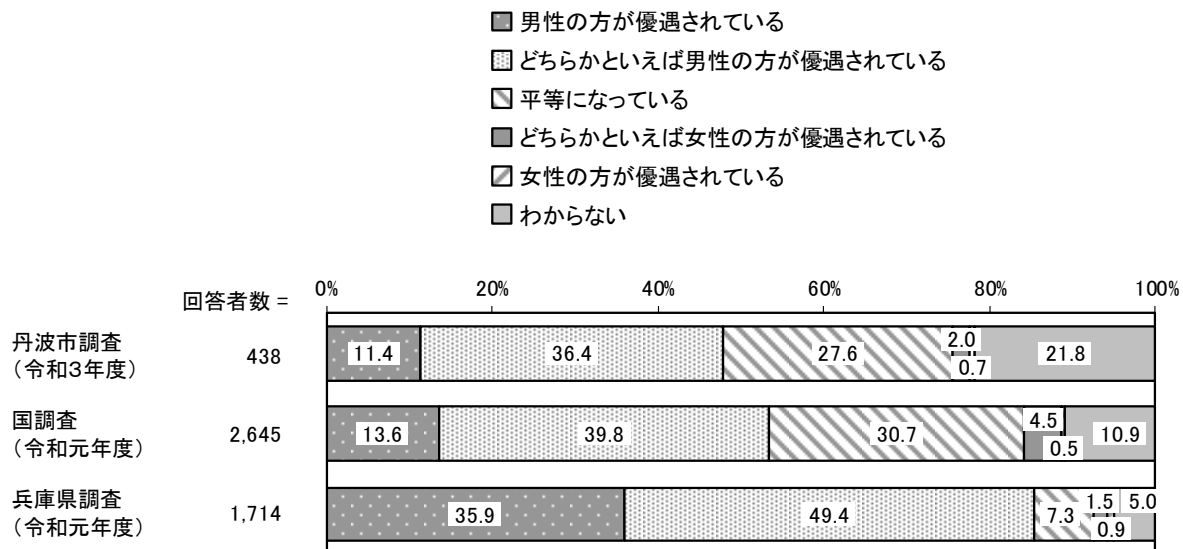
また、仕事がある人のほうが“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。



②職場で

【国・県調査との比較】

国調査・兵庫県調査と比較すると、“男性のほうが優遇されている”の割合が低くなっています。

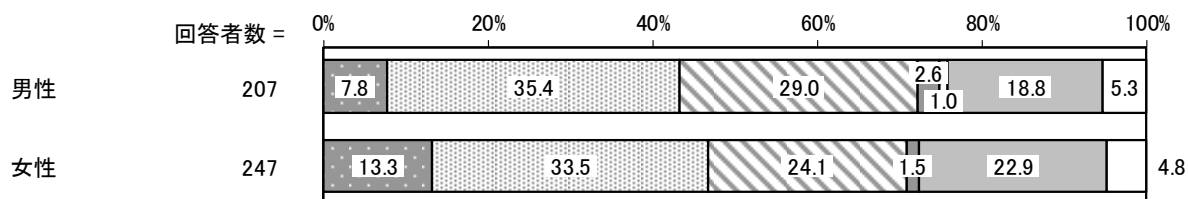


※国調査・兵庫県調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

【性 別】

性別でみると、女性では“男性のほうが優遇されている”の割合が46.8%となり、男性より3.6ポイント高くなっています。

男性では、「平等になっている」の割合が29.0%となり、女性より4.9ポイント高くなっています。

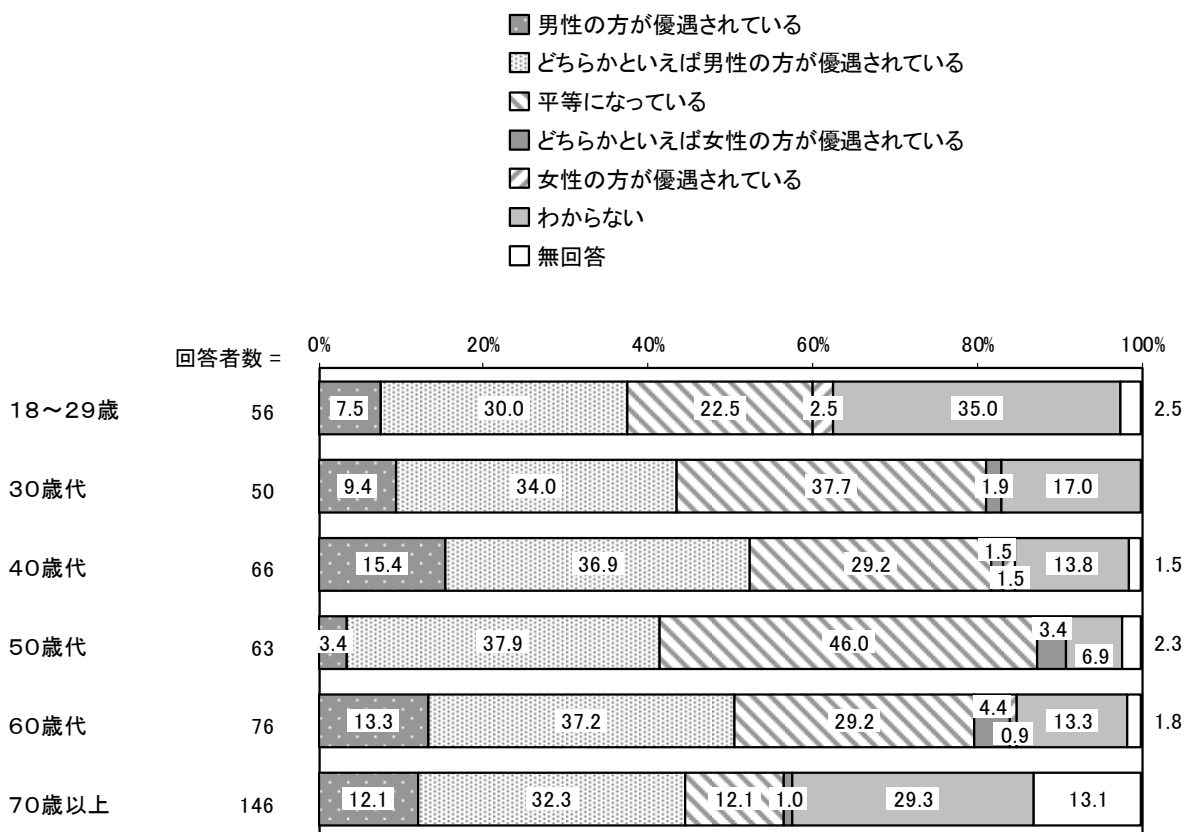


【年代別】

年代別でみると、40 歳代で“男性のほうが優遇されている”の割合が 52.3%で最も高くなっています。次いで 60 歳代、70 歳以上で高くなっています。

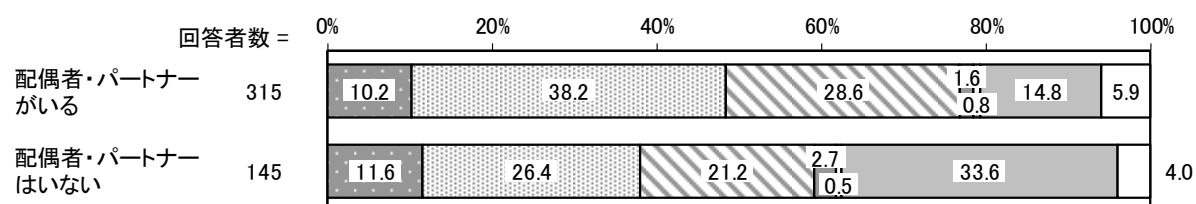
「平等になっている」の割合は、50 歳代が 46.0%で最も高く、次いで 30 歳代、40 歳代、60 歳代の順で高くなっています。

「女性の方が優遇されている」の割合は、18～29 歳が 2.5%で最も高くなっています。



【配偶者の有無別】

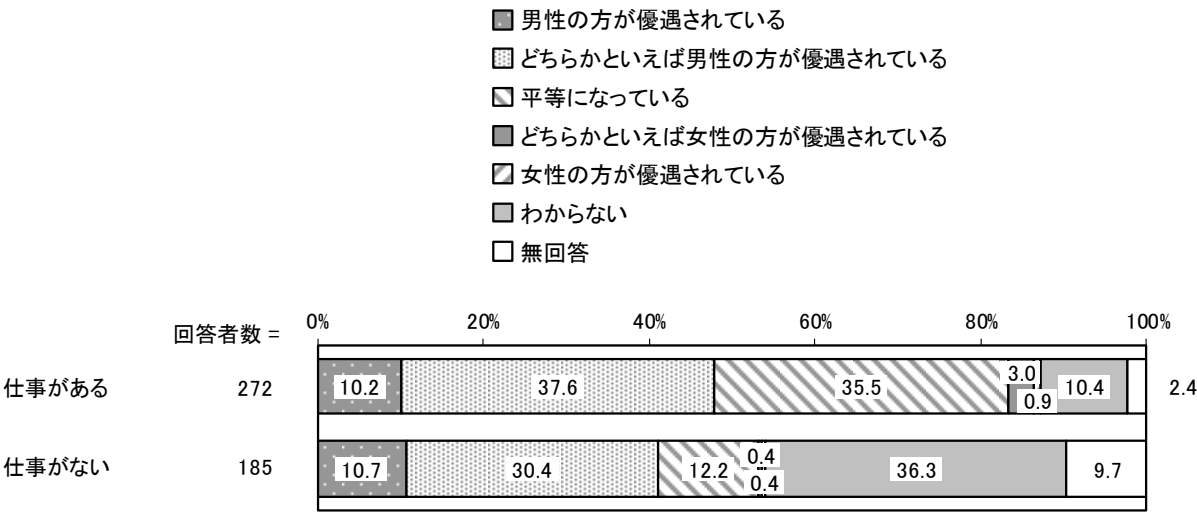
配偶者の有無別でみると、配偶者・パートナーがいる人で“男性のほうが優遇されている”の割合が 48.4%で高くなっています。また、配偶者・パートナーがいる人のほうが「平等になっている」の割合が高くなっています。



【仕事の有無別】

収入をともなう仕事の有無別でみると、仕事がある人のほうが、ない人より“男性のほうが優遇されている”の割合が高く、47.8%となっています。

また、仕事のある人のほうが、「平等になっている」の割合が高くなっています。

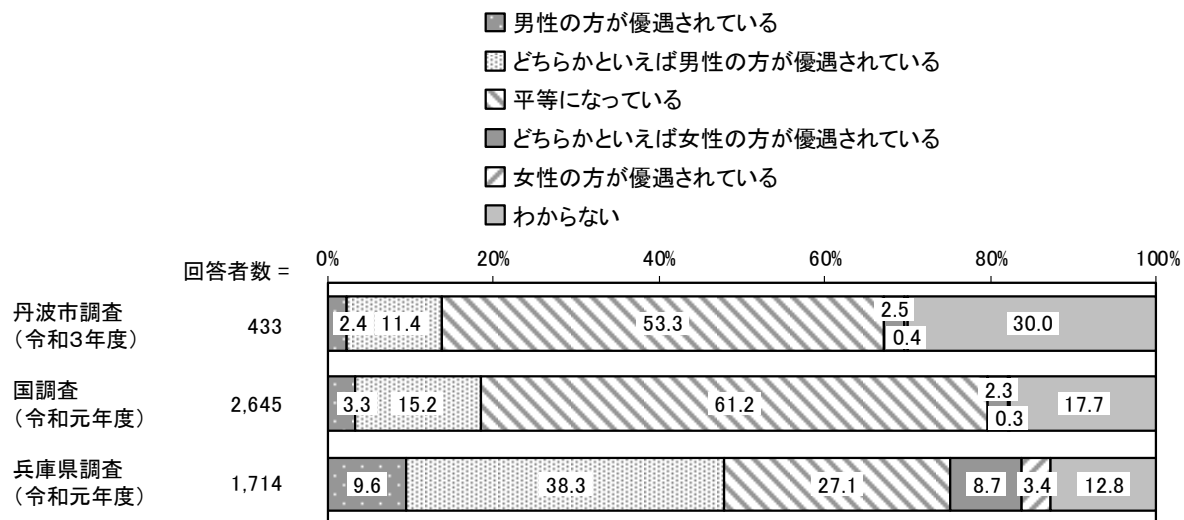


③学校教育の場で

【国・県調査との比較】

兵庫県調査と比較すると、「男性のほうが優遇されている」の割合が低くなり、「平等になっている」の割合は、高くなっています。

国の調査と比較すると、「平等になっている」の割合は、低くなっています。

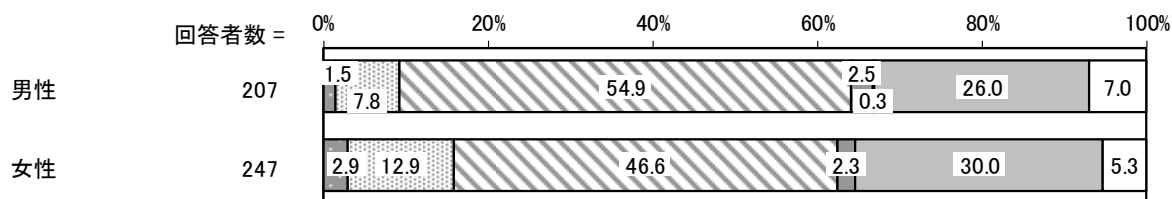


※国調査・兵庫県調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

【性 別】

性別でみると、女性では「男性のほうが優遇されている」の割合が 15.8% となり、男性より 6.5 ポイント高くなっています。

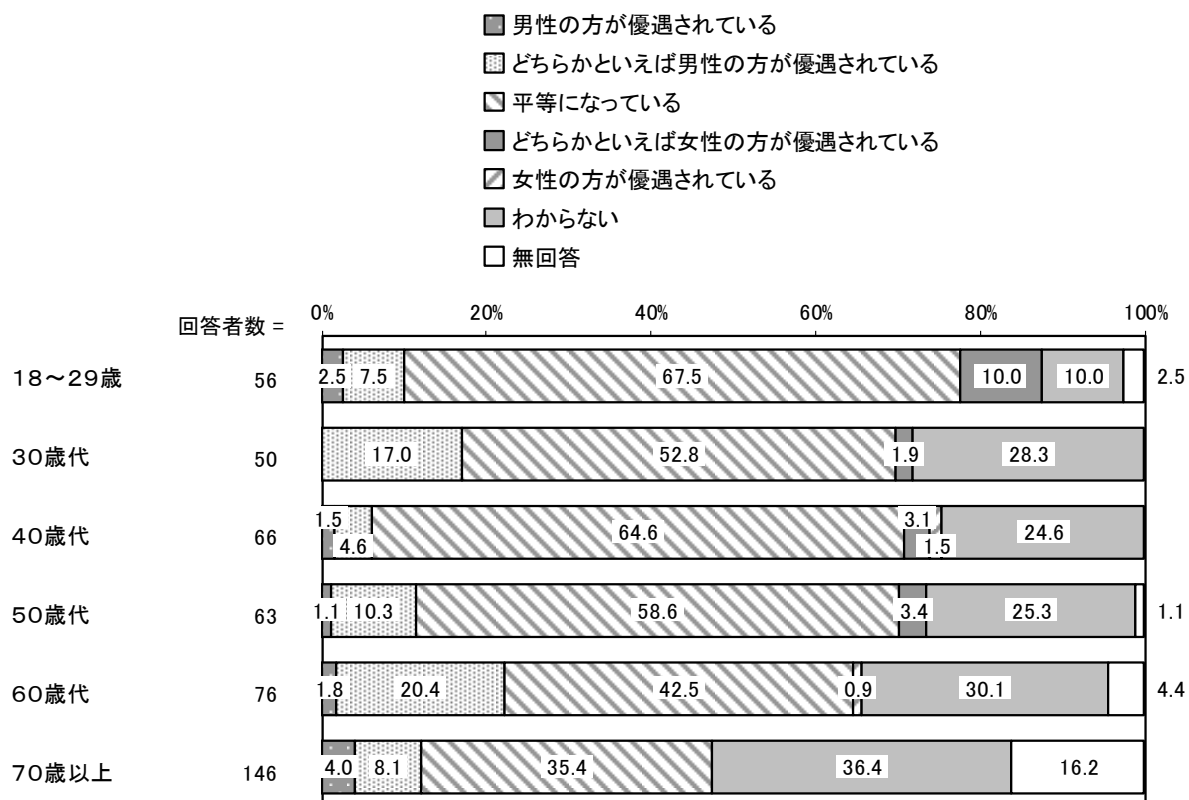
男性では、「平等になっている」の割合が 54.9% となり、女性より 8.3 ポイント高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性のほうに優遇されている”の割合が60歳代で22.2%と最も高くなっています。

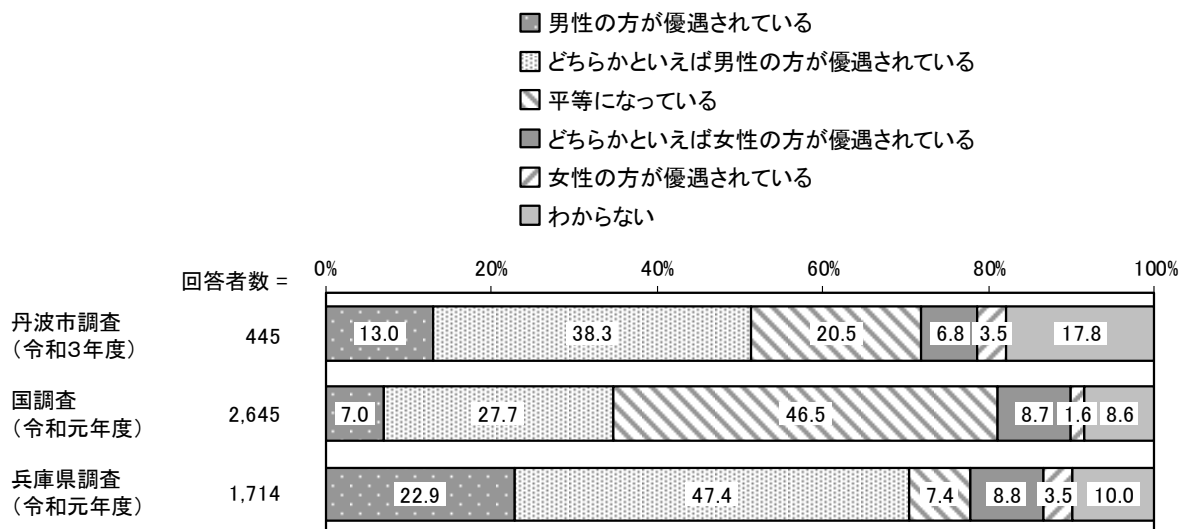
「平等になっている」の割合は、18～29歳が67.5%で最も高くなっています。「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合は、18～29歳が最も高くなっています。



④自治会などの地域活動で

【国・県調査との比較】

兵庫県調査と比較すると、“男性のほうが優遇されている”の割合が低く、国の調査と比較すると、“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。

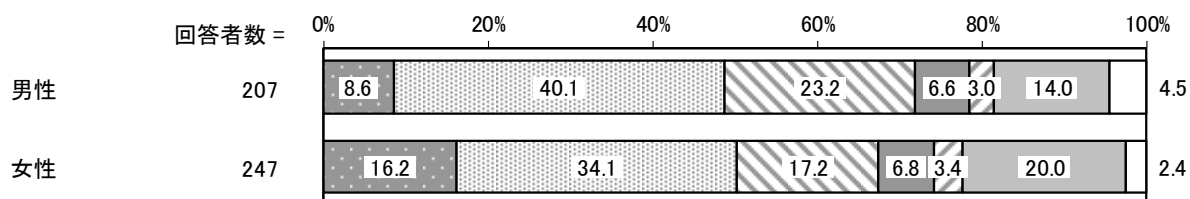


※国調査・兵庫県調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

【性 別】

性別でみると、女性では“男性のほうが優遇されている”の割合が50.3%となり、男性より1.6ポイント高くなっています。

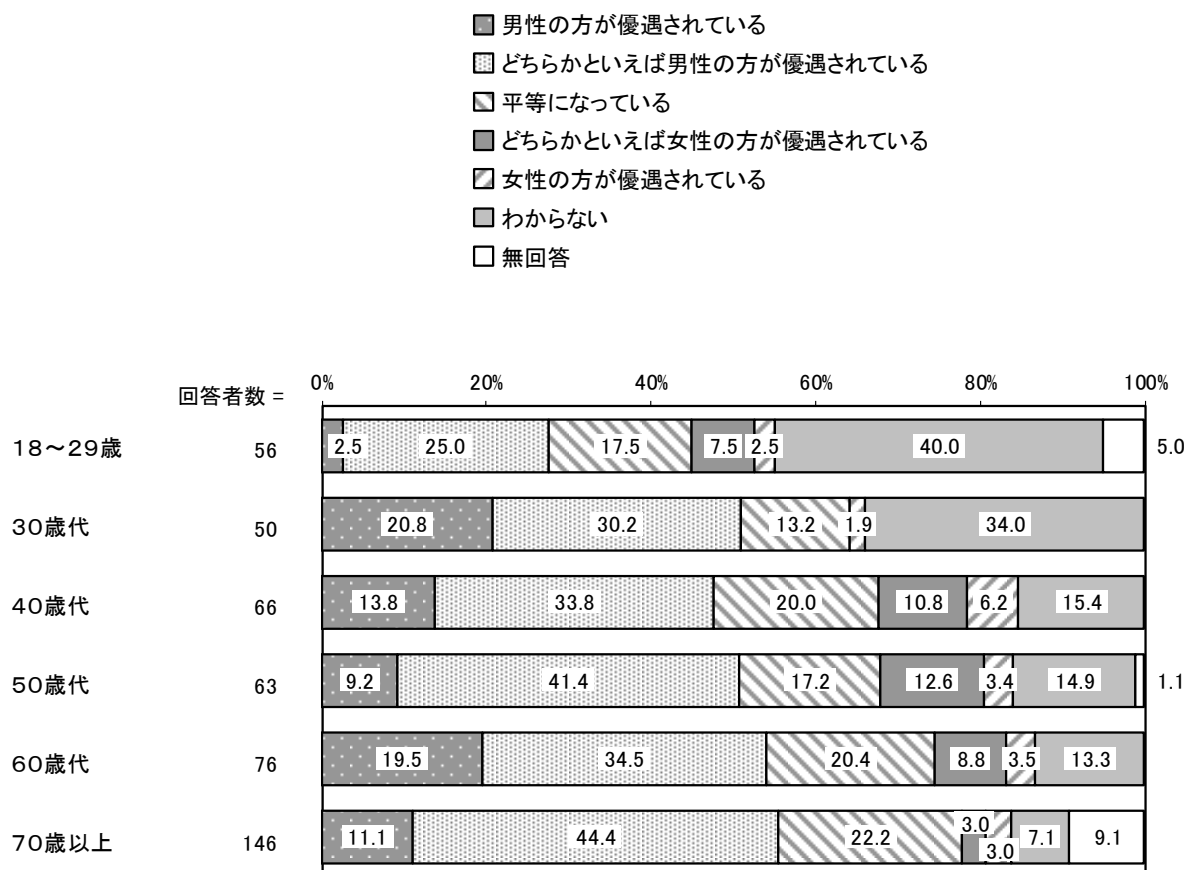
男性では、「平等になっている」の割合が23.2%となり、女性より6.0ポイント高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性のほうに優遇されている”の割合が、30歳代、50歳代、60歳代、70歳以上で5割を超えています。“女性のほうが優遇されている”の割合は、40歳代、50歳代で1割半ばになっています。

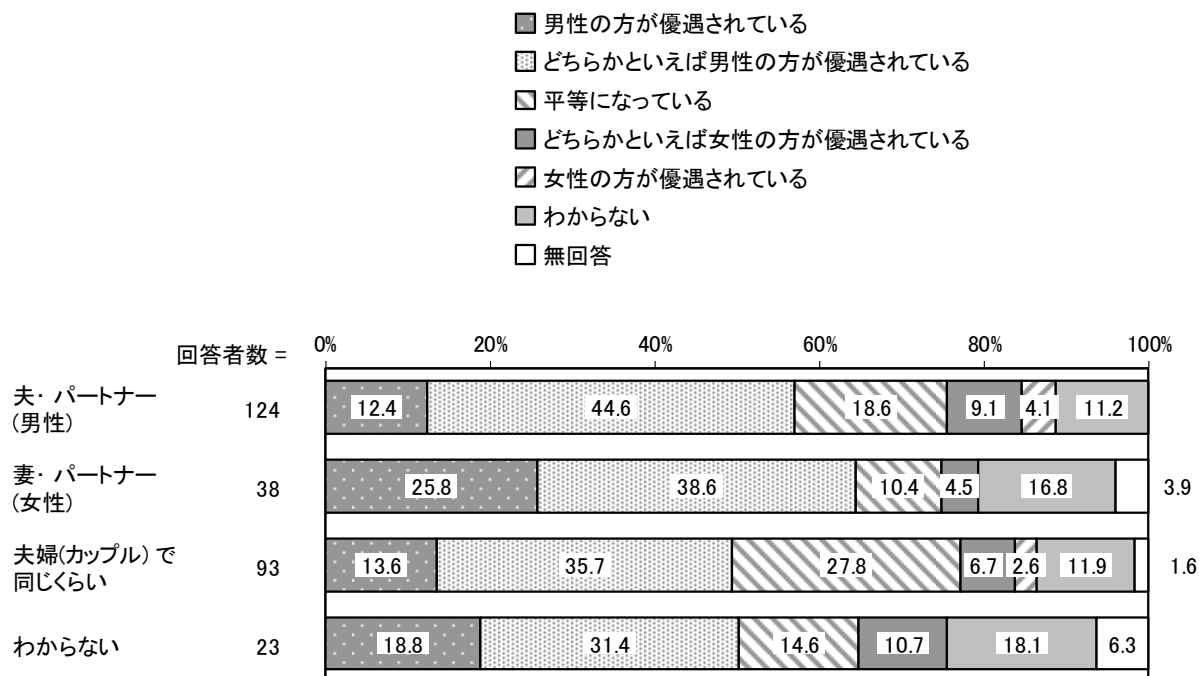
18～29歳と30歳代では、「わからない」の割合が3割半ばから4割となっています。



【地域活動に参加している人別】

地域活動に参加している人別でみると、妻・パートナー（女性）で参加していると回答した人では、“男性のほうが優遇されている”の割合が64.4%で最も高くなっています。

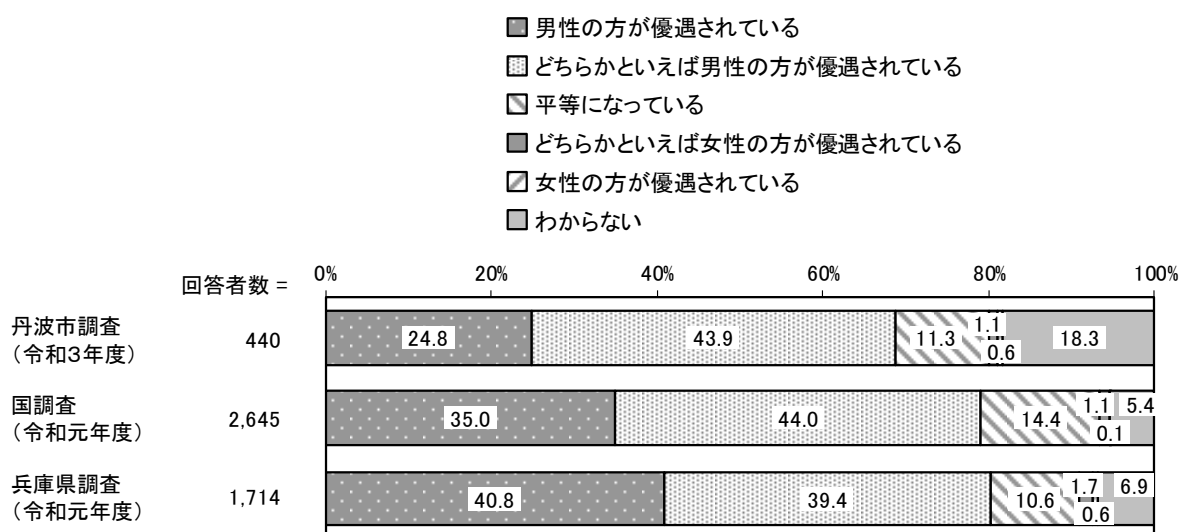
また、夫婦（カップル）で同じくらいで参加していると回答した人では、「平等になっている」の割合が高くなっています。



⑤政治・方針決定で

【国・県調査との比較】

国・兵庫県調査と比較すると、“男性のほうが優遇されている”の割合が低くなっています。

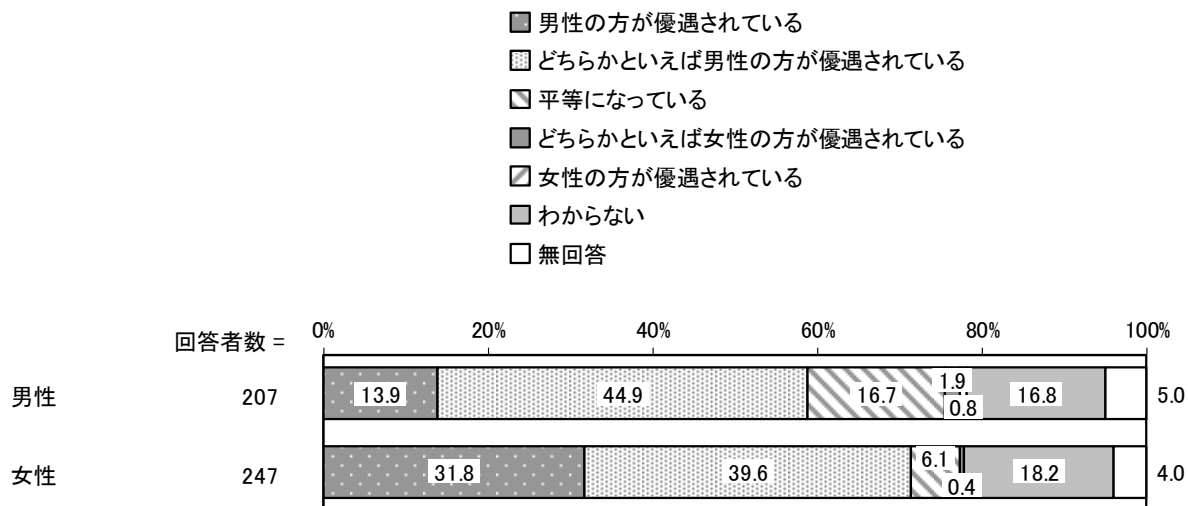


※国調査・兵庫県調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

【性 別】

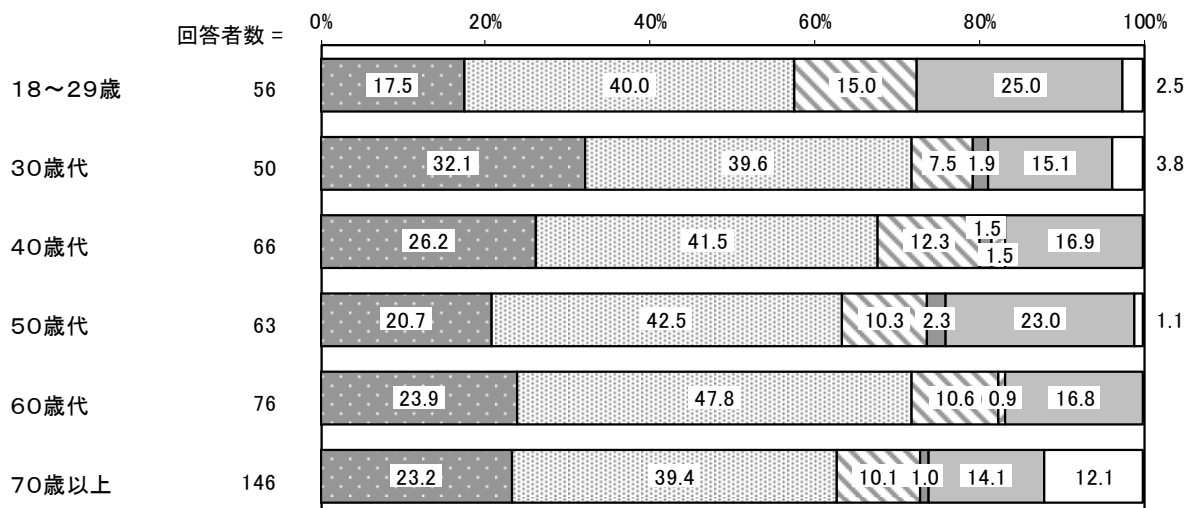
性別でみると、女性では“男性のほうが優遇されている”の割合が 71.4%となり、男性より 12.6 ポイント高くなっています。

男性では、「平等になっている」の割合が 16.7%となり、女性より 10.6 ポイント高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、30 歳代から 70 歳以上において「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性のほうが優遇されている”の割合が 6 割を超えています。18～29 歳では、「平等になっている」の割合が 15.0%と高くなっています。

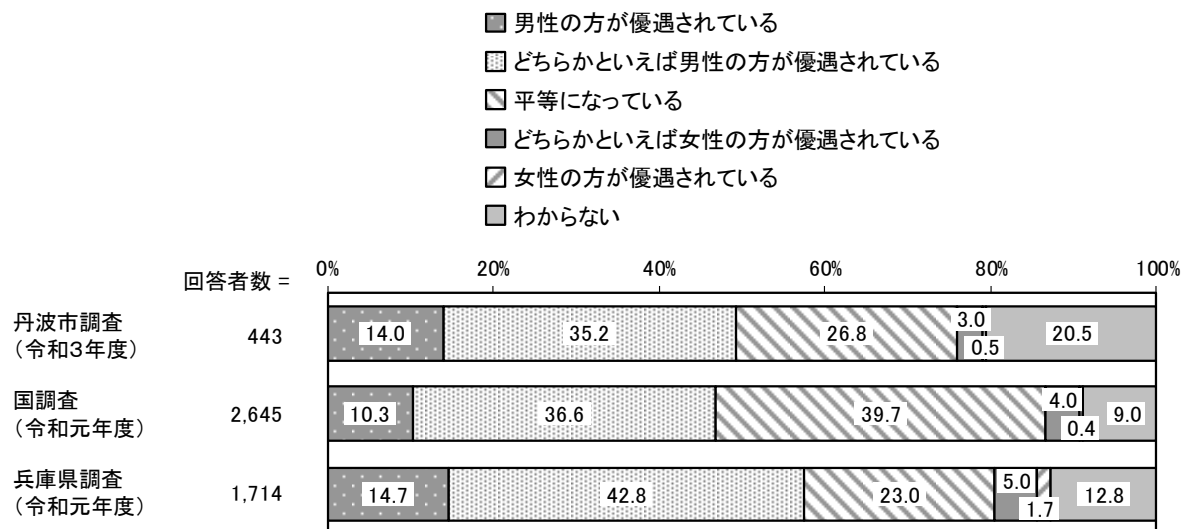


⑥法律・制度上で

【国・県調査との比較】

国調査と比較すると、“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。

兵庫県調査と比較すると、“男性のほうが優遇されている”の割合が低くなっています。

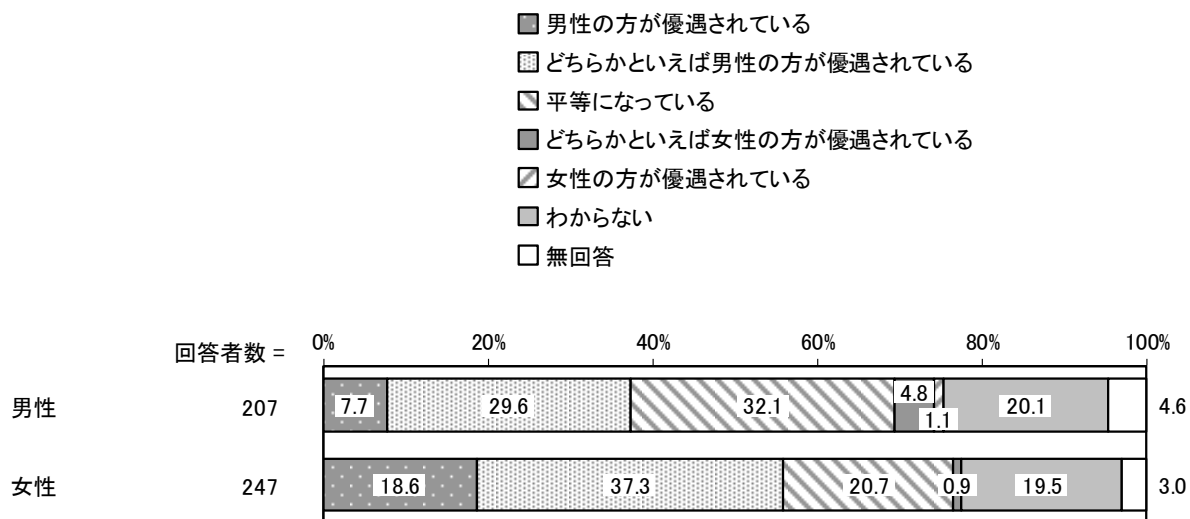


※国調査・兵庫県調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

【性別】

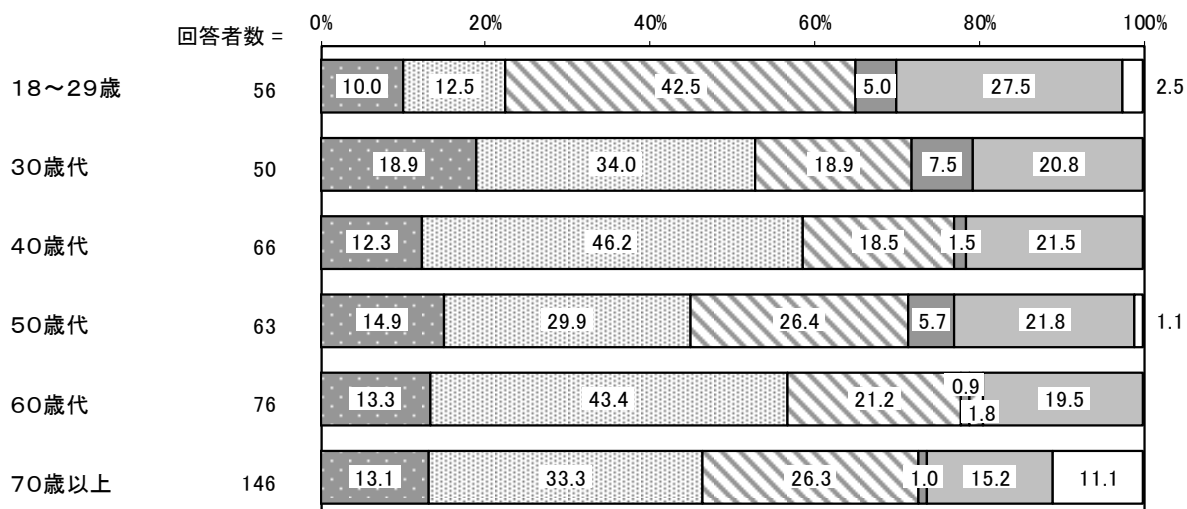
性別でみると、女性では“男性のほうが優遇されている”の割合が 55.9%となり、男性より 18.6 ポイント高くなっています。

男性では、「平等になっている」の割合が 32.1%となり、女性より 11.4 ポイント高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、40 歳代で「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性のほうが優遇されている”の割合が 58.5%で最も高くなっています。「平等になっている」の割合は、18～29 歳で 42.5%と最も高くなっています。

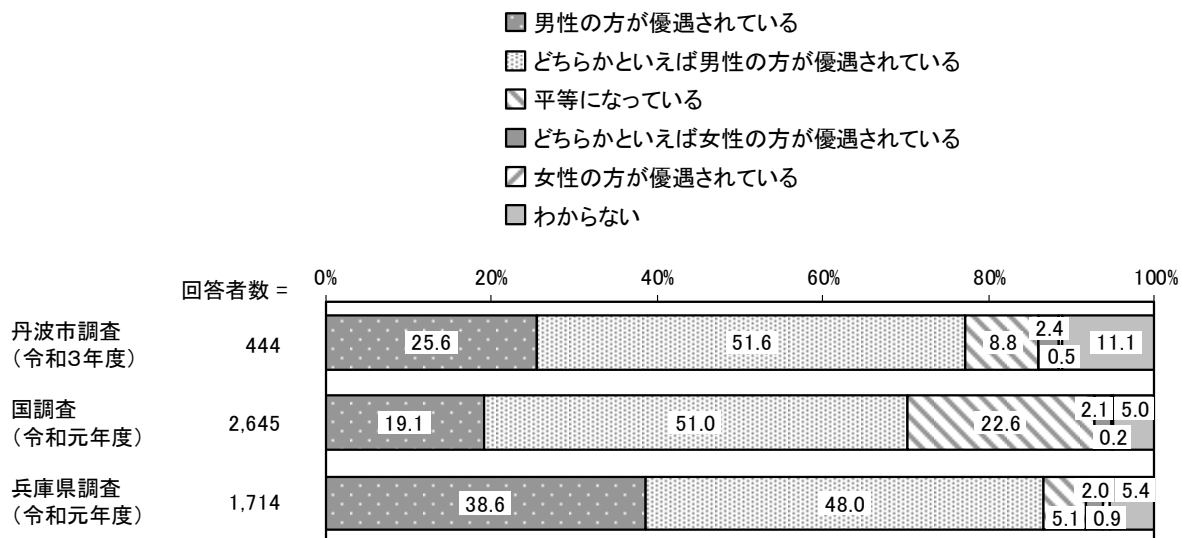


⑦社会通念・習慣・しきたりで

【国・県調査との比較】

国調査と比較すると、“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。

兵庫県調査と比較すると、“男性のほうが優遇されている”の割合が低くなっています。

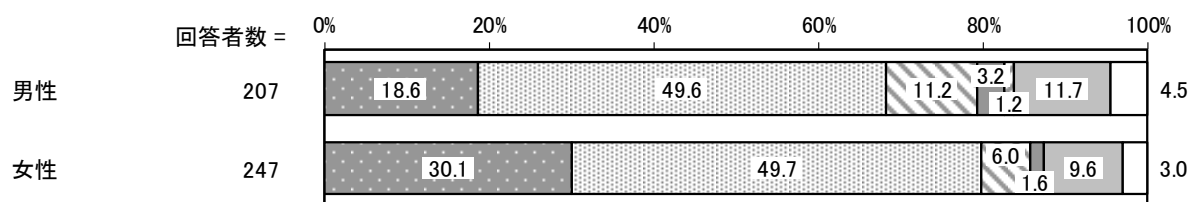


※国調査・兵庫県調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

【性 別】

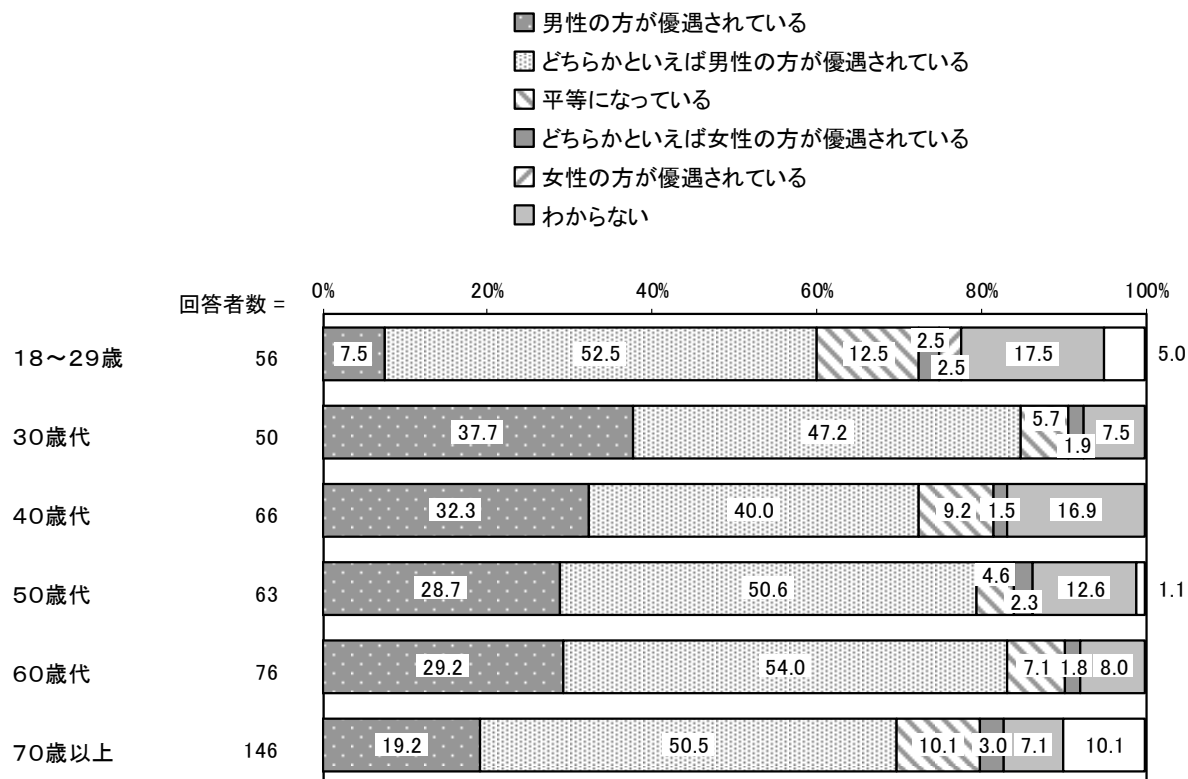
性別でみると、女性では“男性のほうが優遇されている”の割合が 79.8%となり、男性より 11.6 ポイント高くなっています。

男性では、「平等になっている」の割合が 11.2%となり、女性より 5.2 ポイント高くなっています。



【年代別】

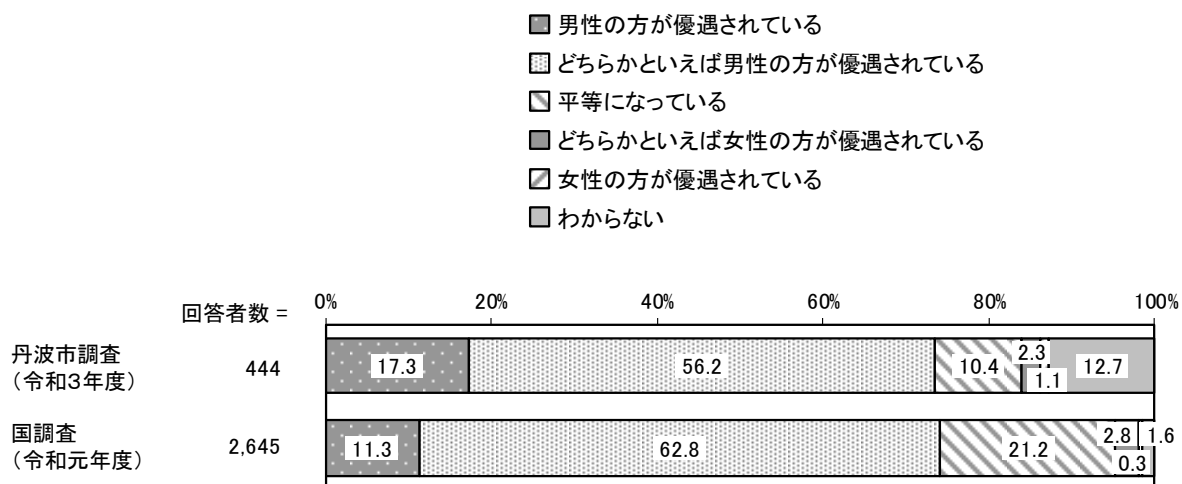
年代別でみると、30 歳代で「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性のほうに優遇されている”の割合が 84.9%と最も高くなっています。「平等になっている」の割合は、18～29 歳が 12.5%と最も高く、次いで 70 歳以上、40 歳代で高くなっています。



⑧社会全体で

【国調査との比較】

国調査と比較すると、“男性のほうが優遇されている”の割合に大きな差はありませんが、「平等になっている」の割合は、10.8ポイント低くなっています。

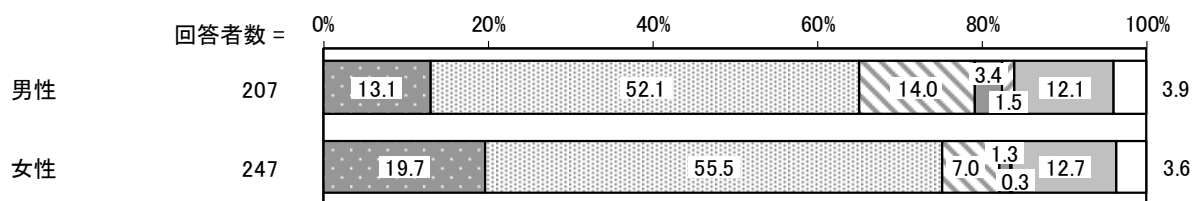


※国調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

【性 別】

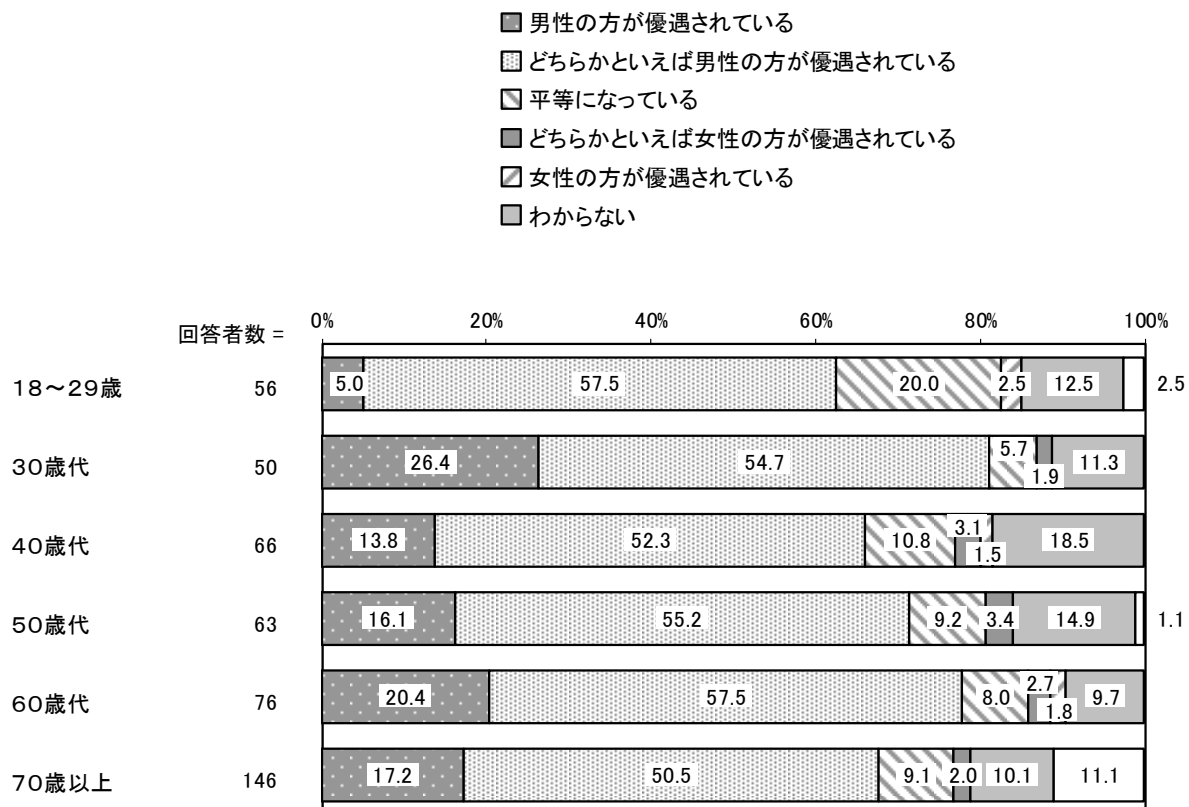
性別でみると、女性では“男性のほうが優遇されている”の割合が 75.2%となり、男性より 10.0ポイント高くなっています。

男性では、「平等になっている」の割合が 14.0%となり、女性より 7.0ポイント高くなっています。



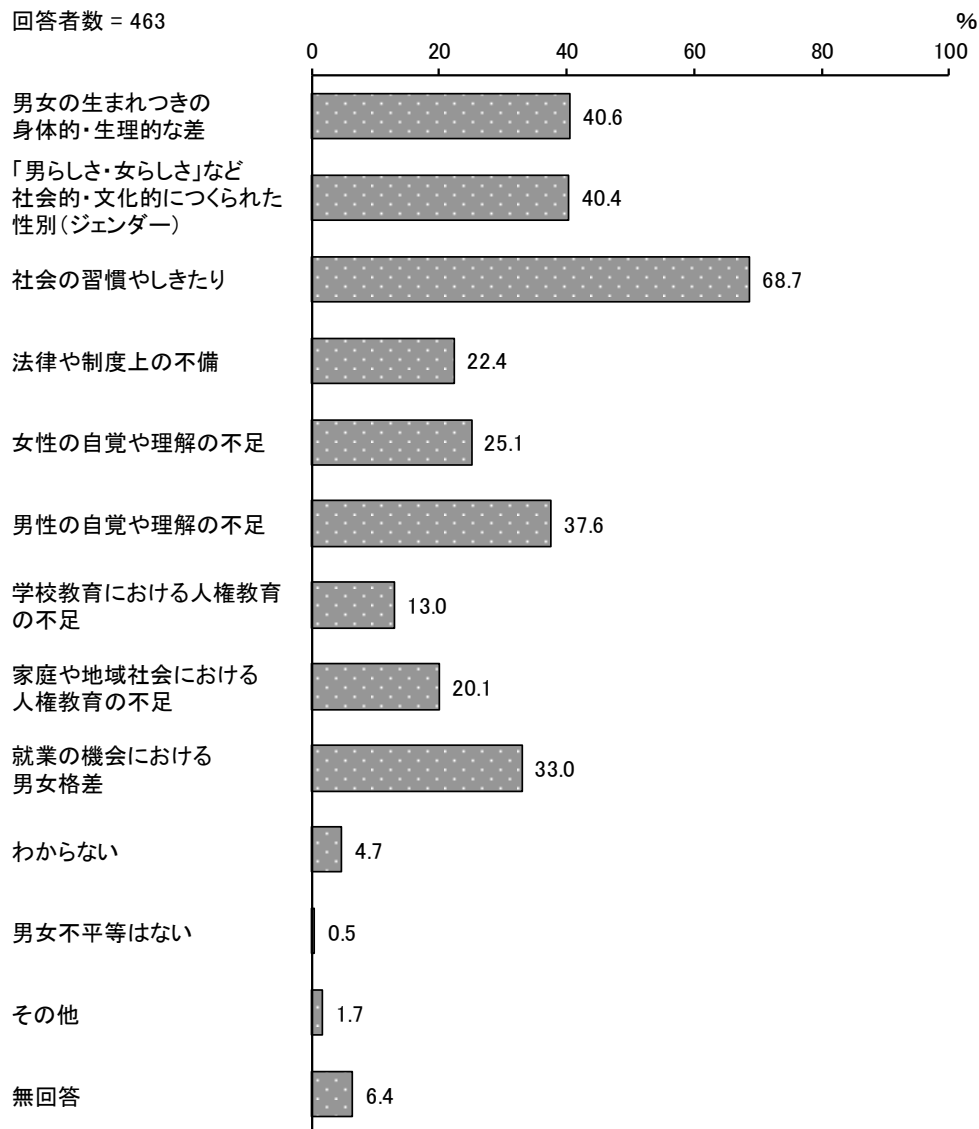
【年代別】

年代別でみると、30歳代で「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性のほうが優遇されている”の割合が81.1%で最も高くなっています。「平等になっている」の割合は、18～29歳が20.0%で最も高くなっています。



問 12 あなたは、社会において男女の不平等が生じる特に大きな原因は何だと思いますか。（〇はいくつでも）

「社会の習慣やしきたり」の割合が 68.7%で最も高く、次いで「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」の割合が 40.6%、「男らしさ・女らしさ」など社会的・文化的につくられた性別（ジェンダー）」の割合が 40.4%となっています。「男性の自覚や理解の不足」は 37.6%となっています。



【性 別】

性別でみると、男性、女性とも「社会の習慣やしきたり」の割合が最も高く、それぞれ 67.6%、70.3%となっています。次いで、男性では「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」の割合が 46.3%、「男らしさ・女らしさ」など社会的・文化的につくられた性別（ジェンダー）」が 37.0%となっています。女性では「男らしさ・女らしさ」など社会的・文化的につくられた性別（ジェンダー）」の割合が 43.5%、「男性の自覚や理解の不足」が 40.3%となっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	男女の生まれつきの身体的・生理的な差	「男らしさ・女らしさ」など社会的・文化的につくられた性別（ジェンダー）」	社会の習慣やしきたり	法律や制度上の不備	女性の自覚や理解の不足	男性の自覚や理解の不足	学校教育における人権教育の不足	家庭や地域社会における人権教育の不足	就業の機会における男女格差	わからない	男女平等はない	その他	無回答
男性	207	46.3	37.0	67.6	21.5	23.3	35.0	11.1	18.7	31.4	4.8	0.7	1.2	5.6
女性	247	36.6	43.5	70.3	23.5	26.3	40.3	15.1	21.5	34.2	4.8	0.3	2.2	5.9

【年代別】

年代別でみると、いずれの年代も「社会の習慣やしきたり」の割合が最も高くなっています。また、18～29 歳では「男らしさ・女らしさ」など社会的・文化的につくられた性別（ジェンダー）」の割合が高く、「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」の割合は、18～29 歳、40 歳代、60 歳代で高くなっています。「男性の自覚や理解の不足」は 30 歳代、50 歳代、60 歳代、「就業の機会における男女格差」は 30 歳代、60 歳代で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	男女の生まれつきの身体的・生理的な差	「男らしさ・女らしさ」など社会的・文化的につくられた性別（ジェンダー）」	社会の習慣やしきたり	法律や制度上の不備	女性の自覚や理解の不足	男性の自覚や理解の不足	学校教育における人権教育の不足	家庭や地域社会における人権教育の不足	就業の機会における男女格差	わからない	男女不平等はない	その他	無回答
18～29 歳	56	40.0	52.5	60.0	22.5	20.0	32.5	12.5	15.0	22.5	5.0	—	—	2.5
30 歳代	50	35.8	43.4	75.5	34.0	26.4	41.5	13.2	15.1	41.5	—	—	1.9	5.7
40 歳代	66	40.0	47.7	78.5	21.5	27.7	30.8	12.3	15.4	38.5	4.6	—	1.5	1.5
50 歳代	63	36.8	40.2	66.7	18.4	26.4	49.4	11.5	18.4	28.7	6.9	—	4.6	2.3
60 歳代	76	49.6	45.1	77.0	23.9	23.0	45.1	18.6	29.2	39.8	3.5	0.9	—	6.2
70 歳以上	146	39.4	29.3	62.6	19.2	26.3	32.3	11.1	21.2	29.3	6.1	1.0	2.0	11.1

【仕事の有無別】

収入をとまなう仕事の有無別でみると、仕事がある人、ない人ともに「社会の習慣やしきたり」の割合が最も高くなっています。また、仕事がある人で「男らしさ・女らしさ」など社会的・文化的に作られた性別（ジェンダー）「男性の自覚や理解の不足」の割合が、仕事がない人より 5.0 ポイント以上高くなっています。

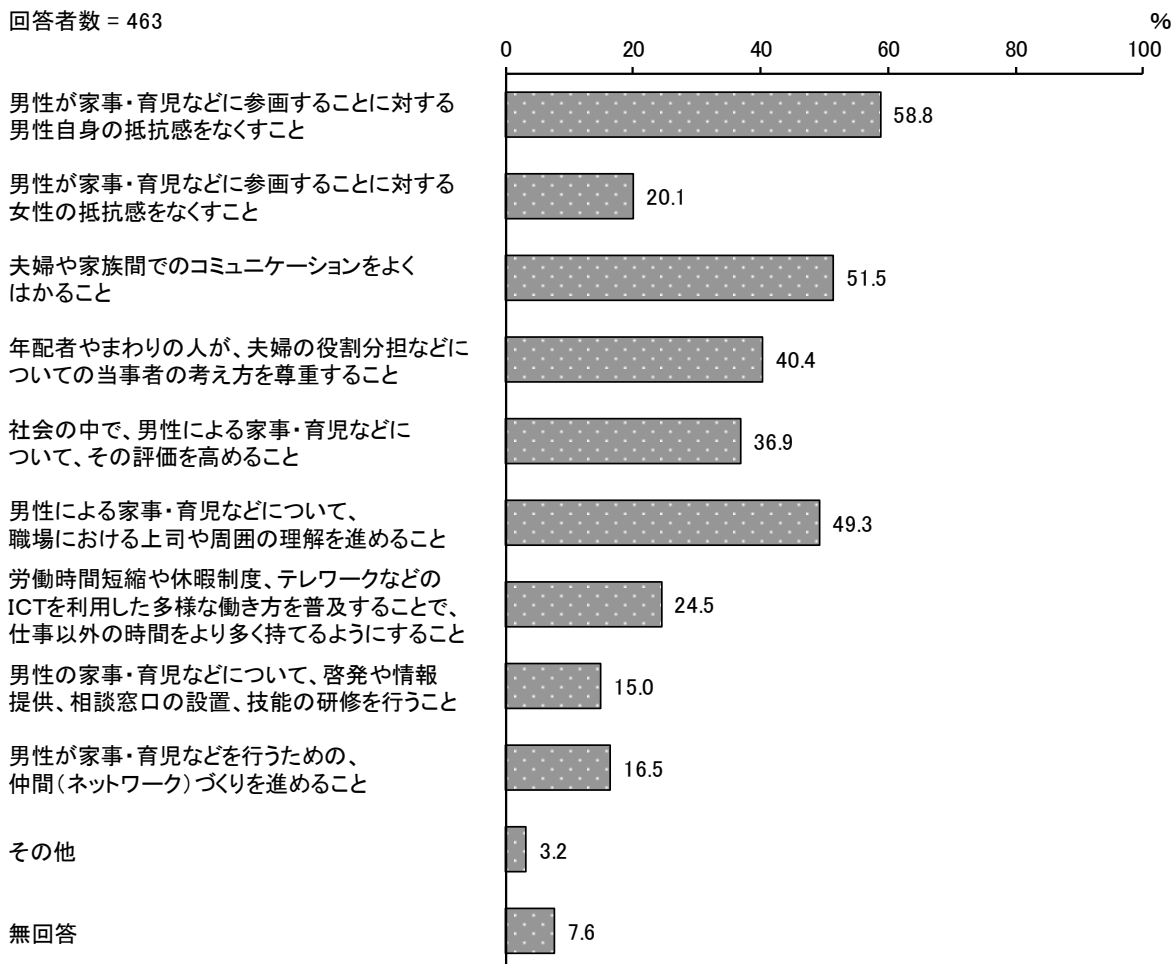
単位：％

区分	回答者数（件）	男女の生まれつきの身体的・生理的な差	「男らしさ・女らしさ」など社会的・文化的につくられた性別（ジェンダー）	社会の習慣やしきたり	法律や制度上の不備	女性の自覚や理解の不足	男性の自覚や理解の不足	学校教育における人権教育の不足	家庭や地域社会における人権教育の不足	就業の機会における男女格差	わからない	男女不平等はない	その他	無回答
仕事がある	272	40.9	43.2	69.8	21.3	27.0	40.6	14.6	20.3	34.9	3.4	0.5	1.5	6.4
仕事がない	185	41.0	35.4	67.1	24.1	22.6	32.9	11.2	19.1	30.8	6.7	0.4	2.0	5.6

問 13 今後、男性が家事・育児・介護・地域活動などに積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

「男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が58.8%で最も高く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が51.5%、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が49.3%となっています。

回答者数 = 463



【性 別】

性別でみると、男女とも「男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が最も高く、女性のほうが男性より割合が高くなっています。

また、女性で「男性が家事・育児などに参画することに対する女性の抵抗感をなくすこと」、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」、「男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進めること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などに参画することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事・育児などについて、その評価を高めること	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進めること	その他	無回答
男性	207	49.5	12.3	47.8	30.7	37.8	43.7	23.2	16.3	10.5	3.4	8.0
女性	247	67.1	26.5	55.0	48.4	37.0	54.1	25.6	14.0	21.7	3.1	6.5

【年代別】

年代別でみると、18～29 歳、40 歳代、70 歳以上で「男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が最も多くなっています。

30 歳代、50 歳代、60 歳代では「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が最も多くなっています。

また、30 歳代では「社会の中で、男性による家事・育児などについて、その評価を高めること」と「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの I C T を利用した多様な働き方を普及すること」で、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が高くなっています。

18～29 歳、30 歳代では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などに参画することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事・育児などについて、その評価を高めること	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの I C T を利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進めること	その他	無回答
18～29 歳	56	60.0	15.0	57.5	37.5	45.0	47.5	27.5	7.5	20.0	2.5	2.5
30 歳代	50	58.5	24.5	58.5	56.6	47.2	64.2	35.8	20.8	24.5	1.9	5.7
40 歳代	66	60.0	24.6	46.2	41.5	40.0	58.5	20.0	18.5	15.4	4.6	1.5
50 歳代	63	51.7	14.9	51.7	49.4	33.3	56.3	29.9	12.6	13.8	3.4	2.3
60 歳代	76	54.9	25.7	49.6	51.3	39.8	55.8	30.1	17.7	17.7	1.8	7.1
70 歳以上	146	62.6	17.2	49.5	26.3	30.3	34.3	15.2	13.1	14.1	4.0	15.2

【仕事の有無別】

収入をとまなう仕事の有無別でみると、仕事がある人、ない人ともに「男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が最も高くなっています。また、仕事がある人で「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が仕事のない人より約 10 ポイントから約 14 ポイント高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などに参画することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事・育児などについて、その評価を高めること	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及すること、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進めること	その他	無回答
仕事がある	272	55.9	22.1	50.1	45.8	38.2	52.9	26.5	18.1	16.6	3.6	6.9
仕事がない	185	62.3	17.2	54.6	31.9	34.6	43.0	21.1	10.8	16.9	2.7	8.3

【地域活動に参加している人別】

地域活動に参加している人別でみると、夫婦(カップル) で同じくらい参加していると回答した人では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が最も高く、58.9%となっています。また、妻・パートナー(女性)で「男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などに参画することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事・育児などについて、その評価を高めること	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が家事・育児などを行うための、仲間(ネットワーク)づくりを進めること	その他	無回答
夫・パートナー(男性)	124	57.1	19.4	54.0	41.3	35.7	51.8	22.9	14.6	10.7	2.6	7.1
妻・パートナー(女性)	38	70.6	14.4	49.3	52.0	36.7	52.8	19.1	10.3	20.1	—	7.1
夫婦(カップル)で同じくらい	93	55.7	18.6	58.9	42.5	37.8	48.0	29.1	19.0	15.7	3.5	6.3
わからない	23	65.7	16.7	32.6	35.8	29.0	37.2	14.7	10.4	29.2	—	—

3 性別役割分担意識について

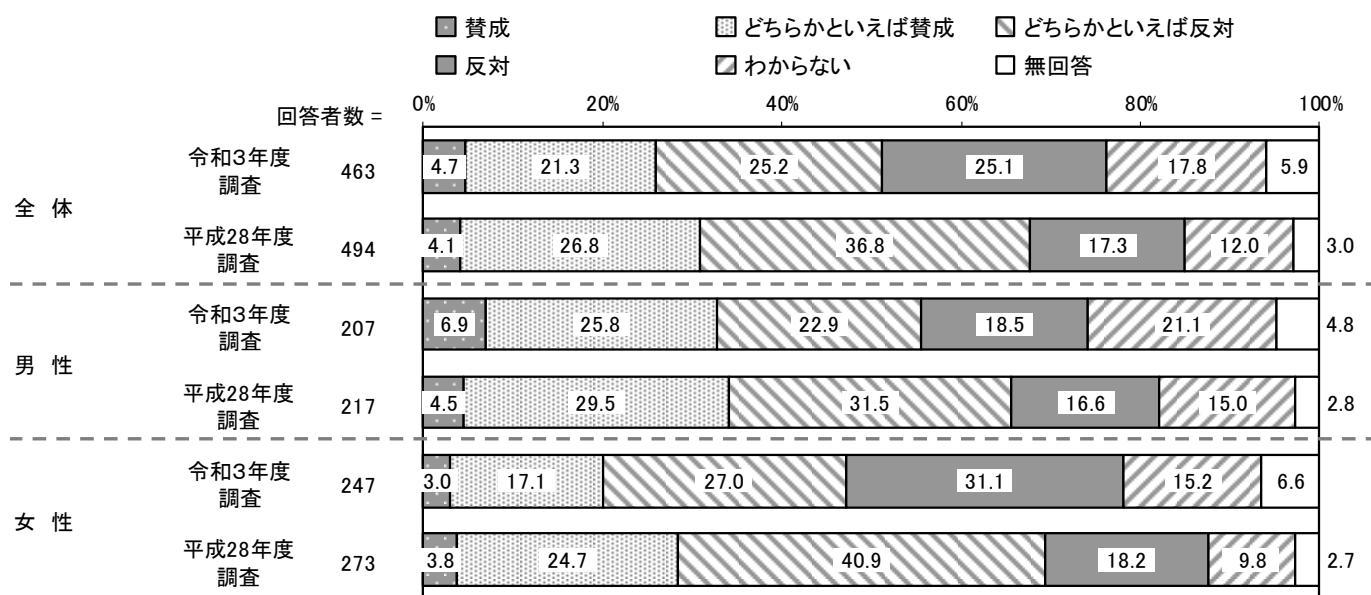
問 14 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように考えていますか。(○は1つ)

「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が 26.0%、「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた“反対”の割合が 50.3%で、“反対”のほうが 24.3ポイント高くなっています。

【経年比較】

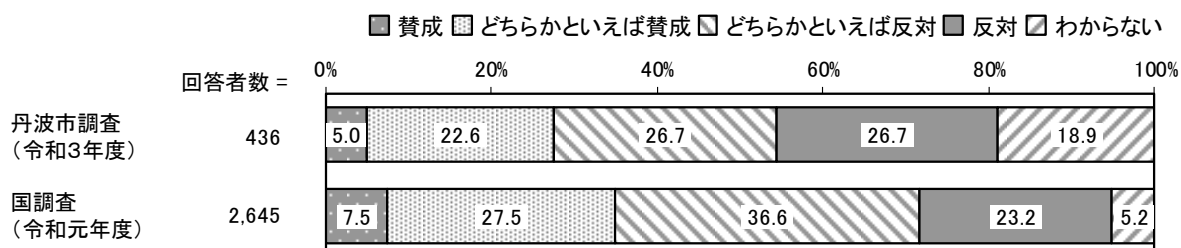
平成 28 年度調査と比較すると、全体では、平成 28 年度と同様に、“賛成”より“反対”の割合が高くなっています。“賛成”の割合が 4.9 ポイント減少しましたが、“反対”の割合も 3.8 ポイント減少しています。また、「わからない」が 5.8 ポイント増加しています。

性別でみると、男性では“賛成”の割合が 1.3 ポイント減少、“反対”の割合が 6.7 ポイント減少、「わからない」が 6.1 ポイント増加しています。女性では“賛成”の割合が 8.4 ポイント減少、“反対”の割合が 1.0 ポイント減少、「わからない」が 5.4 ポイント増加しています。



【国調査との比較】

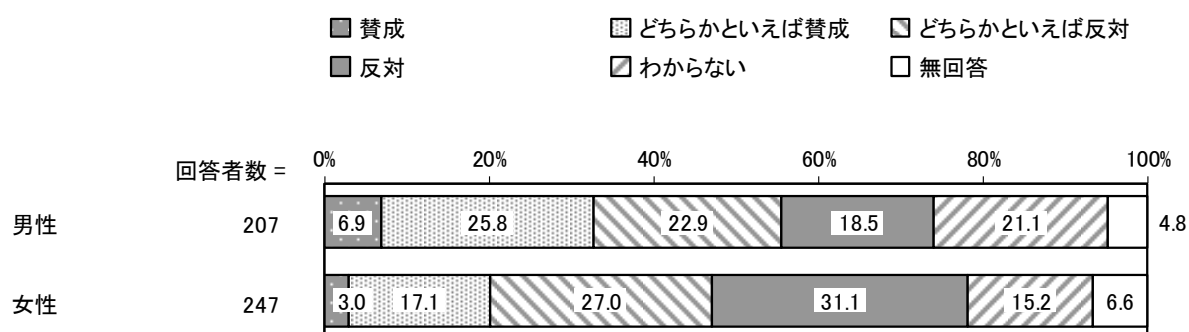
国調査と比較すると、“賛成”の割合は、丹波市 27.6%に対し、国調査では 35.0%で丹波市のほうが 7.4 ポイント低く、“反対”の割合は、丹波市が 53.4%に対し、国調査が 59.8%で、丹波市のほうが 6.4 ポイント低くなっています。



※国調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

【性 別】

性別でみると、女性で“反対”の割合が58.1%で、男性よりも16.7ポイント高くなっています。また、男性で“賛成”の割合が32.7%で、女性よりも12.6ポイント高くなっています。



【性別・年代別・経年比較グラフ】

年代別でみると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合計した“賛成”の割合は、70歳以上の男性が48.9%で最も高く、次いで60歳代男性が36.0%、40歳代男性が34.6%となっています。「反対」と「どちらかといえば反対」を合計した“反対”の割合は、40歳代女性の割合が74.3%で最も高く、次いで18～29歳女性が71.5%、30歳代男性が69.5%となっています。

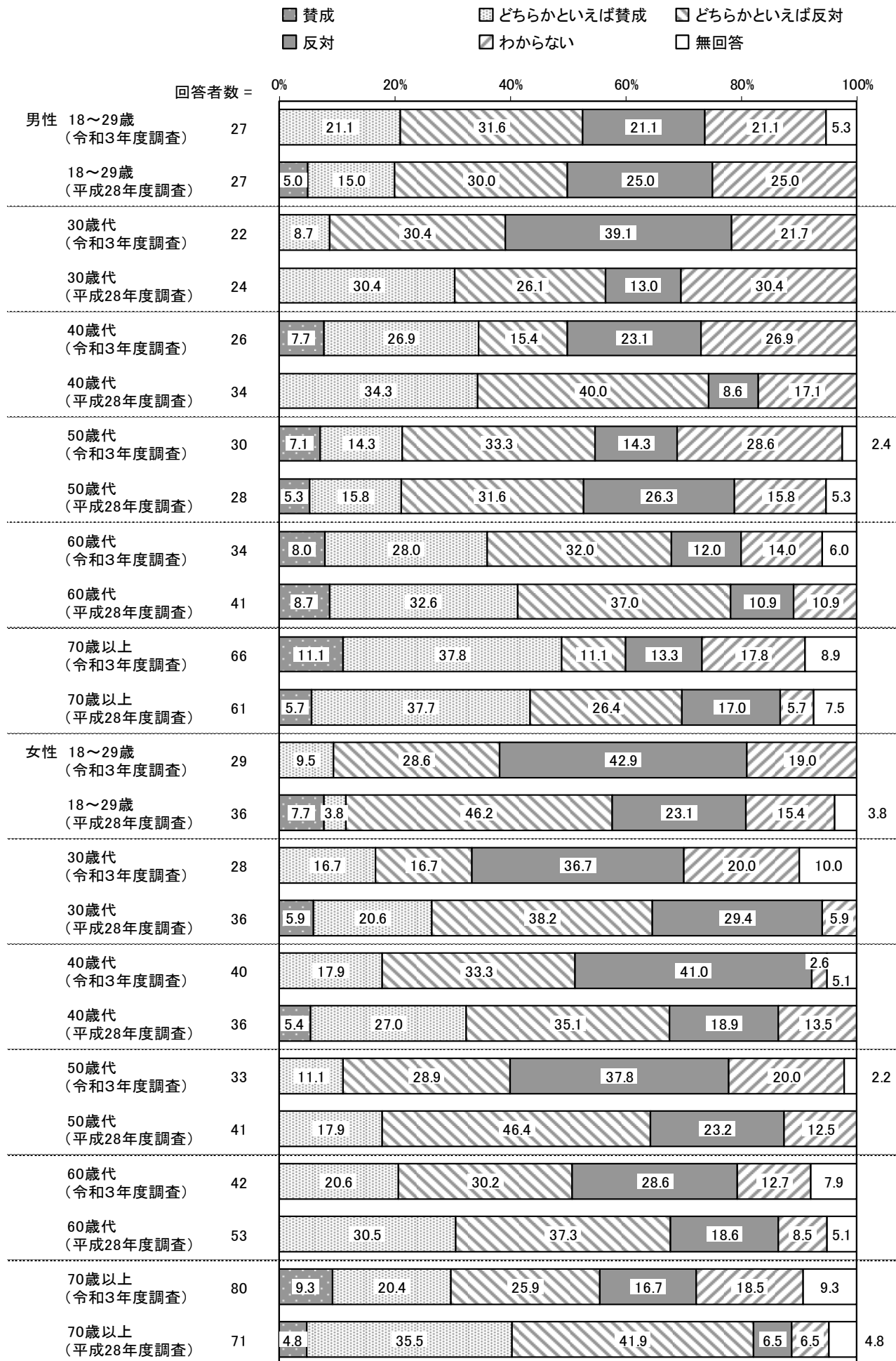
「わからない」と回答した人の割合は、50歳代男性が28.6%で最も高く、次に40歳代男性が26.9%、30歳代男性が21.7%となっています。

平成28年度調査と比較すると、“賛成”の割合は、70歳以上の男性で増加（5.5ポイント）しています。一方、30歳代男性、60歳代男性、30歳以上の女性で“賛成”の割合が減少しています。特に、30歳代男性で減少（21.7ポイント）しています。

また、“反対”の割合は、30歳代男性（30.4ポイント）、40歳代女性（20.3ポイント）で増加しています。一方、40歳代男性、50歳代男性、70歳以上の男性、30歳代女性、70歳以上の女性で“反対”の割合が減少しています。特に、70歳以上の男性で減少（19.0ポイント）しています。

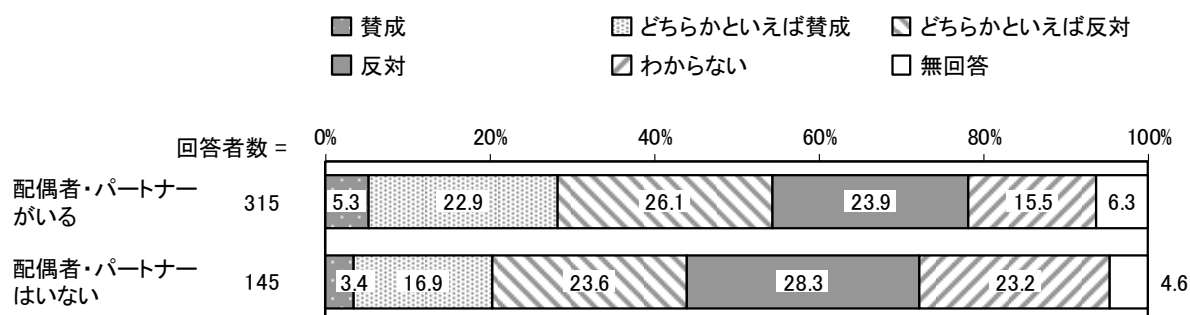
さらに「賛成」のみの割合でみると、40歳代の男性（7.7ポイント）、70歳以上では男性（5.4ポイント）・女性（4.5ポイント）ともに前回調査よりも割合が増加しています。しかし、40歳代以下の女性では、前は「賛成」と回答した人がありましたが、今回は「賛成」と回答した人がなくなっており、性別や年代により、意識の変化に差が見られます。

※グラフは次ページ



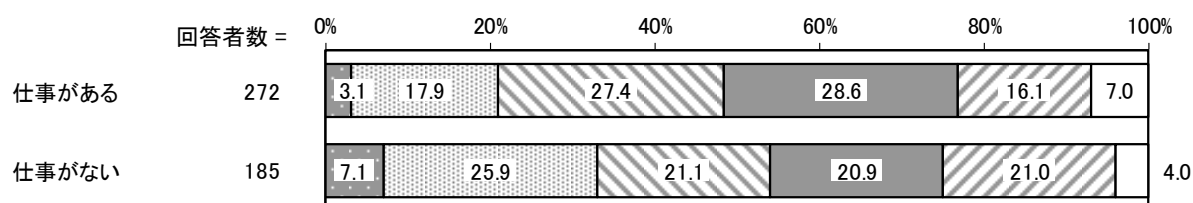
【配偶者の有無別】

配偶者の有無別でみると、配偶者・パートナーがいる人、いない人ともに“反対”の割合が高くなっています。また、配偶者・パートナーがいる人で“賛成”の割合が高くなっています。



【仕事の有無別】

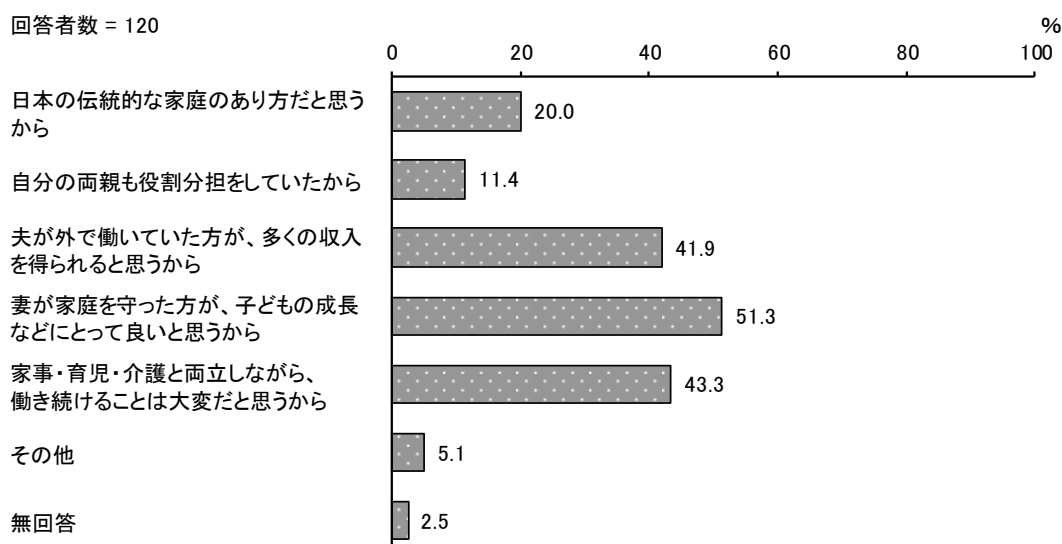
収入をとまなう仕事の有無別でみると、仕事がある人のほうが“反対”の割合が高く、56.0%となっています。



問 14 で「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答された方におたずねします。

問 15 その理由は、次のうちどれですか。（○はいくつでも）

「妻が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が 51.3%で最も高く、次いで「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから」の割合が 43.3%、「夫が外で働いていたほうが、多くの収入を得られると思うから」の割合が 41.9%となっています。



【性 別】

性別でみると、男性では「妻が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が55.7%で最も高くなっています。また、女性では「夫が外で働いていたほうが、多くの収入を得られると思うから」の割合が51.8%で最も高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	日本の伝統的な家庭のあり方だと思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	夫が外で働いていたほうが、多くの収入を得られると思うから	妻が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから	その他	無回答
男性	68	24.4	11.0	33.5	55.7	40.4	3.0	2.2
女性	50	13.3	8.7	51.8	46.4	45.8	8.4	3.0

【年代別】

年代別でみると、「妻が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が50歳代で64.3%、70歳以上で57.9%と高くなっています。

「夫が外で働いていたほうが、多くの収入を得られると思うから」は、18～29歳と40歳代で高くなっています。

「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから」の割合も18～29歳、30歳代、60歳代で5割を超えています。

単位：％

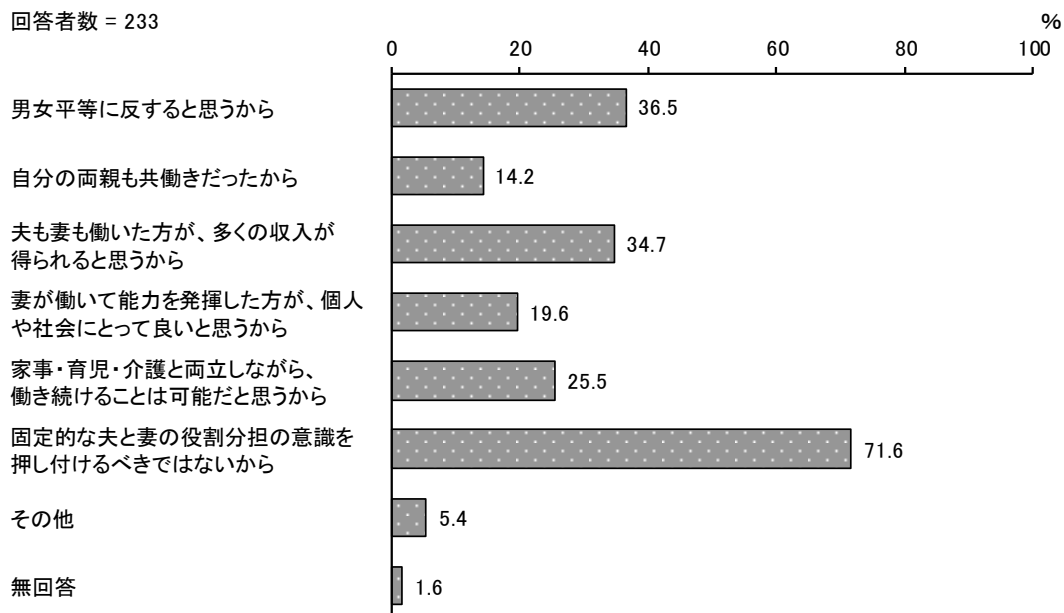
区分	回答者数（件）	日本の伝統的な家庭のあり方だと思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	夫が外で働いていたほうが、多くの収入を得られると思うから	妻が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから	その他	無回答
18～29歳	8	33.3	16.7	50.0	33.3	50.0	—	—
30歳代	7	—	—	14.3	57.1	71.4	14.3	—
40歳代	16	—	12.5	56.3	31.3	37.5	18.8	—
50歳代	10	21.4	7.1	42.9	64.3	35.7	7.1	—
60歳代	21	16.1	12.9	48.4	48.4	51.6	—	—
70歳以上	56	26.3	10.5	36.8	57.9	36.8	2.6	5.3

問 14 で「どちらかといえば反対」、「反対」と回答された方におたずねします。

問 16 その理由は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が 71.6%で最も高く、次いで「男女平等に反すると思うから」の割合が 36.5%、「夫も妻も働いたほうが、多くの収入が得られると思うから」の割合が 34.7%となっています。

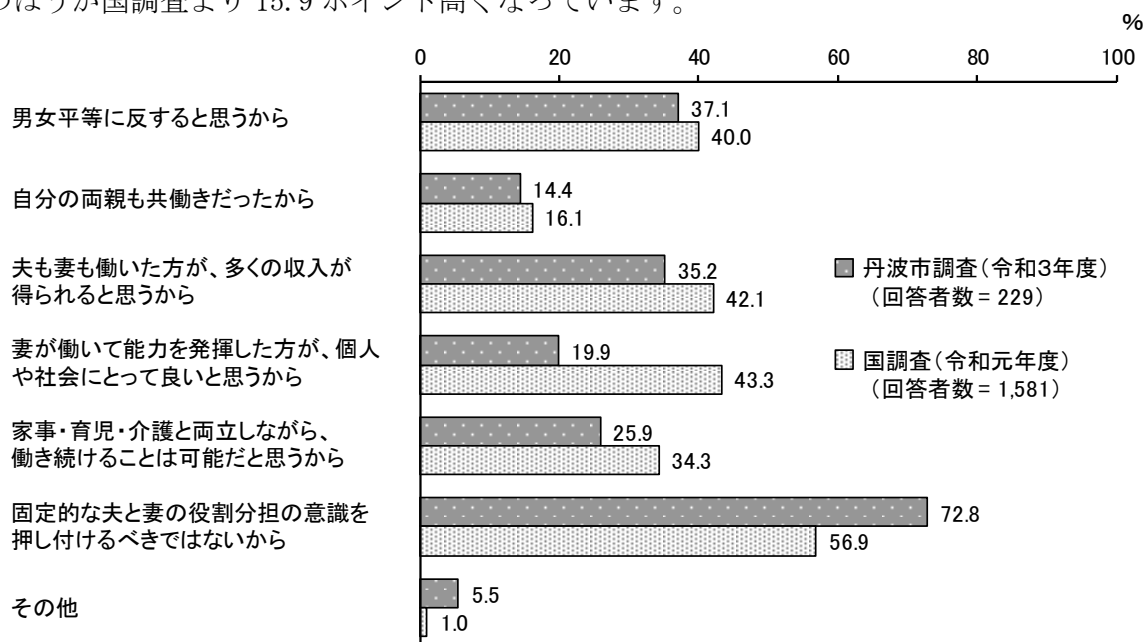
回答者数 = 233



【国調査との比較】

国調査と比較すると、丹波市のほうが「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」の割合が 23.4 ポイント、「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは可能だと思うから」では 8.4 ポイント、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」では 6.9 ポイント、「男女平等に反すると思うから」では 2.9 ポイント、「自分の両親も共働きだったから」では 1.7 ポイント低くなっています。

一方、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」については、丹波市のほうが国調査より 15.9 ポイント高くなっています。



※国調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

【性 別】

性別でみると、男女とも「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が最も高く、女性のほうが男性より割合が高くなっています。また「夫も妻も働いたほうが、多くの収入が得られると思うから」の男性と女性の割合は、他の項目よりも差が大きくなっています。(20.9 ポイントの差)

単位：％

区分	回答者数(件)	男女平等に反すると思うから	自分の両親も共働きだったから	夫も妻も働いたほうが、多くの収入が得られると思うから	妻が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは可能だと思うから	固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから	その他	無回答
男性	86	34.7	16.1	47.6	25.9	23.8	64.5	3.6	3.4
女性	144	38.5	13.4	26.7	16.3	27.2	76.3	6.6	0.5

【年代別】

年代別でみると、すべての年代において「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が最も高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	男女平等に反すると思うから	自分の両親も共働きだったから	夫も妻も働いたほうが、多くの収入が得られると思うから	妻が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは可能だと思うから	固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから	その他	無回答
18～29歳	35	36.0	32.0	28.0	8.0	12.0	72.0	4.0	—
30歳代	30	37.5	21.9	34.4	18.8	31.3	84.4	6.3	—
40歳代	40	35.9	5.1	38.5	17.9	23.1	71.8	12.8	—
50歳代	36	28.0	10.0	30.0	14.0	30.0	70.0	8.0	2.0
60歳代	40	40.7	6.8	32.2	27.1	39.0	72.9	3.4	—
70歳以上	50	41.2	11.8	41.2	26.5	20.6	64.7	—	5.9

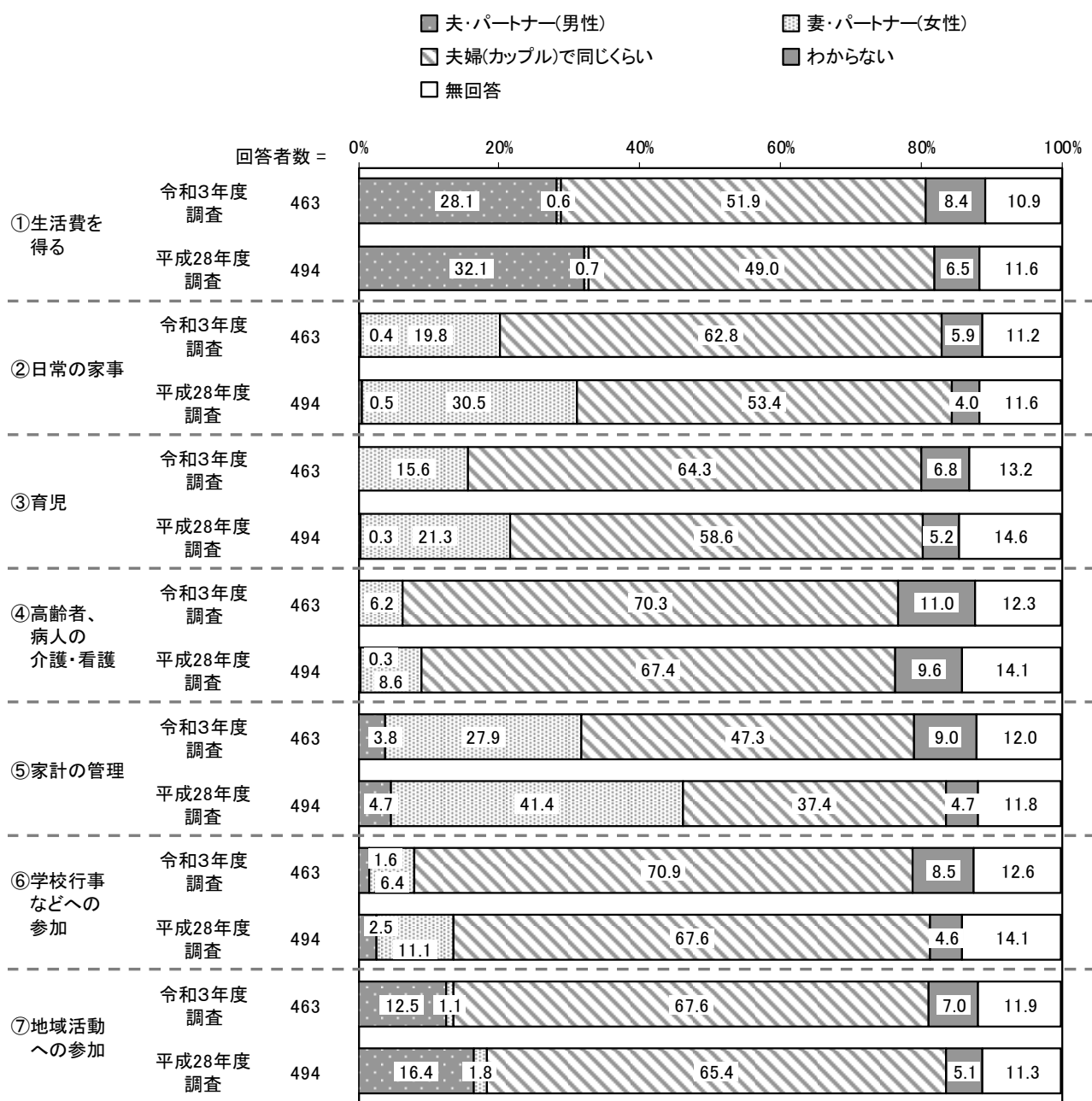
問 17 夫婦・カップルの役割分担について、あなたはどのようにするのが望ましいと思いますか。また実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。
「理想」については、全員の方がお答えください。「現実」については配偶者・パートナーのいる方のみ、お答えください。(〇は各項目1つ)

1. 理想

すべての項目で「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が最も高く、特に『④高齢者、病人の介護・看護』『⑥学校行事などへの参加』で約7割となっています。

しかし、『①生活費を得る』では「夫・パートナー(男性)」の割合が高く、『⑤家計の管理』では「妻・パートナー(女性)」の割合が高く、それぞれ3割近くとなっています。

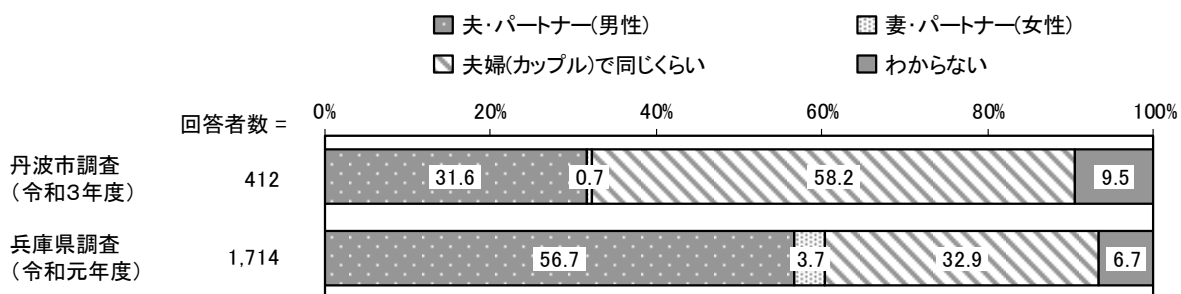
平成28年度調査と比較すると、「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が『⑤家計の管理』で最も増加(9.9ポイント)しています。



①生活費を得る

【兵庫県調査との比較】

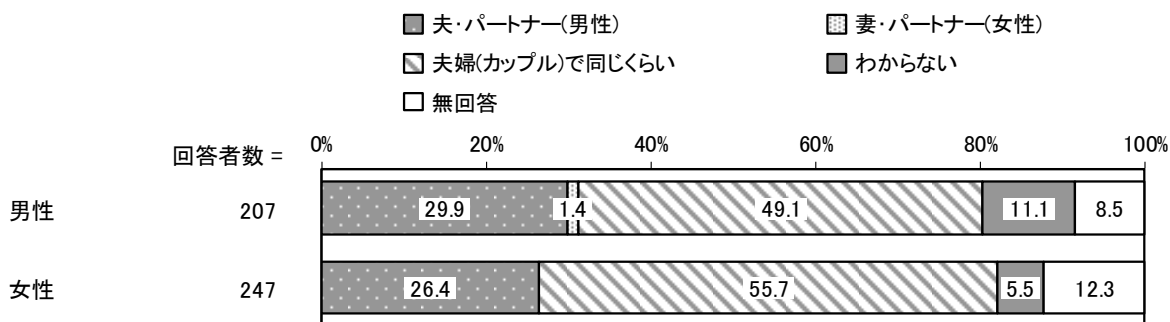
兵庫県調査と比較すると、丹波市のほうが「夫婦（カップル）で同じくらい」の割合が25.3ポイント高く、一方、「夫・パートナー（男性）」の割合が25.1ポイント低くなっています。



※兵庫県調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

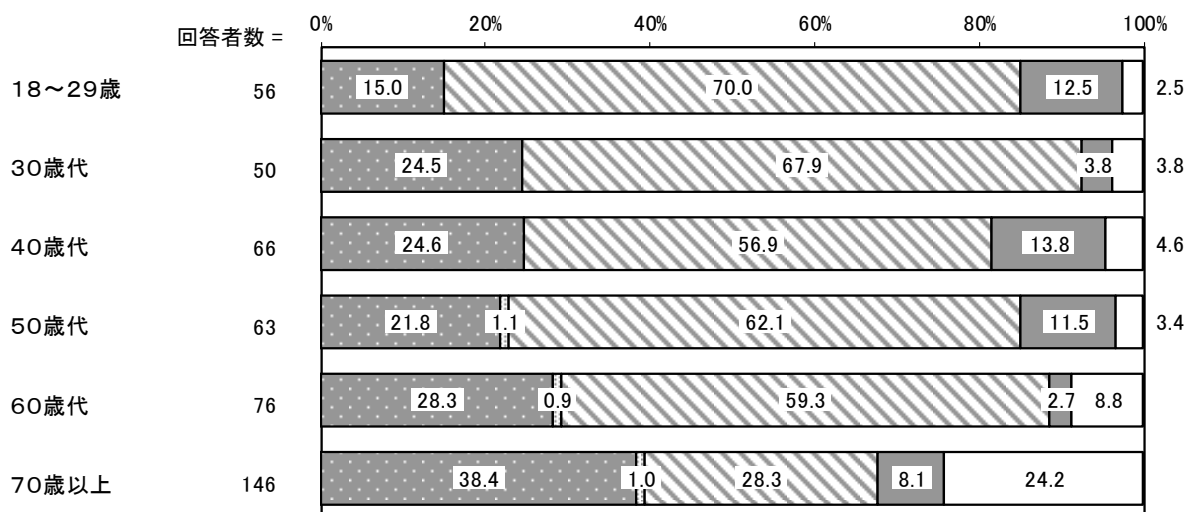
【性 別】

性別でみると、男女とも「夫・パートナー(男性)」の割合が2割台後半となっています。



【年代別】

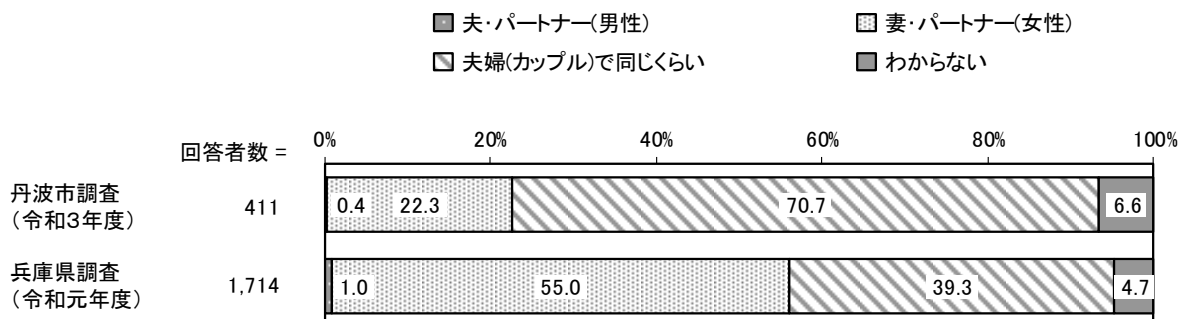
年代別でみると、「夫婦（カップル）で同じくらい」の割合は、18～29歳が70.0%で最も高くなっています。また、70歳以上で「夫・パートナー(男性)」の割合が他の年代より高くなっています。



②日常の家事

【兵庫県調査との比較】

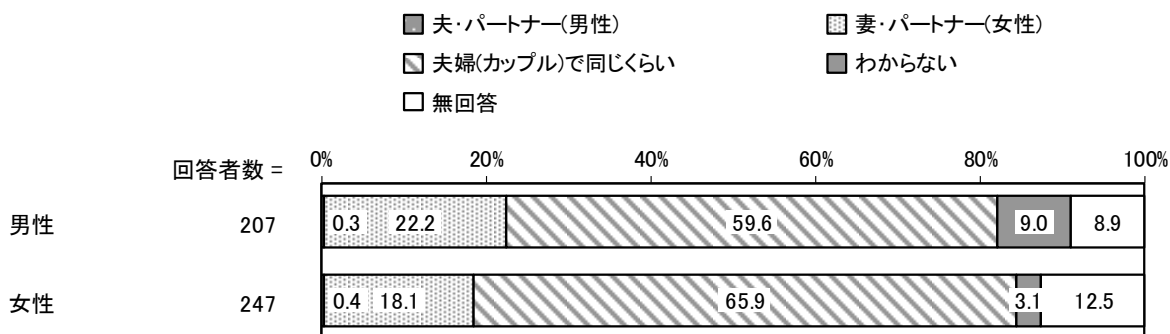
兵庫県調査と比較すると、丹波市のほうが「夫婦（カップル）で同じくらい」の割合が 31.4 ポイント高く、また、「妻・パートナー（女性）」の割合が 32.7 ポイント低くなっています。



※兵庫県調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

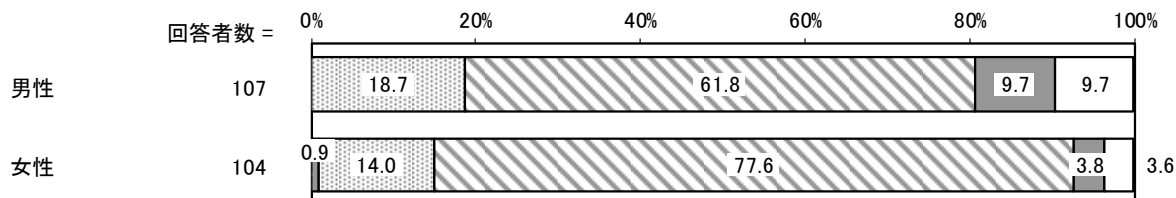
【性 別】

性別でみると、男女とも「妻・パートナー（女性）」の割合が 2 割台前半となっています。



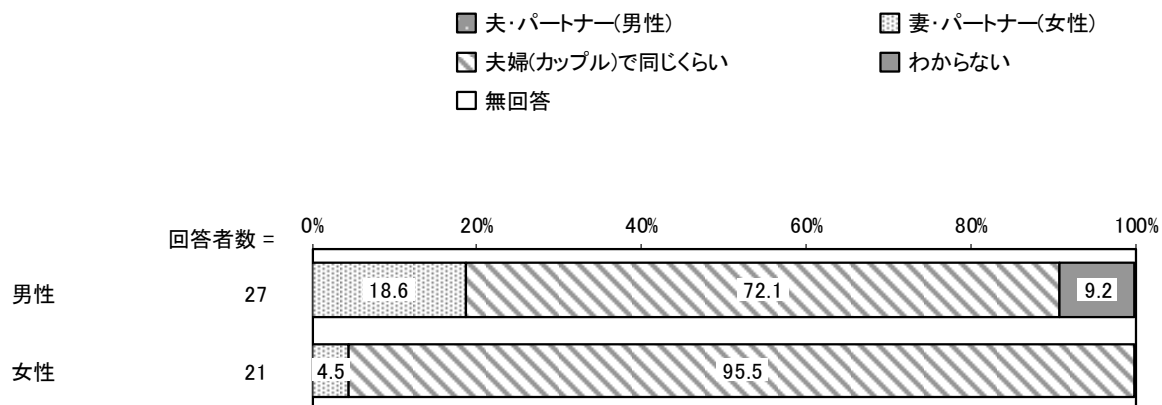
＜残業が 20 時間以上の人のみ＞

残業が 20 時間以上の人のみでみると、性別のグラフと同様に「夫婦（カップル）で同じくらい」の割合が高くなっていますが、さらに男女の差が大きくなっています。



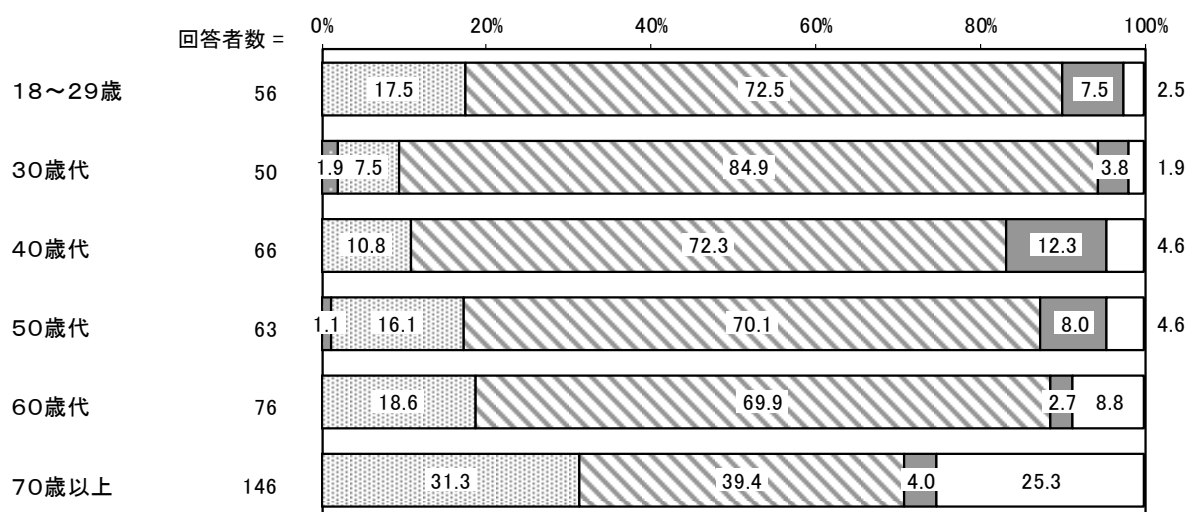
<夫婦ともに正社員の人のみ>

夫婦ともに正社員の人のみでみると、性別のグラフと同様に、女性で「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が高くなっていますが、女性で「妻・パートナー(女性)」の割合が低く「妻・パートナー(女性)」の割合の男女差が大きくなっています。



【年代別】

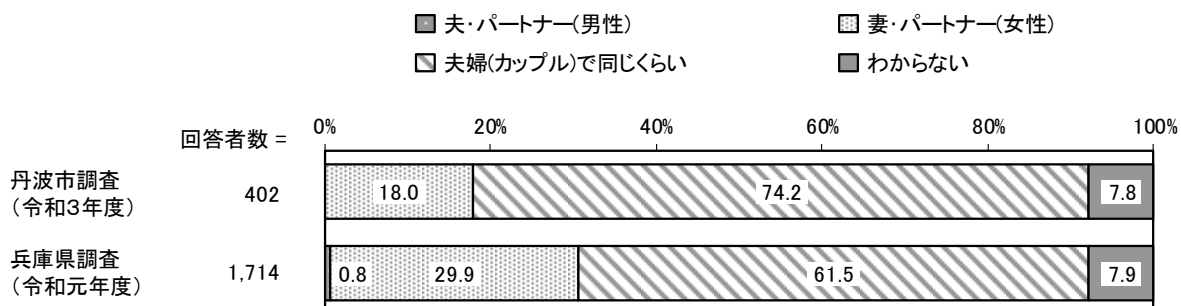
年代別でみると、「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合は、30歳代が84.9%で最も高くなっています。また、70歳以上で「妻・パートナー(女性)」の割合が高くなっています。



③育児

【兵庫県調査との比較】

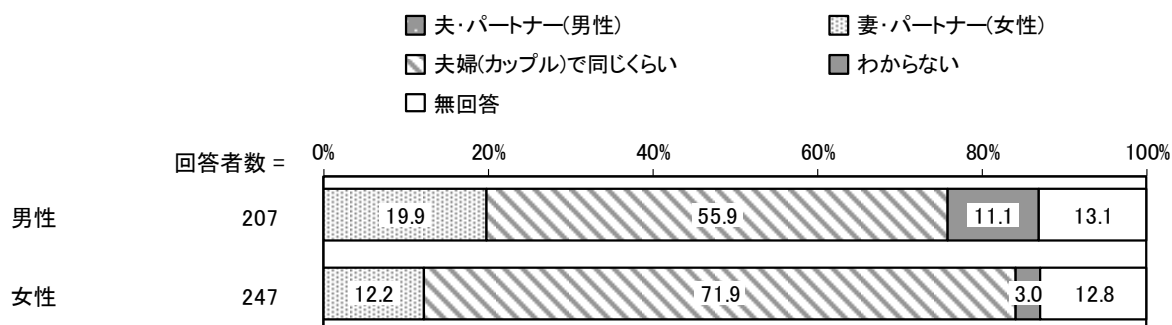
兵庫県調査と比較すると、丹波市のほうが「夫婦（カップル）で同じくらい」の割合が12.7ポイント高く、一方、「妻・パートナー（女性）」の割合が11.9ポイント低くなっています。



※兵庫県調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

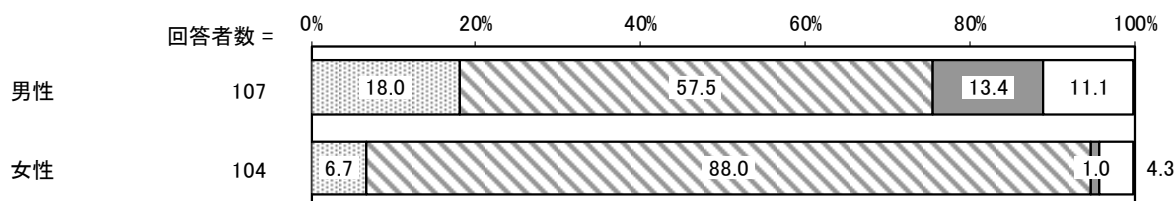
【性 別】

性別でみると、「夫婦（カップル）で同じくらい」の割合は、男性で5割台半ば、女性で7割台前半となっています。



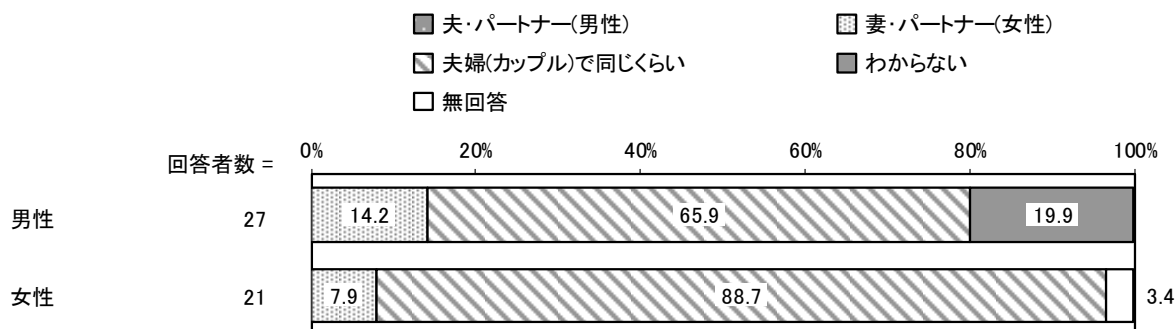
<残業が20時間以上の人のみ>

残業が20時間以上の人のみでみると、性別のグラフと同様に「夫婦（カップル）で同じくらい」の割合が高くなっていますが、男女の差が大きくなっています。



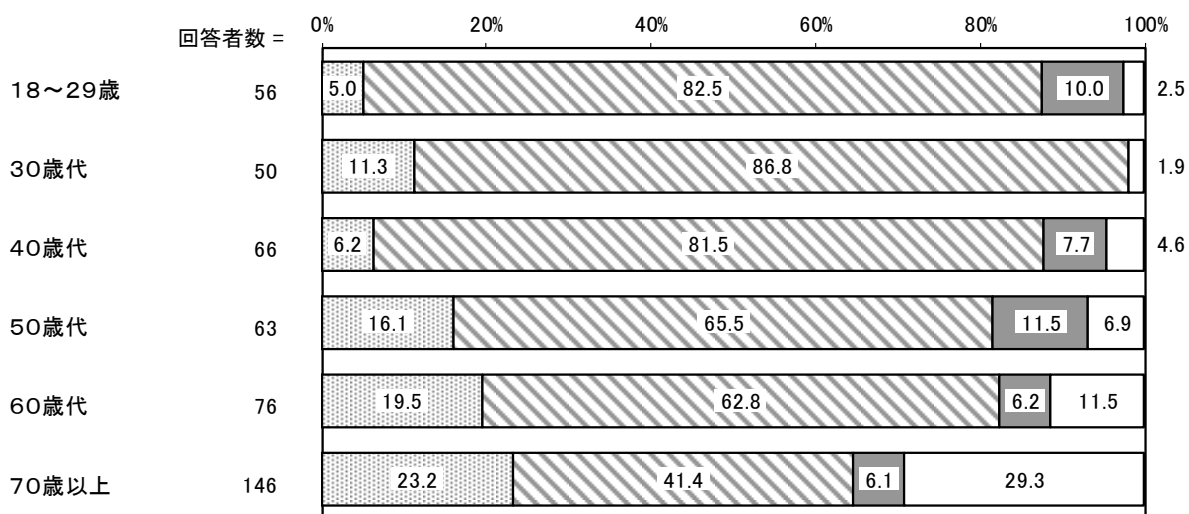
<夫婦ともに正社員の人のみ>

夫婦ともに正社員の人のみでみると、性別のグラフと同様に「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が高くなっていますが、さらに男女の差が大きくなっています。



【年代別】

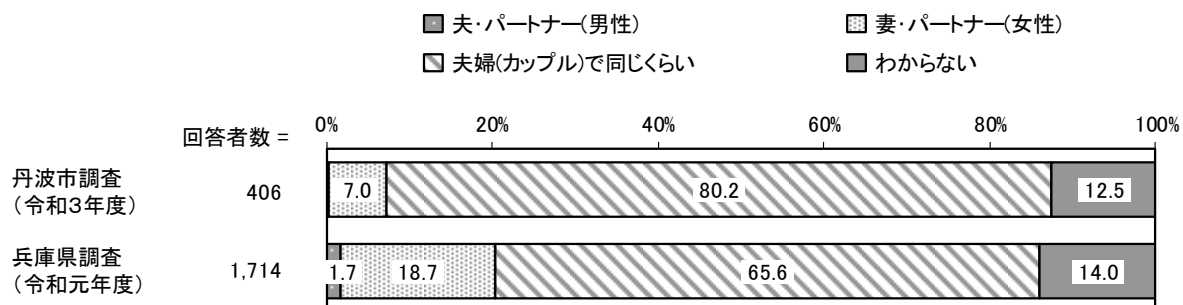
年代別でみると、「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合は、30歳代が86.8%で最も高くなっています。また、40歳代以上で年代が高くなるにつれ「妻・パートナー(女性)」の割合が高くなる傾向がみられます。



④高齢者、病人の介護・看護

【兵庫県調査との比較】

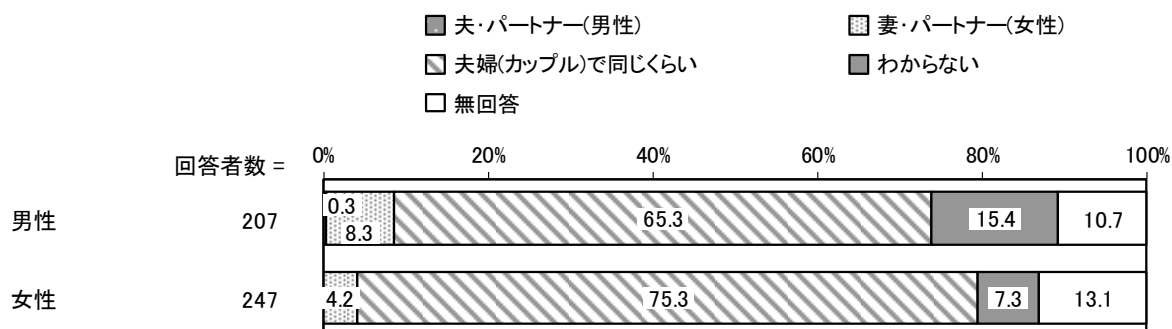
兵庫県調査と比較すると、丹波市のほうが「夫婦（カップル）で同じくらい」の割合が14.6ポイント高く、「妻・パートナー（女性）」の割合が11.7ポイント低くなっています。



※兵庫県調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

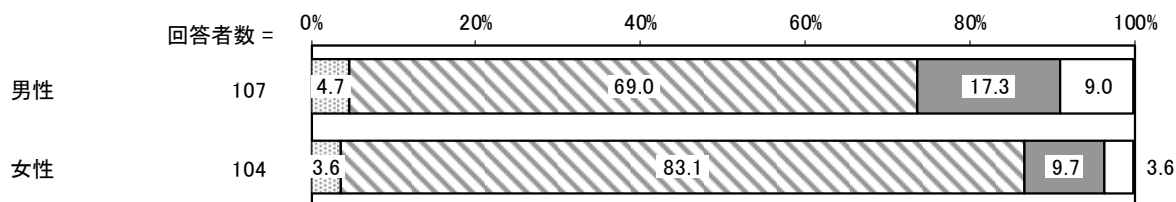
【性 別】

性別でみると、「夫婦（カップル）で同じくらい」の割合は、男性で6割台半ば、女性で7割台半ばとなっています。



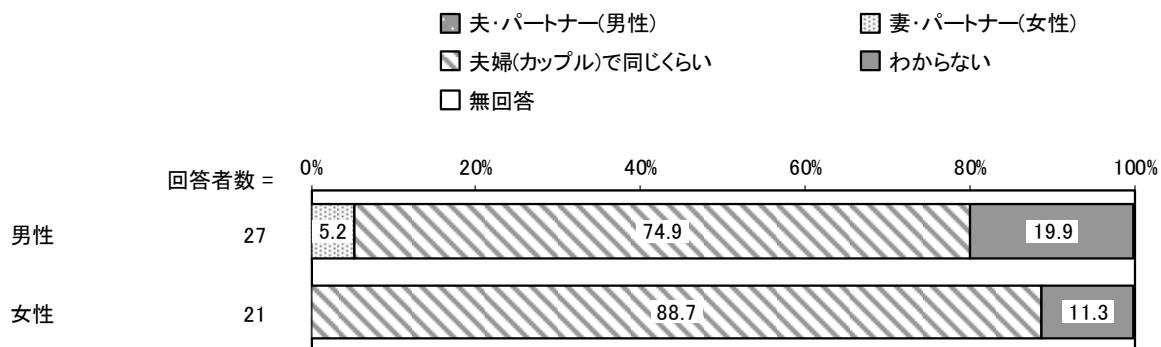
＜残業が20時間以上の人のみ＞

残業が20時間以上の人のみでみると、性別のグラフと同様に「夫婦（カップル）で同じくらい」の割合が高くなっていますが、さらに男女の差が大きくなっています。また、「妻・パートナー（女性）」の割合の男女差が小さくなっています。



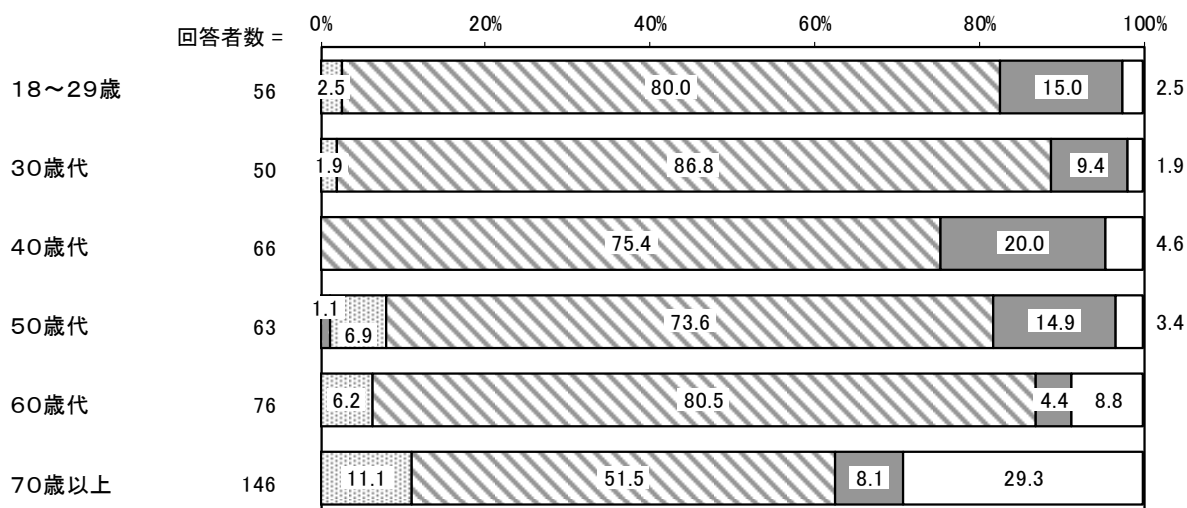
＜夫婦ともに正社員の人のみ＞

夫婦ともに正社員の人のみでみると、性別のグラフと同様に「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が高くなっていますが、さらに男女の差が大きくなっています。



【年代別】

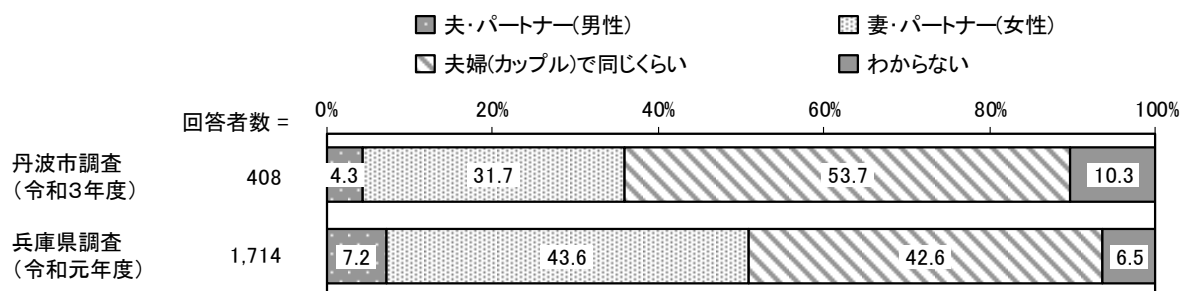
年代別でみると、「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合は、30歳代が86.8%で最も高くなっています。また、70歳以上で「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が低くなっています。



⑤家計の管理

【兵庫県調査との比較】

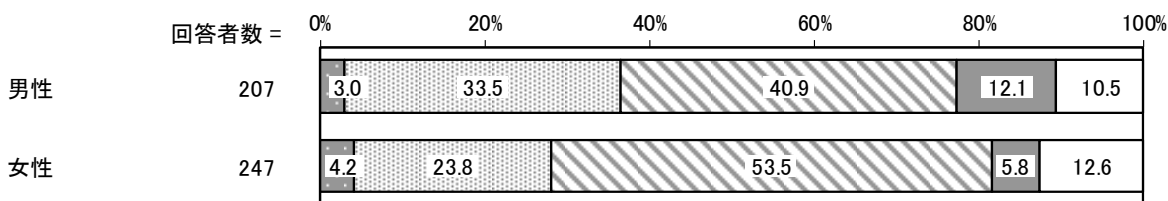
兵庫県調査と比較すると、丹波市のほうが「夫婦（カップル）で同じくらい」の割合が 11.1 ポイント高く、「妻・パートナー（女性）」の割合が 11.9 ポイント低くなっています。



※兵庫県調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

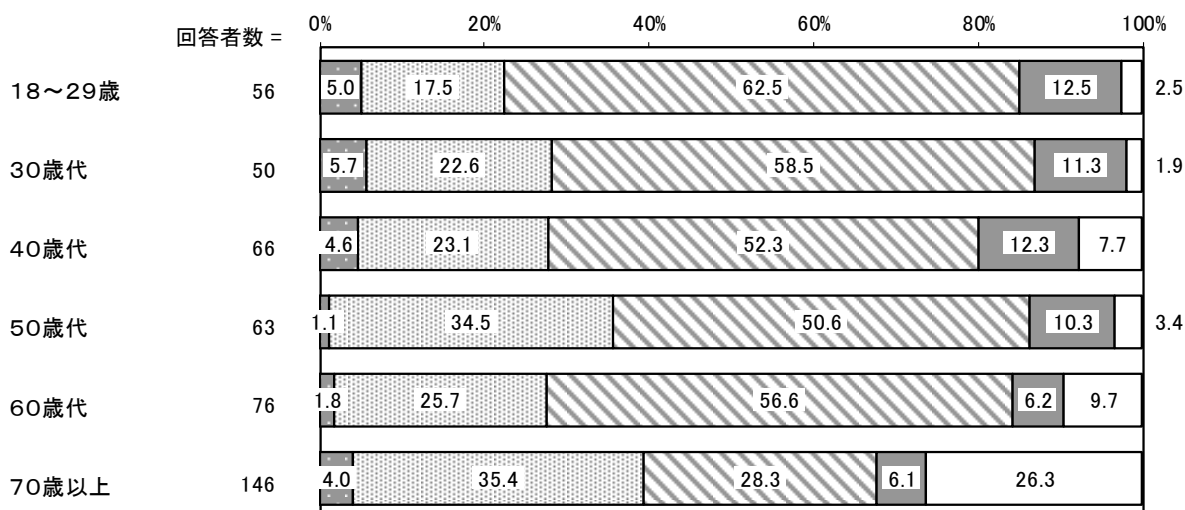
【性 別】

性別でみると、男女とも「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が最も高く、女性のほうが男性より割合が高くなっています。また、男性のほうが女性より「妻・パートナー(女性)」の割合が高くなっています。



【年代別】

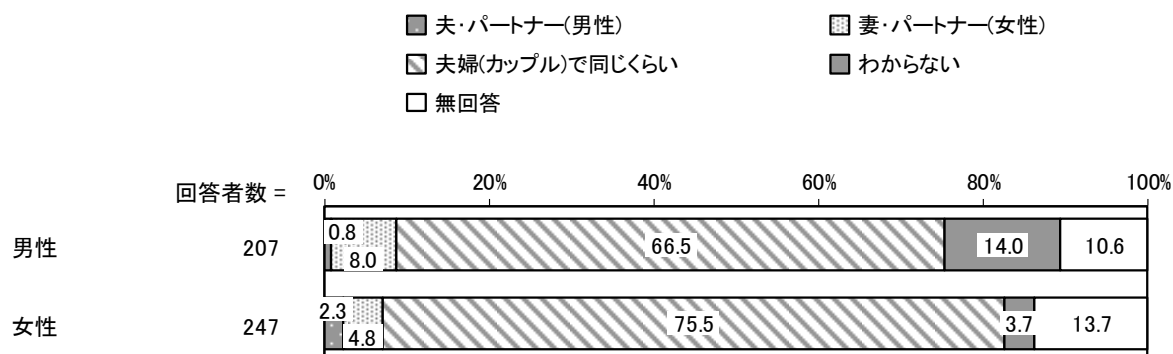
年代別でみると、「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合は、18～29 歳が 62.5%で最も高くなっています。また、50 歳代、70 歳以上で「妻・パートナー(女性)」の割合が高くなっています。



⑥学校行事などへの参加

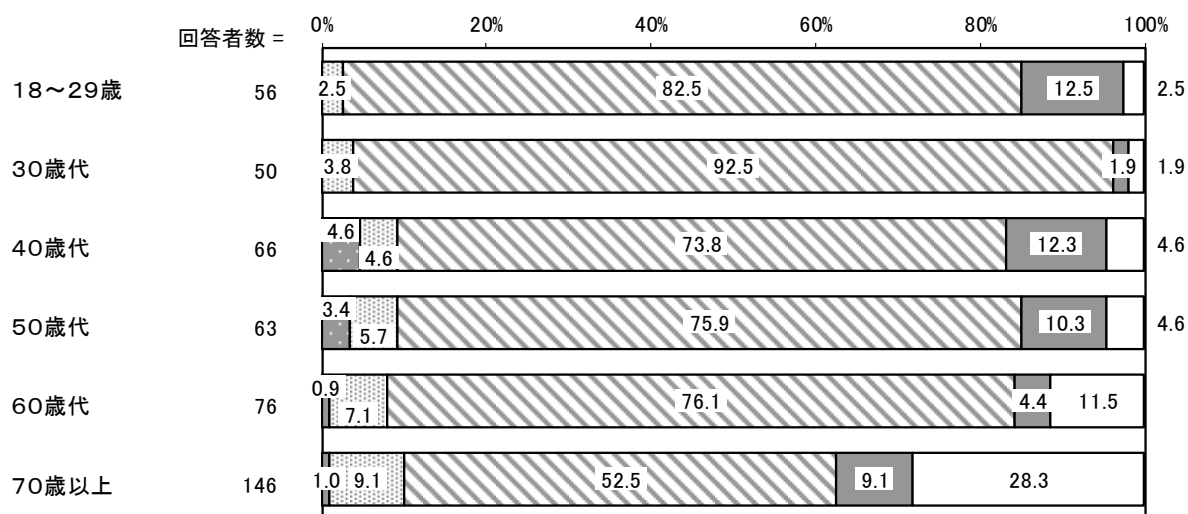
【性 別】

性別でみると、「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合は、男性で6割台半ば、女性で7割台半ばとなっています。



【年代別】

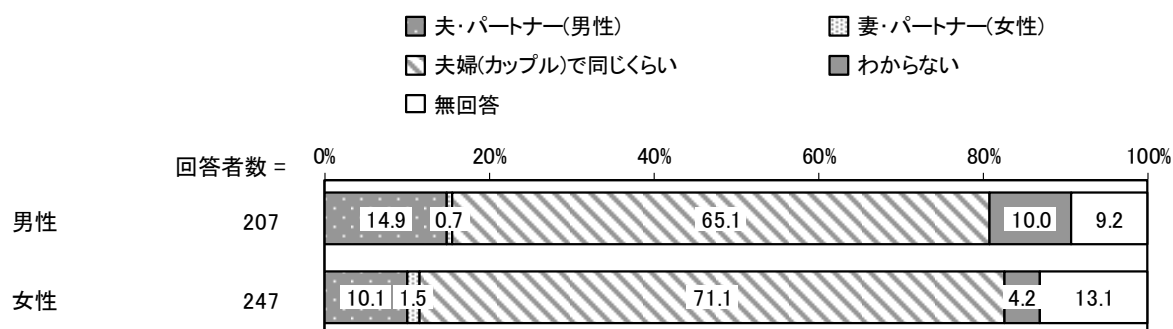
年代別でみると、「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合は、30歳代が92.5%で最も高くなっています。



⑦地域活動への参加

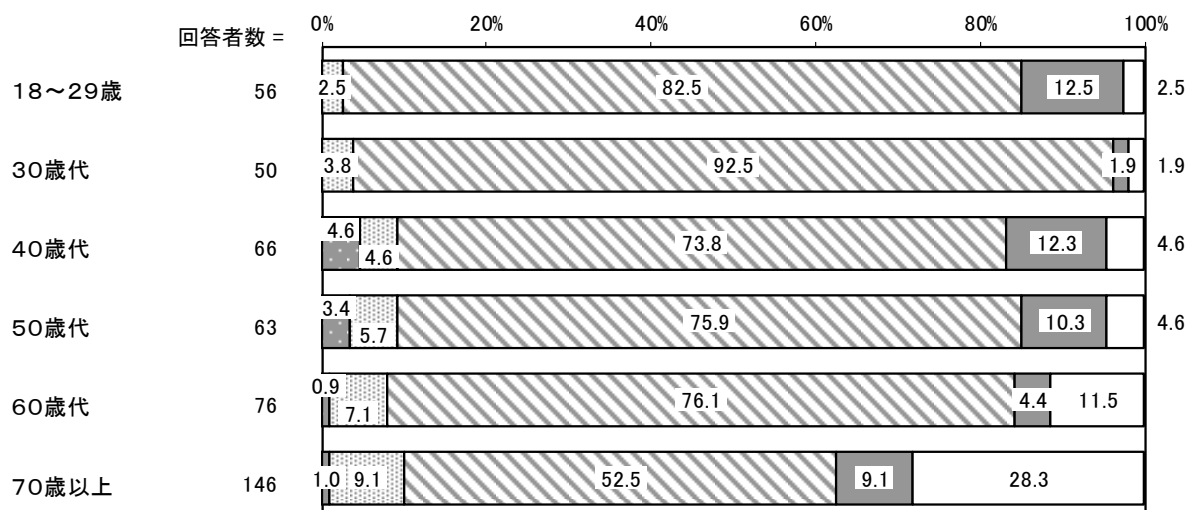
【性 別】

性別でみると、男女とも「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合は、男性で6割台半ば、女性で7割台前半となっています。



【年代別】

年代別でみると、「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合は、30歳代が92.5%で最も高くなっています。「夫・パートナー(男性)」の割合は、40歳代、50歳代で高くなっています。

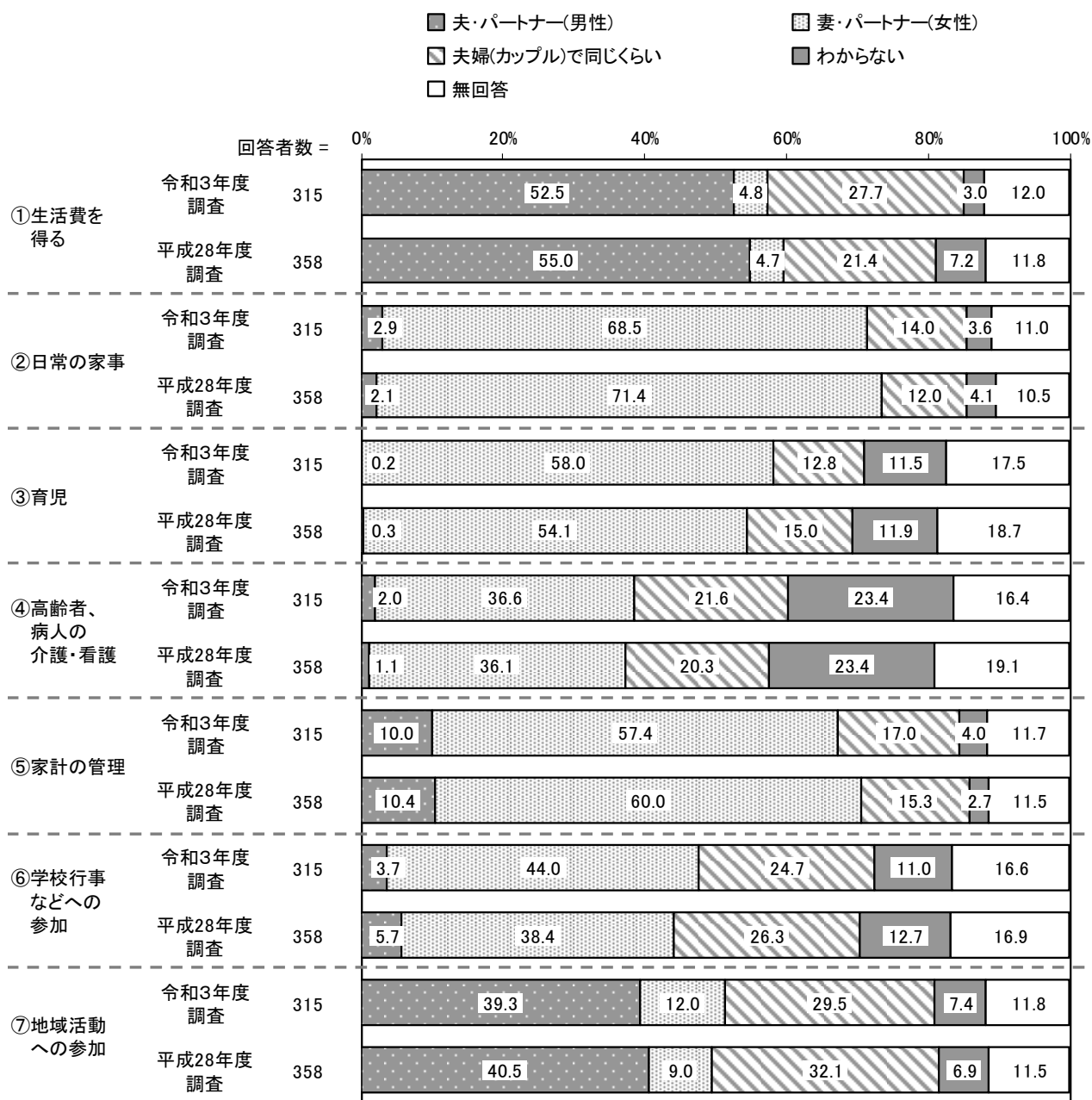


2. 現実

『②日常の家事』『③育児』『④高齢者、病人の介護・看護』『⑤家計の管理』『⑥学校行事などへの参加』で「妻・パートナー(女性)」の割合が最も高くなっており、特に『②日常の家事』で約7割となっています。

また、『①生活費を得る』『⑦地域活動への参加』では、「夫・パートナー(男性)」の割合が高く、特に『①生活費を得る』では、5割前半となっています。

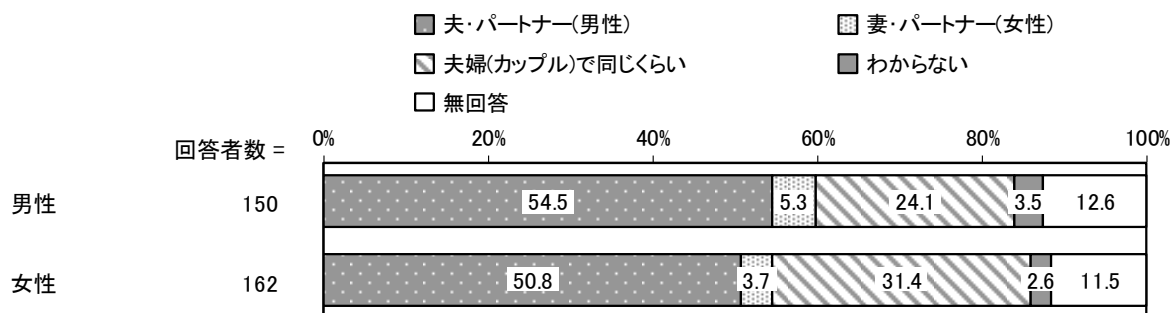
平成 28 年度調査と比較すると、「妻・パートナー(女性)」の割合が増加したのは『⑥学校行事などへの参加』(5.6 ポイント)、「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が増加したのは『①生活費を得る』(6.3 ポイント)です。



①生活費を得る

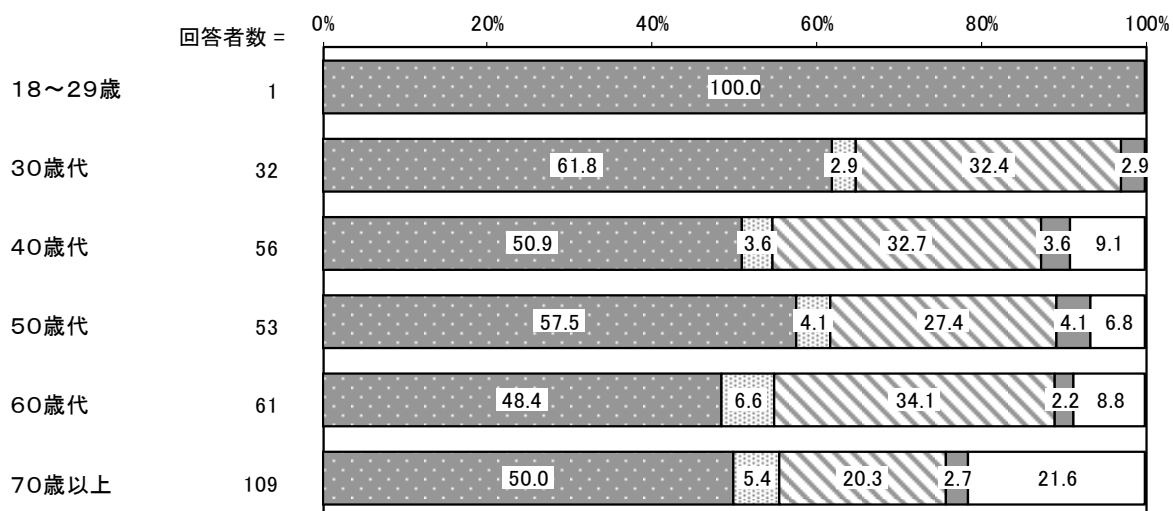
【性別】

性別でみると、男女とも「夫・パートナー(男性)」の割合が5割を超えています。「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合は、女性のほうが男性より高くなっています。



【年代別】

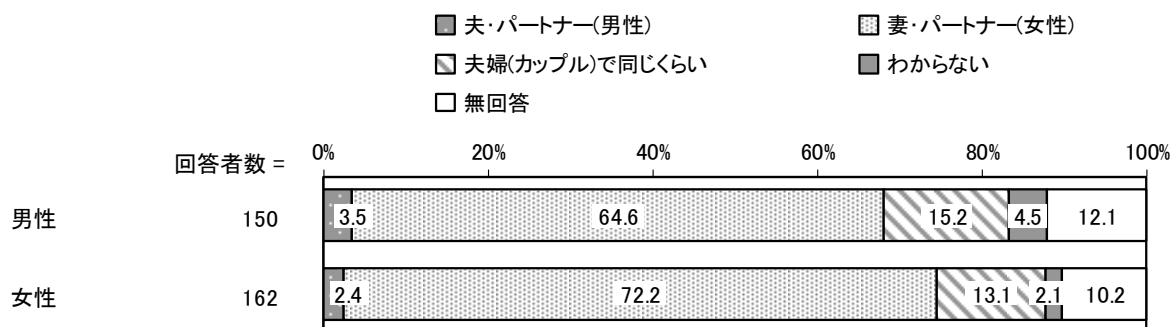
年代別でみると、「夫・パートナー(男性)」の割合は、30歳代が61.8%で最も高くなっています。また、40歳代以上でも5割台前半から6割台前半の割合となっています。



②日常の家事

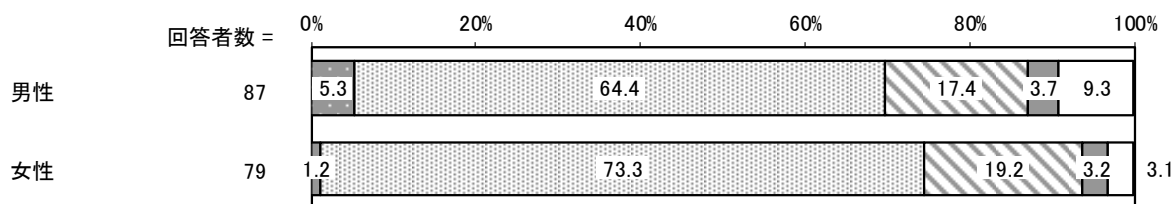
【性 別】

性別でみると、男女とも「妻・パートナー(女性)」の割合が高く、女性のほうが男性より割合が高くなっています。



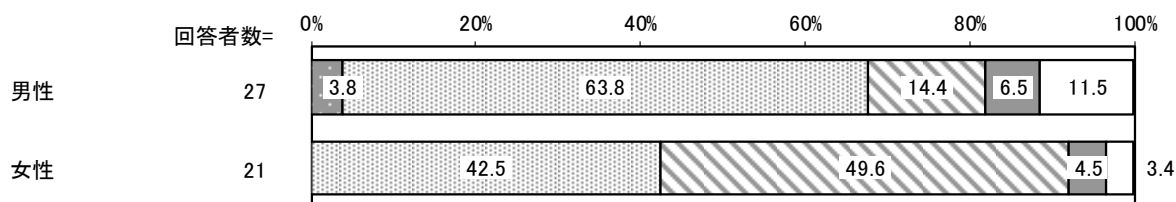
<残業が 20 時間以上の人のみ>

残業が 20 時間以上の人のみでみると、性別のグラフと同様に女性で「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が高くなっています。また、男女ともに「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が高くなっています。



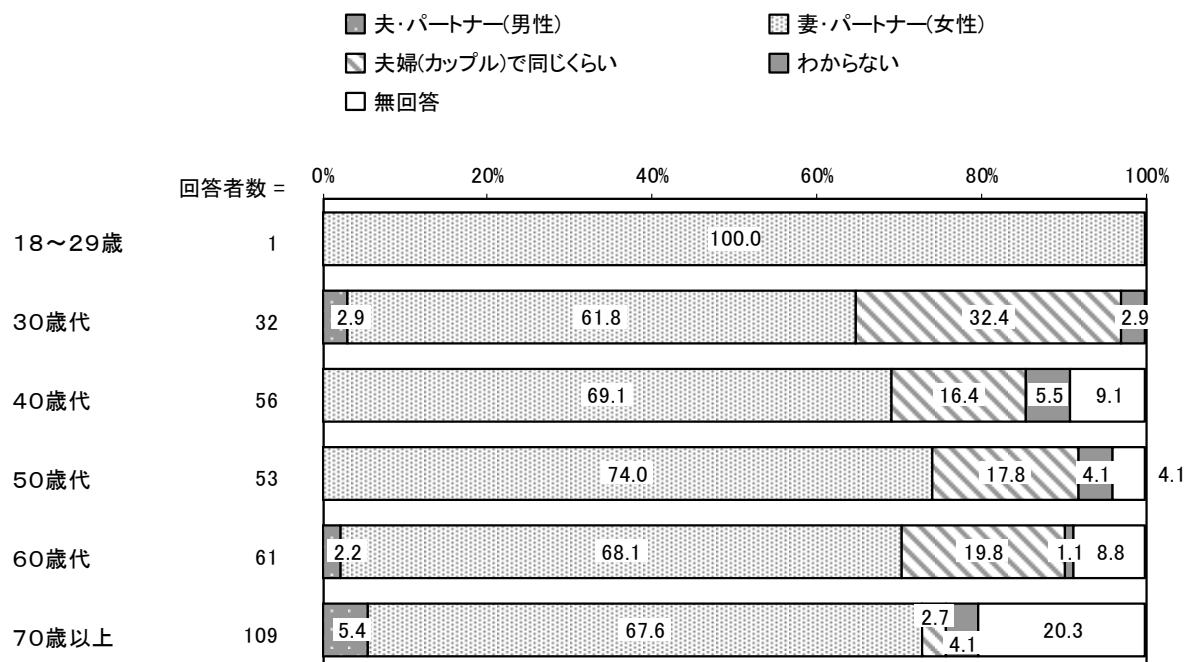
<夫婦ともに正社員の人のみ>

夫婦ともに正社員の人のみでみると、「妻・パートナー(女性)」の割合は、男性では性別のグラフと大きく変わらないのに比べ、女性では大きく低くなっています。また、女性では「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が男性より高くなっています。



【年代別】

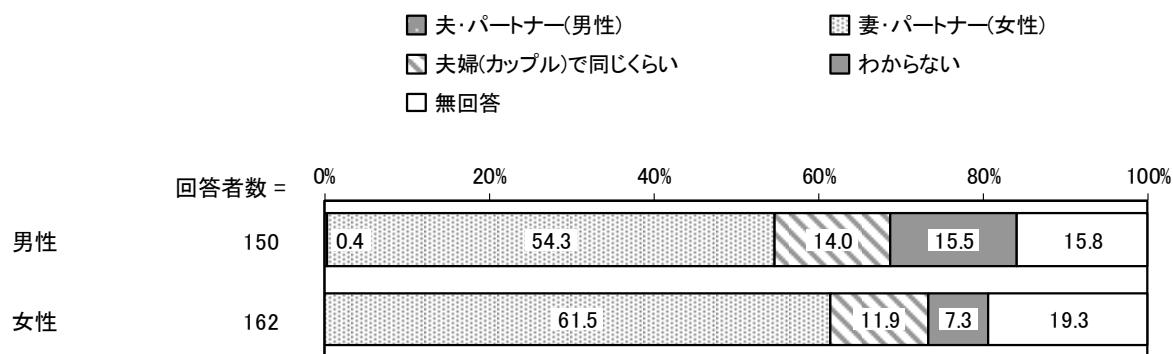
年代別でみると、「妻・パートナー(女性)」の割合がどの年代でも6割を超えています。また、30歳代では「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が高くなっています。



③育児

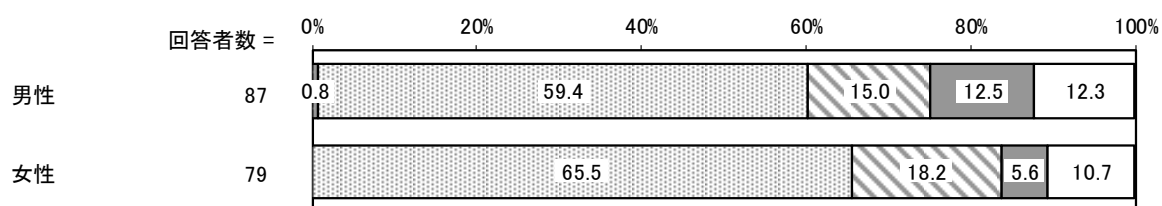
【性別】

性別でみると、男女とも「妻・パートナー(女性)」の割合が最も高く、女性のほうが男性より割合が高くなっています。また、「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合は、男性のほうが高くなっています。



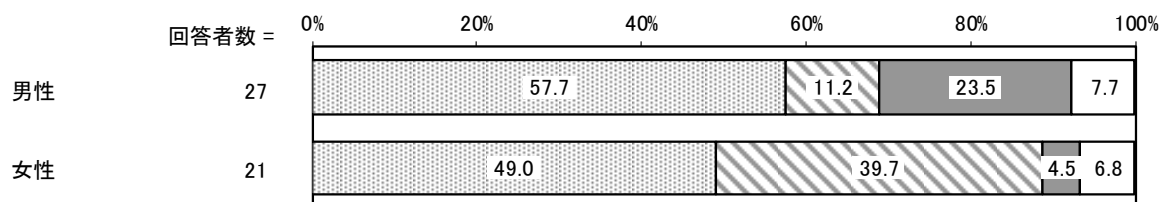
<残業が20時間以上の人のみ>

残業が20時間以上の人のみでみると、性別のグラフと同様に「妻・パートナー(女性)」の割合が高くなっています。また、女性ではさらに「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が高くなっています。



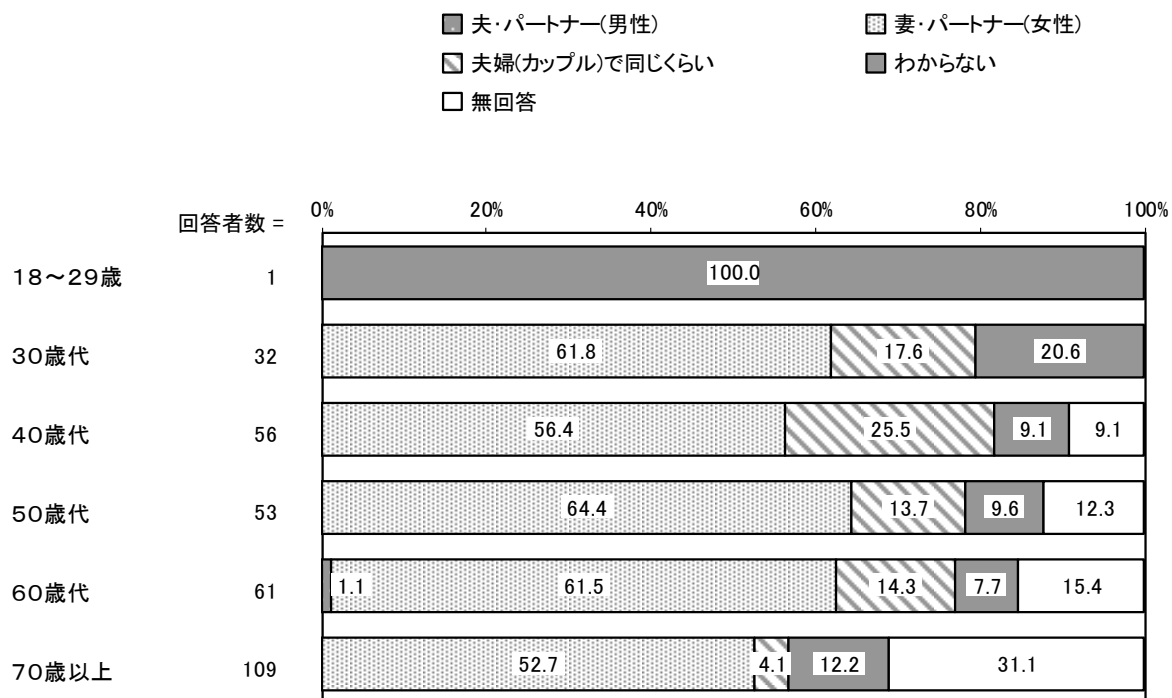
<夫婦ともに正社員の人のみ>

夫婦ともに正社員の人のみでみると、性別のグラフと異なり男性で「妻・パートナー(女性)」の割合が高く、女性では「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が高くなっています。



【年代別】

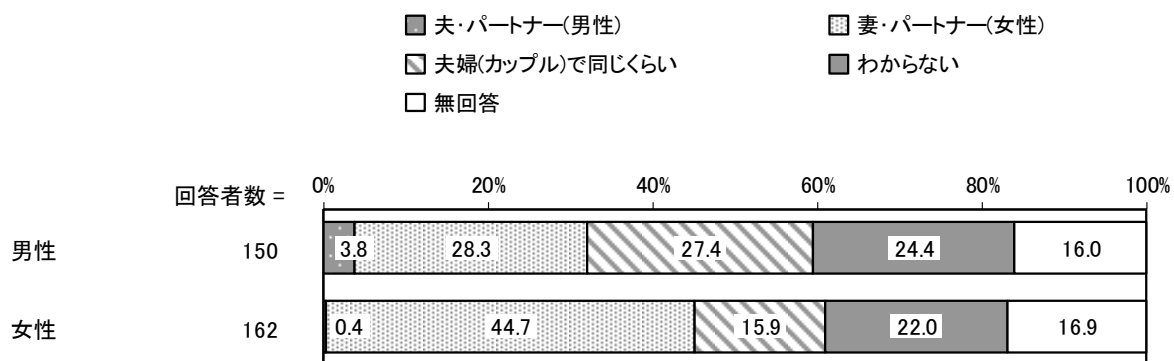
年代別でみると、「妻・パートナー(女性)」の割合は、50 歳代が 64.4%で最も高くなっていますが、30 歳代以上のどの年代でも5割から6割と高い割合となっています。ただし、40 歳代では「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が他の年代より高くなっています。



④高齢者、病人の介護・看護

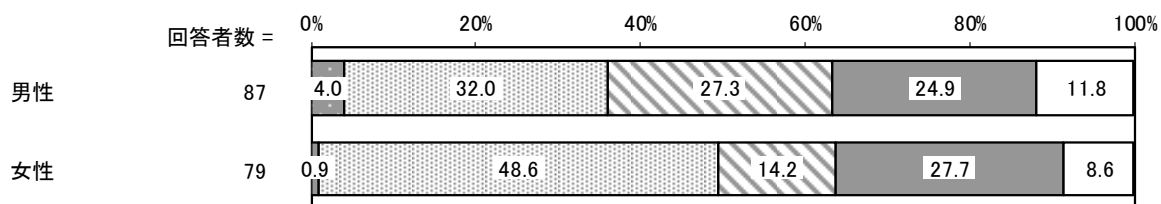
【性別】

性別でみると、男女とも「妻・パートナー(女性)」の割合が最も高く、女性のほうが男性より割合が高くなっています。「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合は、男性のほうが高くなっています。



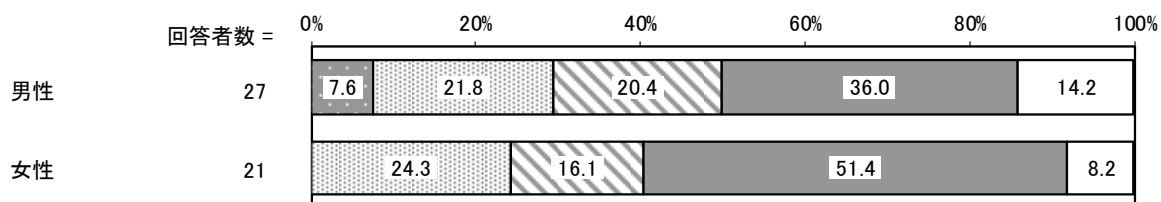
<残業が20時間以上の人のみ>

残業が20時間以上の人のみでみると、性別のグラフと同様に「妻・パートナー(女性)」の割合が高く、女性ではさらに割合が高くなっています。



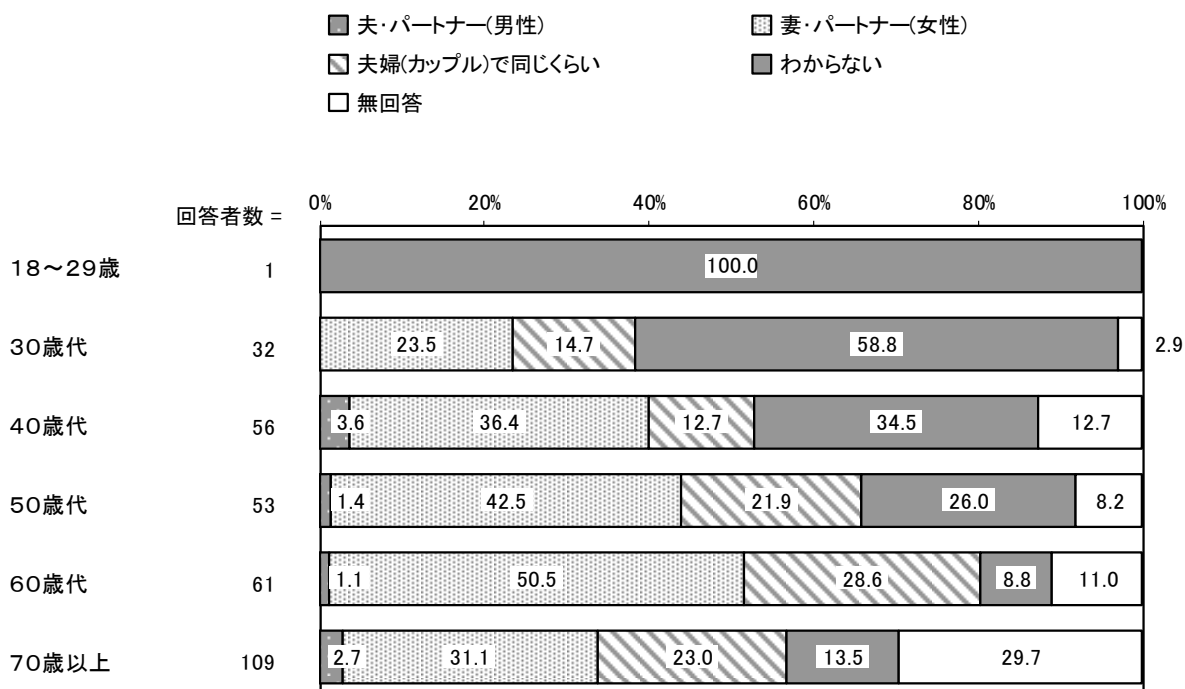
<夫婦ともに正社員の人のみ>

夫婦ともに正社員の人のみでみると、性別のグラフより、男性で「夫・パートナー(男性)」の割合が高く、また、女性では「わからない」と回答した人が多くなっています。(51.4%)



【年代別】

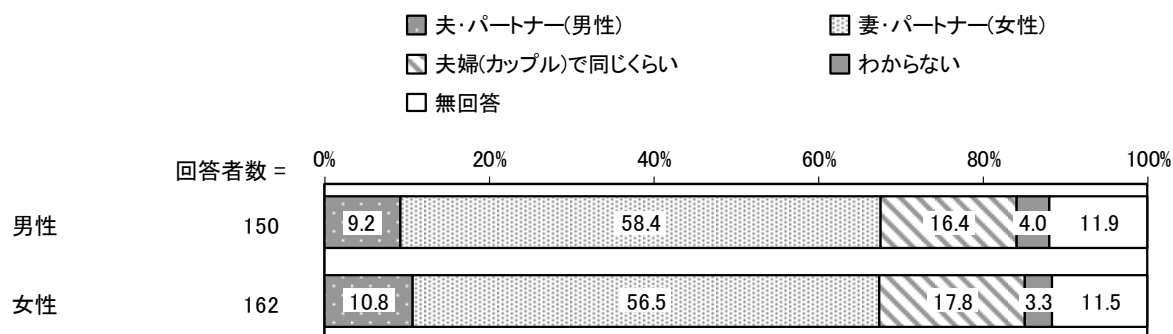
年代別でみると、「妻・パートナー（女性）」の割合は、60歳代が50.5%で最も高くなっています。また、30歳代以上で年代が高くなるにつれ「妻・パートナー（女性）」「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合がともに高くなる傾向がみられます。



⑤家計の管理

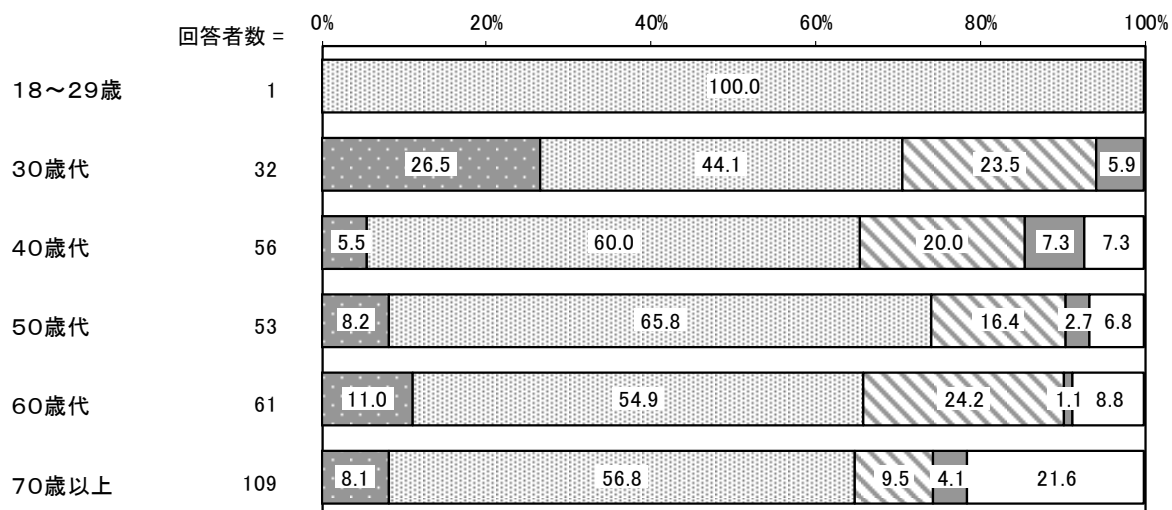
【性 別】

性別でみると、男女とも「妻・パートナー(女性)」の割合が最も高くなっていますが、その他の項目も男女ともほぼ同じ割合になっています。



【年代別】

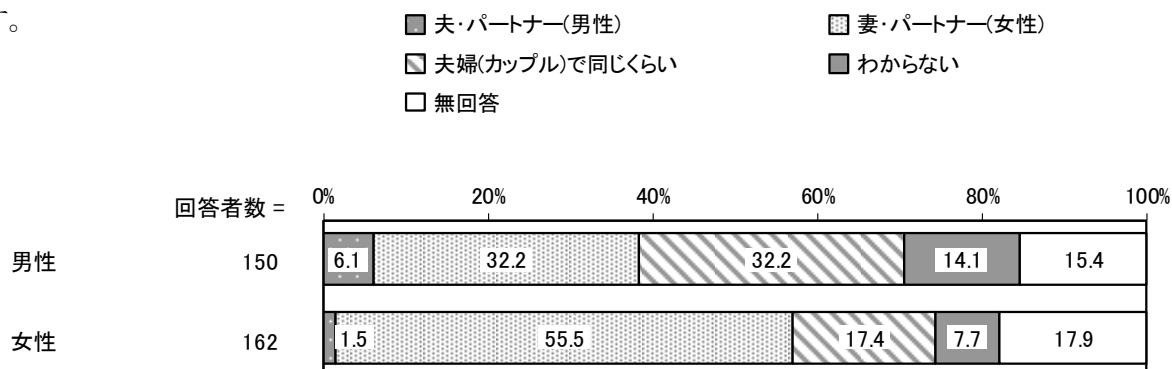
年代別でみると、「妻・パートナー(女性)」の割合は、50 歳代が 65.8%で最も高くなっています。また、30 歳代で「夫・パートナー(男性)」の割合が高くなっています。



⑥学校行事などへの参加

【性 別】

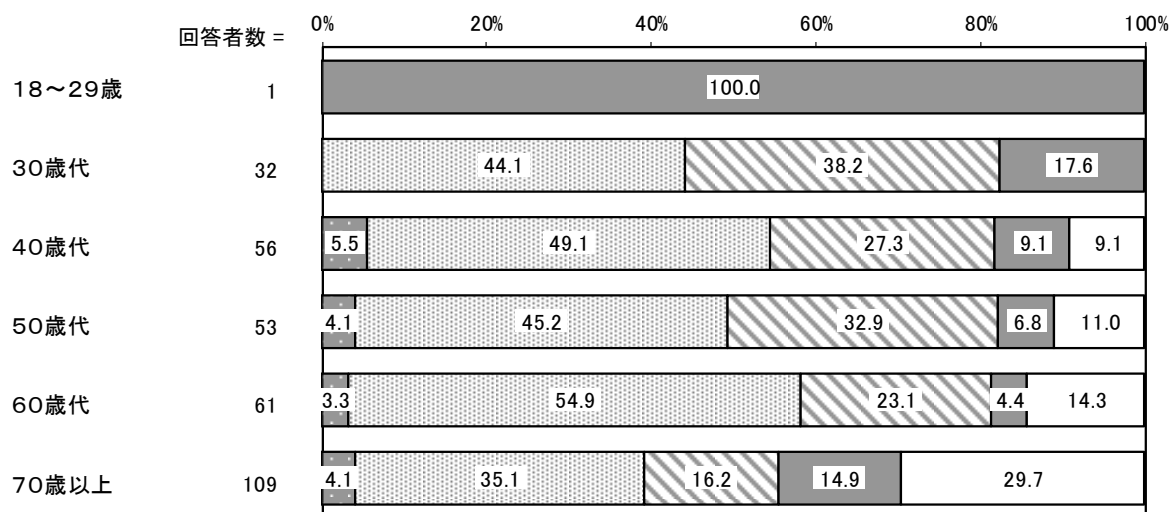
性別でみると、男女とも「妻・パートナー(女性)」の割合が最も高く、女性のほうが男性より割合が高くなっています。また、男性で「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、「妻・パートナー(女性)」の割合は、60 歳代が 54.9%で最も高くなっています。

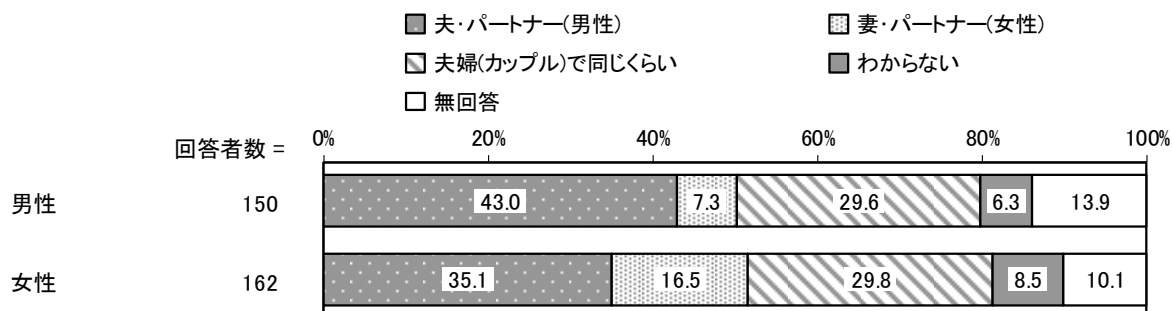
また、30 歳代で「夫婦(カップル)で同じくらい」の割合が高くなっています。



⑦地域活動への参加

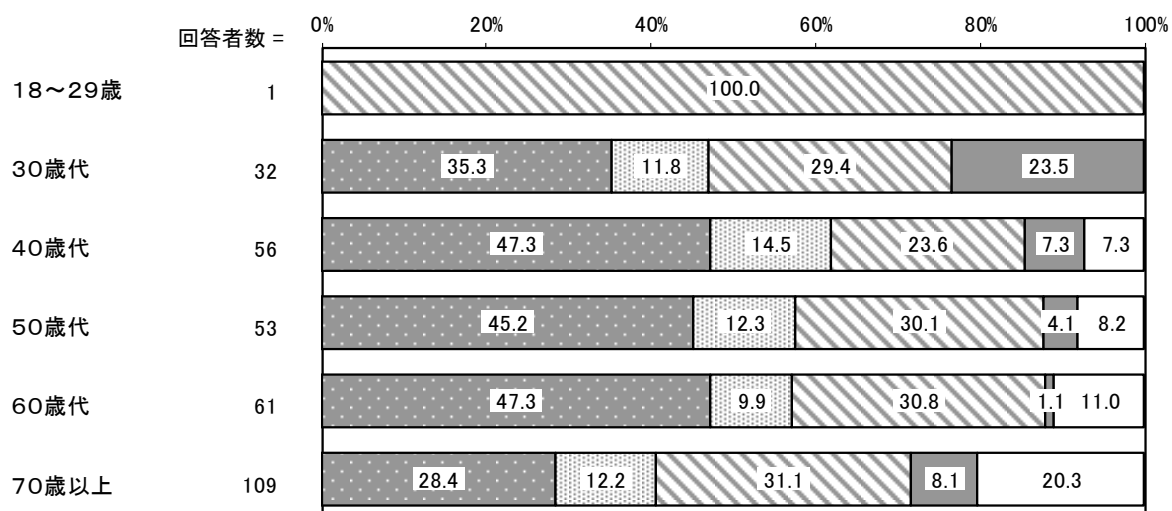
【性 別】

性別でみると、男女とも「夫・パートナー(男性)」の割合が最も高く、男性のほうが女性より割合が高くなっています。また、女性で「妻・パートナー(女性)」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、40 歳代～60 歳代では「夫・パートナー(男性)」の割合が4割台半ばと高く、50 歳代以上では「夫婦 (カップル) で同じくらい」が3割台前半となっています。

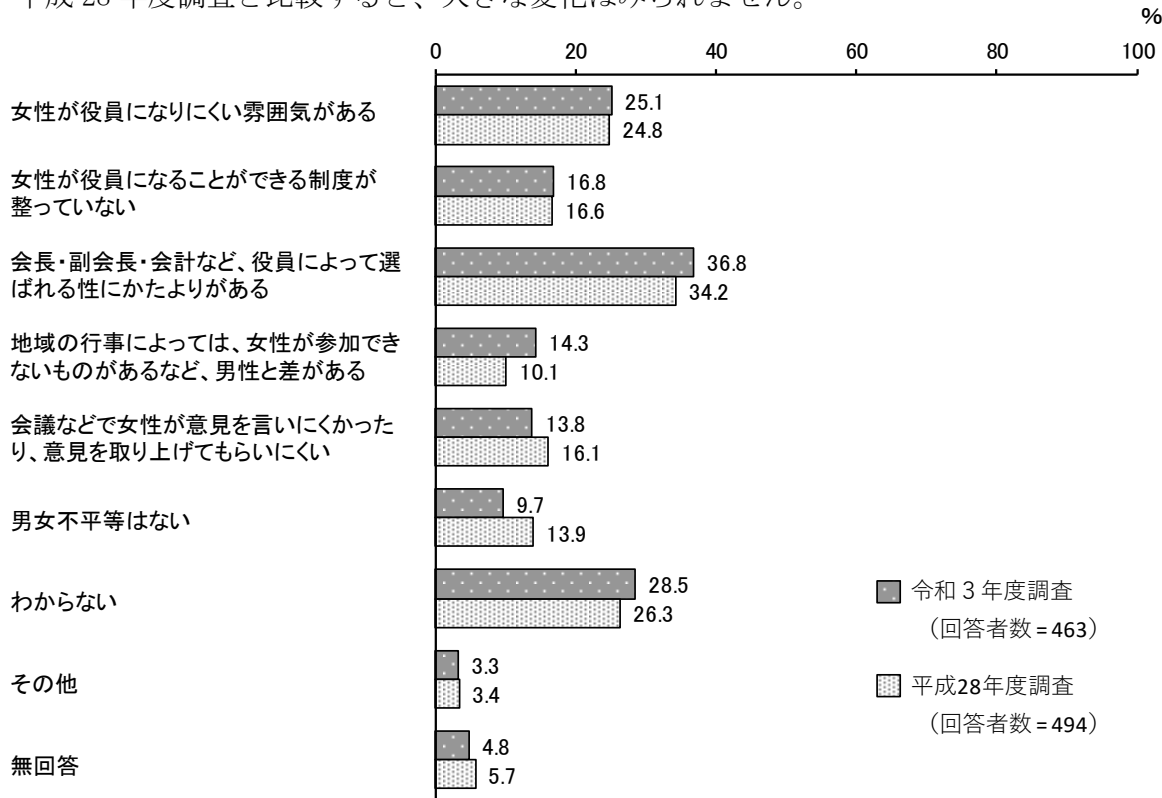


4 地域社会での男女共同参画について

問 18-1 あなたの住んでいる地域（自治会等）に男女不平等なことはありますか。
（〇はいくつでも）

「会長・副会長・会計など、役員によって選ばれる性にかたよりがある」の割合が 36.8%で最も高く、次いで「わからない」の割合が 28.5%、「女性が役員になりにくい雰囲気がある」の割合が 25.1%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性 別】

性別でみると、男女とも「会長・副会長・会計など、役員によって選ばれる性にかたよりがある」の割合が最も高く、男性のほうが女性より割合が高くなっています。また、男性で「女性が役員になりにくい雰囲気がある」の割合が、女性で「会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見を取り上げてもらにくい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	女性が役員になりにくい雰囲気がある	女性が役員になることができる制度が整っていない	会長・副会長・会計など、役員によって選ばれる性にかたよりがある	地域の行事によっては、女性が参加できないものがあるなど、男性と差がある	会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見を取り上げてもらにくい	男女不平等はない	わからない	その他	無回答
男性	207	32.5	15.8	40.2	16.7	8.5	9.2	26.3	1.7	4.1
女性	247	19.8	18.3	34.4	12.8	18.7	9.5	29.9	4.3	5.2

【年代別】

年代別でみると、40 歳代までは「わからない」と回答した人が最も多く、50 歳代以上では「会長・副会長・会計など、役員によって選ばれる性にかたよりのある」の割合が最も高く、60 歳代では 48.7%となっています。また、60 歳代では「女性が役員になりにくい雰囲気がある」の割合も高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	女性が役員になりにくい 雰囲気がある	女性が役員になることが できる制度が整っていない	会長・副会長・会計など、 役員によって選ばれる性にか たよりのある	地域の行事によっては、女性 が参加できないものがあるなど、 男性と差がある	会議などで女性が意見を言 いにくかったり、意見を取り上 げにくい	男女平等はない	わからない	その他	無回答
18～29 歳	56	10.0	—	22.5	10.0	2.5	2.5	60.0	—	2.5
30 歳代	50	17.0	5.7	26.4	7.5	5.7	—	60.4	—	3.8
40 歳代	66	23.1	18.5	35.4	9.2	20.0	7.7	38.5	6.2	1.5
50 歳代	63	28.7	19.5	43.7	12.6	13.8	14.9	21.8	5.7	1.1
60 歳代	76	35.4	25.7	48.7	19.5	16.8	14.2	11.5	2.7	5.3
70 歳以上	146	27.3	21.2	37.4	19.2	17.2	11.1	13.1	3.0	9.1

【地域活動に参加する人別】

地域活動に参加する人別でみると、「夫・パートナー(男性)」と「夫婦(カップル)で同じくらい」で「会長・副会長・会計など、役員によって選ばれる性にかたよりがある」の割合が最も高くなっています。次に「女性が役員になりにくい雰囲気がある」の割合が高くなっています。

「妻・パートナー(女性)」では、「会長・副会長・会計など、役員によって選ばれる性にかたよりがある」の割合が最も高く、次に「会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見を取り上げてもらいにくい」「女性が役員になることができる制度が整っていない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性が役員になりにくい 雰囲気がある	女性が役員になることが できる制度が整っていない	会長・副会長・会計など、 役員によって選ばれる性にか たよりがある	地域行事によっては、女性が 参加できないものがあるなど、 男性と差がある	会議などで女性が意見を言 いにくかったり、意見を取り上 げてもらいにくい	男女平等はない	わからない	その他	無回答
夫・パートナー(男性)	124	37.2	22.7	46.9	15.3	16.9	10.9	19.8	2.8	1.9
妻・パートナー(女性)	38	18.9	23.4	35.3	17.2	25.1	5.8	25.9	4.6	5.7
夫婦(カップル)で同じくらい	93	30.6	21.1	40.1	11.8	14.0	13.9	21.0	3.4	3.1
わからない	23	12.7	4.4	23.3	10.4	4.4	9.4	56.8	6.3	—

問 18-2 問 18-1 のように思う理由は何ですか。下記に具体的にご記入ください。

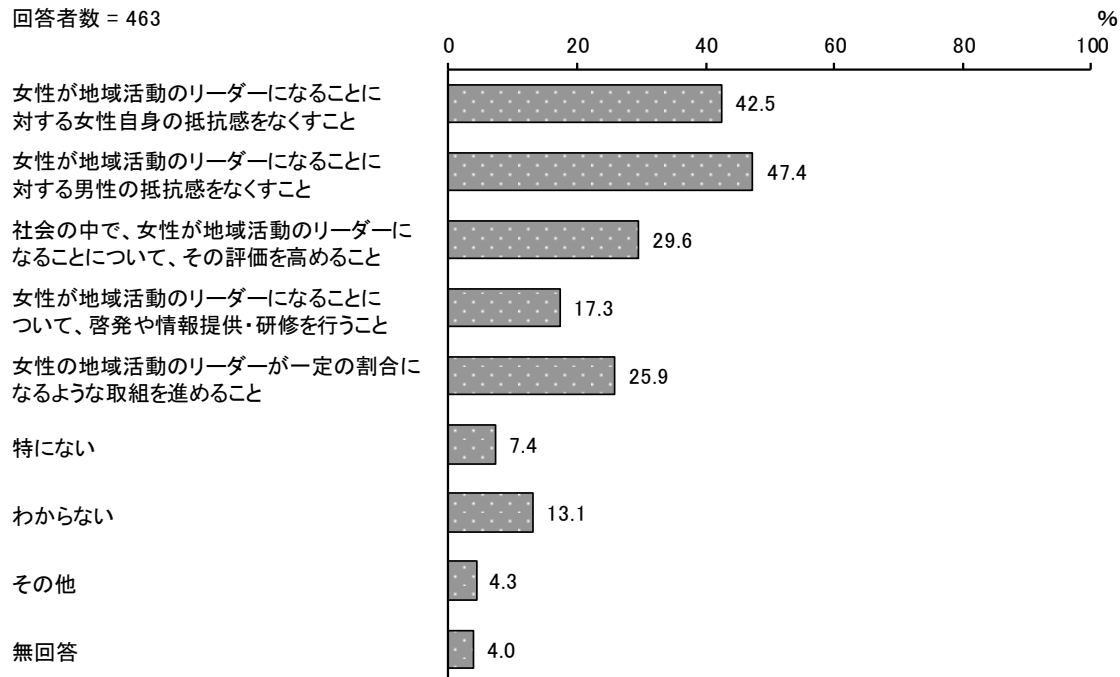
前問で、あなたの住んでいる地域（自治会等）に男女不平等なことはあるかをたずね、その具体的な理由については次のような意見（要旨）がありました。（回答者173名中、意見件数延べ183件、自由記述形式）

意見要旨	件数
昔からの風習、しきたり、習慣	50
自治会に入っていない。参加していないのでわからない	25
現実にそうである	10
女性が役員を嫌がる。行事に参加したがる。男性に任せたいと思っている	10
不平等だと感じない	10
女性の責任感の欠如、意識の低さ	9
役員に女性になったことがない	7
男性中心の雰囲気がある。男性が役員でうまく回っているから	7
家事・介護・育児など女性が担っているから余裕がない	5
世帯主が参加するため	4
女性は、意見を言いたくても反発が怖い。聞く耳を持ってくれない。言える雰囲気ではない	4
自治会長選出方法に問題がある	4
年配の方の意識がない	4
体力的に女性は不向きである	3
今後は女性にも進出してもらいたい	3
女性になれる役員が限定されている	3
女性の進出は難しい	3
役員等は順番回しになっている	2
会長・副会長を女性にすると反発が多い	1
特に無し。分からない。	4
その他	15
合計（延べ件数）	183

問 19 あなたは、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」の割合が 47.4%で最も高く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が 42.5%、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」の割合が 29.6%となっています。

回答者数 = 463



【性 別】

性別でみると、男女とも「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」の割合が最も高くなっています。また、「女性の地域活動のリーダーが一定の割合になるような取組を進めること」の割合は、男性のほうが女性より割合が高くなっています。

「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」「女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと」では、女性のほうが男性より割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること	女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	女性の地域活動のリーダーが一定の割合になるような取組を進めること	特にない	わからない	その他	無回答
男性	207	39.5	45.1	31.2	14.2	32.5	6.8	12.4	1.7	4.1
女性	247	45.3	51.1	28.9	20.2	20.5	8.1	13.1	6.2	3.3

【年代別】

年代別でみると、すべての年代において「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」の割合が高くなっています。また、「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」では、60歳代の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	女性自身が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること	社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	特になし	わからない	その他	無回答
18～29歳	56	42.5	47.5	37.5	10.0	15.0	—	17.5	2.5	—	—	—
30歳代	50	41.5	49.1	26.4	7.5	17.0	5.7	17.0	5.7	—	—	—
40歳代	66	38.5	56.9	33.8	16.9	21.5	7.7	10.8	9.2	4.6	—	—
50歳代	63	40.2	50.6	34.5	19.5	40.2	10.3	8.0	3.4	—	—	—
60歳代	76	50.4	51.3	34.5	22.1	29.2	7.1	8.8	1.8	1.8	—	—
70歳以上	146	40.4	40.4	22.2	20.2	26.3	9.1	16.2	4.0	9.1	—	—

【地域活動に参加する人別】

地域活動に参加する人別でみると、「妻・パートナー(女性)」で参加していると回答した人では「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」の割合が63.0%で最も高くなっています。

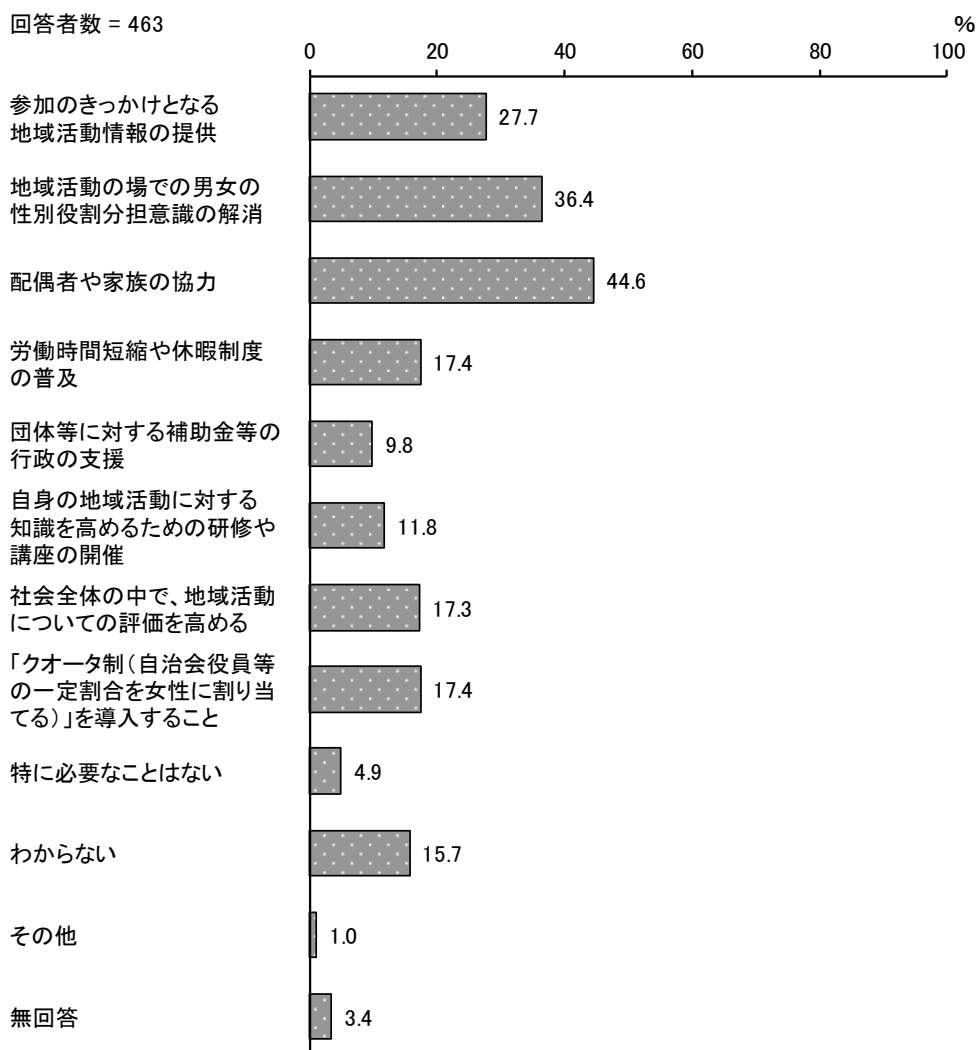
また、「夫・パートナー(男性)」で参加していると回答した人では「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	女性自身が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること	社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	特になし	わからない	その他	無回答
夫・パートナー(男性)	124	49.3	49.8	28.8	16.7	36.5	10.2	9.8	4.7	0.8	—	—
妻・パートナー(女性)	38	33.6	63.0	20.5	15.4	29.4	6.5	13.9	2.5	3.9	—	—
夫婦(カップル)で同じくらい	93	39.5	48.8	40.6	22.0	36.6	8.7	10.2	4.2	1.1	—	—
わからない	23	35.8	43.0	23.0	13.1	13.8	—	14.1	8.4	6.3	—	—

問 20 今後、地域活動における男女共同参画を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

「配偶者や家族の協力」の割合が 44.6%で最も高く、次いで「地域活動の場での男女の性別役割分担意識の解消」の割合が 36.4%、「参加のきっかけとなる地域活動情報の提供」の割合が 27.7%となっています。



【性 別】

性別でみると、女性で「配偶者や家族の協力」の割合が 46.7%で最も高く、男性より 5.9 ポイント高くなっています。

また、男性で「地域活動の場での男女の性別役割分担意識の解消」の割合が 43.2%で女性より 12.6 ポイント高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	参加のきっかけとなる地域活動情報の提供	地域活動の場での男女の性別役割分担意識の解消	配偶者や家族の協力	労働時間短縮や休暇制度の普及	団体等に対する補助金等の行政の支援	自身の地域活動に対する知識を高めるための研修や講座の開催	社会全体の中で、地域活動についての評価を高める	「クオータ制（自治会役員等の一定割合を女性に割り当てる）」を導入すること	特に必要なことはない	わからない	その他	無回答
男性	207	28.4	43.2	40.8	15.3	13.2	8.3	22.1	24.4	5.5	12.4	—	3.6
女性	247	27.1	30.6	46.7	19.4	6.9	14.7	13.1	11.7	4.5	18.5	1.5	2.9

【年代別】

年代別でみると、30 歳代から 70 歳以上において、「配偶者や家族の協力」の割合が最も高くなっています。

18～29 歳では「地域活動の場での男女の性別役割分担意識の解消」の割合が 42.5%で最も高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	参加のきっかけとなる地域活動情報の提供	地域活動の場での男女の性別役割分担意識の解消	配偶者や家族の協力	労働時間短縮や休暇制度の普及	団体等に対する補助金等の行政の支援	自身の地域活動に対する知識を高めるための研修や講座の開催	社会全体の中で、地域活動についての評価を高める	「クオータ制（自治会役員等の一定割合を女性に割り当てる）」を導入すること	特に必要なことはない	わからない	その他	無回答
18～29 歳	56	20.0	42.5	32.5	15.0	7.5	7.5	12.5	7.5	5.0	20.0	—	—
30 歳代	50	26.4	35.8	50.9	30.2	15.1	3.8	18.9	1.9	3.8	15.1	1.9	1.9
40 歳代	66	32.3	29.2	46.2	32.3	9.2	7.7	10.8	13.8	9.2	15.4	4.6	1.5
50 歳代	63	36.8	32.2	51.7	12.6	8.0	14.9	20.7	26.4	5.7	11.5	—	—
60 歳代	76	31.9	50.4	54.0	15.9	10.6	15.9	23.0	30.1	1.8	11.5	0.9	2.7
70 歳以上	146	23.2	31.3	37.4	10.1	9.1	15.2	17.2	16.2	4.0	19.2	—	8.1

【配偶者の有無別】

配偶者の有無別でみると、「配偶者や家族の協力」の割合は、配偶者・パートナーがいる人が46.8%で最も高くなっています。

また、配偶者・パートナーはいない人では、「地域活動の場での男女の性別役割分担意識の解消」の割合が41.4%で最も高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	参加のきっかけとなる地域活動情報の提供	地域活動の場での男女の性別役割分担意識の解消	配偶者や家族の協力	労働時間短縮や休暇制度の普及	団体等に対する補助金等の行政の支援	自身の研修や講座の開催	社会全体の中で、地域活動についての評価を高める	「クオータ制（自治会役員等の一定割合を女性に割り当てる）」を導入すること	特に必要なことはない	わからない	その他	無回答
配偶者・パートナーがいる	315	29.1	33.7	46.8	16.1	9.8	11.5	18.7	19.4	5.2	13.3	1.3	3.2
配偶者・パートナーはいない	145	24.4	41.4	38.7	20.0	9.3	12.8	13.9	12.5	4.3	21.3	0.5	3.8

【仕事の有無別】

収入をとまなう仕事の有無別でみると、仕事がある人と仕事がない人ともに「配偶者や家族の協力」の割合が最も高くなっています。

また、仕事がある人では「労働時間短縮や休暇制度の普及」の割合が高くなっています。

単位：％

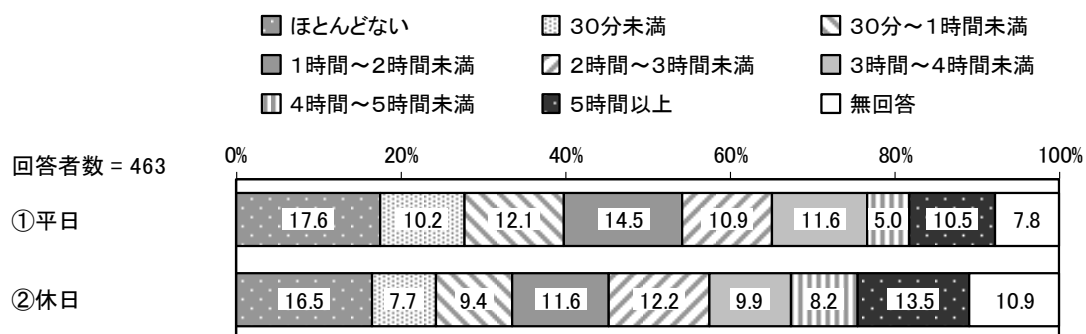
区分	回答者数(件)	参加のきっかけとなる地域活動情報の提供	地域活動の場での男女の性別役割分担意識の解消	配偶者や家族の協力	労働時間短縮や休暇制度の普及	団体等に対する補助金等の行政の支援	自身の研修や講座の開催	社会全体の中で、地域活動についての評価を高める	「クオータ制（自治会役員等の一定割合を女性に割り当てる）」を導入すること	特に必要なことはない	わからない	その他	無回答
仕事がある	272	29.6	38.6	48.1	21.9	10.8	12.0	18.5	18.0	5.4	13.2	1.7	2.3
仕事がない	185	24.4	33.2	39.1	10.8	8.1	11.2	14.7	16.5	4.3	20.0	—	5.2

5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問 21 あなたの1日あたりの家事・育児・介護の時間は平均してどのくらいですか。

平日では、「ほとんどない」の割合が 17.6%で最も高く、次いで「1 時間～2 時間未満」の割合が 14.5%、「30 分～1 時間未満」の割合が 12.1%となっています。

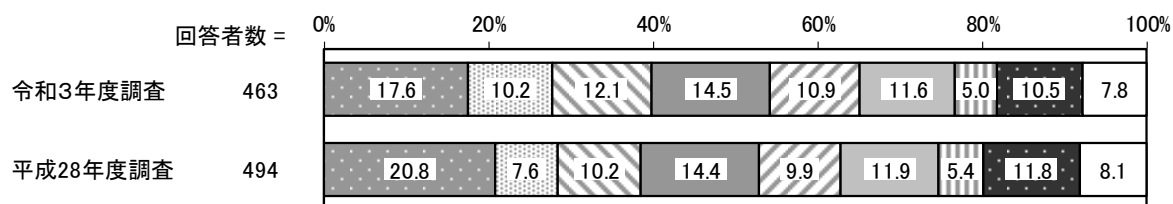
休日では、「ほとんどない」の割合が 16.5%で最も高く、次いで「5 時間以上」の割合が 13.5%、「2 時間～3 時間未満」の割合が 12.2%となっています。



① 平日

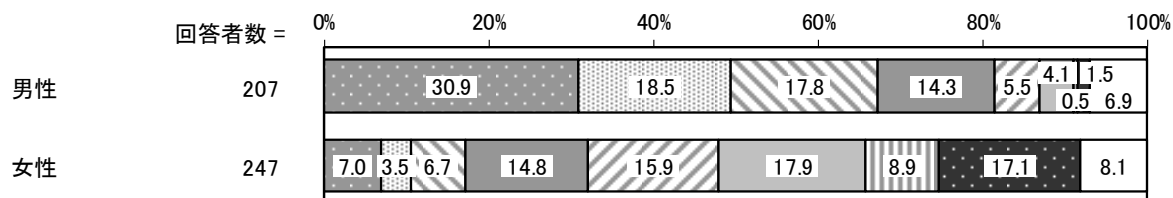
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



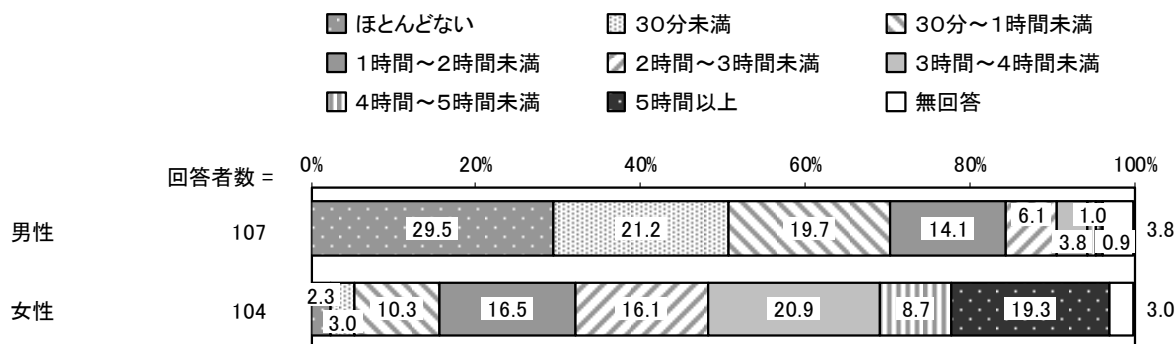
【性 別】

性別でみると、男性で「ほとんどない」の割合が 30.9%で最も高くなっています。また、女性で「2 時間～3 時間未満」「3 時間～4 時間未満」の割合が高くなっています。



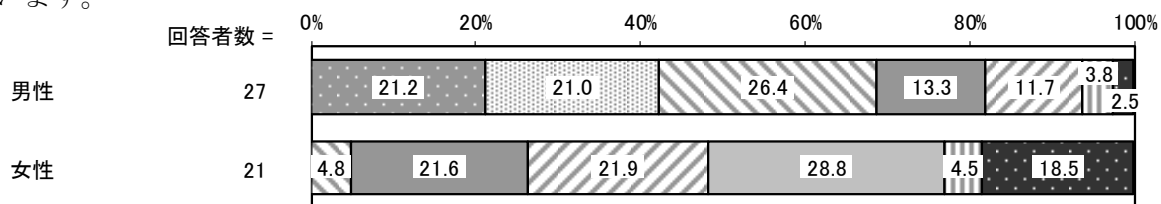
<残業が 20 時間以上の人のみ>

残業が 20 時間以上の人のみでみると、性別のグラフと同様に、男性で「ほとんどない」「30 分未満」「30 分～1 時間未満」の割合が高く、それぞれの割合も全体と同様となっています。女性では全体的に割合が高くなっています。



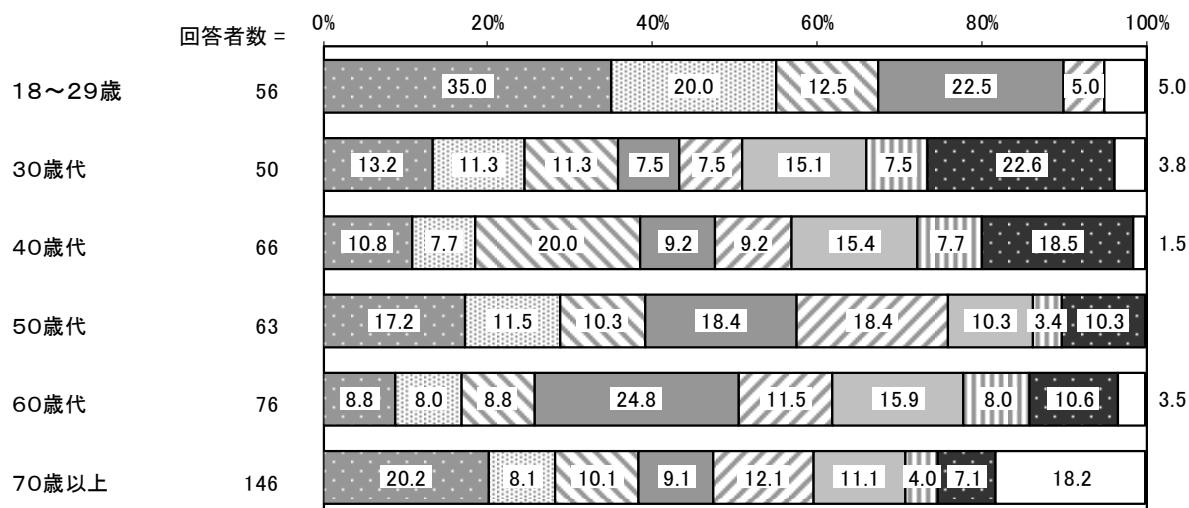
<夫婦ともに正社員の人のみ>

夫婦ともに正社員の人のみでみると、性別のグラフと同様に、男性で「ほとんどない」「30 分未満」「30 分～1 時間未満」の割合が高くなっていますが、「ほとんどない」の割合は、低くなっています。



【年代別】

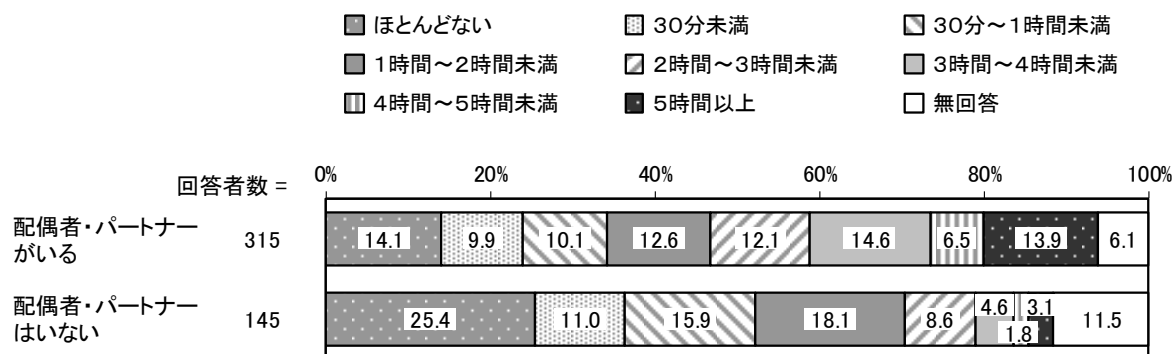
年代別でみると、「ほとんどない」の割合は、18～29 歳が 35.0%で最も高くなっています。また、30 歳代で「5 時間以上」の割合が他の年代より高くなっています。



【配偶者の有無別】

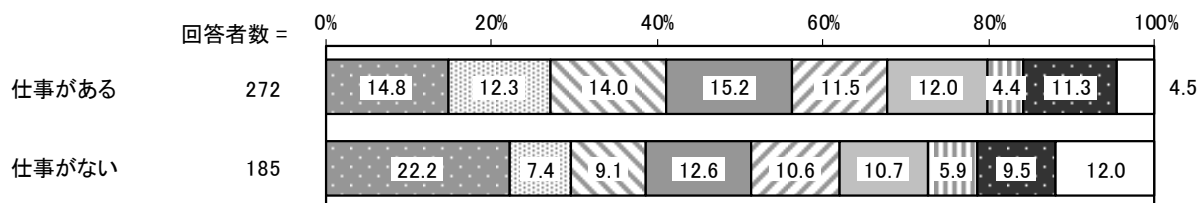
配偶者の有無別でみると、「ほとんどない」の割合は、「配偶者・パートナーはいない」と回答した人が25.4%で最も高くなっています。

また、「配偶者・パートナーがいる」と回答した人で「3時間～4時間未満」（14.6%）、「5時間以上」（13.9%）の割合が高くなっています。



【仕事の有無別】

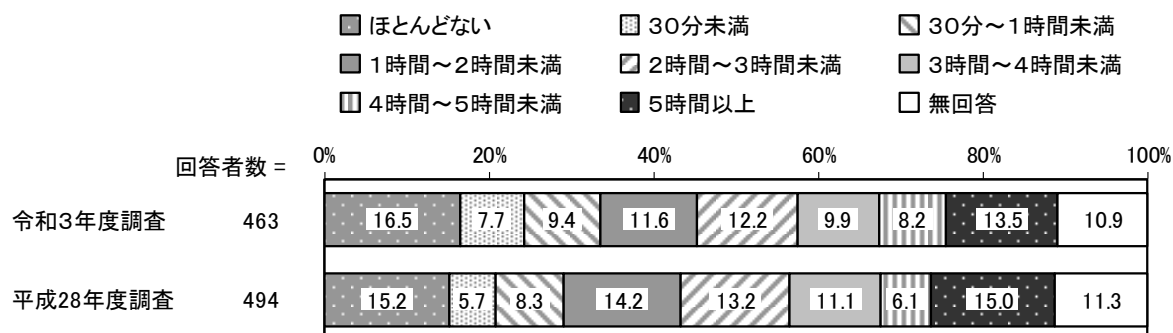
収入をとまなう仕事の有無別でみると、「ほとんどない」の割合は、仕事がない人が22.2%で最も高くなっています。



②休日

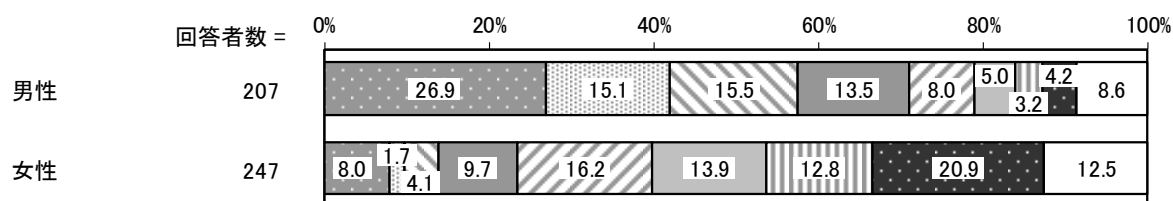
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



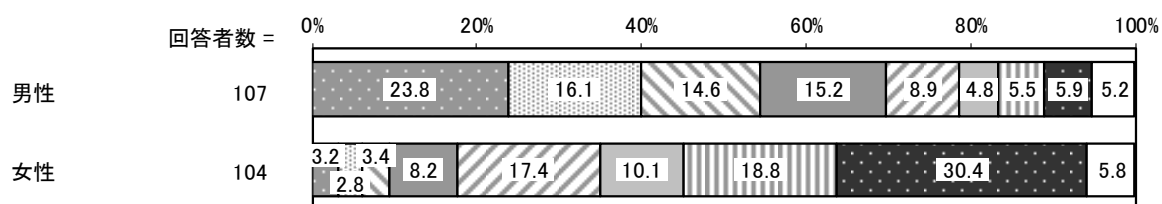
【性 別】

性別でみると、「5時間以上」の割合は、女性が20.9%で最も高くなっています。
また、男性で「ほとんどない」の割合が高くなっています。



<残業が20時間以上の人のみ>

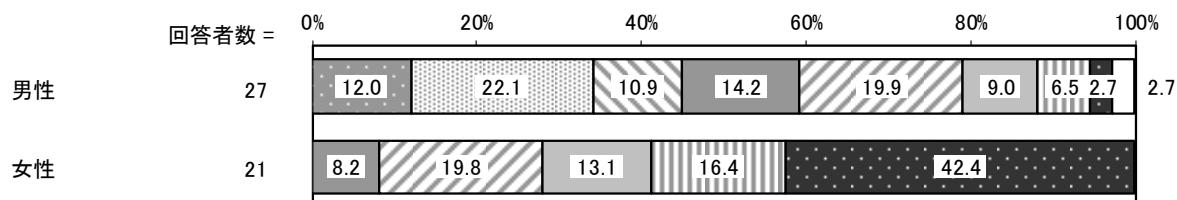
残業が20時間以上の人のみでみると、性別のグラフと同様に、男性で「ほとんどない」「30分未満」「30分～1時間未満」の割合が高く、女性で“3時間以上”の割合が高くなっています。



<夫婦ともに正社員の人のみ>

夫婦ともに正社員の人のみでみると、性別のグラフと同様に、男性のほうが女性よりも「ほとんどない」「30分未満」「30分～1時間未満」の割合が高くなっています。

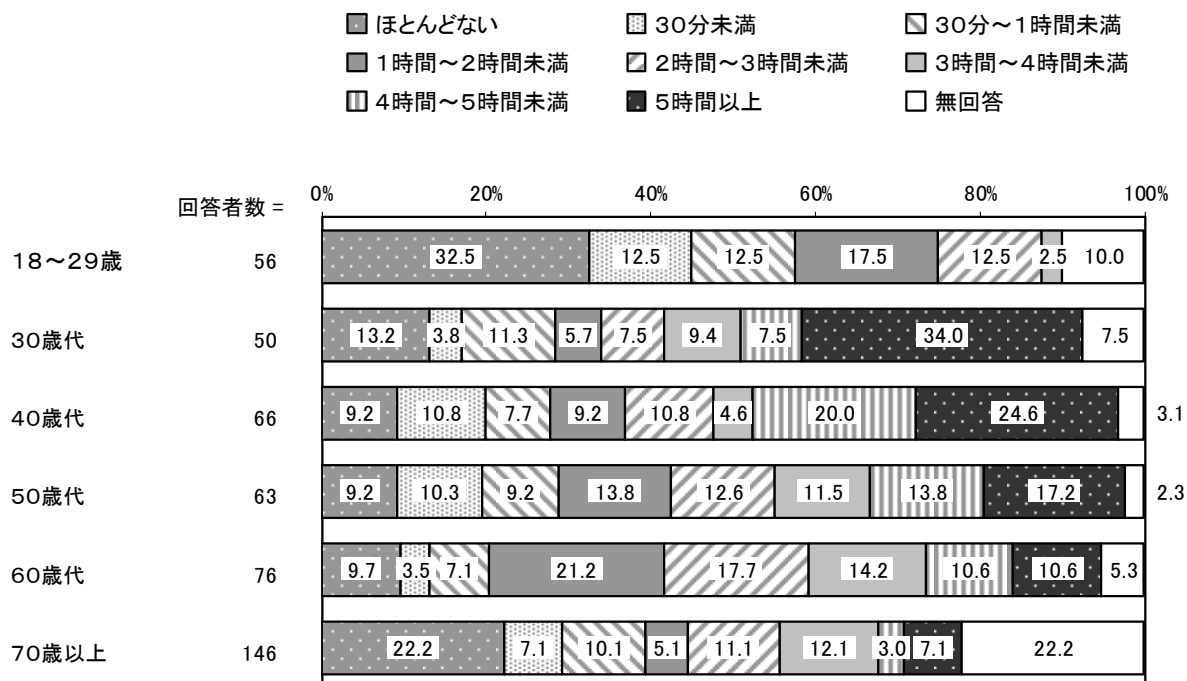
女性では“3時間以上”の割合が高く、また「5時間以上」の割合が4割台前半となっています。



【年代別】

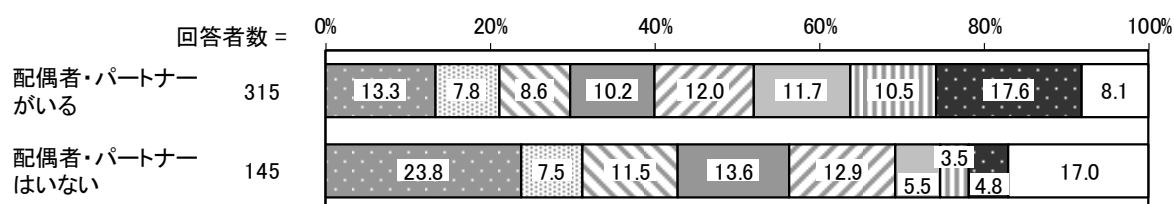
年代別でみると、「5時間以上」の割合は、30歳代が34.0%で最も高くなっていますが、40歳代以上では、年代とともに減少しています。

また、18～29歳と70歳以上で「ほとんどない」の割合が高くなっています。



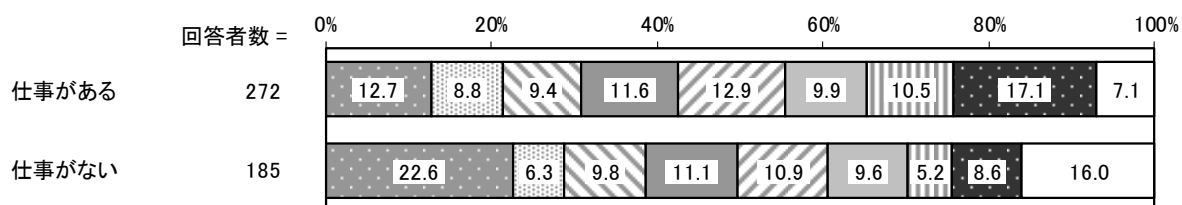
【配偶者の有無別】

配偶者の有無別でみると、「5時間以上」の割合は、配偶者・パートナーがいる人が17.6%で最も高くなっています。「ほとんどない」の割合は、配偶者・パートナーはいない人が23.8%で高くなっています。



【仕事の有無別】

仕事の有無別でみると、「5時間以上」の割合は、収入をとまなう仕事がある人が17.1%で最も高くなっています。「ほとんどない」の割合は、仕事がない人が22.6%で高くなっています。

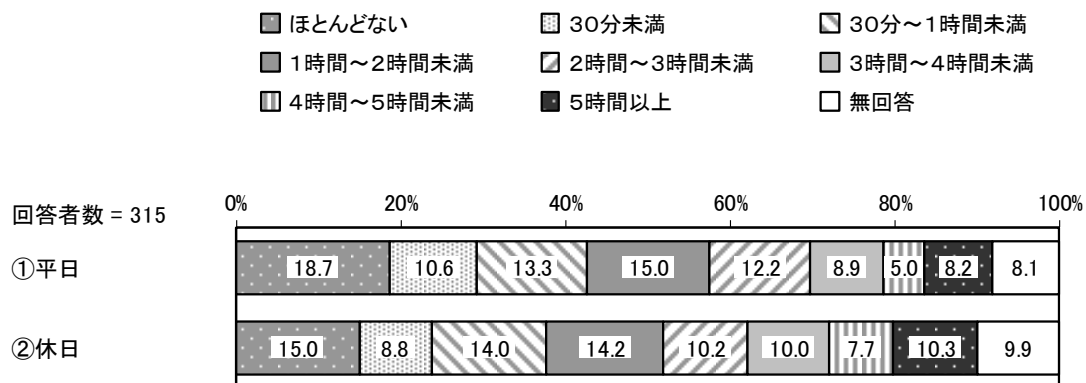


【配偶者・パートナーのいる方におたずねします】

問 22 あなたの配偶者・パートナーの1日あたりの家事・育児・介護時間は平均してどのくらいですか。

平日では、「ほとんどない」の割合が18.7%で最も高く、次いで「1時間～2時間未満」の割合が15.0%、「30分～1時間未満」の割合が13.3%となっています。

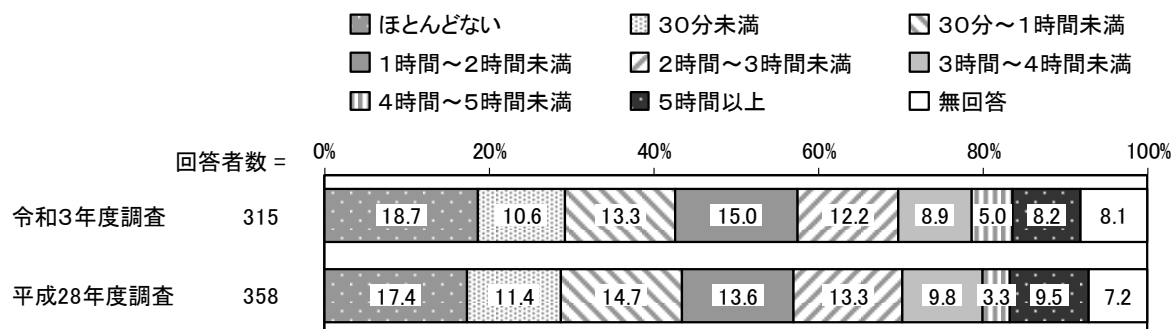
休日では、「ほとんどない」の割合が15.0%で最も高く、次いで「1時間～2時間未満」の割合が14.2%、「30分～1時間未満」の割合が14.0%となっています。



① 平日

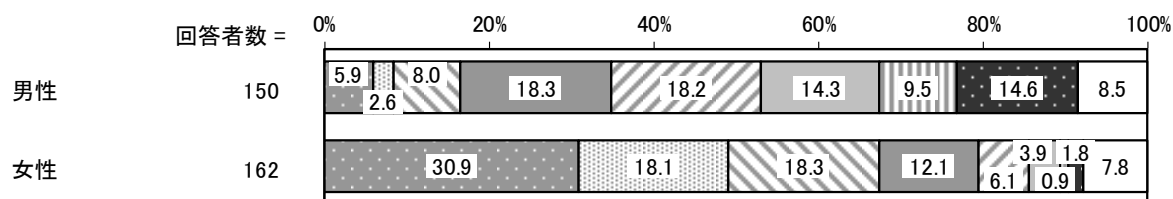
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



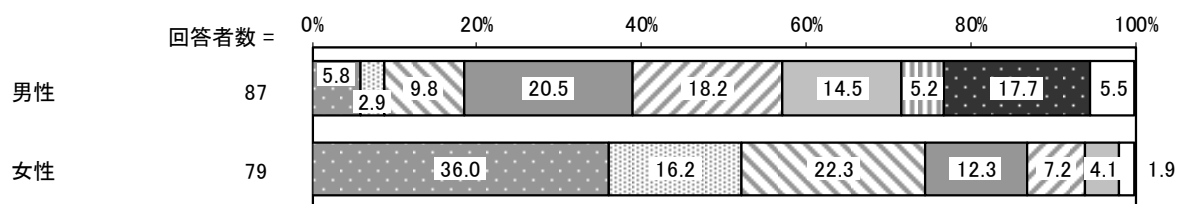
【性 別】

性別でみると、女性で（夫の家事・育児・介護の時間が）「ほとんどない」の割合が 30.9%で最も高くなっています。また、男性で（妻の家事・育児・介護の時間が）「2時間～3時間未満」（18.2%）、「5時間以上」（14.6%）、「3時間～4時間未満」（14.3%）の割合が高くなっています。



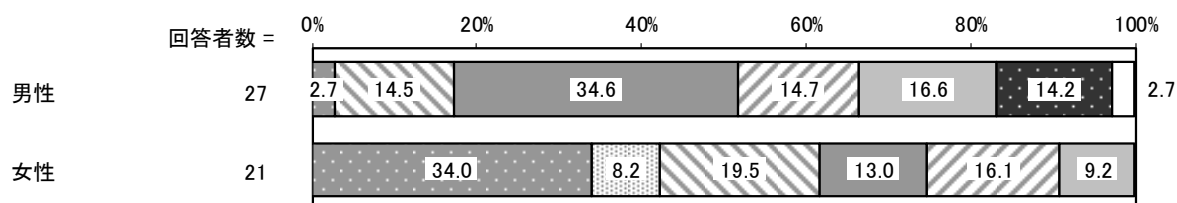
<残業が 20 時間以上の人のみ>

残業が 20 時間以上の人のみでみると、性別のグラフと同様に、女性で（夫の家事・育児・介護の時間が）「ほとんどない」（36.0%）、「30 分～1 時間未満」（22.3%）、「30 分未満」（16.2%）の割合が高くなっています。



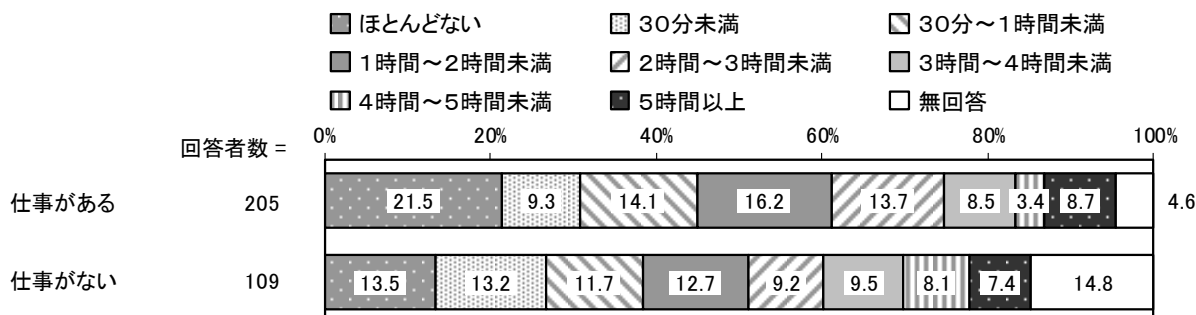
<夫婦ともに正社員の人のみ>

夫婦ともに正社員の人のみでみると、性別のグラフと同様に、女性で（夫の家事・育児・介護の時間が）「ほとんどない」（34.0%）、「30 分～1 時間未満」（19.5%）、「2 時間～3 時間未満」（16.1%）、「3 時間～4 時間未満」（9.2%）の割合が高くなっています。



【仕事の有無別】

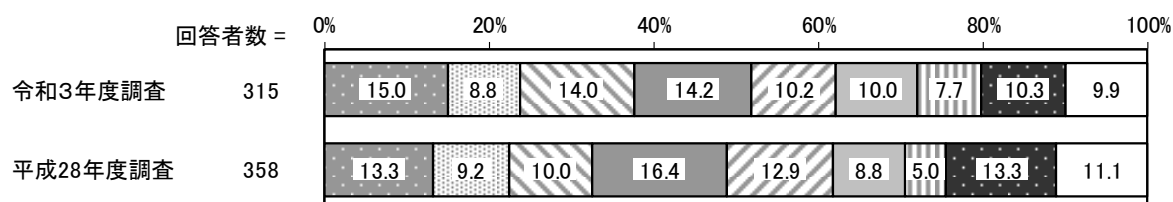
仕事の有無別でみると、「ほとんどない」の割合は、収入をとまなう仕事がある人が 21.5%で最も高くなっています。



②休日

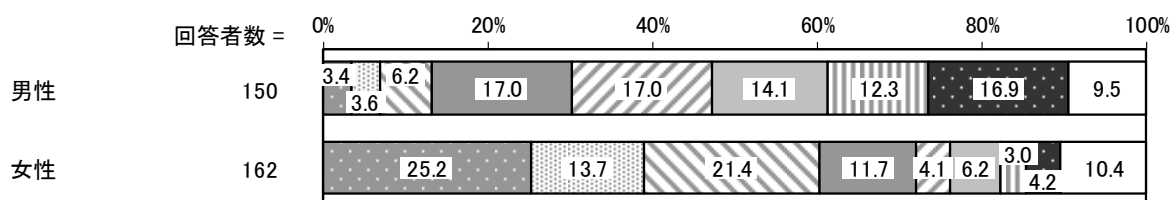
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



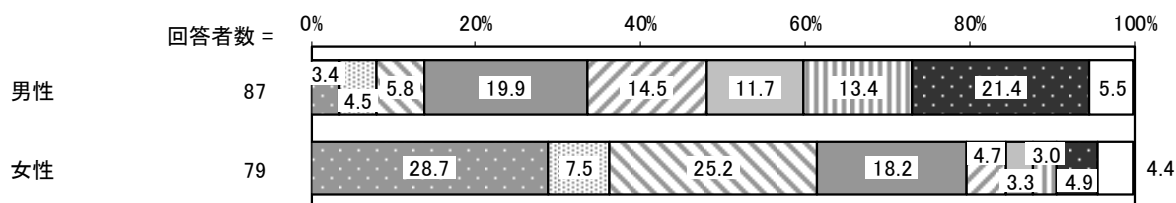
【性 別】

性別でみると、(夫の家事・育児・介護の時間が)「ほとんどない」の割合は、女性が 25.2%で最も高くなっています。



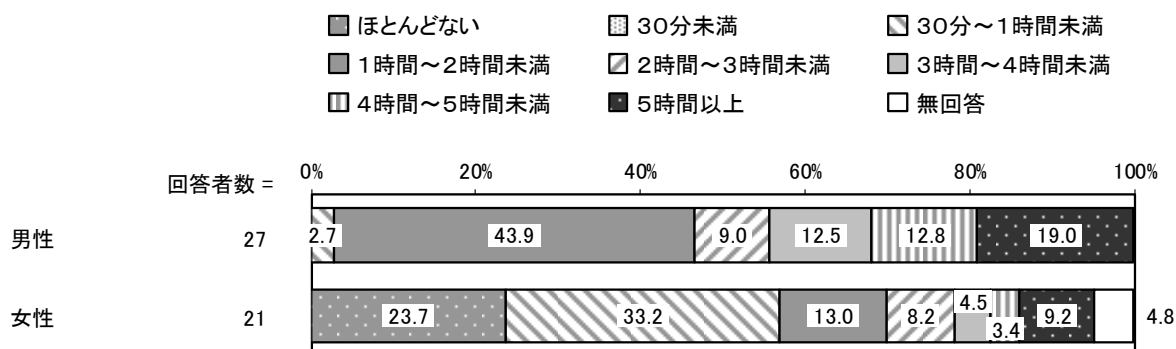
<残業が 20 時間以上の人のみ>

残業が 20 時間以上の人のみでみると、性別のグラフより、女性で (夫の家事・育児・介護の時間が)「ほとんどない」(28.7%)、「30 分～1 時間未満」(25.2%)、「1 時間～2 時間未満」(18.2%)の割合が高くなっています。



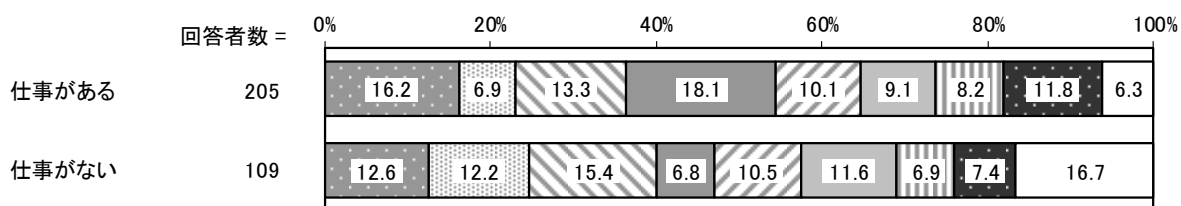
<夫婦ともに正社員の人のみ>

夫婦ともに正社員の人のみでみると、性別のグラフより、女性で（夫の家事・育児・介護の時間が）「30 分～1 時間未満」（33.2%）、「1 時間～2 時間未満」（13.0%）の割合がより高くなっています。



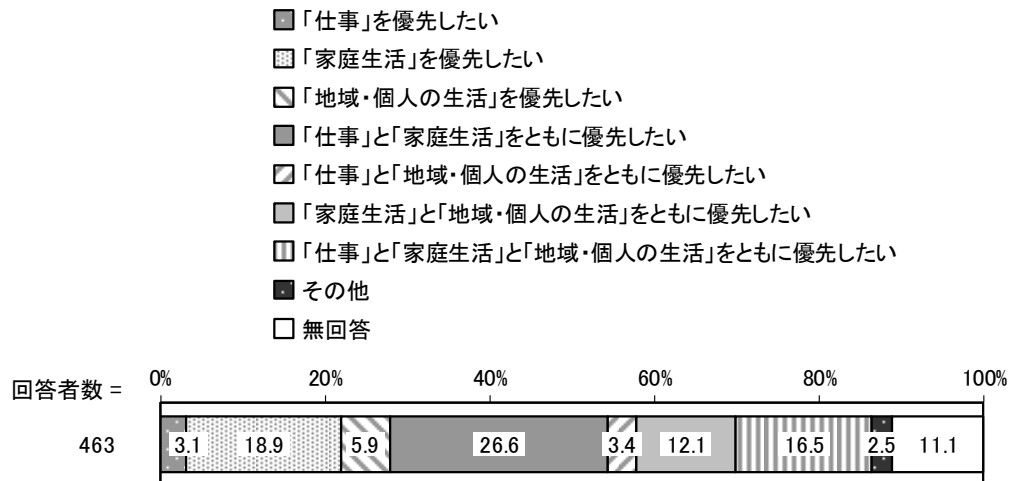
【仕事の有無別】

収入をとまなう仕事の有無別でみると、「1 時間～2 時間」の割合は、仕事がある人が 18.1%で最も高くなっています。



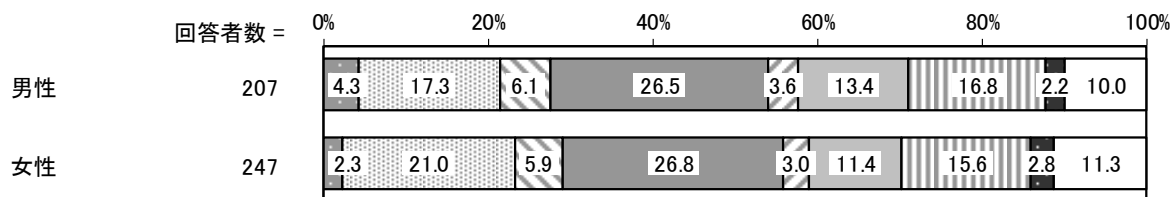
問 23 あなたが「希望する生活」は次のうちどれですか。(○は1つ)

「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が26.6%で最も高く、次いで「家庭生活」を優先したい」の割合が18.9%、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」の割合が16.5%となっています。



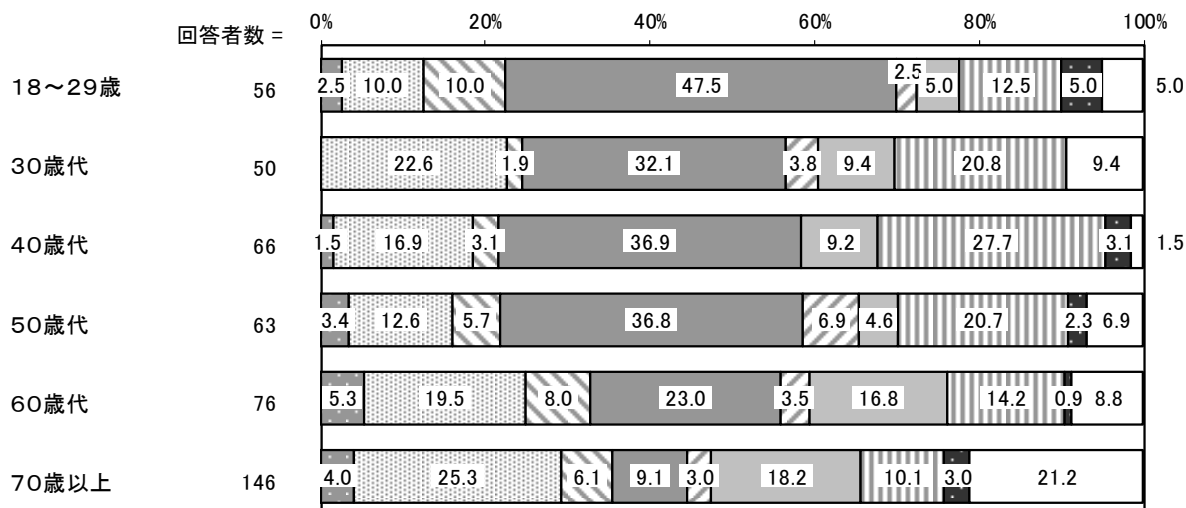
【性 別】

性別でみると、男女とも「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が最も高く、性別による大きな差異はみられません。



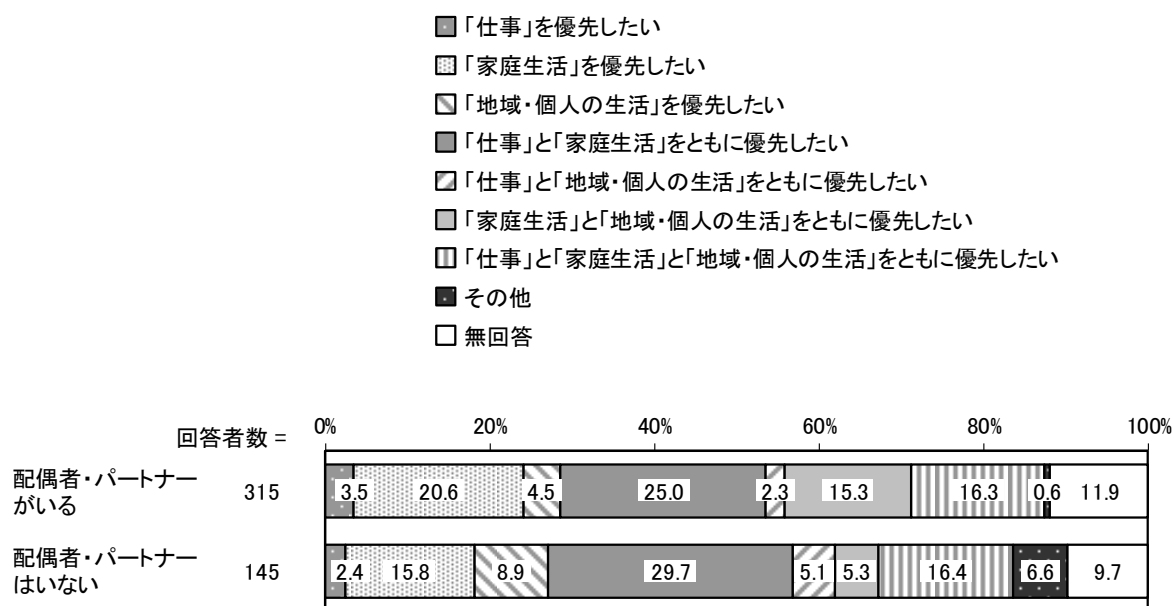
【年代別】

年代別でみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合は、18～29歳が47.5%で最も高くなっています。また、年代が低くなるにつれ「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が高くなる傾向がみられます。



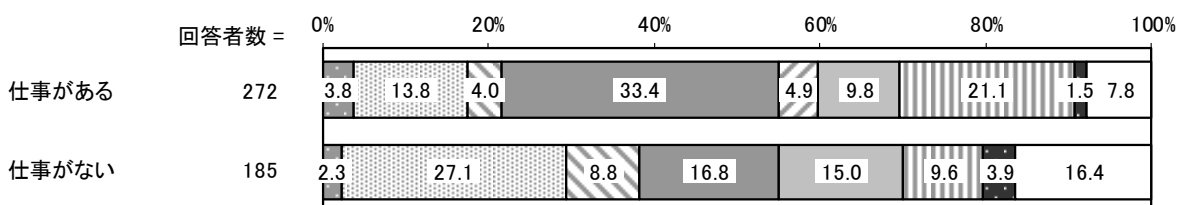
【配偶者の有無別】

配偶者の有無別でみると、配偶者・パートナーがいる人、いない人ともに「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が最も高くなっています。



【仕事の有無別】

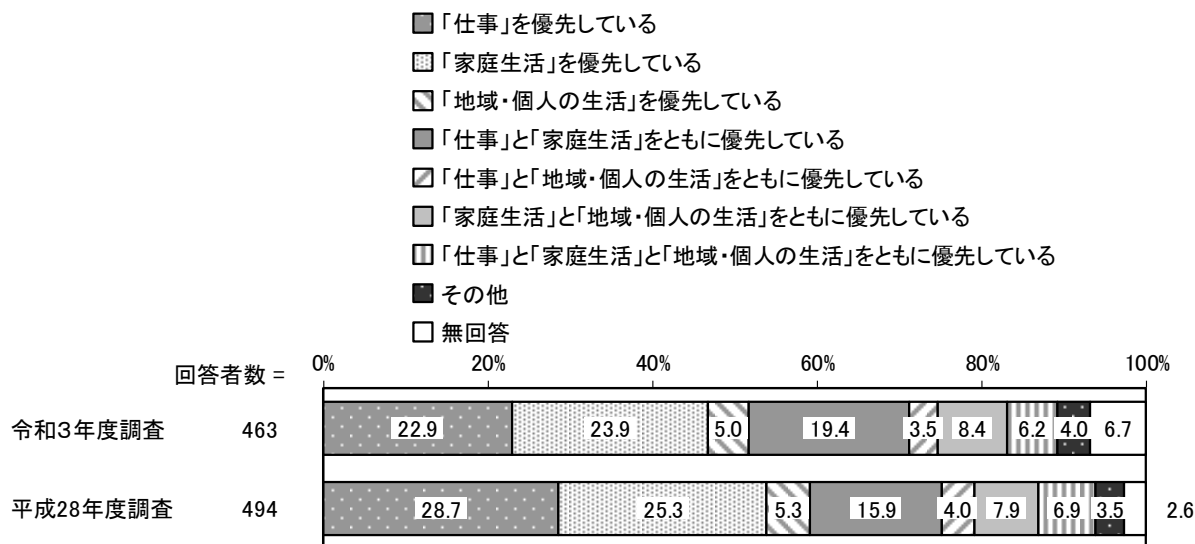
収入をとまなう仕事の有無別でみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合は、仕事がある人が33.4%で最も高くなっています。また、「家庭生活」を優先したい」の割合は、仕事がない人が27.1%で最も高くなっています。



問 24 あなたの「現実の生活」に最も近いものは次のうちどれですか。(〇は1つ)

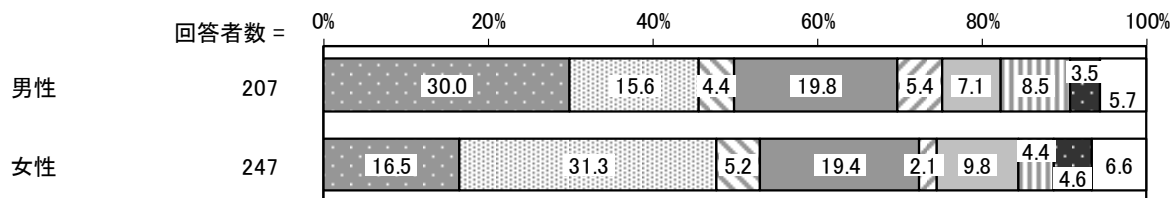
「家庭生活」を優先している」の割合が 23.9%で最も高く、次いで「仕事」を優先している」の割合が 22.9%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が 19.4%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「仕事」を優先している」の割合が減少しています。



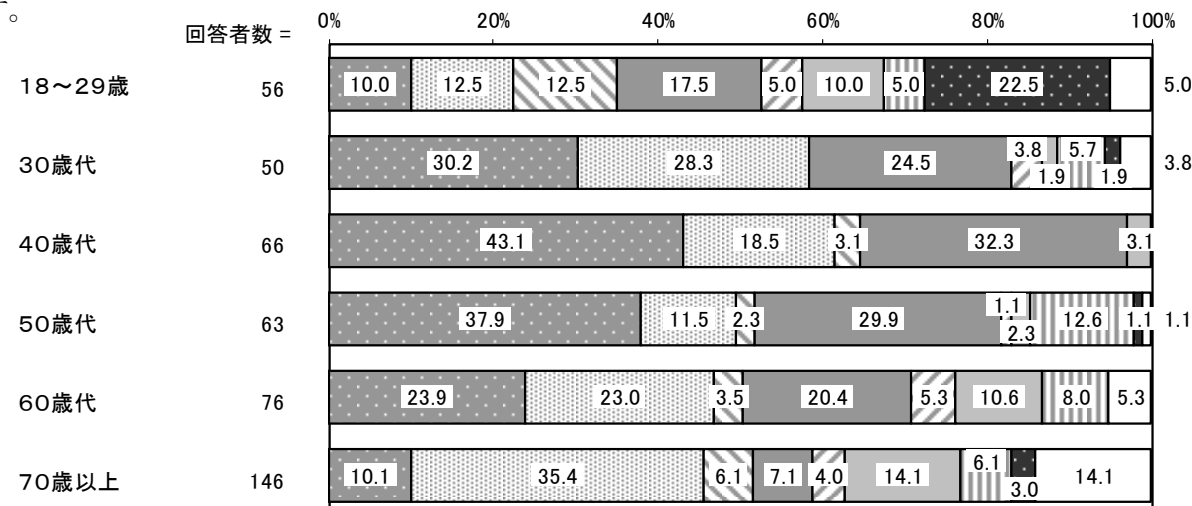
【性 別】

性別でみると、「仕事」を優先している」の割合は、男性が 30.0%で最も高くなっています。また、「家庭生活」を優先している」の割合は、女性が 31.3%で最も高くなっています。



【年代別】

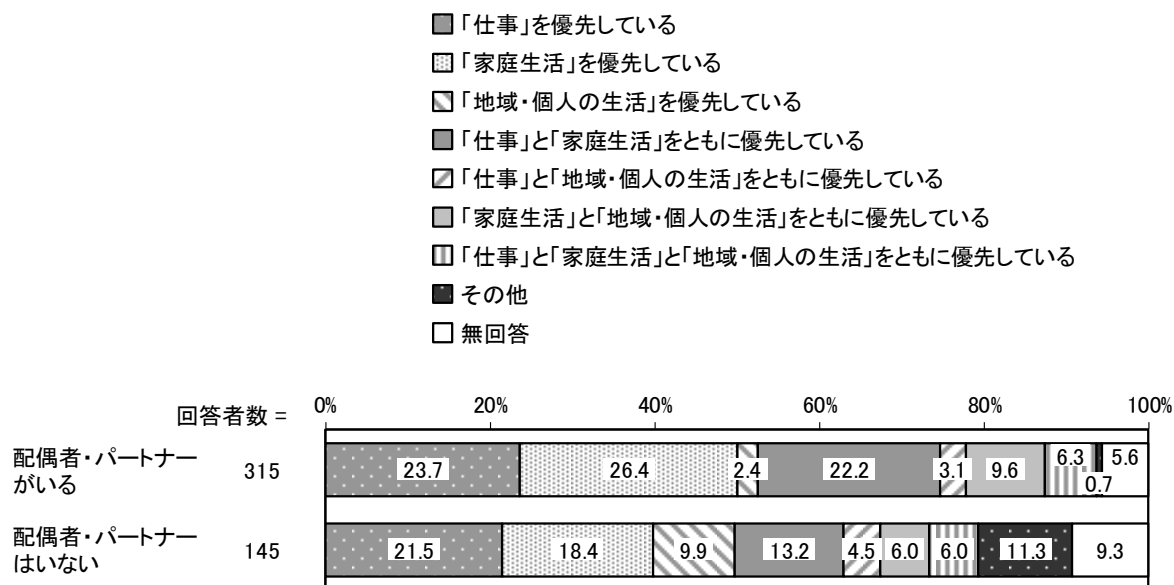
年代別でみると、「仕事」を優先している」の割合は、40 歳代が 43.1%で最も高くなっています。



【配偶者の有無別】

配偶者の有無別でみると、「家庭生活」を優先している」の割合は、配偶者・パートナーがいる人が26.4%で最も高くなっています。

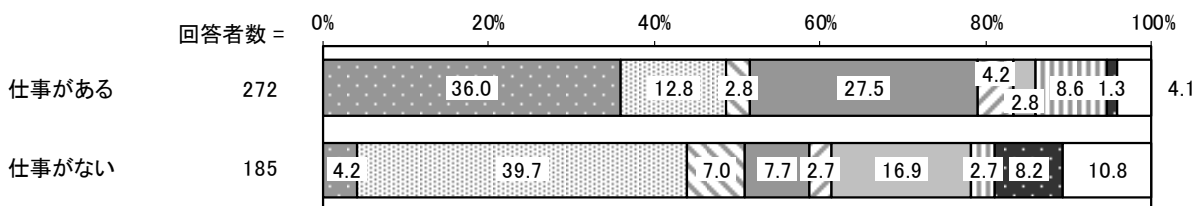
また、「仕事」を優先している」の割合は、配偶者・パートナーはいない人が21.5%で最も高くなっています。



【仕事の有無別】

収入をとまなう仕事の有無別でみると、「仕事」を優先している」の割合は、仕事がある人が36.0%で最も高くなっています。

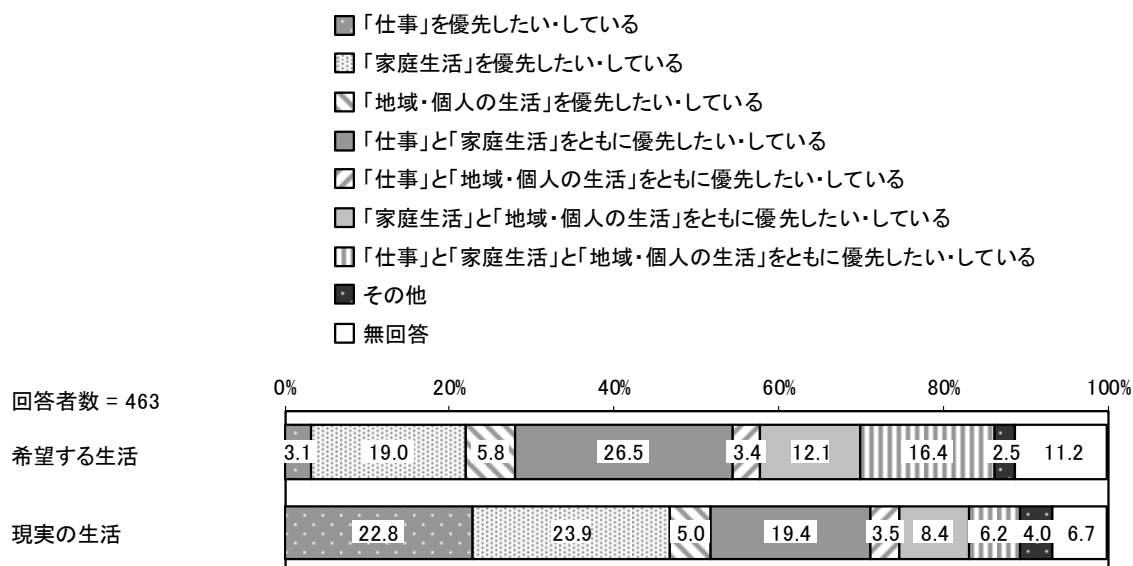
また、「家庭生活」を優先している」の割合は、仕事がない人が39.7%で最も高くなっています。



◎希望する生活と、現実の生活の比較

希望する生活と、現実の生活を比較すると、希望する生活に比べ、現実の生活では「仕事」を優先したい・している」の割合が19.7ポイント高くなっています。

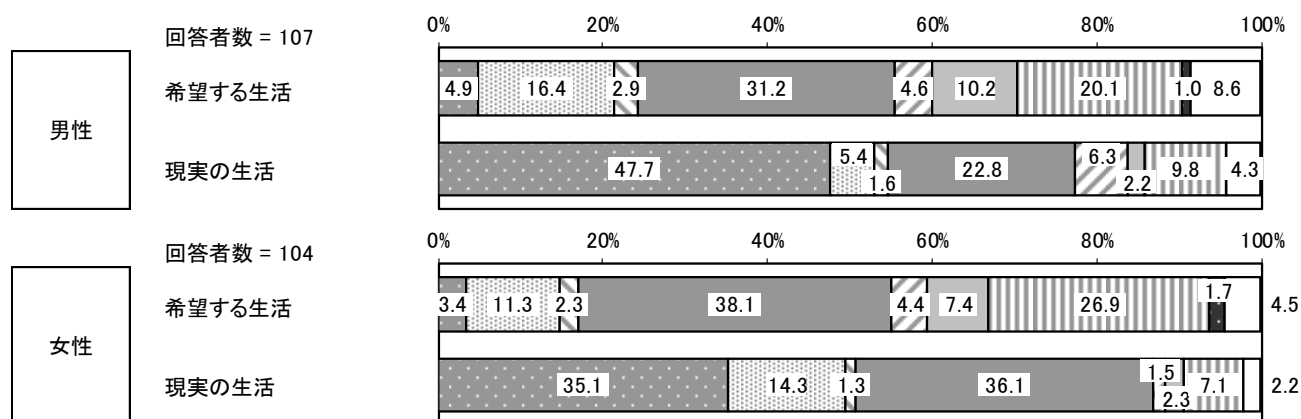
また、現実の生活では、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい・している」の割合は、希望する生活より7.1ポイント低く、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい・している」の割合が10.2ポイント低くなっています。



<残業が20時間以上の人のみ>

男女とも、全体と同様、希望する生活に比べ、現実の生活では「仕事」を優先したい・している」の割合が高く、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい・している」の割合が低くなっています。

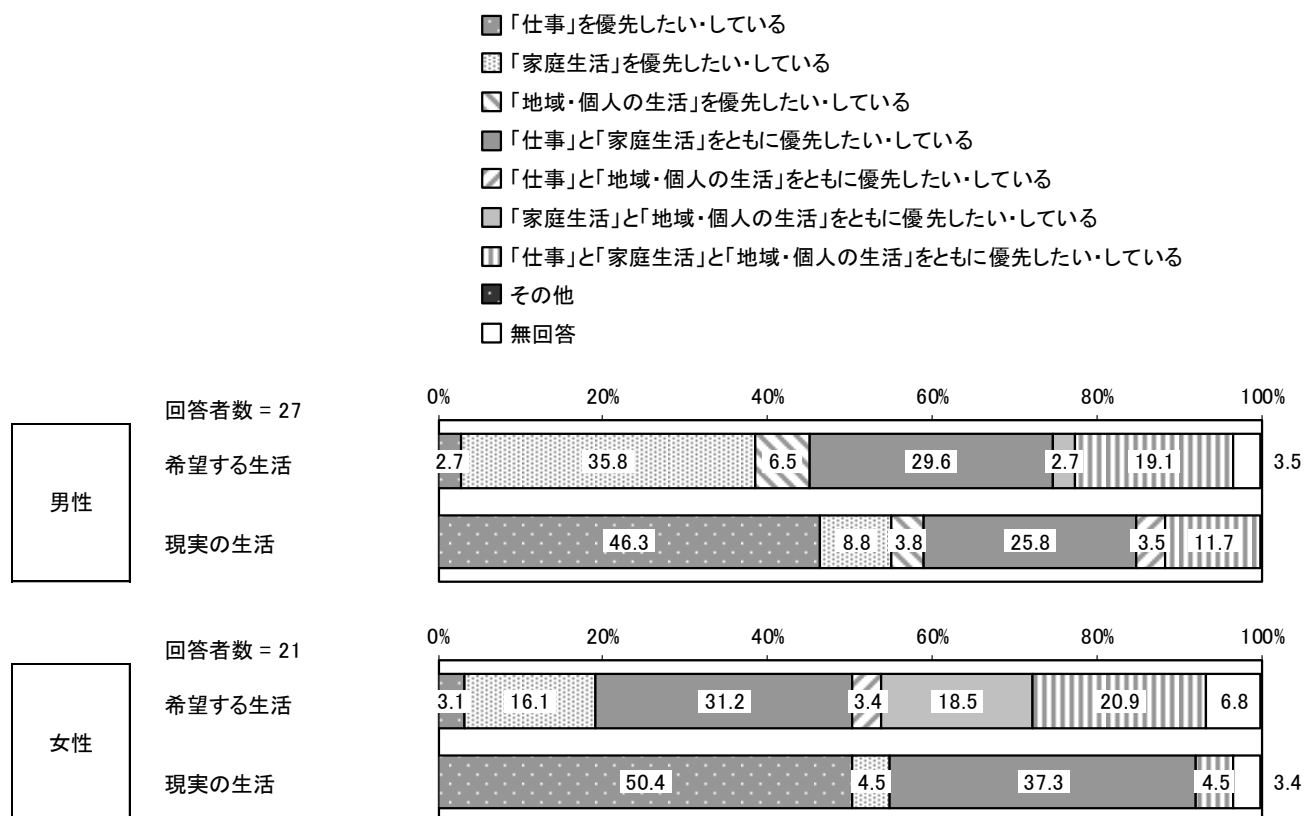
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい・している」の割合は、男性では現実の生活で低くなっていますが、女性では希望と現実で大きな差異はみられません。



＜夫婦ともに正社員の人のみ＞

男女とも、全体と同様、全体と同様、希望する生活に比べ、現実の生活では「仕事」を優先したい・している」の割合が高く、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい・している」の割合が低くなっています。

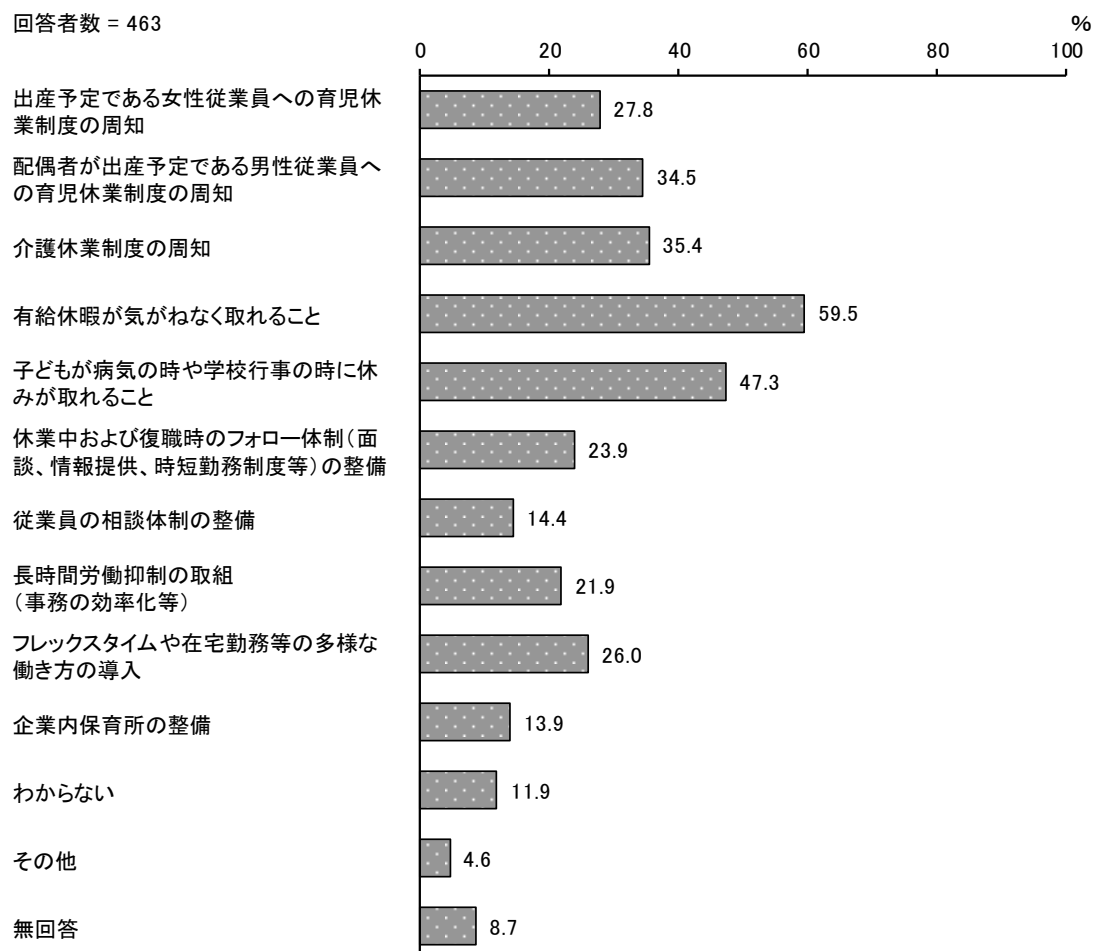
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい・している」の割合は、男女ともに希望と現実で大きな差異はみられません。



問 25 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）がとれた暮らしのために、職場の環境や制度として、今後、どのようなことが特に必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

「有給休暇が気がねなく取れること」の割合が 59.5%で最も高く、次いで「子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること」の割合が 47.3%、「介護休業制度の周知」の割合が 35.4%となっています。

回答者数 = 463



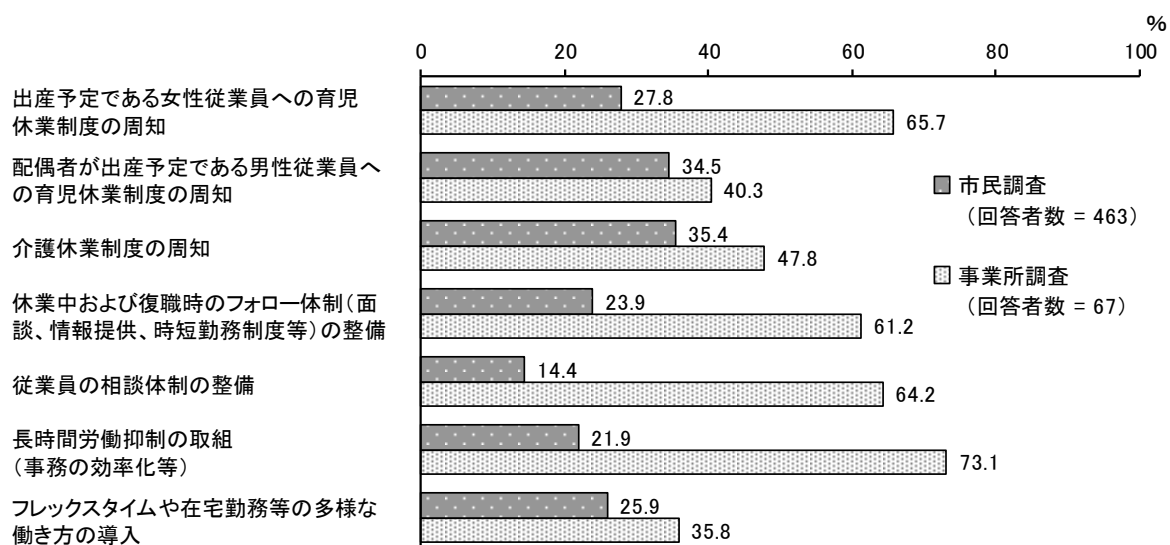
【事業所調査（実施している制度）との比較】

市民意識調査で、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）がとれた暮らしのために、職場の環境や制度として、今後、どのようなことが特に必要だと思いますか。」との設問に対し、

「介護休業制度の周知」（35.4%）、「配偶者が出産予定である男性従業員への育児休業制度の周知」（34.5%）と回答した人の割合が高くなっています。

一方、事業所調査で、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）推進のための取組実施状況」を調査したところ、「実施している」と回答のあった取組の状況は、下のグラフのとおりです。

「介護休業制度の周知」が47.8%、「配偶者が出産予定である男性従業員への育児休業制度の周知」が40.3%となっており、事業所ではある程度の取組が実施されているにもかかわらず、市民の認知度は低いという傾向がうかがえます。



【性 別】

性別でみると、男女とも「有給休暇が気がねなく取れること」の割合が最も高く、女性のほうが男性より割合が高くなっています。

また、女性で「出産予定である女性従業員への育児休業制度の周知」「子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること」の割合が高くなっています。

男女の割合に差がある項目としては「配偶者が出産予定である男性従業員への育児休業制度の周知」では男性 29.0%に対し女性 39.1%、「出産予定である女性従業員への育児休業制度の周知」では男性 23.6%に対し女性 31.9%となっており、いずれも女性の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	出産予定である女性従業員への育児休業制度の周知	配偶者が出産予定である男性従業員への育児休業制度の周知	介護休業制度の周知	有給休暇が気がねなく取れること	子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること	休業中および復職時のフォロー体制（面談、情報提供、時短勤務制度等）の整備	従業員の相談体制の整備	長時間労働抑制の取組（事務の効率化等）	フレックスタイムや在宅勤務等の多様な働き方の導入	企業内保育所の整備	わからない	その他	無回答
男性	207	23.6	29.0	33.4	55.6	36.1	23.2	12.8	21.0	24.5	11.0	16.0	2.2	7.2
女性	247	31.9	39.1	37.1	62.8	57.1	24.5	15.9	23.0	27.7	16.4	8.9	6.8	9.1
回答しない	2	—	—	—	50.0	50.0	—	—	—	—	50.0	—	—	—

【年代別】

年代別でみると、18～29 歳では、「出産予定である女性従業員への育児休業制度の周知」「配偶者が出産予定である男性従業員への育児休業制度の周知」の割合が高くなっています。

30 歳代では、「子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること」の割合が 71.4%で最も高く、次いで、「有給休暇が気がねなく取れること」が 64.2%となっています。

その他に「フレックスタイムや在宅勤務等の多様な働き方の導入」「休業中および復職時のフォロー体制（面談、情報提供、時短勤務制度等）の整備」の割合が高くなっています。

40 歳代・50 歳代では「有給休暇が気がねなく取れること」が最も高く、次に「子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること」の割合が高くなっています。

60 歳代・70 歳以上では、「有給休暇が気がねなく取れること」が最も高く、次に「子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること」や「介護休業制度の周知」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	出産予定である女性従業員への育児休業制度の周知	配偶者が出産予定である男性従業員への育児休業制度の周知	介護休業制度の周知	有給休暇が気がねなく取れること	子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること	休業中および復職時のフォロー体制（面談、情報提供、時短勤務制度等）の整備	従業員の相談体制の整備	長時間労働抑制の取組（事務の効率化等）	フレックスタイムや在宅勤務等の多様な働き方の導入	企業内保育所の整備	わからない	その他	無回答
18～29 歳	56	40.0	40.0	27.5	67.5	52.5	27.5	15.0	22.5	37.5	12.5	12.5	5.0	2.5
30 歳代	50	32.1	49.1	32.1	64.2	71.7	41.5	17.0	30.2	47.2	26.4	9.4	5.7	3.8
40 歳代	66	23.1	40.0	30.8	75.4	56.9	27.7	16.9	23.1	30.8	9.2	9.2	9.2	—
50 歳代	63	33.3	36.8	48.3	71.3	55.2	26.4	20.7	23.0	24.1	19.5	4.6	1.1	1.1
60 歳代	76	33.6	32.7	43.4	55.8	48.7	22.1	12.4	19.5	23.0	13.3	12.4	1.8	3.5
70 歳以上	146	18.2	24.2	31.3	43.4	28.3	14.1	11.1	19.2	14.1	10.1	17.2	5.1	22.2

【配偶者の有無別】

配偶者の有無別でみると、配偶者・パートナーがいる人、いない人とも「有給休暇が気がねなく取れること」「子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること」の割合が高くなっています。また、配偶者・パートナーがいない人で、配偶者・パートナーがいる人より「長時間労働抑制の取組（事務の効率化等）」の割合が8.2ポイント、「フレックスタイムや在宅勤務等の多様な働き方の導入」の割合が7.1ポイント高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	休業予定である女性従業員への育児休業制度の周知	配偶者が出産予定である男性従業員への育児休業制度の周知	介護休業制度の周知	有給休暇が気がねなく取れること	子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること	休業中および復職時のフォロー体制（面談、情報提供、時短勤務制度等）の整備	従業員の相談体制の整備	長時間労働抑制の取組（事務の効率化等）	多様な働き方の導入	フレックスタイムや在宅勤務等の導入	企業内保育所の整備	わからない	その他	無回答
配偶者・パートナーがいる	315	27.1	33.6	34.9	58.8	47.8	23.6	13.5	19.4	23.7	13.2	12.2	4.4	7.7	
配偶者・パートナーはいない	145	29.3	35.8	35.8	60.1	46.4	24.3	16.6	27.6	30.8	15.8	11.5	5.1	10.9	

【仕事の有無別】

収入をとまなう仕事の有無別でみると、仕事がある人、ない人ともに「有給休暇が気がねなく取れること」の割合が最も高く、特に仕事がある人で67.2%となっています。

また、仕事がある人で、仕事がない人より「子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること」の割合で16.9ポイント、「休業中および復職時のフォロー体制（面談、情報提供、時短勤務制度等）」の整備の割合が9.2ポイント高くなっています。

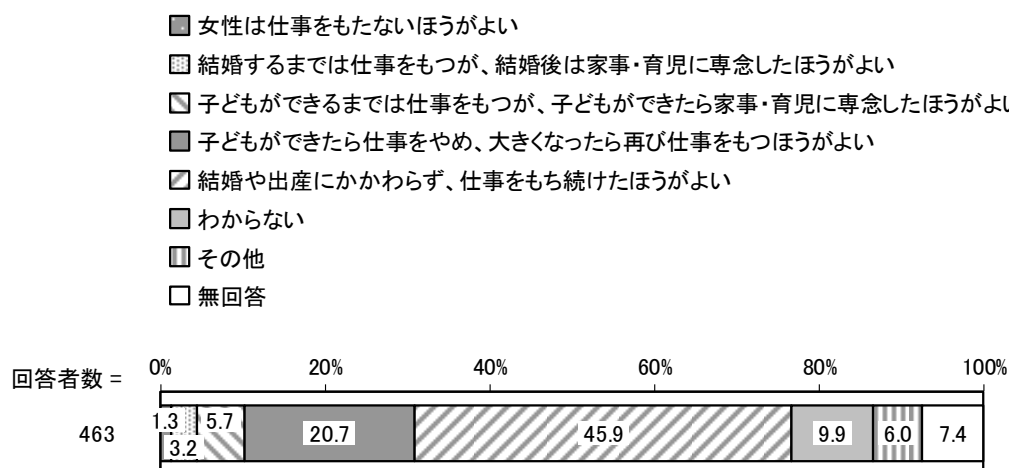
単位：％

区分	回答者数（件）	休業予定である女性従業員への育児休業制度の周知	配偶者が出産予定である男性従業員への育児休業制度の周知	介護休業制度の周知	有給休暇が気がねなく取れること	子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること	休業中および復職時のフォロー体制（面談、情報提供、時短勤務制度等）の整備	従業員の相談体制の整備	長時間労働抑制の取組（事務の効率化等）	多様な働き方の導入	フレックスタイムや在宅勤務等の導入	企業内保育所の整備	わからない	その他	無回答
仕事がある	272	30.5	38.5	38.4	67.2	54.2	27.7	18.3	21.8	31.4	16.8	8.0	4.8	3.8	
仕事がない	185	24.2	27.9	31.0	46.8	37.3	18.5	9.1	21.9	18.2	10.0	18.1	4.4	16.1	

6 職場等における女性の活躍について

問 26 「女性が仕事をもつ」ということについて、あなたはどのように考えていますか。(○は1つ)

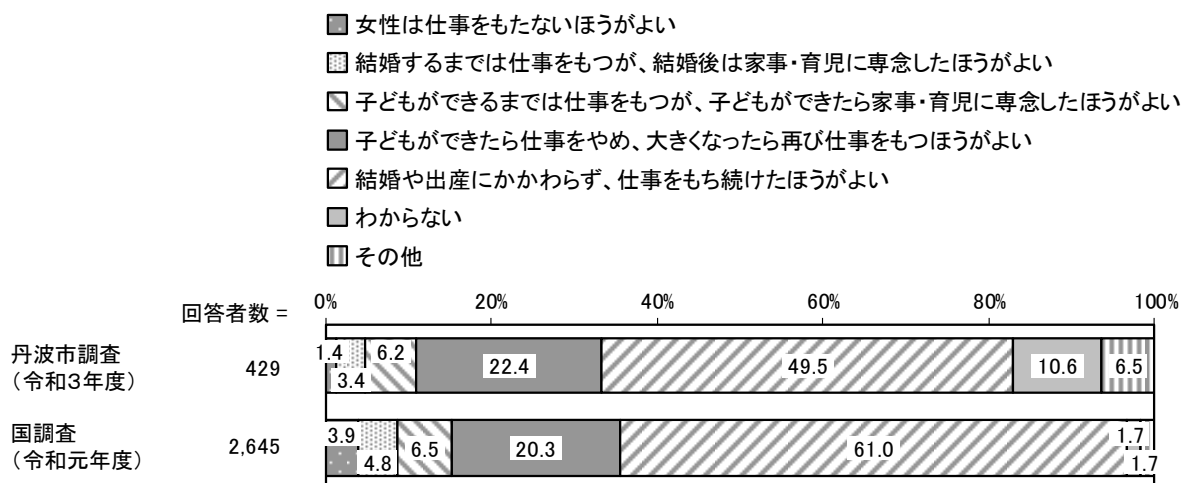
「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けたほうがよい」の割合が45.9%で最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつほうがよい」の割合が20.7%となっています。



【国調査との比較】

国調査と比較すると、丹波市のほうが「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けたほうがよい」の割合が11.5ポイント、「女性は仕事をもたないほうがよい」では2.5ポイント、「結婚するまでは仕事をもつが、結婚後は家事・育児に専念したほうがよい」では1.4ポイント、「子どもができるまでは仕事をもつが、子どもができたら家事・育児に専念したほうがよい」では0.3ポイント低くなっています。

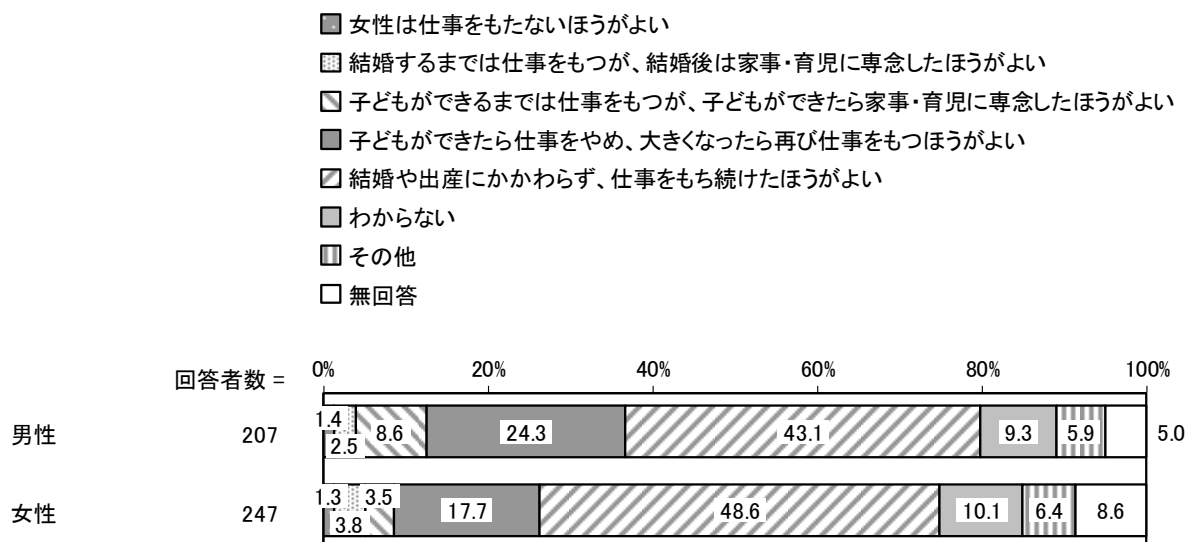
しかし、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつほうがよい」の割合は、丹波市のほうが国調査より2.1ポイント高くなっています。



※国調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

【性 別】

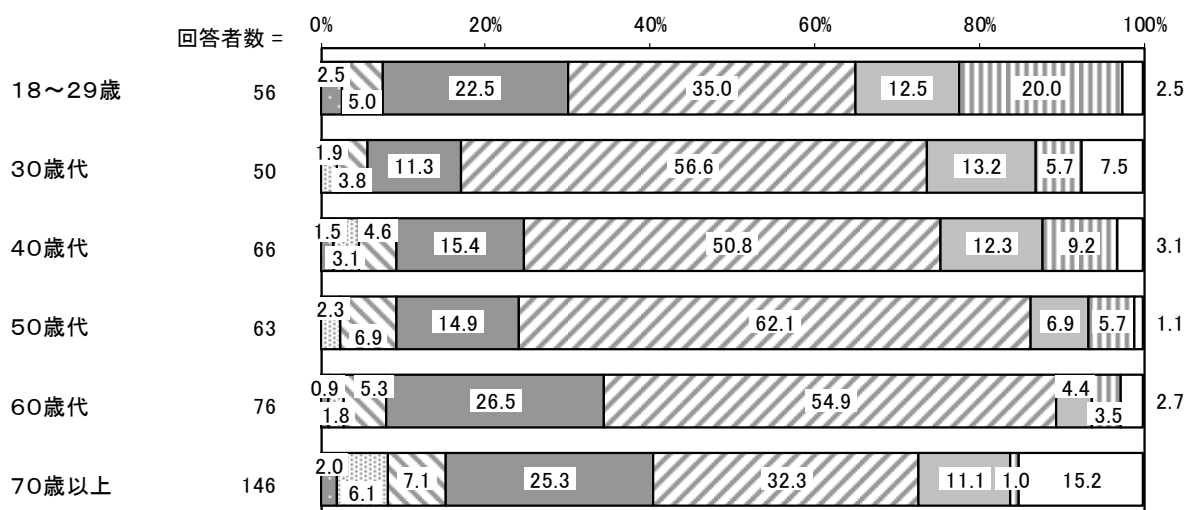
性別でみると、男女とも「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けたほうがよい」の割合が最も高くなっています。また、男性で「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもちほうがよい」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けたほうがよい」の割合は、50 歳代が 62.1%で最も高くなっています。

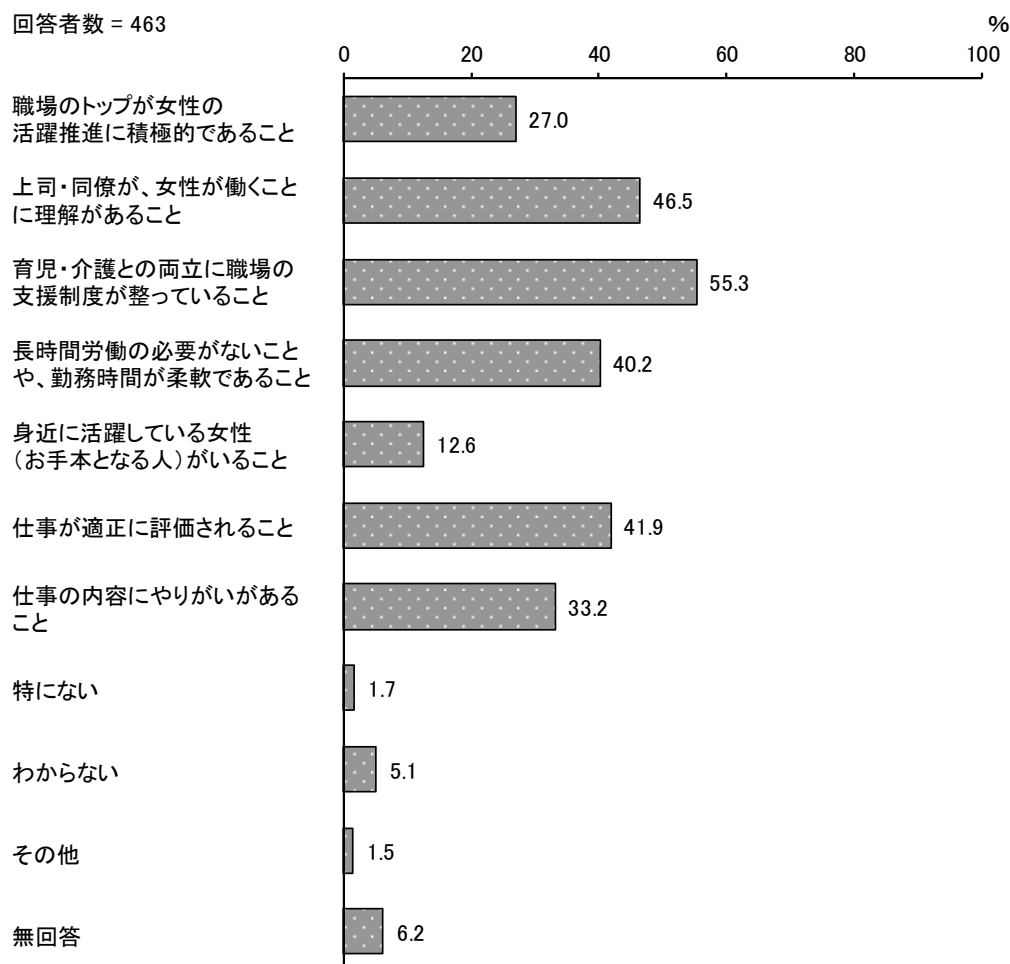
また、60 歳代で「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもちほうがよい」の割合が 26.5%と高くなっています。



問 27 女性が活躍できる仕事・職場環境にするために、特に必要なものは何だと思えますか。（〇はいくつでも）

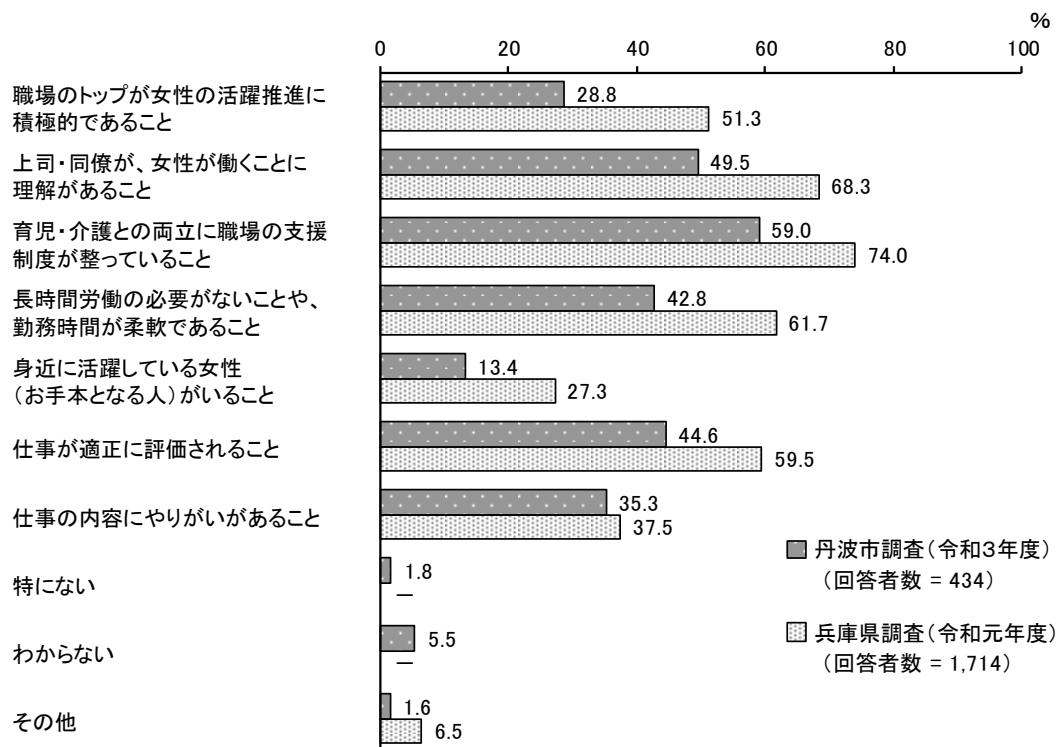
「育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」の割合が 55.3%で最も高く、次いで「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」の割合が 46.5%、「仕事が適正に評価されること」の割合が 41.9%となっています。

回答者数 = 463



【兵庫県調査との比較】

兵庫県調査と比較すると、丹波市のほうが「職場のトップが女性の活躍推進に積極的であること」で22.5ポイント、「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」で18.9ポイント、「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」で18.8ポイント割合が低くなっています。



※兵庫県調査には「特にない」「わからない」の選択肢はありません。

※兵庫県調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

【性 別】

性別でみると、男女とも「育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」の割合が最も高く、女性のほうが男性より 13.1 ポイント高くなっています。

また、「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」、「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」、「仕事が適正に評価されること」、「仕事の内容にやりがいがあること」の割合も男女とも高く、女性のほうが男性より高い割合になっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	職場のトップが女性の活躍推進に積極的であること	上司・同僚が、女性が働くことに理解があること	育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること	長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること	身近に活躍している女性（お手本となる人）がいること	仕事が適正に評価されること	仕事の内容にやりがいがあること	特にな	わからない	その他	無回答
男性	207	27.4	41.1	48.2	35.5	10.7	38.4	29.3	3.7	8.0	1.4	5.7
女性	247	26.1	51.4	61.3	44.4	14.2	45.1	36.4	—	2.3	1.6	6.2

【年代別】

年代別でみると、「育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」の割合は、すべての年代で高くなっていますが、特に 18～29 歳で 65.0％と高い割合となっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	職場のトップが女性の活躍推進に積極的であること	上司・同僚が、女性が働くことに理解があること	育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること	長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること	身近に活躍している女性（お手本となる人）がいること	仕事が適正に評価されること	仕事の内容にやりがいがあること	特にな	わからない	その他	無回答
18～29歳	56	22.5	47.5	65.0	42.5	10.0	45.0	32.5	5.0	7.5	—	2.5
30歳代	50	28.3	37.7	60.4	52.8	18.9	54.7	37.7	—	1.9	1.9	5.7
40歳代	66	24.6	50.8	58.5	46.2	15.4	43.1	35.4	3.1	6.2	4.6	—
50歳代	63	29.9	48.3	51.7	48.3	13.8	34.5	34.5	1.1	4.6	2.3	—
60歳代	76	39.8	57.5	64.6	39.8	15.0	54.0	38.9	0.9	1.8	—	3.5
70歳以上	146	21.2	40.4	45.5	29.3	8.1	32.3	27.3	1.0	7.1	1.0	14.1

【配偶者の有無別】

配偶者の有無別でみると、配偶者・パートナーがいる人、いない人ともに「育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」の割合が最も高くなっています。また、「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」の割合は、配偶者・パートナーはいない人が 51.2% で高い割合となっています。いずれも 5 割を超えており、他の項目との差が大きくなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	職場のトップが女性の活躍推進に積極的であること	上司・同僚が、女性が働くことに理解があること	育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること	長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること	身近に活躍している女性（お手本となる人）がいること	仕事に適正に評価されること	仕事の内容にやりがいがあること	特にない	わからない	その他	無回答
配偶者・パートナーがいる	315	27.1	44.1	54.6	40.2	11.7	41.1	34.3	0.9	5.0	2.2	6.3
配偶者・パートナーはいない	145	26.1	51.2	56.0	39.6	14.0	43.7	30.1	3.3	5.6	—	6.0

【仕事の有無別】

収入をとまなう仕事の有無別でみると、仕事がある人、ない人ともに「育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」の割合が最も高く、仕事がある人で 58.8%、ない人で 48.8% となっています。次に「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」の割合が高く、仕事がある人で 50.0%、ない人で 40.8% となっています。

また、仕事がある人では「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」が 47.6%、「仕事に適正に評価されること」が 47.1% で高い割合になっています。

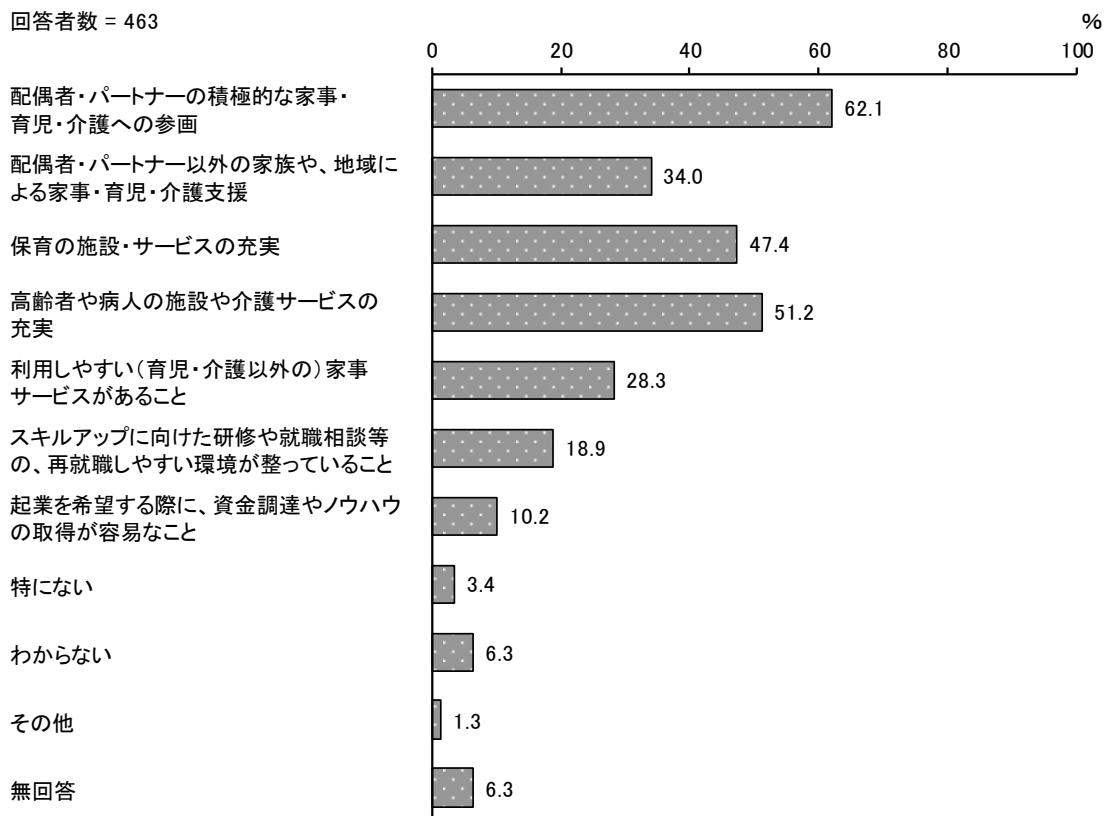
単位：％

区分	回答者数（件）	職場のトップが女性の活躍推進に積極的であること	上司・同僚が、女性が働くことに理解があること	育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること	長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること	身近に活躍している女性（お手本となる人）がいること	仕事に適正に評価されること	仕事の内容にやりがいがあること	特にない	わからない	その他	無回答
仕事がある	272	29.4	50.0	58.8	47.6	15.7	47.1	35.1	1.4	4.5	1.6	2.8
仕事がない	185	22.5	40.8	48.8	29.5	7.8	35.0	28.7	2.1	6.3	1.3	11.4

問 28 女性の活躍が進むためには、家族や社会等からどのような支援が特に必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

「配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画」の割合が 62.1%で最も高く、次いで「高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」の割合が 51.2%、「保育の施設・サービスの充実」の割合が 47.4%となっています。

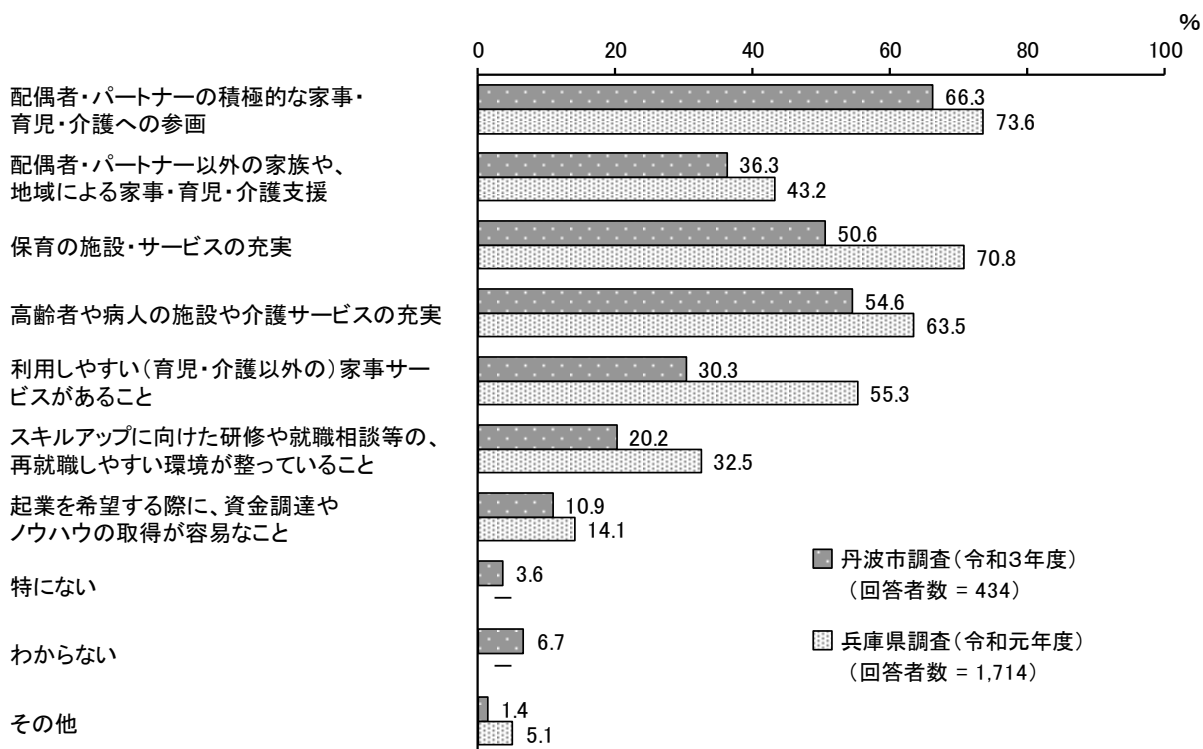
回答者数 = 463



【兵庫県調査との比較】

兵庫県調査と比較すると、すべての項目において割合が低くなっています。

特に「利用しやすい（育児・介護以外の）家事サービスがあること」で 25.0 ポイント、「保育の施設・サービスの充実」で 20.2 ポイント、「スキルアップに向けた研修や就職相談等の、再就職しやすい環境が整っていること」で 12.3 ポイント、丹波市のほうが低い割合となっています。



※兵庫県調査には「特にない」「わからない」の選択肢はありません。

※兵庫県調査は無回答を除いて集計しているため、丹波市調査も無回答を除いて集計しています。

【性 別】

性別でみると、男女ともに「配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画」の割合が最も高く、女性のほうが男性より 13.6 ポイント高くなっています。

また、「高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」や「保育の施設・サービスの充実」の割合も男女ともに高い割合となっていますが、女性のほうが高い割合となっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画	配偶者・パートナー以外の家族や、地域による家事・育児・介護支援	保育の施設・サービスの充実	高齢者や病人の施設や介護サービスの充実	利用しやすい(育児・介護以外の)家事サービスがあること	スキルアップに向けた研修や就職相談等の、再就職しやすい環境が整っていること	起業を希望する際に、資金調達やノウハウの取得が容易なこと	特にない	わからない	その他	無回答
男性	207	54.8	25.6	44.8	49.4	22.6	16.4	9.2	3.3	10.0	0.8	5.0
女性	247	68.4	41.0	50.1	52.9	33.0	20.2	11.1	3.2	2.7	1.8	7.1

【年代別】

年代別でみると、「配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画」の割合は、70歳以上を除くすべての年代で最も高い割合となっていますが、特に30歳で75.5%と高い割合となっています。

次に、「保育の施設・サービスの充実」も全体に高い割合となっていますが、特に30歳代以下で高くなっています。「高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」では、年代が上がるとともに割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画	配偶者・パートナー以外の家族や、地域による家事・育児・介護支援	保育の施設・サービスの充実	高齢者や病人の施設や介護サービスの充実	利用しやすい（育児・介護以外の）家事サービスがあること	スキルアップに向けた研修や就職相談等の、再就職しやすい環境が整っていること	起業を希望する際に、資金調達やノウハウの取得が容易なこと	特にない	わからない	その他	無回答
18～29歳	56	67.5	50.0	50.0	40.0	27.5	32.5	17.5	2.5	12.5	—	2.5
30歳代	50	75.5	52.8	60.4	39.6	37.7	22.6	15.1	—	5.7	1.9	5.7
40歳代	66	67.7	30.8	49.2	43.1	35.4	21.5	9.2	6.2	4.6	4.6	—
50歳代	63	64.4	29.9	49.4	57.5	31.0	18.4	11.5	5.7	5.7	1.1	—
60歳代	76	73.5	32.7	49.6	65.5	28.3	21.2	7.1	0.9	0.9	—	2.7
70歳以上	146	46.5	25.3	38.4	51.5	20.2	9.1	7.1	4.0	8.1	1.0	15.2

【配偶者の有無別】

配偶者の有無別でみると、配偶者・パートナーがいる人、いない人ともに割合が高いのは「配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画」、次に「保育の施設・サービスの充実」の割合が高くなっています。

「高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」の割合は、配偶者・パートナーがいる人が 52.6% で高くなっているのに対し、いない人では 46.9% と 5.7 ポイント低くなっています。

また、「配偶者・パートナー以外の家族や、地域による家事・育児・介護支援」の割合は、配偶者・パートナーはいない人が 44.1% と高くなっているのに対し、いる人では 29.0% と 15.1 ポイント低い割合となっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画	配偶者・パートナー以外の家族や、地域による家事・育児・介護支援	保育の施設・サービスの充実	高齢者や病人の施設や介護サービスの充実	利用しやすい（育児・介護以外の）家事サービスがあること	再就職しやすい環境が整っていること	スキルアップに向けた研修や就職相談等の取得が容易なこと	特になし	わからない	その他	無回答
配偶者・パートナーがいる	315	60.7	29.0	47.7	52.6	27.5	15.3	10.1	4.2	5.1	2.0	6.1
配偶者・パートナーはいない	145	64.2	44.1	46.3	46.9	29.5	25.8	10.0	1.7	8.8	—	7.1

【仕事の有無別】

収入をとまなう仕事の有無別でみると、仕事がある人、ない人ともに「配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画」の割合が最も高くなっていますが、仕事がある人のほうが11.6ポイント高くなっています。また、「高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」「保育の施設・サービスの充実」についても、仕事がある人、ない人ともに高い割合となっていますが、ある人のほうが高い割合となっています。

単位：％

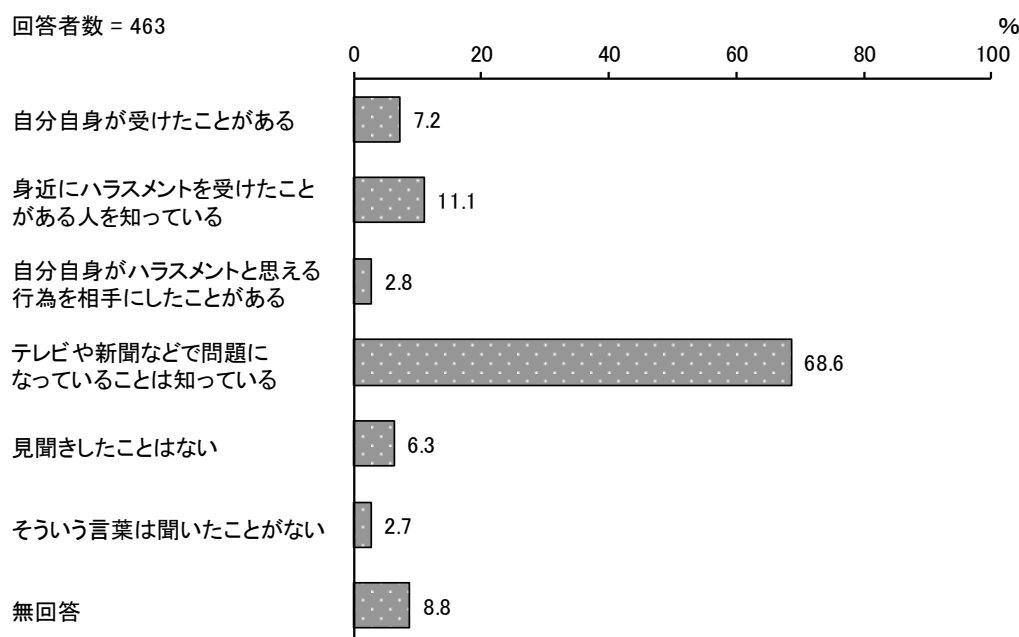
区分	回答者数(件)	配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画	配偶者・パートナー以外の家族や、地域による家事・育児・介護支援	保育の施設・サービスの充実	高齢者や病人の施設や介護サービスの充実	利用しやすい(育児・介護以外の)家事サービスがあること	再就職しやすい環境が整っていること	スキルアップに向けた研修や就職相談等の取得が容易なこと	特になし	わからない	その他	無回答
仕事がある	272	66.6	35.3	52.4	53.8	34.9	22.1	13.2	4.1	4.3	1.4	3.1
仕事がない	185	55.0	31.3	38.9	45.6	18.4	13.1	5.7	2.4	9.3	1.3	11.4

7 男女の人権侵害について

問 29 さまざまなハラスメント（いやがらせ、いじめ）などの人権侵害が問題になっていますが、あなたが経験したり、見聞きしたりしたことがある行為はありますか。（各項目で○はいくつでも）

①セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が 68.6%で最も高く、次いで「身近にハラスメントを受けたことがある人を知っている」の割合が 11.1%となっています。また「自分自身が受けたことがある」の割合は 7.2%となっています。



【性 別】

性別でみると、男女ともに「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が最も高く、男性のほうが女性より 8.2 ポイント高くなっています。

また、女性のほうが男性より「自分自身が受けたことがある」の割合が 10.0 ポイント高くなっています。

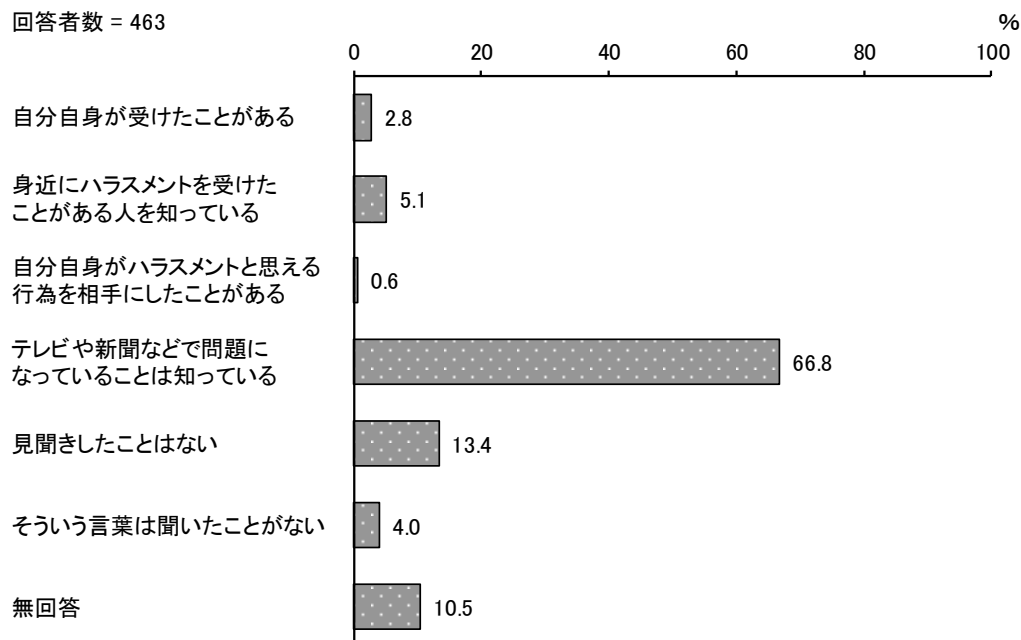
単位：%

区分	回答者数（件）	自分自身が受けたことがある	身近にハラスメントを受けたことがある人を知っている	自分自身がハラスメントと思える行為を相手にしたことがある	テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	見聞きしたことはない	そういう言葉は聞いたことがない	無回答
男性	207	1.9	10.1	3.8	73.0	5.8	2.9	7.8
女性	247	11.9	12.2	2.2	64.8	6.5	2.6	9.3

②マタニティ・ハラスメント（マタハラ）

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が 66.8%で最も高く、次いで「見聞きしたことはない」の割合が 13.4%となっています。

「身近にハラスメントを受けたことがある人を知っている」の割合は 5.1%、「自分自身が受けたことがある」の割合は 2.8%となっています。



【性 別】

性別でみると、男女とも「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が最も高くなっています。

また、男性のほうが女性より「見聞きしたことはない」の割合が 5.1 ポイント高くなっています。

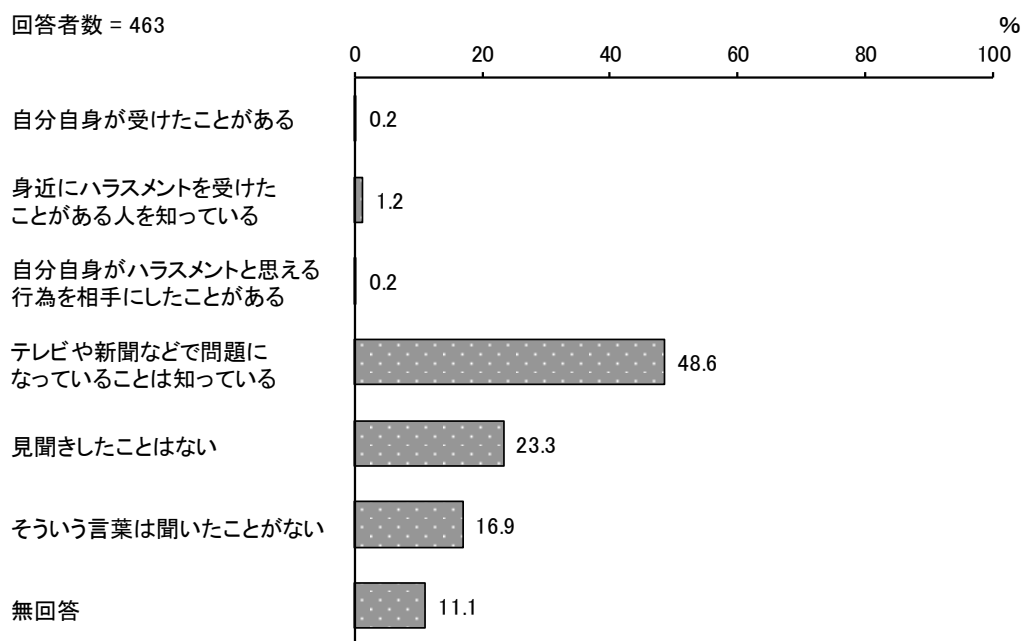
単位：%

区分	回答者数（件）	自分自身が受けたことがある	身近にハラスメントを受けたことがある人を知っている	自分自身がハラスメントと考える行為を相手にしたことがある	テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	見聞きしたことはない	そういう言葉は聞いたことがない	無回答
男性	207	—	3.9	1.0	66.5	16.0	3.3	10.6
女性	247	5.2	6.3	0.3	67.2	10.9	4.8	10.2

③パタニティ・ハラスメント（パタハラ）

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が 48.6%で最も高く、「見聞きしたことはない」の割合が 23.3%、「そういう言葉は聞いたことがない」の割合が 16.9%となっています。

「身近にハラスメントを受けたことがある人を知っている」の割合は 1.2%、「自分自身が受けたことがある」の割合は 0.2%となっています。



【性 別】

性別でみると、男女とも「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が最も高くなっていますが、男性のほうが女性より 5.3 ポイント高くなっています。

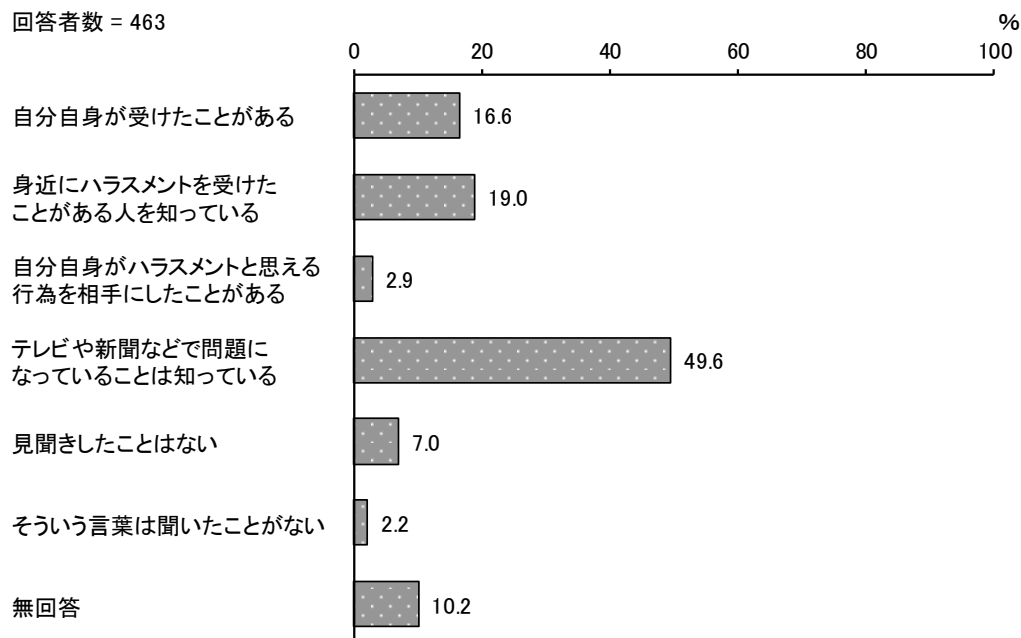
また、「そういう言葉は聞いたことがない」の割合では、女性のほうが 11.0 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	自分自身が受けたことがある	身近にハラスメントを受けたことがある人を知っている	自分自身がハラスメントと考える行為を相手にしたことがある	テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	見聞きしたことはない	そういう言葉は聞いたことがない	無回答
男性	207	—	1.1	0.3	51.7	25.4	11.2	10.9
女性	247	0.3	1.4	—	46.4	20.9	22.2	11.1

④パワー・ハラスメント（パワハラ）

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が 49.6%で最も高く、次いで「身近にハラスメントを受けたことがある人を知っている」の割合が 19.0%、「自分自身が受けたことがある」の割合が 16.6%となっています。



【性 別】

性別でみると、男女とも「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が最も高くなっており、男性のほうが女性より 3.8 ポイント高くなっています。

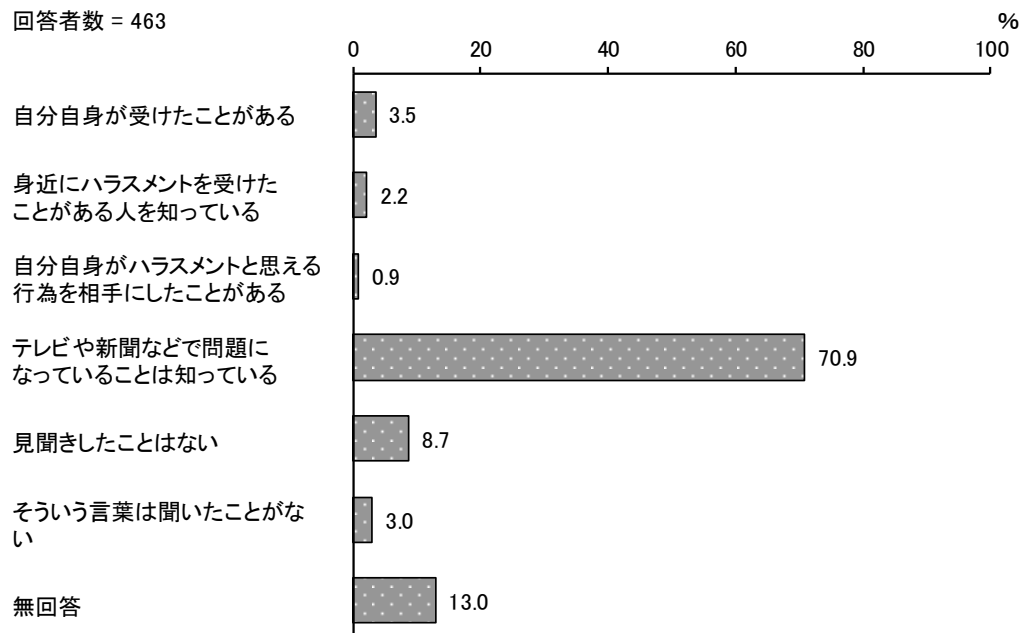
また、「自分自身が受けたことがある」では、女性のほうが 5.1 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	自分自身が受けたことがある	身近にハラスメントを受けたことがある人を知っている	自分自身がハラスメントと思える行為を相手にしたことがある	テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	見聞きしたことはない	そういう言葉は聞いたことがない	無回答
男性	207	13.9	19.1	5.0	51.5	8.3	1.4	8.9
女性	247	19.0	19.3	1.3	47.7	6.2	2.9	11.1

⑤ドメスティック・バイオレンス（DV）

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が70.9%で最も高くなっています。「自分自身が受けたことがある」が3.5%、「身近にハラスメントを受けたことがある人を知っている」が2.2%となっています。



【性 別】

性別でみると、男女とも「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が最も高く、次いで「見聞きしたことがない」が高くなっています。

「自分自身が受けたことがある」では、女性の割合が6.1%に対し男性は0%、「見聞きしたことはない」では、男性のほうが女性より5.0ポイント高くなっており、男女で差が見られます。

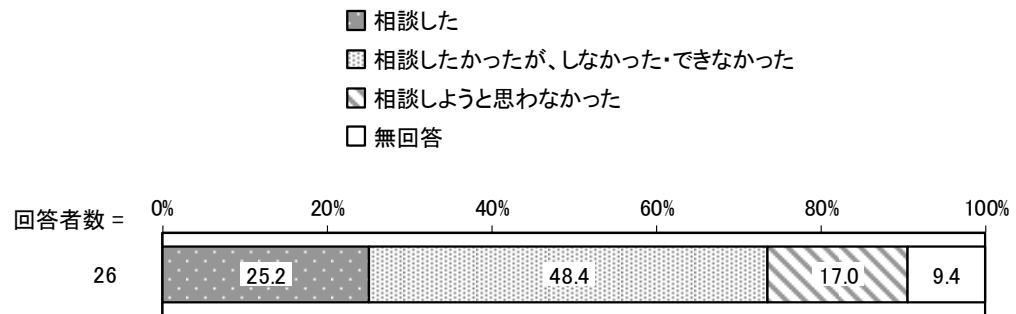
単位：%

区分	回答者数（件）	自分自身が受けたことがある	身近にハラスメントを受けたことがある人を知っている	自分自身がハラスメントと思える行為を相手にしたことがある	テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	見聞きしたことはない	そういう言葉は聞いたことがない	無回答
男性	207	—	2.0	2.1	71.0	11.6	3.5	12.0
女性	247	6.1	2.5	—	70.7	6.6	2.6	13.7

問 29 の⑤ドメスティック・バイオレンス（DV）について、「自分自身が受けたことがある」または「身近にハラスメントを受けたことがある人を知っている」と答えられた方におたずねします。

問 30 DVの被害を誰かに相談しましたか。（○は1つ）

「相談したかったが、しなかった・できなかった」の割合が 48.4%で最も高く、次いで「相談した」の割合が 25.2%、「相談しようと思わなかった」の割合が 17.0%となっています。



問 30 で「相談した」と回答された方におたずねします。

問 30-1 どこに（誰に）相談しましたか。

前問で、相談したと回答した人に主な相談先をたずねたところ、次のような意見（要旨）がありました。

（回答者 9 名中、意見件数延べ 9 件）

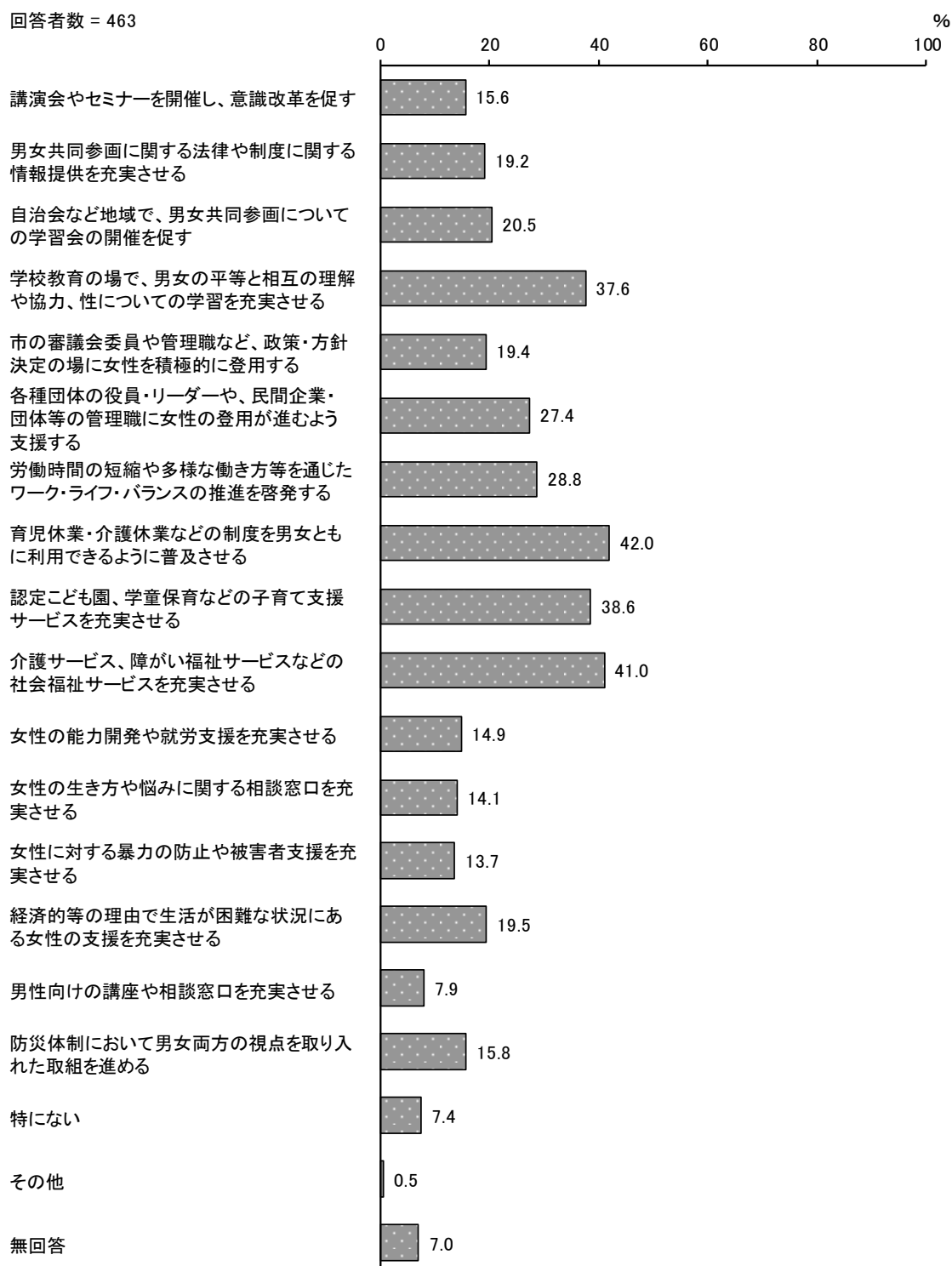
意見要旨	件数
友人、身内	4
病院、裁判所	1
親や司法書士	1
過去の事なので知ったときは、その方自身で相談解決された後	1
友達、警察、市の相談窓口	1
配偶者暴力支援センター（業務上携わることがあるので）	1
合計（延べ件数）	9

8 男女共同参画社会の実現に向けた丹波市の取組課題について

問 31 男女共同参画社会の実現に向けて、今後、丹波市が特に力を入れるべき項目は何だと思いますか。（〇はいくつでも）

「育児休業・介護休業などの制度を男女ともに利用できるように普及させる」の割合が 42.0%で最も高く、次いで「介護サービス、障がい福祉サービスなどの社会福祉サービスを充実させる」の割合が 41.0%、「認定こども園、学童保育などの子育て支援サービスを充実させる」の割合が 38.6%となっています。

回答者数 = 463



【性 別】

性別でみると、「育児休業・介護休業などの制度を男女ともに利用できるように普及させる」の割合は、女性が49.6%で最も高くなっていますが、男性は33.8%で15.8ポイント低くなっています。

また、「各種団体の役員・リーダーや、民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する」の割合は、男性が34.9%で最も高くなっていますが、女性は21.7%で13.2ポイント低くなっており、この2つの項目での男女差は10ポイント以上あります。

「学校教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力、性についての学習を充実させる」の割合は、女性が42.6%で高くなっていますが、男性は33.3%で9.3ポイント低くなっています。「介護サービス、障がい福祉サービスなどの社会福祉サービスを充実させる」の割合は、男性が41.2%で最も高くなっていますが、女性との差は見られません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	講演会やセミナーを開催し、 意識改革を促す	男女共同参画に関する法律や制度 に関する情報提供を充実させる	自治会など地域で、男女共同参画 についての学習会の開催を促す	学校教育の場で、男女の平等と 相互の理解や協力、性についての 学習を充実させる	市の審議会委員や管理職など、 政策・方針決定の場に女性を 積極的に登用する	各種団体の役員・リーダーや、民間 企業・団体等の管理職に女性の 登用が進むよう支援する	労働時間の短縮や多様な働き方等 を通じたワーク・ライフ・バランス の推進を啓発する。	育児休業・介護休業などの制度を 男女ともに利用できるように普及 させる	認定こども園、学童保育などの 子育て支援サービスを充実させる
男性	207	15.0	17.0	23.7	33.3	20.8	34.9	25.1	33.8	35.0
女性	247	16.6	21.4	18.6	42.6	18.2	21.7	32.1	49.6	42.2
回答しない	2	—	—	—	—	50.0	—	—	—	—

区分	介護サービス、障がい福祉サービ スなどの社会福祉サービスを充実 させる	女性の能力開発や就労支援を 充実させる	女性の生き方や悩みに関する 相談窓口を充実させる	女性に対する暴力の防止や 被害者支援を充実させる	経済的等の理由で生活が困難な 状況にある女性の支援を充実 させる	男性向けの講座や相談窓口を充実 させる	防災体制において男女両方の視点 を取り入れた取組を進める	特にない	その他	無回答
男性	41.2	12.4	11.8	12.2	16.3	5.1	16.2	7.3	1.0	5.8
女性	40.6	17.1	16.5	15.1	22.0	10.0	15.6	7.2	—	7.2
回答しない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0

【年代別】

年代別でみると、「育児休業・介護休業などの制度を男女ともに利用できるように普及させる」「認定こども園、学童保育などの子育て支援サービスを充実させる」の割合は、40歳代以下の年代の割合が高くなっています。

「介護サービス、障がい福祉サービスなどの社会福祉サービスを充実させる」は、18～29歳、50歳代以上の年代で割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	講演会やセミナーを開催し、 意識改革を促す	男女共同参画に関する法律や制度 に関する情報提供を充実させる	自治会など地域で、男女共同参画 についての学習会の開催を促す	学校教育の場で、男女の平等と 相互の理解や協力、性についての 学習を充実させる	市の審議会委員や管理職など、 政策・方針決定の場に女性を 積極的に登用する	各種団体の役員・リーダーや、民間 企業・団体等の管理職に女性の 登用が進むよう支援する	労働時間の短縮や多様な働き方等 を通じたワーク・ライフ・バランス の推進を啓発する。	育児休業・介護休業などの制度を 男女ともに利用できるように普及 させる	認定こども園、学童保育などの 子育て支援サービスを充実させる
18～29歳	56	12.5	22.5	20.0	50.0	17.5	27.5	40.0	52.5	52.5
30歳代	50	9.4	20.8	9.4	41.5	17.0	22.6	49.1	58.5	50.9
40歳代	66	10.8	23.1	7.7	43.1	21.5	27.7	40.0	47.7	41.5
50歳代	63	17.2	20.7	24.1	39.1	16.1	33.3	34.5	37.9	39.1
60歳代	76	15.0	21.2	21.2	43.4	24.8	28.3	25.7	41.6	38.1
70歳以上	146	21.2	14.1	29.3	26.3	18.2	26.3	12.1	31.3	27.3

区分	介護サービス、障がい福祉サー ビスなどの社会福祉サービスを充 実させる	女性の能力開発や就労支援を 充実させる	女性の生き方や悩みに関する 相談窓口を充実させる	女性に対する暴力の防止や 被害者支援を充実させる	経済的等の理由で生活が困難な 状況にある女性の支援を充実 させる	男性向けの講座や相談窓口を充 実させる	防災体制において男女両方の視 点を取り入れた取組を進める	特 に な い	そ の 他	無 回 答
18～29歳	42.5	7.5	20.0	15.0	15.0	10.0	20.0	7.5	2.5	2.5
30歳代	32.1	18.9	15.1	15.1	26.4	7.5	18.9	5.7	—	5.7
40歳代	32.3	23.1	16.9	16.9	15.4	12.3	16.9	6.2	—	3.1
50歳代	54.0	14.9	13.8	12.6	24.1	6.9	13.8	4.6	1.1	—
60歳代	47.8	19.5	9.7	15.9	15.9	6.2	15.0	6.2	—	5.3
70歳以上	36.4	10.1	13.1	11.1	19.2	6.1	13.1	10.1	—	15.2

【配偶者の有無別】

配偶者の有無別でみると、配偶者・パートナーがいる人、いない人ともに「育児休業・介護休業などの制度を男女ともに利用できるように普及させる」の割合が最も高く、いない人のほうが、いる人より 8.7 ポイント割合が高くなっています。

その他、「労働時間の短縮や多様な働き方等を通じたワーク・ライフ・バランスの推進を啓発する」で 7.8 ポイント、「認定こども園、学童保育などの子育て支援サービスを充実させる」で 7.7 ポイント、「学校教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力、性についての学習を充実させる」で 6.1 ポイントなど、多くの項目で配偶者・パートナーがいない人の割合が高くなっています。

逆に「女性の能力開発や就労支援を充実させる」では 4.6 ポイント、「各種団体の役員・リーダーや、民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する」では 1.6 ポイント、配偶者・パートナーがいる人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	講演会やセミナーを開催し、意識改革を促す	男女共同参画に関する法律や制度に関する情報提供を充実させる	自治会など地域で、男女共同参画についての学習会の開催を促す	学校教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力、性についての学習を充実させる	市の審議会委員や管理職など、政策的に登用する	各種団体の役員・リーダーや、民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	労働時間の短縮や多様な働き方等を通じたワーク・ライフ・バランスの推進を啓発する	育児休業・介護休業などの制度を男女ともに利用できるように普及させる	認定こども園、学童保育などの子育て支援サービスを充実させる
配偶者・パートナーがいる	315	15.3	17.9	21.0	35.9	19.3	28.1	26.3	39.3	36.2
配偶者・パートナーはいない	145	16.5	21.8	20.0	42.0	19.4	26.5	34.1	48.0	43.9

区分	介護サービス、障がい福祉サービスなどの社会福祉サービスを充実させる	女性の能力開発や就労支援を充実させる	女性の生き方や悩みに関する相談窓口を充実させる	女性に対する暴力の防止や被害者支援を充実させる	経済的等の理由で生活が困難な状況にある女性の支援を充実させる	男性向けの講座や相談窓口を充実させる	防災体制において男女両方の視点を取り入れた取組を進める	特にない	その他	無回答
配偶者・パートナーがいる	38.7	16.2	12.6	12.5	18.2	7.3	14.8	8.4	0.2	6.6
配偶者・パートナーはいない	44.7	11.6	17.5	16.6	21.3	8.5	17.6	5.5	1.0	8.0

【仕事の有無別】

収入をとまなう仕事の有無別でみると、仕事がある人、ない人ともに「育児休業・介護休業などの制度を男女ともに利用できるように普及させる」の割合が最も高く、仕事がある人のほうが、ない人より 7.0 ポイント割合が高くなっています。

割合の差では、「労働時間の短縮や多様な働き方等を通じたワーク・ライフ・バランスの推進を啓発する」で仕事がある人のほうが 16.0 ポイント高く、「認定こども園、学童保育などの子育て支援サービスを充実させる」では 10.5 ポイント、「学校教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力、性についての学習を充実させる」では 10.2 ポイント高く、いずれも 10 ポイント以上の差が見られます。

全体的に仕事がある人のほうが高い項目が多くなっていますが、仕事がない人のほうが「講演会やセミナーを開催し、意識改革を促す」で 6.3 ポイント、「自治会など地域で、男女共同参画についての学習会の開催を促す」で 5.0 ポイント割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	講演会やセミナーを開催し、 意識改革を促す	男女共同参画に関する法律や制度 に関する情報提供を充実させる	自治会など地域で、男女共同参画 についての学習会の開催を促す	学校教育の場で、男女の平等と 相互の理解や協力、性についての 学習を充実させる	市の審議会委員や管理職など、 政策・方針決定の場に女性を 積極的に登用する	各種団体の役員・リーダーや、民間 企業・団体等の管理職に女性の 登用が進むよう支援する	労働時間の短縮や多様な働き方等 を通じたワーク・ライフ・バランス の推進を啓発する。	育児休業・介護休業などの制度を 男女ともに利用できるように普及 させる	認定こども園、学童保育などの 子育て支援サービスを充実させる
仕事がある	272	13.2	23.0	18.5	41.9	20.0	29.7	35.4	44.8	42.5
仕事がない	185	19.5	13.7	23.5	31.7	18.0	24.8	19.4	37.8	32.0

区分	介護サービス、障がい福祉サービ スなどの社会福祉サービスを充実 させる	女性の能力開発や就労支援を 充実させる	女性の生き方や悩みに関する 相談窓口を充実させる	女性に対する暴力の防止や 被害者支援を充実させる	経済的等の理由で生活が困難な 状況にある女性の支援を充実 させる	男性向けの講座や相談窓口を充実 させる	防災体制において男女両方の視点 を取り入れた取組を進める	特にな い	その他	無回答
仕事がある	43.9	17.3	15.1	15.9	19.7	7.8	18.0	6.2	0.3	4.0
仕事がない	35.6	11.2	13.0	10.8	18.7	7.7	12.5	9.6	0.8	11.7

【主に地域活動に参加している人別】

地域活動への参加別でみると、「妻・パートナー(女性)」と回答した人で「認定こども園、学童保育などの子育て支援サービスを充実させる」の割合が最も高く、51.8%となっていますが、「夫婦(カップル)で同じくらい」と回答した人と比較すると18.4ポイントの差があります。

「育児休業・介護休業などの制度を男女ともに利用できるように普及させる」では、どの区分でも高い割合になっています。

「各種団体の役員・リーダーや、民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する」では、「妻・パートナー(女性)」と回答した人の割合が最も高くなっています。

「女性の生き方や悩みに関する相談窓口を充実させる」では、「妻・パートナー(女性)」と回答した人の割合が最も高くなっています。「男性向けの講座や相談窓口を充実させる」では、「夫婦(カップル)で同じくらい」と回答した人の割合が最も高くなっています。

「学校教育の場で、男女の平等と互の理解や協力、性についての学習を充実させる」の割合は、「わからない」と回答した人を除き、どの区分でも高い割合となっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	講演会やセミナーを開催し、意識改革を促す	男女共同参画に関する法律や制度に関する情報提供を充実させる	自治会など地域で、男女共同参画についての学習会の開催を促す	学校教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力、性についての学習を充実させる	市の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する	各種団体の役員・リーダーや、民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	労働時間の短縮や多様な働き方等を通じたワーク・ライフ・バランスの推進を啓発する。	育児休業・介護休業などの制度を男女ともに利用できるように普及させる	認定こども園、学童保育などの子育て支援サービスを充実させる
夫・パートナー(男性)	124	13.2	16.9	20.6	41.2	18.2	26.7	27.7	42.7	41.2
妻・パートナー(女性)	38	18.3	21.6	27.9	39.3	24.2	42.6	19.5	46.7	51.8
夫婦(カップル)で同じくらい	93	17.8	23.6	23.6	40.0	23.9	32.1	33.2	38.8	33.4
わからない	23	12.3	14.4	4.0	23.4	8.4	8.4	27.7	46.5	28.0

区分	介護サービス、障がい福祉サービスなどの社会福祉サービスを充実させる	女性の能力開発や就労支援を充実させる	女性の生き方や悩みに関する相談窓口を充実させる	女性に対する暴力の防止や被害者支援を充実させる	経済的等の理由で生活が困難な状況にある女性の支援を充実させる	男性向けの講座や相談窓口を充実させる	防災体制において男女両方の視点を取り入れた取組を進める	特にな	その他	無回答
夫・パートナー(男性)	43.9	16.3	8.6	12.2	18.2	3.8	14.7	6.5	—	1.4
妻・パートナー(女性)	43.7	13.8	20.5	13.9	19.3	10.5	16.7	8.7	—	3.9
夫婦(カップル)で同じくらい	36.8	22.3	18.6	15.7	22.9	14.9	18.3	8.8	0.8	3.2
わからない	31.0	8.4	4.4	—	8.4	—	15.6	10.7	—	19.0

Ⅳ 自由意見

1 男女不平等な社会の現状や男女共同参画社会の実現について

意 見	性別・年齢
無意識のうちに男女の固定観念が根強くあるように感じる。男性も女性も平等に活躍できる社会が理想で終わらずに現実のものになってほしい。	(女性、18～19歳)
男女ともに話し合い、今後の方針を決めていけばよい。	(男性、18～19歳)
そもそもセミナーに行けるような人は仕事や子育てに余裕がある人しかいない。余裕のない人は、会を開いても参加しない。	(男性、18～19歳)
学校の先生へ、講演会、勉強会などへの参加を促し、学校教育にとり入れてほしい。	(女性、20歳代)
丹波市が独自に行っている活動に対しての周知は、特に20代として、あまり進んでいないと思う。	(女性、20歳代)
お互いにお互いのことを理解していくことが大切だと思います。男性は女性のことはわからないし、女性は男性のことがわかっていないので、自分のことだけでなく、相手のことを考えることが必要だと思います。	(女性、20歳代)
男性・女性と区別せずに、その人(個人)の能力や個性が認められ、それらを活かすことができる社会になればよいと思う。	(女性、20歳代)
質問の文脈や言葉から、だいたいの意味は察知できるが、そもそものテーマについての正確な説明がほしかった。	(女性、30歳代)
あまり、なんでもかんでも男女平等を訴えるのはどうかと思います。実際に、生物的に男女で不利なこともあるので、男女平等が実現することで、また問題が浮き彫りになると思う。男女平等参画社会について全てにおいて賛成ではありません。	(女性、30歳代)
女性の能力がより発揮される社会の実現が望まれる。	(男性、30歳代)
「男らしく」「女らしく」という考え方は高齢者や年配の方に多い印象を受けます。	(女性、30歳代)
産休・育休が取りにくく感じることもある。昇級などにも影響する考えを持っている上司がまだまだいると思うので考え方を改めてほしいと思います、	(女性、30歳代)
現在の日本では難しいが、少しずつでもやるしかない。	(男性、30歳代)
過渡期でしかたないのかもしれませんが、平等であるように見せるために一部を腫れ物にさわるかのよう に扱うのも違う気がします。誰しもが自然に心地良く受け入れられるようになるには時間が必要かもしれま せん。	(女性、40歳代)
私は、母が男女共同参画の役をしたことがあるので知っていましたが、聞いたことすらない人が多いと思 います。子育て世代にも広めてください。(こども園のお手紙に入れるなど)	(女性、40歳代)
男女平等の給料にしてほしいです。	(女性、40歳代)
世の中が「女性が、女性が」と言いすぎ。性ではなく人間で見るべき。	(回答しない、40歳代)
特に昭和生まれは、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方の人が多いと思う。「外で働くなんて、 子どもがかわいそう」と何度か言われた。若い時には自分自身も結婚したら家庭に入っていた。小 学生・中学生の時から女性も働くという考えを持っていたら、もっと目標をしっかり持って進学就職をしたよ うに思う。	(女性、40歳代)
特に丹波市では、女性はパートで、男性はフルで働いていらっしゃる世帯が多く感じます。互いに納得の いく形であるなら問題はないですが、固定概念にとらわれすぎて、女性の活躍が妨げられているなら意識 改革が必要ではないでしょうか。	(女性、40歳代)
これからの社会を担う若者のために、小・中・高、あらゆる教育の場で環境を改善する方法を教えていく。	(女性、40歳代)
声の大きな少数派に振りまわされないこと。	(男性、40歳代)
自治会では、まだ役員や会長につくのは男性の方が、物事がスムーズに運ぶのが現実。学習会では、理 想的な意見を述べても、実際は女性が役につくと困難な立場になることが多く、女性役員の数も少ないた め、つきたくないという思いが強い。	(女性、40歳代)

意 見	性別・年齢
リーダーになりたくない女性もいるので、押しつけることはないようにしてほしい。	(女性、40歳代)
男女を平等にしようとするから無理がある。出産、育児がある女性と男性を平等にできるわけがない。公平にすべき。	(女性、40歳代)
高齢者が多い地区では、それを理由に若い人ばかりが役員に立たされる。この地域を出たいと常に考える。役員のあり方について考えてほしい。	(女性、40歳代)
男女が足を引っ張りあうことがないように参画を進められたらと思います。感情的にならずに互いに歩み寄れることが理想かと思います。	(男性、40歳代)
まだまだ男性社会を感じる。	(男性、50歳代)
情報提供、講演会など充実させる。	(男性、50歳代)
日本においては昔ながらの風習が今の国会を見ても残っているので、その考え方がかわらない限り、難しい。若い世代から変えていく必要がある	(女性、50歳代)
是非、実現する方向へ丹波市の舵をとってほしい。市議会議員から、立候補は全員女性、議員も全員女性。	(男性、50歳代)
育児、介護の不平等がなくなれば、女性はどんどん社会へ勝手に出ていきます。若い女性(学生)に、経済的自立を得るための勉強をうながす教育を。	(女性、50歳代)
行政の法を確立しなければ実現できない。	(男性、50歳代)
一気に変えることはできないが、行政から周知、学習会等意識改革していくことが大切だと思う。	(男性、50歳代)
男女平等に賃金の支払いがされる社会になればよいと思う。男女共に労働時間が短くなればよいと。働きすぎではないか、日本は。	(女性、50歳代)
ガンになったら、補助がほしい。	(女性、50歳代)
むずかしい。	(女性、50歳代)
環境を整備しないで男女共同参画だけを進めるのは無責任。	(女性、50歳代)
男女関係なく職場地域に参加。そして、リーダーになることが望ましいですが、まだまだ女性の方が一歩ひいているような感じがします。	(男性、50歳代)
自分の価値観で見ることがある。潜在意識がある。	(女性、50歳代)
知らないということが差別意識を生むので、いろいろな人と接して、いろいろなことを学ぶ機会が必要。	(女性、50歳代)
活躍したい女性としたいくない女性がそれぞれ存在する。学生時代に学習不足。	(男性、60歳代)
社会全体の意識改革が必要	(女性、60歳代)
コロナ禍の今、研修をして人を集まるようなことがしにくい。	(男性、60歳代)
1年に1回だけ映画をみて話し合いというのがありましたが、そこに出席されていた 40 代未満の男性の方々はザワザワと話を続け、クスクス笑ったり、一体ここへ何をしに来ているのかと言いたくなりました。ただ、言ってみたところでその方々が本気で考えてくださるとは思えず、言葉にはしませんでした。結局、男女不平等も同和学習も表面のみで、芯は残り続けるでしょう。意味のない集会はむなしい。	(女性、60歳代)
男女の身体的な違いがあるのですべて一緒というわけにはいかない。でもそれぞれがお互いの人権を認め合い、生活を支え合っていく。男も女も人として、生活者として、家事の大切さ、仕事の大切さを学習していくべき。(どんな仕事も家事もないと生活していけないのだから)	(女性、60歳代)
各種団体のトップ、自治会、地域からの意識改革なので、世代交代等、時間が掛かりそう。	(男性、60歳代)
日常生活の中で 60 代以上の男性は、家事(食事、掃除、洗濯等)は女性がすべき、男性は手伝うという意識がまだまだ強い。できることは進んでする気持ちが大切だと思う。若い人は、男性も自然にできるようになってきていると思う。	(女性、60歳代)
「男が上、女が下」といったようなことはよくないと思う。私の結婚後の生活はそのままです。今もこれからもです。	(女性、60歳代)
男性、女性、平等、不平等とあまりにも言いすぎる。	(男性、60歳代)

意 見	性別・年齢
田舎では難しいと思います。	(女性、60歳代)
男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる。	(男性、60歳代)
質問の内容が多く、迷う返答があった。市政の方向性はよいと思うが市の現実と現状の違いはどうか。	(男性、60歳代)
男女共に意識の改革が必要。言葉で理解していても実際は行動できない。	(女性、60歳代)
自治会等で男女平等が見られ、男性の女性に対する意識改革等が必要と思われます。	(男性、60歳代)
女性の活力を十分に引き出す仕組みは継続して実施し、それが常態となるまで推進すべき。クオータ制などのポジティブ・アクションは必要。逆不平等ではなく、そうしなければこの社会は変わらないのでは。	(男性、60歳代)
結婚して田舎に来てから特に男女差別を実感しています。	(女性、60歳代)
女性の各分野への進出の機会を増やす。	(男性、60歳代)
昔からの固定観念をいかに外すかによる。	(女性、60歳代)
ただ単に男女平等を声高に叫ぶのではなく、男女間の性差を理解した上で、それぞれの良い面を発揮できるような社会を実現させることが大事です。	(男性、60歳代)
利益追求主義(社会の中)では男女共同参画の実現は困難。育児第一主義と社会福祉充実の施策が必要。	(男性、60歳代)
封建時代ではない自由な現代社会の中で男女不平等、古い考え方はおかしいです。そのような人は意識を変えるべきである。	(男性、60歳代)
平等とは言っても、男にしかできないこと、また、女性にしかできないことは必ず、社会においてもあると思います。それを、理解しながら平等を考える必要があると思います。	(男性、60歳代)
会社については進んでいるが、地域社会ではまだまだ遅れている。	(男性、60歳代)
このアンケートに答えながら、子育てしていた目まぐるしい日々を思い出していた。昔、学童保育をつくってほしいと声をあげたときもあったが、できたのは数年後であった。その時は大きくなっていて学童を使うこともなかったが、今困っている子育て世帯のニーズを早急に把握し、問題解消のためにスピーディーに対処してほしいと願う。	(女性、60歳代)
進化してほしい	(男性、70歳以上)
等しくない＝不平等という考え方では、いつまでたっても男女共同参画社会はできない。男性の特性・女性の特性を活かせる社会こそ男女共同参画社会と言える。	(男性、70歳以上)
私たちの時代との変化を感じる。昔の方が良かったと思うこともある。	(女性、70歳以上)
女性の方が何となく腰が引けている感じ。女性に挑戦させる機会を増やす。	(男性、70歳以上)
丹波市でも女性の活躍を期待します。	(男性、70歳以上)
世帯主が大体男性になっているため、どうしても女性が下にみられてしまう。	(女性、70歳以上)
まず男性も料理・洗濯をしてくれないと、女性が仕事から帰ってまた仕事(家事)で疲れる。	(女性、70歳以上)
当地区ではほとんどない。	(女性、70歳以上)
昔からの男女の不平等を取り除かないと永久に実現しない。	(男性、70歳以上)
現実としてはなかなか難しい。	(女性、70歳以上)
女性の教育が高いために結婚相手が見つかりにくく、結婚しない女性が多くなったのでは。男性も結婚しない者が多くなっていることをよく聞いている。男性は結婚が遅くても良いが、女性は適齢期があり、妊娠すべき高齢出産は難産に連なるのでは。将来子どもが少なく困るのではないか。	(女性、70歳以上)
自分が若くないのでなんとも言えない。	(女性、70歳以上)
理想ではある。	(男性、70歳以上)

2 男性の働き方の見直しや意識改革について

意 見	性別・年齢
やりすぎた残業など1人に押し付けずに平等に働けるような職場になってほしいと思う。	(女性、18～19歳)
会社や社会の意識(おじさん)が考え方を改めないとい何も変わらない。	(男性、18～19歳)
小さな子は、お母さんが安心材料となることもあるので、そこも考慮した女性の活躍推進が必要だ考える。	(女性、20歳代)
基本給が安すぎるので意識を変える気にならないから、給料を上げる。	(男性、20歳代)
仕事と家庭を両立することが「えらい・すごい」「それが当たり前」ではなく、自分ができることと配偶者・パートナーがしてほしいことをバランスよく考えてすることができるようになればよいと思う。社会がどうかではなく自分自身どうしたいかを周りに言うべきだと思う。	(女性、20歳代)
勤務状態の管理を徹底。残業の発生しない体制を整える。男女共にワーク・ライフ・バランスのとれた社会。	(女性、30歳代)
今の家庭の中で、男性も家事や育事を負担としている場面が多く、外では仕事、家に帰ると育事・家事とで、休める時間があまりないと思います。パートナーの自由な時間も必要ですが、男性も自由な時間の確保は必要です。	(女性、30歳代)
ワーク・ライフ・バランスを整えることが大切。	(男性、30歳代)
男性と女性、平等が一番。	(男性、30歳代)
男性が育休を取得しやすい職場環境を整えるべきだと思います。制度として存在しても、取得しようと思える環境でないと何も変わらないと思います。	(女性、30歳代)
男性の育休の取得や休みやすい環境になればよいと思う。	(女性、30歳代)
市だけでなく県や国での対応が必要。極端な話、市条例、県条例等で企業側に補助や罰則を与えてもよいと思う。	(男性、30歳代)
育児にもっと参加するべき。参加というよりして当たり前になってほしい。結局女性がほとんどしている。仕事より育児の方が大変。できないなら女性をいたわる気持ちを持って、という内容を広めてほしいです。	(女性、40歳代)
改革の必要あり。	(男性、40歳代)
男でも女でも働ける者がすればよい。	(回答しない、40歳代)
男性でも気楽に介護休暇や育児休暇がとれるように、上司が変わることが必要だと思う。	(女性、40歳代)
週休3日制の導入。残業時間の上限を設定。休日出勤の削減。	(男性、40歳代)
現状でも本人次第で可能。	(男性、40歳代)
どういったことがパワハラ、セクハラになるか知ろうとしない人が多い。自分は大丈夫と思っている人が多いので、セミナー等、各会社から参加してもらうようにできないでしょうか。	(女性、40歳代)
女性の家事育児に敬意をはらうべき。	(女性、40歳代)
“男女平等に”との考えで男性側に負担が増える、せめる意見が出ると女性優位になってくるので、性別で差を少なくするよう考えていってはどうか。	(女性、40歳代)
家庭で過ごせる時間を増やすよう、効率的な働き方ができるようになればよいです。	(男性、40歳代)
必要と思う。	(男性、50歳代)
企業によって違うと思いますが、日本は仕事をしすぎ。”Burn out”時間を費やすことが大切ではなく、効率が悪いと思います。8時間充実した仕事をしてサッと帰ることが、大切だと思います。	(女性、50歳代)
意識はあるが、行動が伴わないため、社会的にアピールし、現実的に普通になればよい。	(男性、50歳代)
子育て、介護は夫婦での協力が不可欠であることを教育等で知らせる必要性と、子どものころから男女平等であり共に生きていく社会をつくるためには何が必要であるかの教育をすることが大事である。	(女性、50歳代)
男女性は教育により、高校、大学で学び、丹波市へ帰って男女共同参画社会をうち立てる。	(男性、50歳代)
私の回りで、男の人が産休をとるということを聞いたことがありません。(知らないだけかもしれませんが)もっと普及できる時代になっていけばよいと思います。	(女性、50歳代)

意 見	性別・年齢
ワーク・ライフ・バランスについて、まず仕事の時間制限をしていかないと変わらないと思う。仕事優先が現状なので。	(男性、50歳代)
もっと家庭の事を気にかける時間が必要だと思う。	(女性、50歳代)
労働時間が長いので改善が必要。	(男性、50歳代)
職場での育休、介護休暇が義務として取れる様な法整備の推進。	(男性、50歳代)
意識改革は必要。	(女性、50歳代)
まだまだ会社に対して言いにくい部分もあるし、子どもができて、休暇がとりにくい風潮があります。国より罰則規定とかないと(社員を守る為の)会社は動かない。	(男性、50歳代)
職場は男女の格差はないようにされているが、実際は子どものことで休暇を取得されているのは、女性の方が多と思う。	(女性、50歳代)
子育て中の職場理解を深めていくことが大切。	(女性、50歳代)
収入の格差が問題。	(女性、60歳代)
若い人は改革も積極的になさるかもしれませんが、30代40代はどうでしょう。	(女性、60歳代)
学習会・研修会等が必要とは思いますが、実践し、広げる場が必要。まず、公的機関が手本を。	(女性、60歳代)
女性がやって当たり前のような言葉とか態度の意識改革してほしい。やってもらって当たり前ではない。	(女性、60歳代)
ワーク・ライフ・バランス推進のためのキャンペーン、試用期間設定、または半強制的試行で全体が経験してみることが肝要ではないか。なかなか休めませんが。	(男性、60歳代)
もう少し、家事に参加してほしいです。	(女性、60歳代)
自治会単位での勉強会。	(男性、60歳代)
仕事が忙しい。長期休暇がとれる社会。	(男性、60歳代)
働き方改革により少しずつであるが、意識改革は進んでいると思う。	(男性、60歳代)
正しい評価制度とそれに見合った報酬を得ること。	(男性、60歳代)
フルタイムで共働きしながら子育てしてきたが、夫の協力なしでは仕事は続けられなかったと思う。無事退職するまで仕事できたのは夫のおかげと感謝している。男性には共に子育てしようという意識を持って行動してほしいと思う。	(女性、60歳代)
改善。	(男性、70歳以上)
男も家庭あつての仕事やから、もっと家庭の手伝いをしてほしい。	(男性、70歳以上)
大変よいことです。	(女性、70歳以上)
定年を見直し、男性は早く女性が活躍できるよう意識改革をして、環境を整えて頂きたい。	(男性、70歳以上)
長時間労働、男性だからといって少々労働時間が多くなってもかまわないと思うような社会。	(女性、70歳以上)
男女は生理的に違うもの。たとえば筋力、背の高さ、手先の仕事(針仕事)、男女の役割の差があってもよいのではないのでしょうか。	(女性、70歳以上)

3 地域社会や職場における女性の活躍推進について

意 見	性別・年齢
年配の方の女性に対する固定観念があると最近のニュースを見て感じた。そのような人たちの意識を変えていくようなことをしてほしい。	(女性、18～19歳)
女性が活躍できる場を考える。	(男性、18～19歳)
何かを犠牲にしないと今の男性と同等に女性が躍進するのは難しく、個人がそうなりたいのか疑問に思う。	(男性、18～19歳)
まだ若い世代まで周知が進んでいないと考えるため、若い世代向けにアプリなどを使った発信も方法の1つだと思います。	(女性、20歳代)
もっと勉強した方がよいと思う。	(男性、20歳代)
女性からもっと積極的になることと、女性も入りやすい環境をつくる。	(女性、20歳代)
その人自身が周りを気にすることなく、自分らしく活躍できることが一番よいと思う。男性だから、女性だからと意識せず働きたい。	(女性、20歳代)
男女関係なく、能力や適性等で判断し、みんなが活躍できる社会にすべき。	(女性、30歳代)
意欲のある人は、活躍できる場をつくるべきだと思います。	(女性、30歳代)
輝く女性が増える社会へ。	(男性、30歳代)
各団体の役員や管理職の登用の際に「女性だから」登用されるのは違う気がします。その人の性格や能力を適正に判断した上での登用であってほしいと思います。	(女性、30歳代)
とても難しい問題。育児休暇制度自体が企業を苦しめている感もある(意図的に休業される)。	(男性、30歳代)
改革が必要。	(男性、40歳代)
もっと自ら前に出ればよい。	(回答しない、40歳代)
アフタースクールや認定こども園のお迎えの時間が 18 時まで、送りは8時からでないといけない雰囲気、正社員は無理だと思っていた。もっと利用しやすい雰囲気がほしかった。	(女性、40歳代)
昔からのしきたりも大切ではあるが、女性の思いや意見がとり入れられる社会であってほしい。地域ではかなり難しい状態である。	(女性、40歳代)
女性が活躍することが気に入らない男性がいるので、そういった人に対してのフォローが必要ではないか。	(女性、40歳代)
社会でも活躍させようとすることは、もうやめてください。	(女性、40歳代)
丹波市では昔からの男性中心の場が多いと思います。女性の活躍にあまりよい感情を持たれていないように感じます。	(女性、40歳代)
男女で差がなく活躍が評価されることが必要だと思います。	(男性、40歳代)
年配の方の女性への意識を変えていく。	(男性、40歳代)
地域全体でそのような雰囲気になっていくことが重要。	(男性、50歳代)
女性も、もっと声を上げ、意思を伝えることが大切だと思います。支え合い、声をかけ合い女性が仲良くまともなれば力になります。そういうコミュニティが大切だと思います。	(女性、50歳代)
意識と積極的になればいいと思う。	(男性、50歳代)
女性が責任をもってできる判断能力等の研修する必要がある。やはり重要な役においては、男性の方が責任を持ってやる方が多いので、そのノウハウを女性も持てるようにしていくことが大事である。例えば女性は男性に比べて感情が優先されやすい傾向の方が多いため。	(女性、50歳代)
教育を受けた女性を抜擢する。	(男性、50歳代)
自治会の役員は男性は〇〇の役員、女性は〇〇の役員と固定されていて、それに対して誰も何も意見を言わないし、暗黙のルールになっているように思う。	(男性、50歳代)
職場で女性は活躍している。	(女性、50歳代)
女性管理職やリーダーなど徐々には増えているが全体としては少ないし、出産や親の介護等で辞める人もいるのが現実。	(男性、50歳代)

意 見	性別・年齢
女性であるがために、都合のよいように男性に頼る。(個人の特性で致し方ない時はある)男性を立てる表現(主人を夫に)を変えることで、自らの意識改革につなげていくことが第一歩につながるのではないのでしょうか。	(女性、50歳代)
自治会において自治会(会長・副会長・会計)役など男性ばかりなりがちなので、女性であってもよいと思う。	(男性、50歳代)
社会全体の意識改革が必要。	(女性、60歳代)
女性本人がそれなりの知力や学力、あるいはご主人の地位等でも、躍進されているように思います。そうではなく、その人自身で評価してほしいものです。	(女性、60歳代)
若い力に期待したいです。	(女性、60歳代)
女性の活躍にこだわらず能力に応じて活躍できる社会(男女ではない)。	(男性、60歳代)
自治会の総会が1世帯につき1名なので女性の名を入れるには、本人承諾に時間がかかる。	(男性、60歳代)
クオータ制は導入すべき(自治会レベルまで)	(男性、60歳代)
田舎では「ことば」だけです。	(女性、60歳代)
権限や待遇を、男女の別なく同じにすることが重要ではないかと思う。	(男性、60歳代)
男性には苦手な女性特有の能力を活かせるポジションを作る	(男性、60歳代)
保育、介護職賃金を、行政が底上げ支援をする。	(男性、60歳代)
私の住んでいる地域、職場においては、女性の活躍は進んでいると思う。	(男性、60歳代)
地域活動や、仕事に対する正当な評価をする人材を育てる。	(男性、60歳代)
女性は人目を気にしすぎて、前に出られないのか。	(男性、60歳代)
自治会では世帯主が出席となっているため、セミナー等ではそれ以外の人も出席しやすいように進めてもらいたい。	(女性、60歳代)
特に地域での女性の立場は低い。若者にも住みやすい社会をつくるべき。	(女性、60歳代)
ゆとりある女性に活躍してほしい。	(男性、70歳以上)
相応のポジションを、女性に持ってもらう必要がある。特に自治会活動などは、男性中心となっている。	(男性、70歳以上)
2016 年女性活躍推進法が施行され、企業や自治体に女性の管理職登用が促進されたかに見えたのだが、一過性になっていないだろうか。女性の意欲を利用しているだけで、非正規に止め置いたり、企業では調整弁に都合よく使われている。	(男性、70歳以上)
大いに賛成です。	(男性、70歳以上)
自治会のトップはまだまだ男性が多い地域があるので上から、「国会議員の力」で女性が活躍できるよう改正をしてほしい。制度が整っていない。	(男性、70歳以上)
女性は難しい。男性の方がまだ穏やかである。	(女性、70歳以上)
女性が上司になれば責任感が強く男性と違って叱るにしてもしつこい。若い男性がいじけたケースがあった。結婚した女性の上司は家庭、子育てがおろそかになっているのでは。	(女性、70歳以上)

4 その他、丹波市の男女共同参画に関する施策全般について

意 見	性別・年齢
学生、未婚でも、答えやすいようにしてほしい。	(女性、18～19歳)
これをしたら会社としての評価が上がるだとか、助成金がもらえるだとか、そうしないとなかなか浸透しないと思う。がんばってほしいです。	(女性、20歳代)
女性の社会進出を支援するなら、育児支援は不可欠だと思います。	(女性、20歳代)
病気のせいで働きたくても働けないのに補助が全然ない。金銭的に苦しい。病院代が高い。	(女性、30歳代)
高齢者の昔からの風習が今なお根付いている。二世帯住宅分離型が難しいと思う。	(女性、30歳代)
よいと思います。引き続きがんばってください	(男性、30歳代)
「無知」であることが一番危険だと思うので、広く周知し、男女共同参画について学ぶ機会をふやしてほしいです。	(女性、30歳代)
独身生活者には全く関係ないように感じてしまうので、発信力が足りない。	(男性、30歳代)
女性がもっと働けるようにこども園を充実させてほしい。少子化といいながら待機児童がいるのはおかしい。	(女性、40歳代)
今の 60～70 歳代の方の意識を変えることが重要だと感じます。無意識に若者に対して、デリカシーのない言葉をかけていることをよく目にします。この世代の人たちの教育をしてもらえたらよいと思います。	(女性、40歳代)
男女の“公平”をベースに施策を考えてみることから始めていただきたいです。	(女性、40歳代)
あまり周知されていないと思います。	(女性、40歳代)
市の条例などは全く知りませんでした。アパート暮らしで自治会費だけは納めていますが、広報紙が配られてこないのも一因かと思います。	(男性、40歳代)
大変ですが、良い施策ができるようお願いします	(男性、50歳代)
とても勉強され、市民がどうすれば幸せに暮らせるのか考えていただいているのだと実感しながらアンケートに答えました。少しずつでも前に進み、社会がバランスよく、笑顔で自由に生活できる日々が増えるように、私も努力したいものです。	(女性、50歳代)
情報が無い。	(男性、50歳代)
教育を受けた女性に施策を出していく。そして実行していく。	(男性、50歳代)
女性でなく男性にもっと勉強する機会をもってもらう。このアンケートの回答が決めつけなところもあり答えに困った。	(女性、50歳代)
アンケートをとることで、次につなげていってほしい。集計だけでは、アンケートの意味がないと思います。	(女性、50歳代)
男性、女性と性別で考えていること自体が問題。一人の人間として、人としての役割を果たせる社会になればいい。男性にしか、女性にしかできないこともある。それぞれが人間として、足りない所を補え合える社会でありたい。	(女性、50歳代)
取組みを進めていかれたらよいと思う。	(男性、50歳代)
これからもっと重要になってくる。	(男性、50歳代)
女性が職場、地域に出やすくなるよう、丹波市独特の施策を打ち出してほしい。市外からの移住も見込めるのかも。	(男性、50歳代)
表面上で「しています」だけではダメ。	(女性、50歳代)
施策はよいが、なかなか実行、実践しづらい。会社の考え、地域性、家族との意見の違い。	(男性、50歳代)
丹波市は高齢者の割合が多く、以前からの男女の役割分担意識が根強くある。地域学習の表面上の開催だけでなく、何度も開催し、意識改革につながっているのか調査をし、実態把握につなげる。家事分担(年齢別)の具体的なアンケート方式にして、現状の男女の家庭内の役割分担を把握し、実状に合わせた施策を行い、5年後、10 年後のアンケートと比較して心の意識改革の進捗状況を確認する。	(女性、50歳代)
活動していることすら知らなかった。	(男性、50歳代)

意 見	性別・年齢
現状ニーズが生じているような環境が身近にない。	(男性、60歳代)
市役所での実践。	(女性、60歳代)
丹波にしても、丹波篠山にしても根本的、閉鎖性が濃く、男性優位であることは顕著であります。住人の平均年齢がかなり下がらない限り、変化させるのは難しいことかと思えます。	(女性、60歳代)
施策を広報活動で見える化すること。閉鎖性を打破しなければ単なる人口減少では済まない時代が来ることを認識して、明日があるような行政を推進していただきたい。	(男性、60歳代)
あまり、期待しない事にしました。	(女性、60歳代)
丹波市に住みたい日本一をめざす施策。子育て、介護が充実し、自然環境を活かした町づくり。	(男性、60歳代)
男女の能力の差は、ほとんどないに等しい。それぞれの個性を伸ばすような、政策をお願いしたい。	(男性、60歳代)
長い問題になると思う。	(男性、60歳代)
丹波市が行なっておられる男女共同参画の具体的な施策を知りませんでした。とっつきにくい、わかりにくいイメージがあるのでその解消とPRももっとしてほしい。市民が生活しやすい社会になるよう努めてほしいと思います。	(女性、60歳代)
改善	(男性、70歳以上)
上辺だけの取組みはやめてもらいたい。	(男性、70歳以上)
若いカップルを対象に施策を推進してください。	(男性、70歳以上)
現状通りで結構です。	(男性、70歳以上)
一つ一つの問題を解決していただきたい。	(男性、70歳以上)
男女共同参画も言葉ではかんたんだが実際は難しい。	(女性、70歳以上)
独居老人は特に田舎は住みにくい。重労働(不参加代金拠出しているが)に出動要請されるときがあります。男女共同参画には関係ありませんが1~2か月に一度くらい、独居老人のため、民生委員の方でも一度声をかけてくださったら、少し明るくなると思います。	(女性、70歳以上)
私は、勉強不足で申し訳なかったです。でも精一杯に答えたつもりです。講演会やセミナーを開催されても参加できなければ何もわかりません。私の年になると、参加するのがおっくうになります。でも私なりに勉強していきたいです。	(女性、70歳以上)
簡単に好き嫌い、結婚し離婚が多いのは何故でしょうか。子どもの養育は痛み苦しんで生んだ母親が離せるはずがない。苦勞して養育している現状をもっと考慮すべき。片親制度、子供の養育支援等甘すぎるから離婚が多いのでは。生まれも育ちも違う2人が結婚し意見が違うの当たり前。努力し最後まで連れ添ってほしいものです。	(女性、70歳以上)
徐々にあせらず改善方向に進む事を望む。なかなか難解なアンケート内容であり、当方の意識が遅れていることも反省。	(男性、70歳以上)